佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（中学校　国語科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校国語科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校国語科における学習評価の進め方
4　中学校国語科における学習評価事例
5　中学校国語科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・表現」
「技能・表現」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校国語科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

⇒これまでの理念を引き継いでおり，国語科の教科目標は変わっていません。

2　評価の観点及びその趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す･聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する認識を深め，国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ，適切に話したり聞いたり話し合ったりして，自分の考えを豊かにしている。	相手や目的，意図に応じ，筋道を立てて文章を書いて，自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ，様々な文章を読んだり読書に親しんだりして，自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり，言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し使ったりするとともに，文字を正しく整えて速く書いている。

評価の観点について

○　これまでと変わらず，学習指導要領の内容のまとまりに合わせた評価の観点となっています。「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」は基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けられています。

○　新設された〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については，「A　話すこと・聞くこと」「B　書くこと」「C　読むこと」の各内容のまとまりの中に関連する事項が含まれており，「言語についての知識・理解・技能」の観点として評価することになりました。

3　学年別の評価の観点の趣旨

	国語への 関心･意欲・態度	話す･聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
第1学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する認識を深め，話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ，読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。	目的や場面に応じ，構成を工夫して話したり，意図を考えながら聞いたり，話題や方向をとらえて話し合ったりしている。	目的や意図に応じ，構成を考え，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして文章に書いている。	目的や意図に応じ，様々な本や文章などを読み，内容や要旨を的確にとらえて，自分のものの見方や考え方を広くしている。	伝統的な言語文化に触れたり，言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し使ったりするとともに，文字を楷書で書き，漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。
第2学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する認識を深め，話したり聞いたり書いたりして考えを広げ，読書を生活に役立てようとする。	目的や場面に応じ，立場や考えの違いを踏まえて話したり，考えを比べながら聞いたり，相手の立場を尊重して話し合ったりしている。	目的や意図に応じ，構成を工夫し，伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書いている。	目的や意図に応じ，内容や表現の仕方に注意して文章を読み，知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。	伝統的な言語文化を楽しんだり，言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し使ったりするとともに，漢字の行書とそれに調和した仮名を書き，楷書又は行書を選んで書いている。

第3学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する認識を深め，話したり聞いたり書いたりして考えを深め，読書を通して自己を向上させようとする。	目的や場面に応じ，相手の様子に合わせて話したり，表現の工夫を評価して聞いたり，課題解決に向けて話し合ったりしている。	目的や意図に応じ，文章の形態を選択し，論理の展開を工夫して説得力のある文章を書いている。	目的や意図に応じ，文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み，人間，社会，自然などについて自分の意見をもっている。	伝統的な言語文化に親しんだり，言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し使ったりするとともに，身の回りの文字に関心をもち，効果的に文字を書いている。

中学校国語科における学習評価の進め方

評価の進め方を簡単にフローチャートで示すと次のようになります。右側の〇で示した項目は，留意点や国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校　国語）」（以下，参考資料と表記）の活用場面を示しています。

1　単元の目標を設定する

〇学習指導要領の目標と内容を踏まえる。
〇生徒の実態，前単元までの学習状況等を踏まえる。

↓

2　評価規準を設定する

〇参考資料の『第２編　評価規準に盛り込むべき事項等』を参考にして，単元で取り上げる内容に応じた評価規準を設定する。
〇上記で設定した目標を踏まえるように留意する。
☛本手引き「単元の評価規準の設定」　５ページ

↓

3　評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける

〇参考資料の『第３編　評価に関する事例』を参考にして，どの場面で評価するかを考え，評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける。
☛本手引き　事例１　７～９ページ

↓

4　評価の方法やどのような目安で評価するかを明確にする

〇参考資料の『第３編　評価に関する事例』を参考にして，どんな評価資料（生徒の反応や作品など）を基に，どのような（「おおむね満足できる」状況（Ｂ）等の判断の）目安で評価するかを考える。
☛本手引き「評価の方法」　６～７ページ
☛本手引き　事例２　１４～１９ページ

↓

5　評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする

〇生徒の学習状況を把握して，評価したことを次の指導に生かすことが重要である。その上で，単元の終わりに総括的な評価をして「記録に残す場面」を明確にしておく。

↓

6　指導と評価を行う

〇「指導と評価の計画」に基づいて実際に指導と評価を行う。
〇生徒の学習状況を把握して指導に生かす。
☛本手引き　事例２　１４～１９ページ

↓

7　観点ごとに総括する

〇参考資料の『第３編　評価に関する事例』を参考にして，収集した評価資料やそれに基づく評価結果（Ａ，Ｂ，Ｃ）などを基礎資料に，観点ごとの総括的評価（Ａ，Ｂ，Ｃ）を決定し，記録する。
☛本手引き　事例１　１３ページ

単元の学習指導における評価の観点の設定

単元の学習指導で評価の観点を設定する際に大切なことは以下の２点です。

（１）　国語科の評価の観点の特徴を踏まえること

・「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」が，それぞれに基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けられています。このことにより，この３つの観点のいずれかのみを取り上げて指導をしても，基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価することが可能です

（２）領域を絞って評価すること

・（１）に述べた国語科の特徴を踏まえると，単元の指導計画を構想する際には，以下のように観点を絞った評価を行うことが基本となります。

○これまでの観点（例）

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

書く能力

読む能力

言語についての知識・理解・技能

○これからの学習評価における観点（例）

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

言語についての知識・理解・技能

これまでの学習指導案などの中には，単元の目標や評価規準などに５つの観点が列挙されているものもありました。今後は観点を絞り，より確実な指導とその評価を行っていきます。

◎「国語への関心・意欲・態度」

他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係するものであり，いずれの単元にも位置付けて評価を行うことが基本です。

◎「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」

その単元で重点的に取り上げて指導する観点を選んで設定します。１単元１領域に絞って指導と評価を行うことが多いですが，１単元を２領域以上で単元を構成する場合もあります。１領域に絞ることで重点的な指導ができます。２領域以上で単元構成を計画するときは，それらの領域を相互に密接に関連付けて指導することで，より高い指導の効果を得られる場合に限ります。

◎「言語についての知識・理解・技能」

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は各領域の指導を通して指導するものなので，どの単元においても取り入れて評価を行います。なお，この事項の中の特定の事項をまとめて指導したり繰り返して指導したりする場合は，「国語への関心･意欲･態度」と「言語についての知識・理解・技能」の２観点のみを設定することになります。この２観点のみを設定して指導と評価を行う単元の具体例は，文部科学省のWebページ**「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～」【中学校版】第３章（３）指導事例「国語―１０」（平成２３年５月）**にあります。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/05/31/1306150_10.pdf

単元の評価規準の設定

各学校において，評価規準を設定するにあたっては，参考資料に示されている評価規準の設定例を参考にして，教材等の特徴に即して，その記述を具体化したり，必要に応じて，いくつかの設定例を参考にしたりすることにより，各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。

参考資料には，学習指導要領に示されている言語活動例ごとに「評価規準の設定例」がまとめて示されています。このうち，枝番号２と付されている評価規準の設定例は，伝統的な言語文化のうち特に古典に関する事項との関連を図った言語活動を取り入れた単元の「評価規準の設定例」となっています。

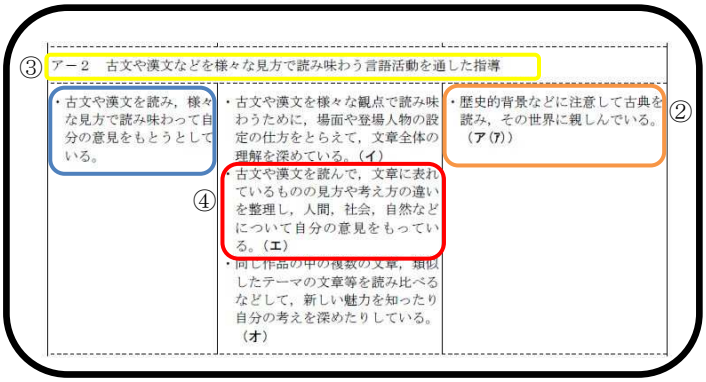
例えば，第３学年の【「Ｃ　読むこと」の評価規準の設定例】では，「アー１」「アー２」と枝番号を付けて２通りの例が示してあります。このうちの「アー２」では「古文や漢文などを様々な見方で読み味わう言語活動を通した指導」の設定例が示されています。

単元の評価規準の設定の仕方をこの第３学年「Ｃ　読むこと」教材「おくのほそ道」を例に説明すると次のようになります。

	単元の評価規準の設定の仕方	例
1	①　学習指導要領の指導事項から，単元で指導するものを決める。	「エ　文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の**意見をもつこと。**」（Ｃ(1)エ）と「歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に**親しむこと。**」（ア(ｱ)）を指導すると決める。
2	②　参考資料の**「評価規準に盛り込むべき事項」**を確かめる。	「・文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の**意見をもっている。**（エ）」，「歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に**親しんでいる。**」（ア(ｱ)）
	③　単元に取り入れる言語活動を決める。	「アー２　古文や漢文などを様々な見方で読み味わう言語活動を通した指導」に決める。
	④　単元の指導事項に対応する，参考資料の**「評価規準の設定例」**を確かめる。（ここでは「読む能力」のみを例示しています。）	「読む能力」「・古文や漢文を読んで，文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し，人間，社会，自然などについて自分の意見をもっている。（エ）」を確かめる。
	⑤　**「評価規準の設定例」**を，実際に取り扱う言語活動や教材の特質に応じて加筆修正し，評価規準を設定する。（**例**に示した「読む能力」の評価規準の＿＿や＿＿の部分が加筆修正した部分です。）	「おくのほそ道」を読んで，松尾芭蕉のものの見方や考え方の違いを整理し，人間，社会，自然などについて自分の意見をもっている。（エ）」と評価規準を設定する。

※　1，2は３ページに示した「中学校国語科における学習評価の進め方」のフローチャートに対応しています。

参考資料の「評価規準の設定例」


③ アー２　古文や漢文などを様々な見方で読み味わう言語活動を通した指導

・古文や漢文を読み，様々な見方で読み味わって自分の意見をもとうとしている。	・古文や漢文を様々な観点で読み味わうために，場面や登場人物の設定の仕方をとらえて，文章全体の理解を深めている。（イ） ④ ・古文や漢文を読んで，文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し，人間，社会，自然などについて自分の意見をもっている。（エ） ・同じ作品の中の複数の文章，類似したテーマの文章等を読み比べるなどして，新しい魅力を知ったり自分の考えを深めたりしている。（オ）	・歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しんでいる。（ア(ｱ)） ②

上記の単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	⑤ 読む能力	言語についての知識・理解・技能
・「おくのほそ道」を読み，様々な見方で読み味わって松尾芭蕉のものの見方や考え方について自分の意見をもとうとしている。	・「おくのほそ道」を読んで，松尾芭蕉のものの見方や考え方を整理し，人間，社会，自然などについて自分の意見をもっている。（エ）	・「おくのほそ道」の書かれた歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しんでいる。（ア(ｱ)）

評価の方法

生徒の学習状況を適切に評価し，その評価を指導に生かすためには，最適な評価場面と評価方法を考えておく必要があります。評価対象が生徒の内面的なこと（関心・意欲・態度，聞く能力，読む能力など）である場合や，記録として残りにくい音声言語を評価資料とする場合は，評価が難しいので，特に配慮が必要です。ここでは，評価が難しいとされる【国語への関心・意欲・態度】，【話す・聞く能力】【読む能力】の３観点を取り上げて，評価の方法や留意点について説明します。

【国語への関心・意欲・態度】はどうやって評価するの？

この観点は，これまで同様，国語科の学習内容についての関心，学習活動への意欲や態度等を対象にしたものです。

単に，挙手や発言の回数，授業態度の善し悪しや忘れ物の有無などだけで見るのではなく，その授業の指導目標や学習活動を踏まえて，学習の対象に対しての関心・意欲・態度を評価しましょう。この観点は，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。

☛本手引き　事例１　１０ページ

評価の工夫と留意点

◆授業や面談における発言や行動等取り組みの様子を評価資料とする場合には，あらかじめどのような言動が判断の目安となるのかを具体化しておく必要があります。

◆多面的に評価をするために，作文，ノート，ワークシート，レポート等の記述を評価資料として関心・意欲について評価し，実際の取り組みの様子を評価資料として学習態度について評価します。それらを総合して「国語への関心・意欲・態度」の評価とします。

【話す・聞く能力】はどうやって評価するの？

「話すこと・聞くこと」の評価では，実際に話したり聞いたりしている様子を評価することが大切ですが，話し言葉のやり取りは評価が難しいとされています。その場での評価の仕方を工夫するとともに記録の残し方についても工夫していくことが重要になります。

また，効率よく活動させ，丁寧に評価するために，言語活動の進め方や学習形態などを工夫することも大切です。

聞くという行為は，聞き手の内面で行われているため，その評価には工夫が必要です。例えば，聞き手がどのように聞いているかということを何らかの形で表現させるなどの工夫が考えられます。

評価の工夫と留意点

◆「話すこと・聞くこと」の評価の工夫として，スピーチ原稿等の記述と生徒の実際のスピーチを評価資料として総合的に評価するという方法があります。
例えば，スピーチ原稿には適切な表現の工夫が書き込まれているにもかかわらず，実際のスピーチではその工夫が生かされていないという状況があれば，「国語への関心・意欲・態度」と「言語についての知識・理解・技能」の２観点については「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断できますが，「話す・聞く能力」は「努力を要する」状況（Ｃ）と判断することになります。
聞く能力についても，評価する場合には聞き取りメモ，インタビュー構成メモ等の記述内容と，実際の質問，助言，意見，感想等を組み合わせて総合的に評価します。

◆話し合うことについて指導をした場合の評価では，実際の協議や討論等の中での発言や，司会者としての発言を評価資料とします。その際、話し合いの役割によって評価する機会が異なることがないように，役割を交替させて評価の機会を設けるなどの工夫が必要です。

◆記録の方法としては，録音，録画，観察などがあります。デジタルカメラやレコーダー等の機器や，評価のキーワードを項目として挙げた評価メモ（☛本手引き１３ページ）等を活用しましょう。

【読むこと】はどうやって評価するの？

読むことの評価についても，聞くことと同様，読むという行為が読み手の内面で行われているため，評価が難しいものです。そのため，読み手がどのように読んでいるかを，何らかの形で表現させて評価する工夫が必要です。

実際の授業場面では，指導のねらいに即して生徒に表現させたもの等で評価をしていきますが，この際，留意しなければならないことは，「書くこと」や「話すこと」の評価をしないことです。あくまでも書いたり話したりしている内容や様子から，指導のねらいとする読む能力が身に付いたかどうかを評価することが大切です。

☛本手引き　事例１　１２ページ

評価の工夫と留意点

◆指導のねらいが，例えば「表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめること（第２学年，指導事項ウ）」であり，詩歌の鑑賞文や物語の感想文を書かせて交流させるという言語活動を通して指導する場合には，書かせた鑑賞文や感想文が評価資料となります。
指導の際には，書く内容を指定したり，条件を提示したりして，指導のねらいに応じた読み方ができるようにします。また，評価の際には，「書く能力」を評価するのではなく，あくまでも，指導した「読む能力」について評価するよう，指導の際に提示した条件に対応した評価の目安を決めておきます。

◆感想交流や，意見交流の場面での発言の内容を評価資料とする場合には，それだけを評価資料として「読む能力」を判断するのではなく，交流メモやスピーチメモ等の記述なども評価資料として総合的に評価することが必要になります。

中学校国語科における学習評価事例１

■　単元全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

１　単元名「筆者になりきって文章を書き，読み合おう」～表現の工夫を読み取ろう～
第２学年「Ｃ　読むこと」　教材名「神奈川沖浪裏」（東京書籍）

２　単元の目標

(1)　筆者の表現の工夫を読み取り，その効果について自分の考えをもとうとする。（関心・意欲・態度）

(2)　文章の展開に着目し，表現の工夫とその効果について読み取り，根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。（読むこと）

(3)　筆者の意図に応じて，表現の工夫や展開に違いがあることを理解できる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

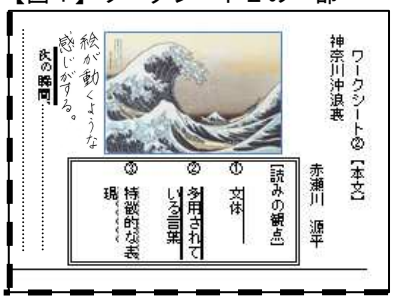
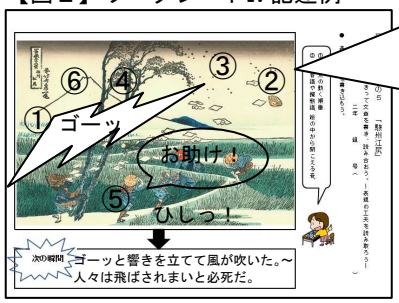
３　本単元における言語活動

文章を読み，内容や表現の仕方について自分の考えを述べる。（関連：言語活動例イ）

４　単元の評価規準　（　）内は該当する指導事項等の記号

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①筆者の表現の工夫を読み取り，その効果について自分の考えをもとうとしている。	①文章の展開に着目し，表現の工夫とその効果について読み取り，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（ウ）	①筆者の意図に応じて，表現の工夫や展開に違いがあることを理解している。（(1)イ(ｵ)）

５　単元の指導と評価の計画（全４時間）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>ねらい，学習活動</th><th>指導上の留意点</th><th>評価規準と評価方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">一</td><td rowspan="2">1</td><td>1　単元の目標を知る。
2　学習計画を知り，見通しをもつ。</td><td>○身に付けたい力を数人に発表させ，どんな力を付けるかという目的意識を明確にさせる。</td><td rowspan="2">単元の導入段階で，学習内容について関心・意欲がもてたかどうかを見取り，その後の指導に生かすため，第１時に評価規準を位置付けました。
［国語への関心・意欲・態度］①
ワークシートⅡの記述
読みの観点に従ってワークシート②の教材文に線を引いたり，書き込みをしたりできているかどうかを評価しました。
【図１】のように教材文の「次の瞬間」という語句に〔読みの観点〕②にあたる━━線を引き，「絵が動くような感じがする。」などと効果を書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。</td></tr>
<tr><td colspan="2">「なりきり作文」を書くために，筆者の表現の工夫を読み取り，その効果を考える。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>3　「なりきり作文」を書くための読みの観点を考える。
〔読みの観点〕
①　文体
②　多用されている言葉
③　特徴的な表現
4　教材文の表現の工夫とその効果について考える。</td><td>○既習の学習内容を手掛かりにして考えさせる。
【図１】ワークシートⅡの一部
 
ワークシート②【本文】
神奈川沖浪裏
赤瀬川　源平
絵が動くような感じがする。
次の瞬間
〔読みの観点〕
①文体
②多用されている言葉
③特徴的な表現</td></tr>
<tr><td rowspan="3">二</td><td rowspan="3">2</td><td>5　教材文の表現の工夫がもたらす効果について考え，全体で共有する。
6　読み取った表現の工夫をワークシートⅢの絵に書いて，その効果を確認する。</td><td>○表現の工夫がもたらす効果について補足説明を行う。
○擬音語，擬態語や視点の動きに着目させる。</td><td rowspan="3">個人で考えたことを，グループや学級で話し合わせるなどして共有化を図り，理解を確かにさせたところで読む能力の評価規準を位置付けました。
［読む能力］①
ワークシートⅢ，Ⅳの記述
ワークシートⅢ，Ⅳの絵に表現の工夫を書いたり，「次の瞬間」について想像して書いたりしていることによって［読む能力］と［言語についての知識・理解・技能］を評価しました。【図２】に示したような記述の状況が見られた場合を「おおむね満足できる状況」（B）と判断しました。
ワークシートⅢ，Ⅳで具体的に得た知識を振り返ってまとめて記述している状況を見取り，総合して評価しました。
［言語についての知識・理解・技能］①
ワークシートⅢ，Ⅳ及び，学習計画表の振り返りの記述</td></tr>
<tr><td colspan="2">「なりきり作文」を書く絵を選び，表現の工夫の効果を考えて，取り入れようと思う表現の工夫を書く。</td></tr>
<tr><td></td><td>7「なりきり作文」を書くための絵を選び，表現の工夫を書き込む。
【図２】ワークシートⅣ記述例
 

8　学習計画表の振り返りの欄に，学んだことを書く。</td><td>○選んだ絵に擬音語，擬態語や視点の動きなどを考え，書き込むよう指示する。
・風の激しく吹く様子を表した擬音語や，飛ばされまいと身を守る人々の様子を表す擬態語を書いています。
・視点の動き①～⑥や，会話文（「お助け！」）を書いています。
○どういう意図でどのような表現の工夫がなされるのか，具体的に書かせる。</td></tr>
</table>

	3	筆者の表現の工夫を生かして「なりきり作文」を書く。		実際に作文を書くことで文章表現の工夫の理解を確かにする活動に取り組めているかを評価し，言語表現への関心・意欲・態度を評価しました。 「努力を要する」状況（C）となりそうな生徒には，表現の工夫を限定して書くことを指導するなどして，少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）となるようにしました。
		8　ワークシートⅣを用いて筆者になりきって「なりきり作文」を書く。	○ワークシートⅣを活用し，教材文の表現を生かしながら，想像力を働かせて書くよう心掛けさせる。	[国語への関心・意欲・態度]① ワークシートⅤの記述
		ワークシートⅤの「なりきり作文」を，ワークシートⅣに書きこんだ「取り入れようと思う表現の工夫」を生かして書いている状況を「国語への関心・意欲・態度」の観点における「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。		
		自分の書いた「なりきり作文」を読んで，取り入れた表現の工夫とその効果についてＰＲする文章を書く。		自分の書いた「なりきり作文」を読んで，表現の工夫とその効果について説明するＰＲの文章を書く場面で「読む能力」を評価しました。
		9　ワークシートⅤのＰＲ欄に，表現の工夫をした部分とその効果について記述する。	○自分が書いた文章を再読させることで，身に付けた力を認識させる。	[読む能力]① ワークシート⑤の記述
		上記の「国語への関心・意欲・態度」の「おおむね満足できる」状況に加え，ワークシートⅤの「なりきり作文」のＰＲ欄に，表現の工夫とその効果を説明する文章を適切に書いていれば「読む能力」についても「おおむね満足できる状況」（B）と判断しました。		
三	4	10　同じ絵を選んで書いた作品を読み合う。 11　付せんを使って交流する。	○どのような工夫がされているかを評価しながら読ませることを繰り返すことで，筆者の意図への迫り方を体得させる。	グループのメンバーが書いた「なりきり作文」を読んで表現の工夫を見つけたり，よいところや助言を伝え合ったりする場面で「読む能力」を評価しました。 [読む能力]① 付せん及び交流シートの記述
		交流シートの観点項目と対照して，グループのメンバーが書いた「なりきり作文」を適切に評価しているものを「おおむね満足できる状況」（B）と判断しました。さらに，よいところやアドバイスが表現の工夫とその効果の具体的記述を引用して適切に記述されている状況を「十分満足できる」状況（A）としました。		グループのメンバーがからもらった付せんを整理し，身に付けた力について考えを深める場面で「国語への関心・意欲・態度」を評価しました。
		12　振り返りシートを読み，考えを深める。	○表現の効果が読み手に伝わっているかを振り返らせる。	[国語への関心・意欲・態度] ①　振り返りシートの記述
		13　身に付けた力を振り返ると共に，今後に生かす場面を考える。	○学んだことを振り返らせ，今後の学習や生活に生かす場面を想起させる。	身に付けた力について根拠を明確にして記述できている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

６　観点別評価の進め方

⑴ 国語への関心・意欲・態度

①評価規準

「国語への関心・意欲・態度」はこれまでと同様，国語科の学習内容についての関心，学習活動への意欲や態度等を対象としたものです。これを踏まえ，次のように評価規準を設定しました。

筆者の表現の工夫を読み取り，その効果について自分の考えをもとうとしている。

②単元の指導と評価の進め方

文章を読んで筆者の表現の工夫を読み取る場面で，その効果について自分の考えをもとうとしているかどうかをワークシートの記述により評価しました。

まず，第１時の「神奈川沖浪裏」を読んで，筆者である赤瀬川原平の，絵を説明する文章の工夫について読み取り，その効果について考える場面では，ワークシートⅡ（**【図１】**参照）に，読みの観点に従って線を引いたり，その効果について書き込みをしたりしているかどうかを評価の目安としました。自分たちが担当した段落について線引きや書き込みが行われていれば，「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。書き込みが一般的な知識の書き込みにとどまらず，自分の感じ方や考え方にまで及んでいるものや，文章全体を通した考察に及んでいるものについては「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

また，「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒には，表現の工夫とその効果についてまとめた「学習の手引き」を示して説明し，それを参照させながら線引きや書き込みをさせ，少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）となるようにしました。

第３時の「なりきり作文」を書く場面では，ワークシートⅣ（**【図２】**参照）を使って，筆者の表現の工夫を生かして，選んだ絵を説明する文章を書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）としました。また，「努力を要する」（C）と判断されそうな生徒には，ワークシートⅣに書き込んだ視点の動きの順番に擬音語，擬態語を用いて絵を説明していけば文章が出来上がることを説明して，表現の工夫を限定した「なりきり作文」を書かせました。

第４時の学習を振り返る場面では，自分の書いた「なりきり作文」の表現の工夫が他の人に伝わったかどうかを振り返り，よかった点や改善点に気付き，身に付けた力を，根拠を明らかにして書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）としました。

⑵ 読む能力

①評価規準の設定　☛本手引き　「単元の評価規準の設定」　５ページ

本単元の「読む能力」の評価規準は次のように設定しました。

○単元の指導事項　※　**「単元の評価規準の設定の仕方」**1　①　**の過程**

「読むこと」の「ウ　文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」

↓

○評価規準に盛り込むべき事項　※　**「単元の評価規準の設定の仕方」**2　②　**の過程**

「文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。

↓

○上記を本単元の言語活動と関連付け，指導事項を絞り込み，次のように評価規準を設定しました。

※　**「単元の評価規準の設定の仕方」**2　③④⑤　**の過程**

文章の展開に着目し，表現の工夫とその効果について読み取り，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。

「なりきり作文」を書いて読み合うという言語活動を通すことで，「なりきり作文」を書くために筆

者の表現の工夫を読み取る場面（第１時），実際に「なりきり作文」を書いてＰＲ文を書く場面（第３時），他の人の「なりきり作文」を読んで交流する場面（第４時）で，上記の評価規準に照らして評価する場面を設定しました。それらの評価を総括して単元における「読む能力」の評価としました。

② 単元の指導と評価の進め方

第２時では，文章から読み取った筆者の表現の工夫について，その効果を出し合い，考えを深め，説明される絵に表現の工夫を書き込む場面におけるワークシートⅢとⅣの記述内容で「読む能力」を評価しました。ワークシートⅡで読み取った表現の工夫とその効果をワークシートⅢの適切な場所に書いているものを「おおむね満足できる」状況（B）としました。書き込みが自分の感じ方や考え方にまで及んでいるものや，文章全体を通した考察に及んでいるものについては「十分満足できる」状況（A）としました。

また，「なりきり作文」を書く際に用いる絵のワークシートⅣ（**【図２】**参照）に筆者の表現の工夫を生かして書き込みをしているものを「おおむね満足できる」状況（B）としました。どのような表現効果をねらって工夫するかを適切な言葉で書いているものについては「十分満足できる」状況（A）としました。

第３時では，ワークシートⅣを活用して，筆者の表現の工夫を生かして「なりきり作文」を書いた上，ＰＲ文として表現の工夫とその効果について適切に説明しているものを「おおむね満足できる」状況（B）としました。ワークシートⅤの記述が，自然と人事の対照や構成，展開の工夫にまで及んでいるものについては「十分満足できる」状況（A）としました。

第４時では他の人が書いた「なりきり作文」の表現の工夫やその効果に気付き，交流シートに記述できるかどうかを評価しました。交流シートの観点別の記号での評価を適切にしている状況を「おおむね満足できる」状況（B）とし，よいところやアドバイスについて適切な文章表現をしているものについては「十分満足できる」状況（A）としました。

(3) 言語についての知識・理解・技能

①評価規準

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「(1)イ(ｵ)　相手や目的に応じて，話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。」から，次のように評価規準を設定しました。

筆者の意図に応じて，表現の工夫や展開に違いがあることを理解している。

②単元の指導と評価の進め方

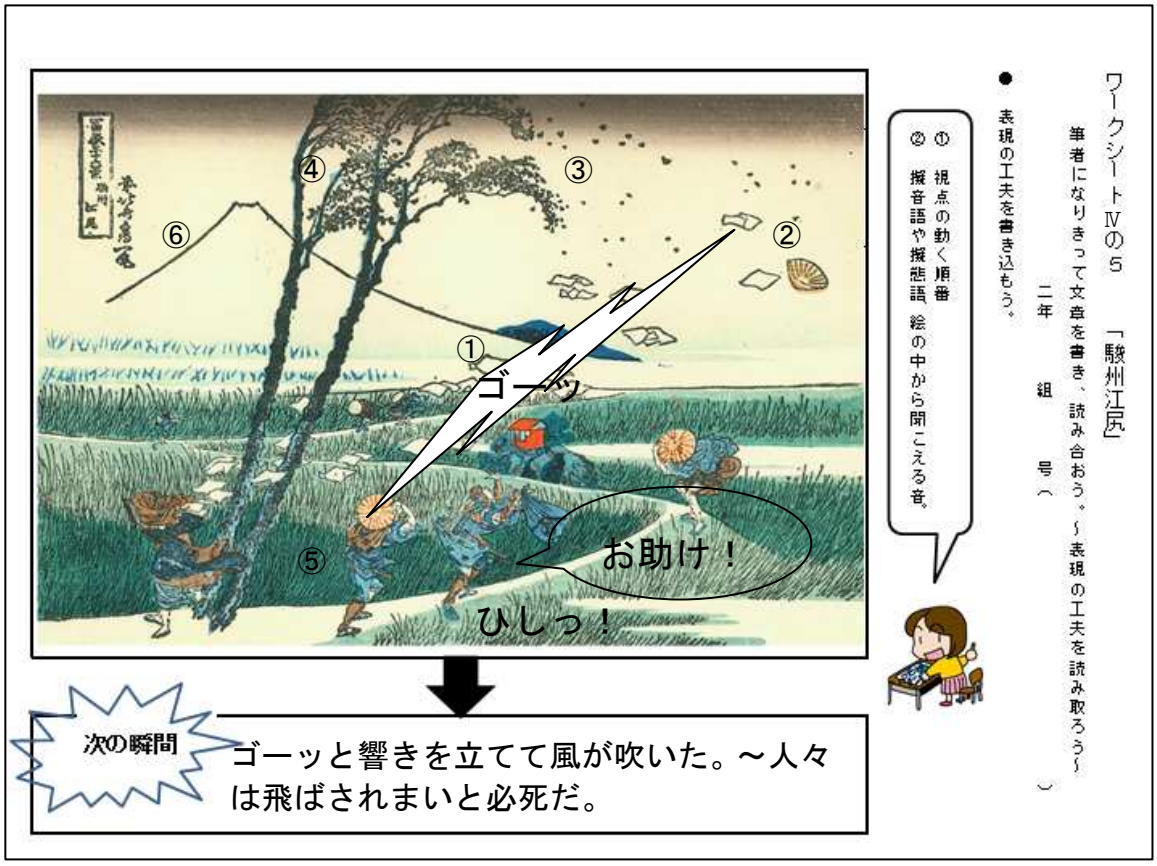
言語についての知識・理解・技能については第２時に行うワークシートⅢとⅣの書き込みを通して理解したことをまとめて表記できるかどうかを評価しました。学習計画表の振り返りの欄に，学んだこととして，筆者の意図に応じて，表現の工夫や展開に違いがあることが書けているかどうかを判断のよりどころとしました。絵を動的に表現するために「次の瞬間」と時間の推移を表す表現を使っていることや，臨場感を出すために擬態語や擬音語を使っていることなどの記述のあるものを「おおむね満足できる」状況（B）としました。絵に描かれる人々の心情を想像して会話や心内語を書いていることや富士山に象徴される自然と人事の対比に言及しているものなどについて言及しているものは「十分満足できる」状況（A）としました。

【学習計画表の振り返りの記述】

「時間」	「振り返り（学んだこと・感想）」
第２時	筆者は，絵を動いているように見せるために，「次の瞬間」という言葉を使って説明していた。また，その場の様子がじかに伝わってくるように，擬音語や擬態語を使ったり，会話文を使っていたりした。いろんな目的で，いろんな表現の工夫をするのだと分かった。富士山と人々の姿の対照から自然の大きさと，人間の小ささが印象的だった。

（評価のポイント）
［言語についての知識・理解・技能］第２時の評価
※　第２時の記述に，「絵を動いているように見せるために」と筆者の意図を示して，「『次の瞬間』という言葉を使って説明している。」と書いている。擬音語・擬態語や会話についても同様に説明し，「いろんな目的で，いろんな表現の工夫をするのだと分かった。」とまとめている。さらに，自然と人事の対照についても言及していることから，「十分満足できる」状況（A）とする。

【図２】ワークシートⅣ記述例



※　選択できる絵は６枚あり，ワークシートⅣは６種類作成しました。これはそのうちの１枚です。

【ワークシートⅤの「なりきり作文」とＰＲの記述内容及び評価のポイント】

「駿州江尻」　①～⑥はワークシートⅣに書き込んだ視点の動き

①ゴーッと地響きが聞こえた。

と思った次の瞬間，ビューッという風の音とともに②一人の旅人の笠が宙を舞った。③見渡せば，何枚もの紙や小物や様々な物が空のかなたまで飛ばされている。まるで渡り鳥の群れのようだ。④高くそびえる木は幹ごと風になびき，メキメキと音を立てんばかりだ。枝は完全に髪の毛のように一方へ吹き分けられている。

風は吹きやむことなく，旅人達を身ぐるみはがそうとする。

⑤旅人達は我が身を守るのに必死だ。笠を押さえ，着物を合わせ，荷をひしっと抱くようにしている。悲惨なのは背中に荷を背負っている旅人だ。風が荷をさらっていくのをどうすることもできずに，自分も風にあおられるままになっている。

「お助けをー。」と叫ぶ声が聞こえてくるようだ。「南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。」と念仏を唱える人もいるかもしれない。そんな人々の姿を前に，富士山は不動のままだ。人間の姿を静かに見守ってただそこに悠然とある。

《ＰＲ》

擬音語や擬態語を使ってその場にいるような感じを出しました。人々の会話文を書いて心情を想像しやすくしました。人々と富士山の姿を対比しました。

（「読む能力」の評価例　○◎状況の見取り，※判断）

［読む能力］　第３時の評価

○＿＿＿＿のアンダーラインの部分は擬音語や擬態語を使って場面の様子を詳しく描写している。

○次の瞬間という語句を使って時間の推移を表している。

○＿＿＿＿のアンダーラインの部分は会話文を使って人々の心情を分かりやすく表現している。

○ワークシートⅣに書き込んだ視点の動き①～⑤の順に書いている。

◎絵について十分に説明をし，自然と人事の対象についても記述している。

※　以上の○の項目により，筆者の表現の工夫を生かして「なりきり作文」を書いていると判断しました。また，◎の項目より，「文章の展開に着目し，表現の工夫とその効果について読み取り，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。」という評価規準について「十分満足できる」状況（Ａ）と判断しました。

7　観点別評価の総括

毎時の学習状況を判断する際には，評価の目安を「キーワード」として定め，それを手掛かりにして評価をし，記録を残すという工夫が考えられます(「参考資料『第３章　評価に関する事例』事例１の**【評価メモ】**参照)。本単元では次のように**【評価メモ】**を作成し，観点別評価の総括に生かしました。

【評価メモ】

本時例では1が見られれば「おおむね満足できる」状況（B），1に加えて2も見られれば「十分満足できる」状況（A）としています。

キーワードに表した状況が見られれば✓を入れます。

観点	[国語への関心・意欲・態度]①							[読む能力]①							[言語についての知識・理解・技能]①		
キーワード（評価の目安）	1 線引き・書き込み	2 感じ方・考え方	1 ワーク④の活用	2 適切なＰＲ文	1 身に付けた力	2 活用場面の想定	単元における評価	1 ワークシート③	2 ワークシート④	1 適切なＰＲ文	2 十分な工夫	1 適切な記号の表記	2 適切な文章表記	単元における評価	1 意図と工夫	2 自然と人事の対照	単元における評価
評価の方法	ワークシートⅡ		ワークシートⅤ		振り返りシート			ワークシートⅢⅣ		ワークシートⅤ		交流シート			学習計画表		
評価時間	第１時		第３時		第４時			第２時		第３時		第４時			第２時		
生徒氏名	1	2	1	2	1	2		1	2	1	2	1	2		1	2	
	評価		評価		評価			評価		評価		評価			評価		
生徒Ｕ	✓		✓	✓	✓	✓	A	B	A	✓	✓	✓		A	✓	✓	A
	B		A		A			A		A		B			A		
生徒Ｖ	✓		✓	✓	✓		B	B	A	✓		✓		B	✓		B
	B		A		B			A		B		B			B		

本単元では，[国語への関心・意欲・態度]と[読む能力]の２観点で，それぞれ３回の評価をしています。３回の評価のＡ，Ｂ，Ｃの数を基に，単元における評価を総括しました。
３回の評価結果をＡ，Ｂ，Ｃの数を基に総括すると，
ＡＡＢ→Ａ，ＡＢＢ→Ｂ，ＡＢＣ→Ｂ，
ＡＣＣ→Ｂとなります。

[読む能力]の第２時は評価資料がワークシートⅢ，Ⅳの２つあり，それぞれ（Ａ・Ｂ・Ｃ）の状況を判断しています。評価資料が複数の場合は総括の仕方をあらかじめ決めておきます。この時間の[読む能力]の評価は，ワークシートⅢ，Ⅳで評価が異なる場合，④の評価を優先することにしました。（ＡＢ→Ｂ，ＢＡ→Ａ　但し，ＣＡの場合はワークシートⅢの記入も促し，少なくともＢＡとしてこの時間の評価をＡとしました。ＡＣ，ＢＣの場合も同様に指導し，ワークシートⅣの状況でＡ，Ｂのいずれかを判断しました。状況に変化がなければＣとします。

○生徒Ｕの「国語への関心・意欲・態度」の評価について

・第１時はキーワード1の状況がみられるので「おおむね満足できる」状況（Ｂ）としました。第３時，第４時ともにキーワードの1および2の状況がみられるので，それぞれを「十分満足できる」状況（Ａ）としました。３回の評価がＢ，Ａ，Ａとなるため「国語への関心・意欲・態度」の「単元における評価」も「十分満足できる」状況（Ａ）としました。

○生徒Ｖの[読む能力]の評価について

・第２時にはキーワード1及び2の状況がみられたので「十分満足できる」状況（Ａ）としました。第３時と第４時にはキーワード1の状況がみられるので「おおむね満足できる」状況（Ｂ）としました。３回の評価が，Ａ，Ｂ，Ｂとなるため「読む能力」の「単元における評価」を「おおむね満足できる」状況（Ｂ）としました。

8　「年間指導計画」に基づいた評価の系統化・重点化

年間を見通して当該単元の指導目標や評価規準を設定することが必要になるので，３領域１事項全体を一覧することができる年間指導計画表を作成し，活用することが望ましいとされています。

※参考資料『**第３編　評価に関する事例**』事例１　参照

中学校国語科における学習評価事例２

■　領域の関連を図る指導と評価が分かる事例

事例２では，領域を関連付けた単元の指導と評価の方法を示します。「Ｂ　書くこと」と「Ｃ　読むこと」を関連付けることにより，双方の指導の効果を高めます。そのような特徴を踏まえて評価を行う事例です。

本単元は，第２学年「Ｂ　書くこと」の指導事項ウから「心情が相手に効果的に伝わるように，描写を工夫して書くこと。」を，「Ｃ　読むこと」の指導事項イとウからそれぞれ「描写の効果や登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てること。」と「文章の表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」を取り上げ，関連付けることにより，効果的な指導を行うことを意図したものです。

その際，「Ｂ　書くこと」の言語活動例アと，「Ｃ　読むこと」の言語活動例アとを組み合わせて発想した言語活動「主人公を替えてリライトし，書いた作品を読み合う」を位置付けました。

本単元に位置付けたリライトという言語活動は，文章を読んで，目的に応じて創造的に書き換えることです。主人公を替えてリライトするという目的を明確にもつことで，描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて心情を想像したり，表現の仕方に気を付けて小説を読み味わったりすることができます。また，実際にリライトすることで，心情が相手に効果的に伝わるように描写を工夫して書くということを学ぶことができます。

このように，本単元は「書くこと」と「読むこと」を組み合わせることにより，それぞれのねらいを一層効果的に実現するよう領域を関連させた単元としました。

１　単元名

「主人公を替えてリライトし，書いた作品を読み合おう」
～想像豊かに読み，表現を工夫して書く～（第２学年「Ｂ　書くこと」「Ｃ　読むこと」）
教材名　「盆土産」（光村図書）

２　単元の目標

(1)　主人公を替えてリライトするために必要な情報を読み取り，表現の仕方について自分の考えをもって表現を工夫しようとする。（関心・意欲・態度）

(2)　心情が相手に効果的に伝わるように，描写や表記などの表現を工夫して，主人公を替えてリライトすることができる。（書くこと）

(3)　描写の効果や登場人物の言動の意味を考え，文章の表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。（読むこと）

(4)　話し言葉と書き言葉の違い，共通語と方言の果たす役割を理解することができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

３　本単元における言語活動

主人公を替えてリライトし，書いた作品を読み合う。関連：言語活動例（Ｂ(2)ア）（Ｃ(2)ア）

４　単元の評価規準

（　）内は該当する指導事項等の記号

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①　主人公を替えてリライトするために必要な情報を読み取り，文章の表現の仕方について自分の考えをもって表現を工夫しようとしている。	①心情が相手に効果的に伝わるように，描写や表記などの表現の工夫をして，リライトしている。（ウ）	①描写の効果や登場人物の言動の意味を考え，内容の理解に役立てている。（イ） ②文章の表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（ウ）	①話し言葉と書き言葉の違い，共通語と方言の果たす役割について理解している。（(1)イ(ｱ)）

５　指導と評価の計画（全６時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	1　リライトについて概略を知り，興味をもつ。 2　本単元で行うリライトの条件を確かめ，簡単なリライトに取り組み，学習の見通しをもつ。 3　学習課題「主人公を替えてリライトし，読み合うことで，小説を想像豊かに読む力や表現を工夫して書く力を付ける。」を確かめる。	○小説の映画化，漫画化なども，リライトであることに気付かせる。 ○様々なリライトがあることを理解させるとともに，学習の仕方について見通しをもたせる。 ○リライトをすることによって読書の楽しみが広がる可能性を示唆する。	**[国語への関心・意欲・態度]①** 取り組みの様子の観察，学習計画表の記述，ワークシートⅠの記述
二	2	4　登場人物のことが分かる表現に気を付けて読み，どういう人物かを考える。 5　登場人物の人物像について，グループで話し合い，考えを深める。 6　リライト作品の主人公にする人物を，理由を明らかにして決める。	○祖母を例にして，作品の表現を根拠に，どういう人物か想像する手順や方法を説明する。 ○人物像の根拠となった表現について尋ねたり答えたりさせながら考えさせる。 ○心情表現の仕方を手掛かりに，主人公にする人物を決めさせる。	**[読む能力]①** ワークシートⅡ，Ⅲの記述
	3	7　主人公にする人物ごとにグループを編成し，２～３行程度の本文をリライトして交流し，リライトの仕方について確かめたり，登場人物の人物像や心情について考えを深めたりする。 8　方言と共通語の果たす役割と効果を考える。 9　リライトをする部分を決め，リライトに取り入れる表現の工夫を考える。	○主人公を替えてリライトする方法を確かめさせる。 ○「盆土産」の会話文に方言が使われているのに対し，地の文は共通語で書かれていることに気付かせ，方言が生活の言葉であることを理解させたり，語り手が共通語で語る効果について考えさせたりする。	**[言語についての知識・理解・技能]①** 学習計画表の記述
	4	10　条件に応じてリライトする。 〔条件〕 Ⅰ　主人公にした人物の心情を書く Ⅱ　主人公にした人物の視点から出来事を書く Ⅲ　表現の仕方をまねる	○これまで学習に用いたワークシートを活用させる。 ○主人公にする人物やリライトする場面を決めることができない生徒については，父親を主人公にして，見送りに来た少年とのやり取りの場面をリライトするよう勧める。	**[国語への関心・意欲・態度]①** 取り組みの様子，ワークシートⅤの記述 **[書く能力]①** ワークシートⅤの記述

	5	11　書き上げたリライト作品について，なぜそのような想像や表現の仕方をしたのかを解説する文章を書く。 12　グループで交流し，代表発表者と紹介者を決める，	○なぜそのような内容や表現にしたのか根拠を明らかにするように指示する。 ○よいところとアドバイスを付せんに書いて渡しながら意見を交流するように指示する。	**[読む能力]①②** ワークシートⅤの記述
三	6	13　学級で作品を発表し合い，よいところやアドバイスを伝え合う。 14　単元の学習を振り返り，身に付けた力やその力が活用できる場面について考える。	○評価表に，作品のよいところやアドバイスをメモするように指示する。 ○発表された作品について，よいところやアドバイスを発表させる。 ○単元の学習で使った学習資料を見直させ，身に付けた力を具体的に考えさせる。	**[読む能力]②** 評価表の記述 **[国語への関心・意欲・態度]①** 取り組みの様子，学習計画表の記述

6　指導と評価の進め方

(1)「C　読むこと」の指導事項イ及びウに関する指導と評価

「読む能力」についての評価は，指導事項イについては第２時の主人公にする人物を決めるために小説を読む場面で行いました。また，指導事項ウについては第５時の自分が書いたリライト作品について解説する場面と，第６時の他の人が書いたリライト作品を読んで評価する場面で行いました。

[読む能力]①　描写の効果や登場人物の言動の意味を考え，内容の理解に役立てている。（C (1)イ）

第２時で使用するワークシートⅡは教材文に線を引いたり書き込みをしたりするもので，ワークシートⅢはワークシートⅡの学習活動を振り返って自分の考えをまとめるシートです。このワークシートⅢの「○主人公にしたい人物とその理由を書こう。」の欄に見られる，以下のような生徒の状況を上記の評価規準に照らして，「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

【「おおむね満足できる」状況（B）】
・教材文の登場人物に関する情報が分かる部分を整理分析したことを踏まえて，理由を明らかにして主人公にしたい登場人物を決めている。
（記述例）「私が主人公にしたいと思った人物は父親だ。父親の気持ちの説明はなかったが，様子が詳しく書かれていて心情が想像しやすく，無口だけれど家族思いの父親像が思い浮かんだからだ。」

さらに，理由を明らかにする際に具体的な根拠を挙げて説明を加えている場合については，「十分満足できる」状況（A）としました。例えば，次のような記述が見られた場合です。

【「十分満足できる」状況（A）】
（記述例）「私が主人公にしたいと思った人物は，姉だ。弟がえびフライについて尋ねたときに，弟の発音を注意して『にこりともせずにそう言って，あとは黙って自分の鼻の頭でも眺めるような目つきをしていた。』とあり，言葉のなまりを弟に指摘された時と同じように，実は姉もえびフライのことはよく知らないので，ごまかしているのではないかと想像できた。弟に間違いを指摘されたり，答えられないことを尋ねられたりするのは嫌だと感じている姉の性格が想像できるので，主人公にしたいと思った。」

［読む能力］②　文章の表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（C (1) ウ）

指導事項ウについては，第５時に自分が書いたリライト作品について解説する場面と第６時に他の人が書いたリライト作品を読んで評価をする場面というように２つの場面で評価をしました。

第５時で自分の書いたリライト作品について解説する場面では，ワークシートＶの「 解説 」の欄の，以下のような生徒の状況を上記の評価規準に照らして，「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

【「おおむね満足できる」状況（B）】
・リライトに生かした表現の工夫について，根拠と理由を説明している。
（記入例）「☆姉の心内語に方言を使ったところ。→原作の会話文には方言が使われていて，生活感がよく出ていたのでこれを生かした。」

さらに，表現の工夫が作品全体においてどういう効果をもつのかについて記述している場合については，「十分満足できる」状況（A）としました。例えば，次のような記述が見られた場合です。

【「十分満足できる」状況（A）】
（記入例）「『もちろん父親が帰ってくれるのはうれしかったが，正直言って土産が少し心もとなかった。』という一文はそのまま書き変えずに使った。「父親が帰ってくる」ではなく「帰ってくれる」と書かれているところに父親の帰省がどれだけうれしかったかが分かると感じたからだ。また，率直に「うれしかった」と心情を表現しているのは，ここだけであるので大切にしたかったからだ。これにより，抑えられた表現の中にあふれるような心情を表現する原作の雰囲気を生かせたと思う。

第６時の他の人が書いたリライト作品を読んで評価をする場面では，評価表の「よいところ」や「アドバイス」のどちらかに見られる，以下のような生徒の状況を上記の評価規準に照らして，「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

【評価表の「よいところ」に見られる「おおむね満足できる」状況（B）】
・他の人のリライト作品の優れた表現の工夫について指摘し，その効果を説明している。
（記入例）「『えびフライ』を書き出しに使っているところが小説の最初の部分と対応していて遠く離れて暮らす父親も，家族のことを思っていると分かってよかった。」

【評価表の「アドバイス」に見られる「おおむね満足できる」状況（B）】
・他の人のリライト作品をよりよくするために，効果を説明しながら表現の工夫についてアドバイスしている。
（記入例）「父親の会話の部分は，本文では全部方言で書かれていたので，できれば全部方言で書いた方がよいと思う。原作の他の場面にも，会話が書かれているので，参考にするとよいと思う。父親は自分のことを『おら』と言っているし，『おまえ』は『おめえ』，『姉』は『あんね』，『食え』は『けえ』と書いてある。図書館に方言辞典があるので，参考にしてもよいと思う。」

また，「よいところ」や「アドバイス」の欄に，作品全体の構成や文体の特徴に及ぶ表現の工夫とその効果が記述されている状況を「十分満足できる」状況（A）としました。例えば，次のような記述が見られた場合です。

【評価表の「アドバイス」に見られる「十分満足できる」状況（A）】
（記入例）「原作では語り手の言葉は共通語で書かれていて，会話文とはっきり区別されている。主人公にした姉の心内語を書くときには，語り手の言葉として共通語で書く方がよいのではないか。登場人物の心情が高まったときにだけ方言を使うようにすると心情がよく伝わる表現になると思う。

(2)「B　書くこと」の指導事項ウに関する指導と評価

［書く能力］①　心情が相手に効果的に伝わるように，描写や表記などの表現の工夫をして，リライトしている。（B (1) ウ）

「書く能力」の評価は，実際にリライトする場面で評価しました。ワークシートⅤのリライト作品を，主人公にした登場人物の心情が効果的に伝わるように，原作の表現の工夫を生かして書いている場合，上記の評価規準に照らして「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

さらに，原作の作品全体の雰囲気を生かした描写(行動描写で心情を表現する)や表記の工夫をしている場合は，「十分満足できる」状況（A）としました。例えば，次のような記述が見られる場合です。

【ワークシートⅤの記述例：主人公は父親。少年に見送られてバスに駆けこむ場面。方言・心内語・「えんびフライ」】

リライト作品【父親】を主人公にして	解説　☆…どうしてそのような想像をしたのか。 ▽…なぜそのような表現の工仕方をしたのか
（前略） バスに向かおうとしていたら，よしお(少年の仮の名前)がだしぬけに「えんびフライ」と言った。つまるのどから押し出すような声だった。がまんさせてばっかりだな。すまんな。「わかってらあに。また買ってくるすけ……。」すまんな……。こらえてけろ……。男車掌が「はい，お早くぅ。」と言った。父親はよしおから逃げるようにバスに駆けこんだ。	（前略） ☆少年が「えんびフライ」のことばかり話題にしたり，「えんびフライ」と間違えて言ったりするのは父親との別れを意識しないようにするためだと考えた。意識を「えんびフライ」に集中させることで悲しみをこらえようとしたのだと思う。だが，体は感情の高ぶりをこらえきれずに，のどがつまったに違いない。父親にはそれが伝わったと想像した。

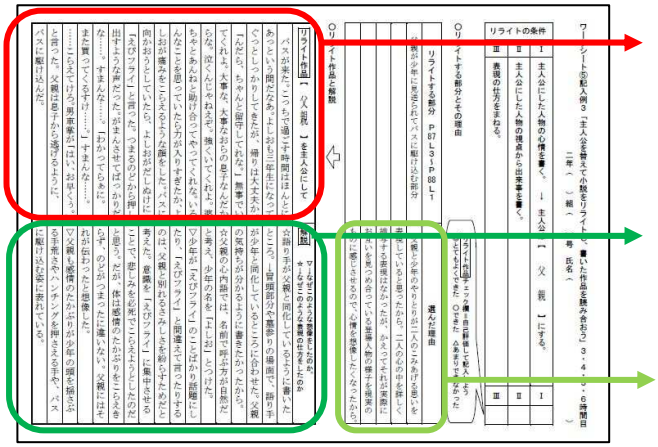
（「書く能力」①の評価例）

◎原作では「んだら，さいなら，というつもりで，うっかり，『えんびフライ』と言ってしまった。」とあるところを，「だしぬけに，～つまるのどから押し出すような声だった。」と父親の視点から少年の声の様子を描写している。

◎＿＿線部「……」は言葉にならない思いを表現している。

※◎の項目から「書く能力」は「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

また，ワークシートⅤは下の図のように，「書く能力」①と「読む能力」①，②について評価できる資料となります。それぞれどのような生徒の状況を見取り，どの評価規準に照らして評価するのかを明らかにしておく必要があります。



【ワークシートⅤ　記入例　】

※ リライト作品の記述の状況で［書く能力］の評価をしました。

※ 「リライトする部分」を「選んだ理由」は，その内容に応じて［読む能力］①，②の評価資料とすることができます。

※ 解説の「▽→なぜこのような想像をしたのか」についての記述の状況は［読む能力］①の評価資料となります。

※ 解説の「☆→なぜこのような表現の仕方をしたのか」についての記述の状況は［読む能力］②の評価資料となります。

次のページに示した**【ワークシートⅤの記述例：主人公は姉。父親からの速達で土産がえびフライと知る場面。方言・心内語・会話文を使う。】**にある評価例は，上記のワークシートⅤを用いて「書く能力」と「読む能力」について評価する場合の例です。

【ワークシートⅤの記述例：主人公は姉。父親からの速達で土産がえびフライと知る場面。方言・心内語・会話文を使う。】

リライト作品【姉】を主人公にして	解説　▽…どうしてそのような想像をしたのか。 ☆…なぜそのような表現の工仕方をしたのか
☆もちろん父親が帰ってくれるのはうれしかったが，正直言って土産が少し心もとなかった。▽フライだから油で揚げるのだろうが，家ではめったに揚げ物はしない。油っこい料理は祖母が食べないからだ。せいぜい油を引いて野菜を炒めるくらいだ。父親が，土産に持ってかえってくれたとして，ちゃんと料理することができるのだろうか。▽「あんね，えんびフライってなんどぇ。どったらもんな。」と弟が聞いてきた。まあたこの弟は何でも聞きたがる。えびフライってんだからえびのフライに決まってんだろうが。それにしても，まあたえんびだ。弟は何度言っても「えび」を「えんび」と発音する。こんな風だと学校でからかわれたりするんじゃないだろうか。「えんびじゃねくて，えびフライ。」きちんと教えておかねばな。	☆最初の一文はそのまま書き換えずに使った。「父親が帰ってくる」ではなく「帰ってくれる」と書かれているので，父親が自分たちのために盆休みを取って帰省してくれると受け止めていることが分かるから。また，率直に「うれしかった」と表現されるのはここだけであるから大切にしたかった。原作の雰囲気をうまく生かせたと思う。 ▽姉がえびフライの調理の仕方を心配しているところは，原作の「普段，おかずの支度はすべて姉がしているが」というところと「油とソースを買っておけ」というところから，普段揚げ物はしていないと想像した。お年寄りがいることも揚げ物をあまりしない理由だと思う。 ▽えびフライがどんなものかと尋ねられて，姉がごまかしたのは，弟の手前知らないとは言えなかったためと，実際に弟のなまりがなおらないのを心配しているためではないかと想像した。姉は一家の母親代わりをしていると思う。

（「書く能力」の評価例）

○心内語と会話文を用いている。

※会話文には方言を使っているので表現の工夫を生かしてリライトしていると判断しました。（第４時）

※主人公の姉の心情が効果的に伝わるように，語り手の言葉で心情を説明したり，心内語を用いたりしていることから「主人公にした登場人物の心情が効果的に伝わるように，原作の表現の工夫を生かしてリライトしている」状況と判断し，「書く能力」の評価規準「心情が相手に効果的に伝わるように，描写や表記などの表現の工夫をして，リライトしている。（Ｂ(1)ウ）」に照らして「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断しました。

※この生徒は解説で，表現の工夫が作品全体にどんな効果をもたらすのかを説明しているので［読む能力］②の第５時の評価は「十分満足できる」状況（Ａ）と判断しました。

第２時では，ワークシートⅡの原作「盆土産」の文章において，登場人物について分かる表現に線引きをさせました。線を引いた表現から分かることをワークシートⅡの下段に書き込み，ワークシートⅢに登場人物ごとにまとめて記述させました。記述した内容についてグループで交流して考えを確かなものにさせ，この時点でどの生徒も「おおむね満足できる」状況（Ｂ）となるように配慮しました。 同様に，第３時では，「盆土産」の１，２文をリライトさせ，原作「盆土産」の表現の仕方について考えさせました。ワークシートⅣの記入例を参考にリライトしたものをグループで交流することで，理解を確かにさせ， 第４時では，ワークシートⅡ，Ⅲ，Ⅳを利用して，実際にリライトさせました。

このように，評価を指導に生かしつつ，単元の指導と評価を進めることが大切になります。

(3) 領域を関連させた単元における評価の留意点

本事例では，［読む能力］の評価に用いたワークシートⅡ，Ⅲ，Ⅳを第４時のリライト作品を書く際の指導に生かしました。また，ワークシートⅤの記述を第４時では「書く能力」の評価に用い，第５時では［読む能力］の評価に用いました。このように，領域を関連させた単元の評価においては一つの資料を複数の領域の指導や複数の観点の評価に効率的に活用できるといった利点があります。

その際，どのような評価規準によってその資料を評価するかについて，単元全体を見通して把握することが一層大切なものとなります。そのためには年間指導計画の見通しの下，取り上げる指導事項を精選して単元の評価規準を設定することが求められます。

中学校国語科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　これまで，単元の評価規準とは別に，それを更に具体化した評価規準を設定していましたが，それではいけないのですか？

Ａ　「単元の評価規準」を設定した上で，必要に応じて，単元の評価規準を更に具体化した「学習活動に即した評価規準」を設定することも考えられます。しかしながら，その際に，「単元の評価規準」と「学習活動に即した評価規準」との間にずれが生じて，適切な評価が行われていなかったことや，設定する作業が大変であったことなどの課題もありました。そこで，そのような課題を解決するために，「単元の評価規準」をそのまま「学習活動に即した評価規準」として用いる方法を示しています。学習評価の妥当性を高めるためには，評価しようとした目標と評価結果に適切な関連があることが大切です。具体化した評価規準を設定する際には，その点に十分に配慮することが必要です。

Ｑ　これからは１単位時間に１回または２回程度，評価を行えばよいということですか？

Ａ　これまでは，指導に生かすための形成的な評価と通知表や指導要録などのために記録に残す評価を混同して，１単位時間に数多くの評価規準を設定している場合が多く見られました。その結果，１単位時間の中で，個々の生徒の学習状況を確実に評価できていなかったことも多かったと思います。これからは，通知表や指導要録などのために記録に残す評価については，１単位時間に１回または２回程度でよいかわりに，設定した評価規準については，確実に個々の生徒の学習状況を評価し，記録に残すことが必要となります。その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価にもなりますので，すべての生徒が，最低でも「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断できるようにしたいものです。そのためには，従来までのように，それまでの学習過程における生徒の学習状況を形成的に評価し，それに基づく適切な指導を行うことが必要ということは言うまでもありません。

Ｑ　生徒同士の相互評価を評価資料とすることができますか？

Ａ　生徒同士の相互評価は，目標に照らして行われるので，生徒の知識・技能の習得を評価するのに適した資料とすることができます。

しかし，相互評価を評価資料とするには多くの注意が必要になります。まず，相互評価の結果は，生徒が評価する対象生徒の学習状況の評価資料ではないということです。指導者が評価するのは，「評価している生徒」の学習状況であって，「評価されている生徒」の学習状況ではありません。評価されている生徒の表現(物)を，評価している生徒が習得した知識・技能を用いて適切に評価しているかどうかを見るものです。混同しないようにする必要があります。

また，評価の対象となる生徒の表現(物)が評価している生徒によって異なることのないように配慮する必要があります。本手引きの事例２では，グループの代表が学級で発表する作品について評価を行うことで，評価の対象となる生徒作品は同じとなるよう工夫しています。しかし，ペアやグループ内で行う相互評価では評価の対象にばらつきが生じ，評価資料としては不適切なものとなる恐れがあることに留意する必要があります。このように，相互評価を評価方法とする際には，多くの配慮や手立てが必要となります。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の設定，評価規準等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（中学校　社会科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校社会科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校社会科における学習評価の進め方
4　中学校社会科における学習評価事例
5　中学校社会科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・<u>表現</u>」**
「技能・<u>表現</u>」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校社会科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

※＿下線部が「**民主的，平和的な**」から「**平和で民主的な**」へと改められました。この教科目標は，従前の目標の趣旨を継承しています。

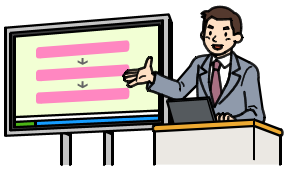
2　評価の観点及びその趣旨

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付けている。

評価の観点が，これまでと変わったところは？

○　これまでの「社会的な思考・判断」が「社会的な思考・判断・表現」となりました。これは生徒が「思考・判断」した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように「表現」しているかを一体化して評価することを明確に示しています。

○　これまでの「資料活用の技能・表現」が「資料活用の技能」となりました。しかし，資料から情報を収集・選択して，読み取ったりする「技能」と，それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とまとめて評価することになりますので，その趣旨に変更はありません。



3　分野別の評価の観点の趣旨

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
地理的分野	地理的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。	地理的事象から課題を見いだし，日本や世界の地域的特色を地域に規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計，映像など地域に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本や世界の諸地域について，その地域構成や地域的特色，地域の課題などを理解し，その知識を身に付けている。

歴史的分野	歴史的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立って我が国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもとうとする。	歴史的事象から課題を見いだし，我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色などを多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	年表や歴史地図，映像など歴史に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解し，その知識を身に付けている。
公民的分野	現代の社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。	現代の社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や役割，相互の関連などを多面的・多角的に考察し，様々な考え方を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	統計や新聞，映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代社会についての見方や考え方の基礎，現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方，社会的事象の意義や役割，相互の関連などを理解し，その知識を身に付けている。

※＿下線部は，全ての分野で共通して従前から変更になっている点で，教育センターによる。

中学校社会科における学習評価の進め方

評価規準は，どうやって設定するの？

各学校において，評価規準を設定するときの基本的な考え方は，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（以下，参考資料と表記）に示されている評価規準の設定例を活用するなどして，学習状況を適切に評価することのできる評価規準を設定することが重要となります。その際，学習指導要領の内容のまとまり（下記の表を参照）を原則的に単元のまとまりとして捉え，単元の評価規準を設定する際の参考とし，効果的・効率的な学習評価の場面を設定することが大切です。

地理的分野の内容のまとまり

大項目	(1)								(2)										
中項目	ア	イ	ウ					エ	ア	イ			ウ						エ
小項目（又は考察の仕方）	／	／	(ｱ)	(ｲ)	(ｳ)	(ｴ)	(ｵ)	(ｶ)	／	(ｱ)	(ｲ)	(ｳ)	(ｴ)	(ｱ)	(ｲ)	(ｳ)	(ｴ)	(ｵ)	(ｶ)	(ｷ)	／

歴史的分野の内容のまとまり

大項目	(1)			(2)			(3)		(4)				(5)						(6)	
中項目	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ

公民的分野の内容のまとまり

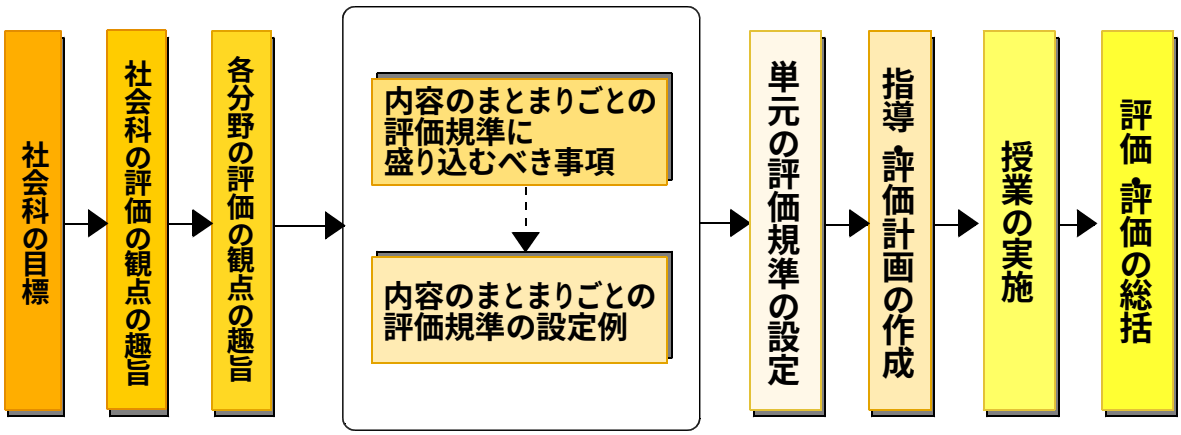
大項目	(1)		(2)		(3)		(4)	
中項目	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ

※太線で囲まれた項目が内容のまとまりを表しています。
また，斜線は該当する項目がないことを表しています。

例えば，「地理的分野(1)ウ」については，小項目(ｱ)～(ｶ)の６つの地誌単元で内容のまとまりを構成するので，これら６つを通して４観点を総合的に評価します。したがって，小項目それぞれの全てに４観点の評価規準を設定し，その全てを評価する必要はなく，小項目ごとに１つ～２つの評価規準を設定し，評価することとなります。（※後掲 事例１を参照）

単元の評価規準の設定する際の留意点

単元の評価規準を設定する際には，「教科目標」「分野ごとの目標」「分野ごとの評価の観点の趣旨」を踏まえ，実際に行われる学習活動とを関連付けながら，参考資料に示された「内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項」（以下，「盛り込むべき事項」と表記）及び「内容のまとまりごとの評価規準の設定例」（以下，「評価規準の設定例」と表記）を参考にして設定することが考えられます。



実際に指導計画を作成する際には，上の図のように，教科の目標や評価の観点の趣旨，各分野の評価の観点の趣旨を基に，単元の内容と実際に行われる学習活動とを関連付けながら，各単元の評価規準，１単位時間ごとの評価規準を設定する必要があります。その際には参考資料に示された「盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考にすることが考えられます。

細かい点でいくらかの違いはありますが、基本的に参考資料においては，評価規準が詳細になりすぎないように，学習指導要領の内容を踏まえ，次のような一定の形式に則って表記してあります。実際に評価規準を設定する際には，次のような表記例を参考にして，設定することが考えられます。

【評価規準に盛り込むべき事項】の表記例

社会的事象への関心･意欲･態度	社会的な思考･判断･表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識･理解
・（A）などに対する関心を高め，意欲的に追究し，捉えよう（考えよう）としている。	・（A）などについて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	・（A）などに関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・（A）を理解し，その知識を身に付けている。

【評価規準の設定例】の表記例

社会的事象への関心･意欲･態度	社会的な思考･判断･表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識･理解
・（A）などに対する関心が高まっている。 ・（A）を意欲的に追究している。 ・（B）に着目して，（A）について考えようとしている。	・（A）を（B）を基に多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	・（A）に関する様々な資料を収集している。 ・収集した資料から（A）について有用な情報を適切に選択している。 ・適切に選択した情報を基に（A）について読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・（A）を理解し，その知識を身に付けている。

1　「盛り込むべき事項」を参考にして評価規準を設定するときの例

観点別学習状況の評価を円滑に実施するために，例えば，地理的分野の「⑴ウ　世界の諸地域」のような，内容のまとまりを「単元」とし，単元を構成する下位項目を便宜上「小単元」と捉えた場合，ある程度の時間をかけて授業を展開していくことが考えられます。こうすることで，事例１で示しているように，「小単元」ごとに１～２観点の評価規準を設定し，評価の重点化を図ることができます。この場合，下の「⑴ウ(ｱ)　アジア州」の例のように，まず「盛り込むべき事項」を「単元」全体の評価規準として設定し，次に「評価規準の設定例」を「小単元」の評価規準として設定した上で，評価規準をより具体化し，１単位時間ごとの評価規準を設定していくというような，評価規準を設定する過程が考えられます。

【盛り込むべき事項】

社会的な思考･判断･表現
・世界の諸地域の地域的特色を，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

⇒

「単元」の評価規準

社会的な思考･判断･表現
・世界の諸地域の地域的特色を，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

【評価規準の設定例】

社会的な思考･判断･表現
・アジア州に暮らす人々の生活の様子を，そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に多面的･多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

⇒

各学校で具体化した「小単元」の評価規準

社会的な思考･判断･表現
・アジア州に暮らす人々の生活の様子を，「人口急増と多様な民族・文化」の主題を基に多面的･多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

⇒

１単位時間ごとの評価規準

社会的な思考･判断･表現
・身のまわりにあるものや我が国の文化からみたアジアとの関わりを調べ,我が国とアジアの地域の結び付きが強くなっていることを多面的・多角的に考察している。 ・アジア州の地域的特色について考察した過程や結果を，地図を活用してまとめたり，図表にまとめたりして適切に説明している。

2　「評価規準の設定例」を参考にして評価規準を設定するときの例

観点別学習状況の評価を円滑に実施するために，実際の学習指導においては，地理的分野の小項目，歴史的分野，公民的分野の中項目を基に単元を設定し，指導・評価計画を作成していくことが考えられます。この場合，「評価規準の設定例」を参考にして単元の評価規準を設定していくことが考えられます。その際は，下の「⑶イ　民主政治と政治参加～法を守る裁判所～」の例のように，まず「評価規準の設定例」を「単元」全体の評価規準と設定し，単元の内容と実際に行われる学習活動とを関連付けながら「評価規準の設定例」を具体化していくというような，評価規準を設定する過程が考えられます。

【評価規準の設定例】

社会的事象についての知識･理解
・法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ，社会の秩序が維持されていることを理解し，その知識を身に付けている。

⇒

各学校で具体化した「単元」の評価規準

社会的事象についての知識･理解
・法にもとづく公正な裁判によって国民の権利が守られ，社会の秩序が維持されていること，司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることを理解し，その知識を身に付けている。

⇒

１単位時間ごとの評価規準

社会的事象についての知識･理解
①民事裁判と刑事裁判の仕組みやその違い，裁判官，検察官，弁護士の役割の違いについて理解し，その知識を身に付けている。 ②人権を守るための三審制や，司法権の独立と，法による裁判が憲法により保障されていることについて理解し，その知識を身に付けている。

各観点における評価内容と評価を行うにあたっての留意点

【社会的事象への関心・意欲・態度】の評価

この観点は，生徒が学習内容や学習活動に興味・関心をもち，社会的事象に関して，自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況を評価するものです。

単元の学習活動全体を通じて，地理的事象や歴史的事象，持続可能な社会の形成などに対する関心が高まったか，よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を意欲的に探究し，自分の考えをまとめようとしているかどうかなどについて学習の流れに即して評価していきます。その際には，活動の様子の観察，生徒との対話，ノート，ワークシート，学習カード，レポート，ペーパーテスト，質問紙などの様々な評価方法の中から，その場面において適切な方法を選択することが大切です。

【社会的な思考・判断・表現】の評価

この観点は，基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら社会的事象の意味や意義について考えたり，判断したりしたことを生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価するものです。

生徒の頭の中で行われる学習活動（＝「思考・表現」）と，頭の中の活動を外部化（外に示す）する学習活動（＝「表現」）とを一体化して評価をしていきます。つまり，生徒が習得した「知識」や「技能」を活用して，

〇社会的事象の意義や特色，相互の関連についてどのように考察できたか。

〇社会的事象について公正に判断できたか。

〇社会的事象について思考し判断した過程や結果，自分の考えをどのように説明・論述できたか。

などについて評価していくことが大切になってきます。その際には，活動の様子の観察や，ワークシート，学習カード，レポート，ペーパーテストなどの記述の内容等で評価することが考えられます。

【資料活用の技能】の評価

この観点は，目的に応じて様々な資料を収集したり，そこから有用な情報を選択したり，収集・選択した資料から読み取った結果を図表などにまとめたりできているかどうかを評価するものです。

基本的に従前の「技能・表現」で評価していた内容を引き継ぐものであるという点に留意する必要があります。生徒に社会的事象の意味や意義について考えさせたり，判断させたりする際には，生徒自身が調べたり考えたりするために必要な技能を指導し，評価していくことが大切です。その際には，活動の様子の観察，生徒との対話，ノート，ワークシート，学習カード，ペーパーテストなどの記述の内容等で評価することが考えられます。

【社会的事象についての知識・理解】

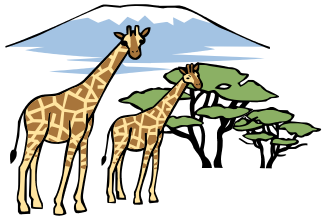
この観点は，従前と同様に社会科の地理的分野，歴史的分野，公民的分野の各分野において習得すべき知識や重要な概念を生徒が理解して身に付けているかどうかを評価するものです。

このときには単元全体の学習のねらいと深く関わる内容を吟味して選び，それが十分に理解されたかどうかを評価することが大切です。その際には，ワークシート，学習カード，レポート，ペーパーテストなどの記述の内容等で評価することが考えられます。

中学校社会科における学習評価事例１（地理的分野）

■　評価の重点化・系統化が分かる事例

学習指導要領の内容のまとまりを単元のまとまりとして捉え，評価場面を設定する地理的分野の例を示しています。１小項目ごとに１～２観点の評価規準を設定し，重点化を図ることが適当となっています。なお，評価規準については参考資料を参考にして設定しました。



１　単元のまとまり　⑴ウ　世界の諸地域

２　単元のまとまりの目標

世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握し，様々な地域又は国の地域的特色を捉える適切な主題を追究し，世界の地理的認識を深めるとともに，世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。

３　単元のまとまりの評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
・世界の諸地域の地域的特色に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，捉えようとしている。	・世界の諸地域の地域的特色を，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	・世界の諸地域の地域的特色に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・世界の諸地域について，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の様子を的確に把握できる主題を基に地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。

※本単元は，内容のまとまりである「⑴ウ　世界の諸地域」を1つの単元として捉え，「盛り込むべき事項」を参考にして，単元のまとまりの評価規準を設定しています。(ｱ)(ｲ)(ｳ)…の各小項目の評価規準を設定する際は，「評価規準の設定例」を参考にして，より具体的な評価規準をそれぞれに設定することが考えられます。

＜「⑴ウ　世界の諸地域」の指導・評価計画（24時間扱い※）＞

項目と単元名	**<主題例>**と課題設定例	評価の観点 関	思	技	知	重点を置く評価活動
⑴ウ(ｱ) アジア州 （６時間扱い）	**<人口急増と多様な民族・文化>** ○なぜアジアでは人口が急増し，民族，文化が多様なのだろうか。	●			○	・人口急増と多様な民族・文化の主題を基に，アジア州の地域的特色の考察に意欲的に取り組んでいる。
⑴ウ(ｲ) ヨーロッパ州 （５時間扱い）	**<ＥＵの発展と地域間格差>** ○ＥＵ加盟国では，政治・経済的な統合によって人々の生活はどのように変わっていったのだろうか。			●	○	・ヨーロッパ州の地域的特色について，提示された資料から適切に読み取ったことをワークシート（以下，ＷＳと表記）に記入している。
⑴ウ(ｳ) アフリカ州 （３時間扱い） **※後掲**	**<モノカルチャー経済下の人々の生活>** ○農業や工業が産業の中心であるアフリカの人々は，どのような暮らしをしているのだろうか。			●	○	・アフリカ州の地域的特色について，提示された資料から適切に読み取ったことをＷＳに記入している。

⑴ウ(ｴ) 北アメリカ州 （４時間扱い）	**<大規模農業と工業の発展>** ○なぜ，アメリカやカナダは農業生産力だけでなく工業生産力も高いのだろうか。		●		○	・北アメリカ州の地域的特色を，巨大な生産と消費の人々の生活様式を基に，多面的・多角的に考察したことをＷＳに記入したり図表にまとめたりしている。
⑴ウ(ｵ) 南アメリカ州 （３時間扱い）	**<森林破壊と環境保全>** ○アマゾン川流域の開発が進んだことによって，南アメリカの環境にはどのような変化が起こったのだろうか。		●		○	・森林資源や水資源などの環境保全の取組が大切な理由について，多面的・多角的に考察したことをＷＳに記入したり図表にまとめたりしている。
⑴ウ(ｶ) オセアニア州 （３時間扱い）	**<アジア諸国との結び付き>** ○なぜオセアニアは，ヨーロッパよりアジアとの結び付きが強くなってきたのだろうか。	●	●		○	・オセアニア州とアジア諸国との結び付きの主題を基に，オセアニア州の地域的特色の考察に意欲的に取り組んでいる。 ・オセアニア州とアジア州との結び付きの主題を基に，多面的・多角的に考察したことをＷＳに記入したり図表にまとめたりしている。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内の公立中学校で採用予定の3社の教科書（東京書籍･教育出版･帝国書院）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。
⑴注1⑵「評価の観点」について，「知」は全ての単元に共通しているため，○で示しています。
⑴注2⑵「重点を置く評価活動」について，「知」は全ての単元に共通しているため，省略しています。

4　単元の指導と評価の計画　　⑴ウ(ｳ)アフリカ州

⑴　単元の目標

①　アフリカ州の地域的特色を，そこにくらす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，様々な資料を収集させ，有用な情報を適切に選択させ，地図や図表などにまとめさせる。

②　アフリカ州について，そこにくらす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けさせる。

⑵　単元の評価規準

資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①アフリカ州の地域的特色に関する，地図，統計その他の様々な資料を収集している。 ②収集した資料から，アフリカ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ③適切に選択した情報を基に，アフリカ州の地域的特色について読み取ったり地図を活用してまとめたり，図表にまとめたりしている。 （アフリカ州の地域的特色に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。）	①アフリカ州について，モノカルチャー経済下の人々の生活という主題を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。 （アフリカ州について，そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。）

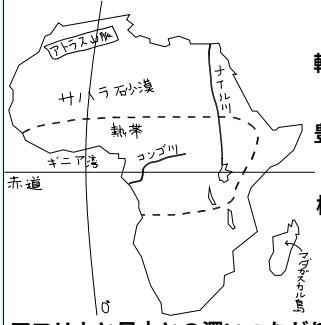
⑴注1⑵ 評価規準は，表中の下の（　）内に示した参考資料中の【「⑴ウ　世界の諸地域」の評価規準の設定例】に基づき，ここでの学習活動に応じて①～③のとおり具現化したものです。
⑴注2⑵ 内容のまとまりを見通して評価計画を作成し，本事例では「資料活用の技能」と「社会的事象についての知識･理解」に重点を置きました。（前掲の**<「⑴ウ　世界の諸地域」の指導･評価計画>**を参照して下さい。）

⑶　授業の流れ（３時間扱い※）

第一次　「モノカルチャー経済下の人々の生活」という主題を基に，アフリカ州の地域的特色を追究する課題を見いだす。（0.5時間）

第二次　アフリカ州の地域的特色を，課題に沿って追究し，地図や図表などを活用してまとめる。（2.5時間）

⑷　単元の指導と評価の展開例

次程	ねらい・学習活動等	評価の観点 関	思	技	知	評価規準等
第一次（0.5時間扱い）	**【ねらい】資料の読み取りを基にアフリカ州を特色付ける地域的特色を見いだし，その特色が見られる背景や問題点，今後の課題などを追究するための課題を設定する。**					
	○地図や提示された資料(資料集など)を見て，アフリカ州の自然，歴史，文化，環境などの視点からアフリカ州について概観する。			●		①アフリカ州の自然，歴史，文化，環境などに関連する地理的事象を見いだしているかをノートの記入内容で確認する。 【「おおむね満足できる状況」(B)と評価されるノートの記入例】 アフリカ州は熱帯，乾燥帯，温帯と多様な自然環境がある。歴史的に見ると，ほとんどの国はかつてヨーロッパの植民地だったが，20世紀半ばに独立した。主な産業は第1次産業の農業や鉱業が中心で，経済的には貧しい国が多いが，新しい国づくりに努力している。
第二次（2.5時間扱い）	**【ねらい】アフリカの脆弱な経済基盤とその理由について，自然や歴史，文化，環境などの視点から，有用な情報を適切に選択し，地図や図表を用いてまとめさせる。**					
	○学習課題を設定する。					
	○地図帳や示された資料，図書，インターネットなどを活用して，アフリカ州の脆弱な経済基盤とその理由に関する様々な資料を収集する。			●		①アフリカ州の地域的特色を，自然環境や歴史的背景と，産業（主要生産品，経済状況等）や旧宗主国・先進国との結び付きなどの視点から，様々な資料を収集している。
	○収集した資料から，アフリカ州の地域的特色について追究するために有用な情報を適切に選択する。			●		②アフリカ州の地域的特色について追究するために有用な情報を適切に選択しているか確認する。
	○アフリカの地域的特色について考察した過程や結果を白地図に記入したり，図表にまとめたりする。			●		③収集し選択した資料や情報を基に地図を活用して，ノートなどにまとめたり，図表にまとめたりしているかを確認する。
	【「おおむね満足できる」状況(B)と評価される具体的な例】 **歴史，産業，自然環境の視点から，アフリカ州の地域的特色に関連した資料を適切に収集・選択し，課題に関連した事象を読み取って適切に表現している。** **【「十分満足できる」状況(A)と評価される具体的な例】** **先の例に加えて，色や文章を使い分かりやすくするための工夫をしている。また，作物の不作や地下資源の枯渇の問題など，さらに自分で調べて書き加えている。** **【「努力を要する」状況(C)と評価される生徒への指導の手立て】** **何を調べたらよいか分からない生徒には，用意された資料の見るべき資料を示す。まとめ方が分からない生徒には記入する例を教師が板書して示す。また，モデルとなる生徒の作品を例として示す。**					【「十分満足できる」状況(A)と評価されるノートの記入例】 **アフリカ州の自然**  **アフリカの歴史** 鉱産資源…金，銅，ダイアモンド，レアメタル 農産物…コーヒー，カカオ，綿花 （プランテーション）（モノカルチャー経済） **輸出用の鉱産資源と農産物** 16～19世紀…ヨーロッパの植民地 奴隷，金，象牙→欧米へ 1960年…アフリカの年（17か国独立） **豊かな自然環境と環境問題** 世界最大のサハラ砂漠 熱帯林，サバンナ，自然保護区 焼き畑農業と砂漠化の進行 **植民地支配の歴史と産業の関わり** 直線的な国境 民族間の対立→長引く内乱，紛争 豊かな鉱産資源をめぐる対立 先進国との経済的な格差 自立に向けた取り組みと日本の援助 **アフリカと日本との深いつながり** 日本はカカオやレアメタルなど，アフリカから多くの産物を輸入するなど，経済的にながりがあります。アフリカが抱える問題を解決するために，日本政府はＯＤＡによ行っています。それ以外にも日本のＮＧＯが技術指導を行ったりして関係を深めて
事後	・ノートを提出させたり，ペーパーテストを行ったりする。 （ノート提出やテスト実施等の時期は，授業や単元の終了後，学期のまとまりごとなど，様々な頻度での実施が考えられる。）				○	①アフリカ州について，モノカルチャー経済下の人々の生活という主題を基に，アフリカ州の地域的特色を理解し，身に付けた知識をノートやペーパーテストで確認する。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内公立中学校で採用される予定の3社の教科書（教育出版・帝国書院・日本文教出版）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。

（注1）「評価方法等」の欄の○印の番号は，「**⑵　単元の評価規準**」における各観点別の評価規準の番号と一致しています。

5　指導・評価計画を作成する際の留意点

学習指導要領の内容のまとまりを単元のまとまりとして捉え，評価場面を設定する際，この⑴ウ「世界の諸地域」は24時間と長い時間をかけた授業展開を計画しています。しかし，アジア州，ヨーロッパ州，アフリカ州，北アメリカ州，南アメリカ州，オセアニア州のそれぞれの地域の地域的特色を捉えさせることをねらいとしており，ほぼ同様の授業展開が繰り返されることが予想されます。そこで，各州の地域的特色を捉える学習において，４観点全てを評価することとはせず，それぞれの小単元ごとに評価する観点を絞り，指導・評価計画の中に位置付けました。

「事例１」では，内容のまとまり⑴ウ「世界の諸地域」を１つの単元として捉え，次のような考えを基に，指導・評価計画を位置付けることとしました。

○　「社会的な事象への関心・意欲・態度」については，生徒の学習に対する関心・意欲・態度の変容の状況について個人内評価として，その高まりを評価できると考え，単元の導入時と単元末に評価規準を設定しました。

○　「資料活用の技能」については，この単元を学習するに当たり，教師が提示した資料を読み取り，必要な資料を収集・選択し，関連付けて分析・解釈する方法や，適切に加工して図表などにまとめる技能を身に付けさせるために単元の前半に評価規準を設定しました。

○　「社会的な思考・判断・表現」については，単元の前半で身に付けた「基礎的・基本的な知識・技能」を活用し，社会的事象の意味，意義を解釈したり，事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの，言語活動にかかわる学習を充実させるために単元の後半に評価規準を設定しました。

○　「社会的事象についての知識・理解」については，それぞれの州の地域的特色を捉えさせるものであることから，それぞれに評価規準を設定しました。

指導・評価計画の作成に合わせて，「通知表や指導要録などの記録に残す評価」として，下の表のような記録資料をあらかじめ作成しておくことで，指導の系統化や重点化を把握することが可能となり，最終的に観点ごとの総括や評定を行う際の資料として活用することができます。

なお，ここでは，評価の記録場面を13場面とし，「十分満足できる」状況を「**A**」、「努力を要する」状況（C）の生徒に適切な指導を行った結果の評価を「*B*」と記録しています。なお、当初から「B」と評価した生徒の項目については、記録する際の負担を軽減するために「空欄」としています。

＜⑴ウ「世界の諸地域」の記録資料＞（例）

	関心･意欲･態度			思考・判断・表現				技　能			知識・理解							単元総括
	(ｱ)アジア州	(ｶ)オセアニア州	観点総括	(ｴ)北アメリカ州	(ｵ)南アメリカ州	(ｶ)オセアニア州	観点総括	(ｲ)ヨーロッパ州	(ｳ)アフリカ州	観点総括	(ｱ)アジア州	(ｲ)ヨーロッパ州	(ｳ)アフリカ州	(ｴ)北アメリカ州	(ｵ)南アメリカ州	(ｶ)オセアニア州	観点総括	
生徒Ｆ	**A**				*B*							*B*			*B*			
生徒Ｇ		**A**		**A**		**A**		**A**	**A**		**A**				**A**			

指導・評価計画や，記録資料等の作成にあたっては，各学校で使い勝手がよく，活用しやすいように工夫して下さい。なお，評価の重点化・系統化を行っていても，従前通り「指導に生かす評価」として，生徒の学力の伸びやつまずきを確認し，教師自身の指導上の課題を振り返るためにも，生徒の学習状況についての評価は，１単位時間ごと，次程ごと，単元ごとに適宜行う必要があります。

中学校社会科における学習評価事例２（歴史的分野）

■ 次程ごとにそれぞれ２～３観点程度を評価することとし，この評価を軸にして単元全体の学習評価の総括を行う事例

学習指導要領の中項目を１つの単元として捉え，それぞれの次程ごとに２～３観点の評価場面を設定し，その中の１単位時間ごとについては，１つの評価観点を設定する歴史的分野の例を示しています。

1　単元名　中世の日本

2　単元の目標

⑴　中世の歴史的事象に対する関心を高め，意欲的に追究して，中世の特色を捉えようとさせる。

⑵　中世の特色や歴史的事象について多面的・多角的に考察させ，その過程や結果を適切に表現させる。

⑶　中世に関して収集した様々な資料から有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりさせる。

⑷　中世の特色などを，世界の歴史を背景に理解させ，その知識を身に付けさせる。

3　単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①武家政権の成立とその支配の広まり，東アジア世界との密接な関わり，武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化など，中世の歴史的事象に対する関心を高め，意欲的に追究し，中世の特色を捉えようとする。	①鎌倉幕府の成立，南北朝の争乱と室町幕府，東アジアの国際関係，応仁の乱後の社会的な変動や武家政治の特色について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 ②学習した内容を活用し，その比較や関連付け，総合などを通して，中世の特色を多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	①鎌倉幕府の成立，南北朝の争乱と室町幕府，東アジアの国際関係，応仁の乱後の社会的な変動などに関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ②農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，禅宗の文化的な影響などに関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	①武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まるとともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことなどを理解し，その知識を身に付けている。 ②武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解し，その知識を身につけている。

4　指導と評価の計画（14時間扱い※）

次程	ねらい・学習活動	評価の観点 関	思	技	知	評価規準等
第一次（1時間扱い）	**【ねらい】古代との対比を通じて，中世の特色に関心をもたせる。**					
	○古代の律令制と比べて中世の武家政権の特徴はどのような点に違いがあるのか，ノートやワークシート（以下，ＷＳと表記）に記述したり，話し合ったりする。（視点の例：衣・食・住，人物，政治の仕組み，社会の様子，産業の様子，文化の様子など）	●				①小学校での学習や様々な資料を基に，律令国家と比べた中世の特色に着目して，中世の特色に対する関心を高めている。（**ノートやＷＳ，話し合いの様子**）

第二次（5時間扱い）	**【ねらい】武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まるとともに，武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。**					
	○武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まっていったことをＷＳにまとめる。				●	①様々な資料を活用して，武士の台頭と鎌倉幕府の成立によって武家政権の支配が全国に広がっていったことを理解している。（**発言，ＷＳ**）
	○鎌倉幕府の仕組みや主従関係を調べ，武家政権の特徴をＷＳにまとめる。			●		①様々な資料を活用して，鎌倉幕府の仕組みや，幕府の国内支配の様子をまとめたりしている。（**発言，ＷＳ**）
	○承久の乱の前と後の変化を，幕府の支配力に着目して説明する。		●			①様々な資料を活用して，承久の乱後の幕府の支配力が西国に及んだ理由をまとめ，説明している。（**発言，ノートやＷＳ**）
	○元寇の影響と鎌倉幕府の崩壊による社会の混乱と，南北朝の動乱を経て室町幕府の成立の過程についてノートにまとめる。		●			①元寇から室町幕府の成立までの過程を，幕府と御家人の関係や，朝廷との関係に着目して考察し，その過程や結果を自分の言葉で表現している。（**発言，ノート**）
	○武士や民衆の力が伸びてくるとともに，力強く親しみのある文化が誕生してきたことについて，分かったことをノートにまとめる。				●	②様々な資料を活用して，鎌倉時代の文化や宗教の特色と，武士や民衆の力が伸びてきたことを背景としていたことなどを理解している。（**ノート**）
第三次（3時間扱い）	**【ねらい】応仁の乱後，各地に戦乱が広まる中で地方の武士の力が強くなったことを通して，中世の社会の特色を考えさせる。**					
	○室町幕府の特徴を，鎌倉幕府との共通点や相違点に着目して考え，ＷＳにまとめる。			●		①様々な資料を活用して，鎌倉幕府と室町幕府との共通点や相違点について調べまとめている。（**ＷＳ**）
	○新しく生まれた東アジアの国々（明，朝鮮，琉球王国，アイヌの人々など）と日本との関係を調べ，それら諸国との関係が日本国内に及ぼした影響を考え，ノートやＷＳにまとめる。			●		①様々な資料を活用して，地理的な位置を考えながら貿易品や貿易の特徴，交流関係について調べまとめている。（**ノートやＷＳ**）
	○応仁の乱の様子や，京都や各地の変化の様子について調べ，下剋上の風潮の広がりについて説明する。		●			①様々な資料を活用して，応仁の乱後の京都や各地の変化の様子についてまとめ，説明している。（**発言，ノートやＷＳ**）
第四次（3時間扱い）	**【ねらい】武家政治の展開とともに，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させ，その背景に産業の発達や，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立があったことを考察させる。**					
	○絵画資料などから読み取れる産業や技術の進歩，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立について，当時の社会の変化との関係を考えて，ノートにまとめる。			●		②室町時代の産業や文化，社会の様子に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。（**ノート**）
	○室町時代に生まれた文化や生活習慣を，衣・食・住・芸能その他に分類してノートにまとめ，当時の社会の変化との関係を考えて説明する。		●			②様々な資料を活用して，衣食住や芸能などの変化の様子をまとめ，その背景にある諸産業の発展に伴う民衆の成長や禅宗との関係について調べ自分の言葉で表現している。（**発言，ノート**）
第五次（2時間扱い）	**【ねらい】中世の学習を振り返り，様々な視点から時代を大観し表現する活動を通して，中世の特色を捉えようとさせる。**					
	○第四次までに学習した内容を踏まえて，中世の特色を捉える活動に意欲的に取り組み，自分の考えをＷＳにまとめたり，互いに意見交換したりする。	●	●			②第四次までの学習内容を踏まえ，中世を大観してその特色を考え，特色について記述したり意見交換したりしている。（**発言，ＷＳ**） ①中世の特色を捉える活動に意欲的に取り組み，次の中世の学習に対しても関心を高めている。（**発言等**）
事後	・ノートやＷＳを提出させたり，ペーパーテストを行ったりする。 （ノートやＷＳの提出，テスト実施等の時期は，授業や単元の終了後，学期のまとまりごとなど，様々な頻度での実施が考えられる。）				●	①②武家政権の成立や，中世の文化の特色について理解している。（**ノートやＷＳ，ペーパーテスト**） ※「中世の日本」で習得すべき知識や，重要な概念などについて，吟味した内容についてペーパーテストなどで評価を行います。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内の公立中学校で採用予定の3社の教科書（東京書籍･教育出版･帝国書院）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。

（注1）「評価方法等」の欄の○印の番号は，「2　**単元の評価規準**」における各観点別の評価規準の番号と一致しています。

（注2）第二次～第四次では，「評価の重点化･系統化」の視点から，「知識･理解」の全ての評価の観点は示していません。

5　観点別評価の総括

評価にあたっては，「A」「B」「C」を数値化して，その平均値を用いたり，３回評価を行った場合の評価の出現状況が，「ＡＡＢ」なら「**A**」，「ＡＢＢ」なら「B」といったように，あらかじめ設定した組み合わせに機械的に当てはめたりして，単元末の観点別評価として総括することなどが考えられます。しかしながら，観点別評価の総括を行う時期を，単元ごとに行うのか，学期ごとに行うのか，学年末に行うのかによって異なる場合もあり得ます。ここでは，単元において「思考・判断・表現」の評価を基軸とした指導・評価計画を作成し，単元末で総括する例を次に示します。

「思考・判断・表現」の観点について，生徒Ｘ，生徒Ｙ，生徒Ｚとも「**A**」の出現状況が２回ずつ見られます。この中で，第五次（13・14時）の「中世の特色」を捉える活動は，第一次から第四次までの学習活動の成果を反映したものであり，その評価は単元全体の学習の評価を代表するものと考えられると判断し，第五次（13・14時）の評価結果を「**A**」とした生徒Ｙについては観点の総括を「**A**」としています。

「単元総括」について，生徒Ｘと生徒Ｙとも４観点それぞれの「観点総括」において，「**A**」の出現状況が２回ずつ見られます。しかし，生徒Ｙの「関心・意欲・態度」の評価が単元前半，後半ともに「**A**」となっています。つまり，生徒Ｙについては，高い「関心・意欲・態度」を保ちながら単元の学習に取り組んだ結果であると判断できることや，「思考・判断・表現」についても、回数を重ねるごとに、その力が積み上げられていっていることに着目し，「単元総括」における評価を「**A**」としています。

このように，後に行った方の評価をより重視する（重み付け）といったことや，あらかじめ評価の基軸と設定していた「思考・判断・表現」の総合評価を重視して「単元総括」を判断するといったことも評価の方法として考えられます。

＜「中世の日本」の観点別評価の総括＞（例）

	関心・意欲・態度			思考・判断・表現						技　能					知識・理解				単元総括
	中世関心	中世特色	観点総括	幕府政治	元寇以降	応仁の乱	中世社会	中世特色	観点総括	鎌倉政治	室町政治	対外関係	中世社会	観点総括	幕府成立	鎌倉文化	中世日本	観点総括	
時	1	13・14		4	5	9	12	13・14		3	7	8	10・11		2	6	事後		
生徒Ｘ	B	**A**	**A**	**A**	B	**A**	B	B	B	**A**	B	B	**A**	**A**	*B*	B	**A**	B	B
生徒Ｙ	**A**	**A**	**A**	B	B	B	**A**	**A**	**A**	B	**A**	B	B	B	**A**	B	B	B	**A**
生徒Ｚ	**A**	B	B	**A**	**A**	B	B	B	B	*B*	B	*B*	B	B	**A**	**A**	B	**A**	B

※「*B*」は「努力を要する」状況（C）の生徒を指導した結果の評価。

中学校社会科における学習評価事例３（公民的分野）

■　**「社会的な思考・判断・表現」の評価の進め方が分かる事例**

1　単元名　日本国憲法と基本的人権の尊重（12時間扱い※）

第一次　日本国憲法と国民主権（３時間扱い）
○日本国憲法の原則について，制定の過程や前文，条文を基に調べ，まとめる。

第二次　基本的人権の尊重（６時間扱い　本時６/６）
○　日本国憲法で認められている基本的人権や社会権などについて調べ，多面的・多角的に考察し，まとめたり発表したりする。

第三次　社会の変化で生まれた「新しい人権」（３時間扱い）
○　社会の変化に伴って生まれた「新しい人権」について調べ，私たちの生活と人権の尊重の関連について多面的・多角的に考察し，まとめたり発表したりする。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内の公立中学校で採用予定の3社の教科書（帝国書院・東京書籍・日本文教出版）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。

2　本時の目標

公共の福祉による人権の制限について具体例を基に多面的･多角的に考察させる。

3　本時の評価規準

公共の福祉による自由権の制限に関する課題について，鍵となる概念を用いて多面的・多角的に考察し，自分なりの考えを，自分の言葉で適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）

4　本時の指導と評価のポイント

【ねらい】
「公共の福祉」による人権の制限について具体例を基に多面的･多角的に考察させる。

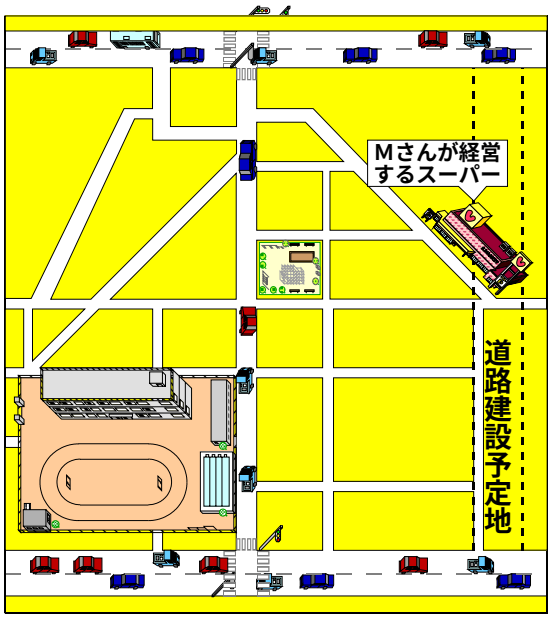
主な学習活動

1　日本国憲法で保障されている様々な人権について，既習事項を確認する。
- 自由権（表現，集会・結社，居住・移転，職業選択）
- 請求権　・社会権　・財産権　・参政権　・請願権

2　具体的な事例を基に，制限される具体的な人権を確かめる。
- 権利の濫用に関する事例
- 公共の福祉に関する事例

3　「公共の福祉」による人権の制限に関する課題について話し合う。
- 道路の建設によって人権が制限される事例

○道路建設のためにMさんが経営するスーパーが移転を求められていることを例に考える。



4　人権と「公共の福祉」との関連について考え，ワークシートにまとめる。

評価の留意点と具体的な評価事例

学習活動１，２で本時の基礎的・基本的となる事項や概念について理解させ，学習活動３で話し合ったことを踏まえて，「公共の福祉」によって自由権が制限されることの意味や意義について，「自由・権利」などの鍵となる概念を用いて，多面的・多角的に考察させ，その過程や結果を適切に表現することができているかということについて，ワークシートの記述内容から評価します。

【「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の具体的な例

○　道路を建設すると，長年，この場所で経営をしていたMさんは立ち退かなければならず，Aさんの居住・移転の自由や財産権が制限されることになるので計画を変更した方がよい。

○　道路建設でMさんはスーパーを移転させなければならず，居住・移転の自由が制限されるが，道路が開通することで住宅街の交通量も減少し，地域の人たちも交通事故の心配をせずに安心して暮らせるようになるので，道路建設は公共の福祉にあたるし，町からMさんに補償もされるので，Mさんはがまんをしてほしい。

【「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例

○　先の具体的な例に加えて，さらに環境権による視点や，「対立と合意」「効率と公正」などの見方や考え方を用いて記述している生徒については（A）と評価することが考えられます。

【「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立ての例

○　道路工事によって制限されるMさんの権利（居住・移転の自由，財産権）を挙げさせ，次に道路工事によって地域にとってどのようなメリットがあるかを具体的に挙げさせ，それを比較・対立させることから考えさせる。

中学校社会科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ１　これからは１単位時間に１回または２回程度，評価を行えばよいのですか？

Ａ１　学習のねらいを絞ることにより指導の効果が上がることを考えると，１単位時間に全ての指導事項に対して評価の観点と評価規準を設定し評価するのではなく，絞られた本時の指導のねらいに照らし合わせ，そのねらいが達成できたかどうかについて１回から２回の評価を行うことが，評価の信頼性と妥当性を高めることにもなります。

これまでは「指導に生かす評価」と「通知表や指導要録などの記録に残す評価」を混同して，４観点全ての評価規準を設定している場合が多く見られました。そこで，次のように評価のねらいを区別して捉え，行っていくことがポイントとなります。

「指導に生かす評価」では，単元の学習を進めながら，生徒の学習の状況を観察しながら適切な働きかけや指導の手立てを図り，評価を行う際に全ての生徒が少なくとも「おおむね満足（Ｂ）」と判断できるように支援を行っていくことが大切です。

「通知表や指導要録などの記録に残す評価」では，観点別学習状況の評価を効果的・効率的に行うために，単元を構成する小単元ごとに重点を置く観点を設定し，評価の重点化を図ることが有効です。その際には，あらかじめ設定した１単位時間ごとの評価規準に則り，ノートやレポート，ワークシートなど，授業後に教師が確認しながら評価を行えるような方法と，授業中の見取りを適切に組み合わせて評価を行うことが大切です。

Ｑ２　「資料活用の技能・表現」が「資料活用の技能」と変更されましたが，これからは「表現」については評価しなくてよいのですか？

Ａ２　ノートやワークシートなどに記入された内容や，図表や作品などにまとめられた内容を基に，どのような情報を収集し，収集した情報を読み取って選択・整理し，比較しやすくしたり，適切に加工して図表などにまとめたりしているかなどの「表現」の様子について評価していくことも必要です。

中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について」(報告)では，基本的には，従前の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価することが適当であるとされています。つまり，資料から情報を収集・選択して読み取る「技能」と図表や作品などにまとめる「表現」は，これまで通り「資料活用の技能」で評価することとなります。「技能」については各分野ごとに，次のような内容が「中学校学習指導要領解説社会編（p25～26，p63～64，p95，p127～128）」に示されています。

地理的分野：資料の収集，選択，処理，活用に関する能力。具体的には，地図，統計，新聞，写真，紀行文などを用いて，社会的事象を位置や距離関係を考慮して地図上で捉えることや，新旧の地図を比較し関連付けることで地域の変容の軌跡を捉えることなどを通して，読図力，作図力などの地理的技能を身に付けること。

歴史的分野：文献や絵図，地図，統計など歴史学習に関わる様々な正確の資料や，作業的・体験的な活動によって得られた幅広い資料の中から，必要な資料を選択して有効に活用すること。

公民的分野：情報化が進展する中で社会的事象について考察するときに必要な，関連のある資料を様々な情報手段（コンピュータや情報通信ネットワークなど）を効果的に活用して収集し，かつ考察に必要な情報を合理的な基準で選択し分析すること。

Ｑ３　「社会的な思考・判断・表現」は，どのように評価したらよいですか？

Ａ３　「何を根拠として思考し，判断しているのか」「どのように表現しているのか」などについて評価をしていくことが考えられます。評価の際には，どの程度の表現内容を「おおむね満足できる」状況(Ｂ)と判断するのか，「十分満足できる」状況(Ａ)と判断するのかについて，社会的な事象の意味や意義を捉える上で鍵となる概念を活用して論を展開しているかどうかなどを基にして決めておき，評価することが大切です。そのためには，教師が事前に期待する生徒の発言やワークシートの記述内容を想定して，「おおむね満足できる」状況(Ｂ)を具体的に考えておくことが必要です。

「思考・判断・表現」の観点のうち，「表現」については，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，「思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように表出しているかを評価すること」としています。つまり，単に文章や図表に整理するという表面的な現象を評価するのではなく，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，社会的事象について思考・判断した結果やその経過を，生徒の説明・論述・討論などの言語活動を中心とした「表現」と一体的に評価することを意味しています。具体的には次のようなことがポイントとなります。

地理的分野：地図や複数の資料から正確に読み取った事実を基に，地図や複数の資料を重ね合わせて多面的・多角的に考察し，意見交換する中で，合理的な解釈になるよう互いに補いながらまとめていくこと。読み取った事実とそれを基に自分が分析し解釈したこととを分けて説明できること。

歴史的分野：歴史的事象間の因果関係やその時代背景，さらにひとまとまりの時代の特色などについて思考・判断した結果やその経過を，文章記述や発言，意見交換などができること。様々な面から歴史的事象の特色を追究し，多面的・多角的に考察した結果を生徒自身の言葉で表現できること。

公民的分野：現代社会の特徴を捉える「自由・権利」「責任・義務」「契約」など鍵となる概念を用いて，具体的，論理的に説明できること。「対立と合意」「効率と公正」などの視点から多面的・多角的に考察し，その過程や結果を生徒自身の言葉で表現できること。

評価の実際については，事例３を参照してください。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校　社会】」などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（中学校　数学科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校数学科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校数学科における学習評価の進め方
4　中学校数学科における学習評価事例
5　中学校数学科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・<u>表現</u>」
「技能・<u>表現</u>」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校　数学科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

数学的活動を通して，数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を求め，数学的な表現や処理の仕方を習得し，事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

→　「数学的活動を通して」という文言が目標の文頭に位置付けられ，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させ，生徒が数学の学習に主体的に取り組むことができるようにすることを目指しています。また，「表現する能力」を高めることも盛り込まれました。

2　評価の観点及びその趣旨

数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形など についての知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり，その過程を振り返って考えを深めたりするなど，数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し，知識を身に付けている。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

○　「数学的な見方や考え方」の観点は，事象を数学的にとらえて論理的に考察するだけでなく，考察したことについて数や図形の性質などを的確に表したり，根拠を明らかにして筋道立てて説明したり，自分の思いや考えを伝え合い，それらを共有して質的に高めたり，表現したことを振り返って考えを深めたりすることが重要であることが強調されています。そのため，この観点の評価にあたっては，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，問題解決に向けて考えたり，判断したりしたことを，生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することが大切です。

○　これまでの「数学的な表現・処理」の観点は，「数学的な技能」と文言が改められました。「作図をする」，「関数のグラフから式を求める」など，数学における基本的な「読みかき」に関わる事項を身に付けているかどうかを評価することになります。

3　学年別の評価の観点の趣旨

観点	数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
第1学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり，それらの性質や関係を見いだしたりするなど，数学的に考え**表現する**ことに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して**考えたり判断したり**しようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら，**事象を見通しをもって**論理的に考察し**表現したり**，**その過程を振り返って考えを深めたりする**など，数学的な見方や考え方を身に付けている。	正の数と負の数の四則計算ができ，数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり，基本的な図形の作図や図形の計量をしたり，関数関係を的確に表現したり，**資料を整理したりする**など，**技能**を身に付けている。	正の数と負の数，文字を用いることの**必要性**と意味，一元一次方程式，平面図形についての性質や関係，空間における図形の位置関係，**関数関係**や比例・反比例，**ヒストグラムや代表値**などを理解し，知識を身に付けている。

第2学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり，それらの性質や関係を見いだしたりするなど，数学的に考え**表現する**ことに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して**考えたり判断したり**しようとする。	数量や図形などについての基礎的･基本的な知識及び技能を活用しながら，**事象を数学的な推論の方法を用いて**論理的に考察し**表現したり**，**その過程を振り返って考えを深めたりする**など，数学的な見方や考え方を身に付けている。	文字を用いた四則計算ができ，数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり，図形の性質について簡潔に表現したり，関数関係を的確に表現したり，**確率を求めたりする**など，**技能**を身に付けている。	文字式のはたらき，連立二元一次方程式，平面図形の性質，図形の証明の**必要性**と意味及びその方法，一次関数の特徴，確率の**必要性**と意味などを理解し，知識を身に付けている。
第3学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり，それらの性質や関係を見いだしたりするなど，数学的に考え**表現する**ことに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して**考えたり判断したり**しようとする。	数量や図形などについての基礎的･基本的な知識及び技能を活用しながら，**事象に潜む関係や法則を見いだしたり，数学的な推論の方法を用いて**論理的に考察し**表現したり**，**その過程を振り返って考えを深めたりする**など，数学的な見方や考え方を身に付けている。	平方根を含む式の計算ができ，数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり，図形の性質について簡潔に表現したり，関数関係を的確に表現したり，**標本を抽出したりする**など，**技能**を身に付けている。	数の平方根の**必要性**と意味，式の変形の意味とはたらき，二次方程式，図形の相似の意味や**円周角と中心角の関係の意味**，三平方の定理の意味，関数 $y=ax^2$ の特徴，**標本調査の必要性と意味**などを理解し，知識を身に付けている。

※太文字と下線は評価の観点の変更と関連する部分を示している。教育センターによる。

中学校数学科における学習評価の進め方

○評価規準の設定における基本的な考え方

各学校において，評価規準を設定するに当たっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（以下，参考資料と表記）に示されている評価規準の設定例を活用するなどして，単元の学習指導のねらい，教材，学習活動等に応じて，適切に評価規準を設定することが大切です。

○評価規準の設定例等の活用（参考資料による）

「評価規準の設定例」等を適切に活用するためには，各単元の指導と評価の計画を次のように進めることが考えられます。

〈単元の目標を設定する〉
学習指導要領に示された教科の目標と内容及び生徒の実態等を踏まえ，既習事項との関連等，指導内容の系統性に配慮して単元の目標を設定します。

↓

〈単元の評価規準を設定する〉
単元の目標と参考資料の第２編に示されている各領域の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして，単元の評価規準を設定します。

↓

〈学習指導に対応して評価規準を設定する〉
単元の目標と評価規準及び参考資料第２編に示された評価規準の設定例を基に，小単元や各授業時間の指導目標を設定し，それに対応させて評価規準を設定します。
評価規準の設定例の中には，そのまま位置付けることができるものもありますが，学習指導の進め方との関係で１つの評価規準を２つ以上に分割して設定することや，学習指導で取り上げる問題や教材等との関係で評価規準を設定することも考えられます。

各観点における評価内容と評価を行うにあたっての留意点

【数学への関心・意欲・態度】の評価

生徒が数学的に考え表現することに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けているかどうかを評価する観点です。

生徒の挙手の回数などだけを数えるよりも，学習している数学に対する関心・意欲・態度を捉えることが大切です。また，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で評価するために２，３時間のまとまりで評価規準を設定します。この評価規準に基づき，どの生徒も小単元の中で少なくとも１回は評価対象になるようにします。評価の場面については，授業の中に本観点の評価のための場面を独自に設けることもできますが，他の３つの観点に関わる指導や評価の場面で捉えることも可能です。

例えば，チェックシートや座席表などを用意し，評価資料としてノートやワークシートの記述，発言の内容等といった生徒の反応を書き込めるようにしておくことなどが考えられます。また，学習の進行とともに生徒の数学に対する関心や授業に取り組む意欲，その成果を生かそうとする態度が高まってくると考えられるため，評価の際は，単元前半から単元後半の高まりや伸びを積極的に評価し，単元の後半の評価を重視する方法を取り入れることが考えられます。さらに，授業後の学習感想や小レポートなどで，学んだことを活用しているかどうかについて見取ることなども有効な手立てです。

【数学的な見方や考え方】の評価

数学的な見方や考え方を身に付けているかどうかを評価する観点です。他の観点と同様に，指導したことが身に付いているかを評価します。

本観点において，総括の資料とするための評価を行うことは，「数学的な技能」や「数量や図形などについての知識・理解」の観点で総括の資料とするための評価を行う場合よりも多くの手間と時間がかかります。そこで，評価を行う場面については，指導とのバランスに配慮するとともに，それまでの学習のまとめになる場面やこれからの学習の前提となる場面など，評価を行う適切な場面を明確にする必要があります。

また，評価の際は，問題解決の結果だけでなく，その過程を含めて評価することが重要です。これまでに習得した知識や技能を正しく活用して考えているか，どのように考えて導いたかということを言葉や式で記述しているか，といったことについて，発言の内容やノートやワークシートの記述，小テストの結果で見取る必要があります。

【数学的な技能】の評価

数学的な表現や処理についての技能を習得できているかどうかを評価する観点です。

観点の名称が変更になりましたが，技能としての表現ができるかどうかを，この観点で評価することはこれまでと変わりません。例えば，「作図をする」，「関数のグラフから式を求める」など，数学における基本的な「読みかき」に関わる事柄を身に付けているかどうかを確実に評価することが大切です。

例えば，ワークシートで１人１人の問題の解決状況から評価したり，ペーパーテストなどで，全生徒を一斉に評価したりすることが考えられます。その際，本観点においては，単に何問できれば「おおむね満足」というように量的に評価するだけなく，問題の難易度を工夫するなどして質的にも評価する必要があります。

【数量や図形などについての知識・理解】の評価

数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し，知識を身に付けているかどうかを評価する観点です。

本観点においては，用語や記号などの意味を理解しているかだけでなく，作図の方法や問題を解決する手順などの理解についての評価も含まれることに注意する必要があります。ペーパーテストなどで全生徒を一斉に評価することが考えられますが，テストの問題を工夫するなどして評価することが大切です。

中学校数学科における学習評価事例　１

■　単元全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

本事例では，15 時間扱いの単元指導計画を立て，バランスよく観点別評価を行うことの例を示しています。

「数学への関心・意欲・態度」の観点については，小単元に１つの評価規準を設定し，どの生徒も少なくとも１回は評価の対象になるようにします。また，それ以外の３つの観点については，１単位時間に行う評価を，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）にあるかどうかを判断し，「努力を要する」状況（Ｃ）になりそうな生徒に対して適切な指導を行うための形成的な評価（○）と，単元における総括の資料とする評価（◎）に分けて，設定します。

１単位時間ごとの評価規準については，単元の評価規準と学習内容を踏まえながら設定しています。

１　単元名　　比例と反比例　　第１学年「Ｃ　関数」

学習指導要領の内容のうち，本単元に関連する部分を基に作成しています。

２　単元の目標

(1)　二つの数量についての変化や対応の様子から，関数関係や比例，反比例の意味を理解することができる。

(2)　座標の意味を理解することができる。

(3)　比例，反比例を表，式，グラフなどで表したり，それらの特徴を理解したりすることができる。

(4)　比例，反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる。

参考資料第２編における第１学年の「『Ｃ関数』の評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして，作成しています。

３　単元の評価規準

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
様々な事象を比例，反比例などで捉えたり，表，式，グラフなどで表したりするなど，数学的に考え表現することに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	比例，反比例などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら，事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり，その過程を振り返って考えを深めたりするなど，数学的な見方や考え方を身に付けている。	比例，反比例などの関数関係を，表，式，グラフなどを用いて的確に表現したり，数学的に処理したりするなど，技能を身に付けている。	関数関係の意味，比例や反比例の意味，比例や反比例の関係を表す表，式，グラフの特徴などを理解し，知識を身に付けている。

４　単元の指導と評価の計画（全 15 時間）

本単元「比例と反比例」を，内容のまとまりである７つの小単元と単元のまとめで構成し，それぞれの授業時間数を下のように定めました。

小単元等	授業時間数	
１．関数	２時間	15 時間
２．比例の式	３時間	
３．座標	１時間	
４．比例のグラフ	２時間	
５．反比例の式	２時間	
６．反比例のグラフ	２時間	
７．比例，反比例の利用	２時間	
単元のまとめ	１時間	

各授業時間の指導のねらい，生徒の学習活動及び評価規準と評価方法は，次の表のとおりです。

時間	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法			
			数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
1	小単元１ いろいろな事象の中から，ともなって変わる数量を見つけたり，表やグラフで変化のようすを調べたりすることができ，関数の意味と変域について理解することができる。	ともなって変わる２つの数量の関係について考えることを通して，関数の意味を理解する。	◎いろいろな事象の中から，ともなって変わる数量を見つけたり，表やグラフを使って変化のようすを調べたりしようとしている。〔観察・ノート〕	○事象の中から，ともなって変わる２つの数量を見つけ出すことができる。〔観察〕		
2		表やグラフで関数のようすを調べたり，変数のとる値の範囲を考えて，変域の意味を理解したりする。			◎ともなって変わる２つの数量を，表やグラフに表すことができ，変域を不等号を使って表すことができる。〔小テスト〕	◎関数関係，変域の意味を理解している。〔小テスト〕
3	小単元２ 線香の燃え方の実験などから，比例の関係を見いだして文字を用いて式に表したり，その変化や対応のようすを表を使って調べたりすることができる。	線香を燃やす実験を基に，比例の関係を考える。	◎線香を燃やす実験で，火をつけてからの時間と燃えた長さの関係から比例の関係を見つけたり，x, y の変化のようすに関心をもち，その関係を式に表したりしようとしている。〔観察・ノート〕	○火をつけてからの時間と燃えた長さの関係に着目し，数量の変化や対応の様子から比例の関係を見つけ出すことができる。〔観察・ノート〕		○変数，定数，比例，比例定数の意味を理解している。〔ノート〕
4		比例の関係で，x, y の変化や対応のようすを考えたり，変数や比例定数が負の数の場合を表に表したりすることを通して，比例や比例定数の意味を理解する。			○比例の関係で，変数や比例定数が負の数の場合について，表に表すことができる。〔観察・ノート〕	
5		与えられた条件から，比例の式を考える。			◎与えられた条件から比例の関係を式や表に表すことができる。〔小テスト〕	◎変数，定数，比例，比例定数の意味を理解している。〔小テスト〕
6	小単元３ 平面上の位置を表すために座標を負の数まで拡張し，座標平面に表された点の座標を読み取ったり，点を座標平面に表したりすることができる。	座標平面に表された点の座標を読み取ったり，点を座標平面に表したりする事を通して，座標の意味を理解する。	○座標平面に表された点の座標を読み取ったり，点を座標平面に表したりしようとしている。〔観察・ノート〕		◎座標平面上の点の座標を読み取ったり，座標を座標平面上に点として表したりできる。〔ノート〕	◎座標の意味を理解している。〔ノート〕

7	小単元４ 比例の関係 $y=2x$ や $y=-2x$ などのグラフを考えることを通して，比例のグラフをかくことができ，比例のグラフの特徴についてまとめることができる。	x の変域を負の数にまで広げた比例のグラフや比例定数が負の数の場合のグラフをかくことを通して，比例のグラフのかき方を理解する。	◎x の変域を負の数にまで広げた比例のグラフをかいたり，かいたグラフを基にして，その特徴を調べたりしようとしている。〔観察・ノート〕	○比例のグラフの特徴を見いだすことができる。〔観察・ノート〕		○比例の関係 $y=ax$ のグラフの特徴を理解している。〔観察〕
8		比例のグラフをかくことを通して，その特徴を考えたり，変域のあるグラフをかいたりする。			◎比例の関係を式やグラフに表すことができる。〔小テスト〕	◎比例の関係 $y=ax$ のグラフのかき方やグラフの特徴を理解している。〔小テスト〕
9	小単元５ 面積が６㎠の長方形をいろいろつくることなどから，反比例の関係を見いだして式に表したり，その変化や対応のようすを表を使って調べたりすることができる。	面積一定の長方形の縦と横の長さの関係から，反比例の関係を見つけ，その特徴を考える。	◎面積一定の長方形の縦と横の長さの関係から，反比例の関係を見つけようとしている。〔観察・ノート〕	○表から反比例の関係を見いだすことができる。〔観察・ノート〕		○反比例の関係の特徴を理解している。〔観察〕
10		反比例の関係で，変数や比例定数が負の数の場合を表に表したり，式を求めたりすることを通して，反比例や比例定数の意味を理解する。			◎反比例の関係を，式や表に表すことができる。〔小テスト〕	◎反比例や比例定数の意味を理解している。〔小テスト〕
11	小単元６ 反比例のグラフを考えることを通して，反比例のグラフをかくことができ，反比例のグラフについてまとめることができる。	既習の反比例のグラフから，x の変域を負の数にまで広げた反比例のグラフのかき方を理解する。	◎反比例のグラフをかいたり，その特徴を調べたりしようとしている。〔観察・ノート〕	○反比例のグラフの特徴を見いだすことができる。〔観察・ノート〕	○反比例の関係をグラフに表すことができる。〔観察・ノート〕	
12		比例定数が負の数の場合のグラフをかくことを通して，反比例のグラフの特徴を理解する。			◎反比例の関係をグラフに表すことができる。〔小テスト〕	◎反比例の関係のグラフの特徴を理解している。〔小テスト〕
13 ※事例２	小単元７ 比例や反比例の関係を活用して，身のまわりの問題を解決することができる。	比例の関係が活用できることを知り，身のまわりの問題を解決する。	◎プリントの枚数やモビールの性質ならべなど，身のまわりのことがらを比例や反比例の関係を活用して解決しようとしている。〔観察・ノート〕	◎具体的な事象を，比例の見方や考え方を通して考え，問題の解決に活用することができる。〔観察・ノート〕	○身のまわりの事象を比例の考え方を用いて表現したり，処理したりすることができる。〔ノート〕	
14		反比例の関係が活用できることを知り，身のまわりの問題を解決する。		◎具体的な事象を，反比例の見方や考え方を通して考え，問題の解決に活用することができる。〔観察・ノート〕	○身のまわりの事象を反比例の考え方を用いて表現したり，処理したりすることができる。〔ノート〕	
15	単元のまとめをする。	単元テストの問題を解く。		※単元テストの結果を基に，これまでの評価結果を補正します。		

※表中，各評価規準の文頭に付けた記号の意味は以下のとおりです。

〇…評価規準に照らして，「おおむね満足できる」状況（B）にあるかどうかを判断し，「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対しては，適切な指導を行い，その後の記録に残す評価を行うまでに，「おおむね満足できる」状況（B）にすることが大切です。また，「十分満足できる」状況（A）にあると判断できる生徒を把握し，必要に応じて単元における総括の資料の参考とします。

◎…評価規準に照らして，「十分満足できる」状況（A），「おおむね満足できる」状況（B），「努力を要する」状況（C）のいずれであるか判断し，把握することを意味しています。ここでの評価は個別に記録に残して，単元における総括の資料とします。

中学校数学科における学習評価事例　２

■　一単位時間の中で，指導に生かすための形成的な評価と，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために記録に残す評価の違いが分かる事例

本事例は，学習評価事例１で示した単元「比例と反比例」の指導計画 15 時間の中の 13 時目の学習評価について，具体的に示したものです。

１　本時の目標

・　比例の関係を利用して，身のまわりの問題を解決することができる。

「数学への関心・意欲・態度」については，本時と次時の２時間で，全生徒を評価します。

２　本時に位置付けた評価規準

・　プリントの枚数など，身のまわりのことがらを比例や反比例の関係を活用して解決しようとしている。

【数学への関心・意欲・態度】

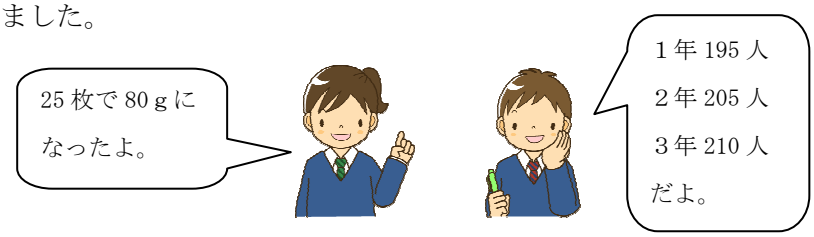
・　具体的な事象を，比例の見方や考え方を通して考え，問題の解決に活用することができる。　（◎）

【数学的な見方や考え方】

・　身のまわりの事象を比例の考え方を用いて表現したり，処理したりすることができる。（〇）

【数学的な技能】

３　本時の指導と評価の計画

学習活動	評価と配慮事項
１．問題１を考える。 〔問題１〕 生徒会で配るプリントが大量に用意されています。かりんさんとけいたさんは，これを学年の生徒数ずつの束に分ける方法を考えています。２人は，プリントの重さが分かればその枚数が分かるのではないかと考えました。  紙の枚数を数えずに各学年の生徒数ずつの束に分けるには，どうすればよいでしょうか。	・本時の学習課題を提示する。

2．問題１を解決する方法を考える。 ・プリントの枚数と重さの間にどんな関係があるか，自分の考えをノートに記述する。 生徒がノートに記述した「自分の考え」を机間指導で把握し，枚数と重さの関係について，図や表，式などを用いて記述できているかどうかを評価します。また，生徒のつぶやきやグループの話し合いでの発言などから，「十分満足できる」状況（A）と判断できた生徒に関しては，記録に残し，単元における総括の資料の参考とします。	・各学年の生徒数や 25 枚で 80 g の重さになっていることを押さえる。 **○見方や考え方具体的な事象を，比例の見方や考え方を通して考え，問題の解決に活用することができる。〔観察，ノート〕** 「おおむね満足できる」状況（B） 25 枚で 80 g の重さであることから，２つの数量の関係が比例の関係にあることを考えることができる。 **「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導** **プリントの重さは，枚数によって変わることに気付かせます。また，表などを用いて具体的に５枚のときや 10 枚のときの重さを考えさせ，比例の関係であることを理解させます。** **※形成的な評価と適切な指導を行い，この観点については，学習活動４の問題３で個別に評価し，記録に残します。**
・ノートの記述を基に話し合う。 ・プリント x 枚の重さを y g として，x，y の関係を求める。	・記述した図や表，式などを使いながら，枚数と重さの関係について説明するように伝える。 ・プリントの枚数と重さの関係が比例の関係であることを押さえる。 ・$y=ax$ に，$x=25$，$y=80$ を代入して a を求め，$y=\frac{16}{5}x$ になることを確認させる。
3．問題２を考える。 〔問題２〕 次の（1），（2）の各問いに答えなさい。 （1）　各学年に配るプリントをちょうど取り出すには，それぞれ何 g ずつはかりとればよいですか。 （2）　960 g 分のプリントの枚数を求めなさい。	
・個人で問題の解決に取り組む。 $y=\frac{16}{5}x$ に $x=195$，205，210 を代入して計算することができているかを，机間指導で把握し評価します。また，机間指導での観察や生徒の発表などから，「十分満足できる」状況（A）と判断できた生徒に関しては，記録に残し単元における総括の資料の参考とします。	・１年生の生徒数が 195 人，２年生の生徒数が 205 人，３年生の生徒数が 210 人であることを確認させる。 **○技能身のまわりの事象を比例の考え方を用いて表現したり，処理したりすることができる。〔観察・ノート〕** 「おおむね満足できる」状況（B） $y=\frac{16}{5}x$ に，x の値をそれぞれ代入して，y の値を求めることができる。また，$y=960$ を代入して，x の値を求めることができる。

・全体で解答を確認する。	「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導 x に 195 を代入すれば，そのときのプリントの重さが求められることを理解させ，$y=\frac{16}{5}\times 205$ を計算して求めるよう助言します。x=205，210 についても同様に考えてよいことを伝えます。また，（２）については，y に 960 を代入すればよいことを理解させます。 ↓ ※形成的な評価と適切な指導を行い，この観点については，第 15 時の単元テストで個別に評価し，記録に残します。 ・プリントの重さが各学年 624 g，656 g，672 g となることを確認させる。 ・（２）については，$y=\frac{16}{5}x$ に y=960 を代入して x の値を求めることを押さえ，x=300 となることを確認させる。
４．問題３を解く。 〔問題３〕	

厚さが一定のアルミ板から，下の図の２つの形を切り取りました。
（ア）の板の重さは 24 g，（イ）の板の重さは 36 g です。このとき，（イ）の面積は 225 cm^2 になります。
そのわけを説明しなさい。

（ア）　15 cm

10 cm

（イ）

・個人で問題の解決に取り組む。 ・全体で解答を確認する。 ・自分の解答を改める場合は，消さずに色の異なるペンで修正する。 ・授業終了時にノートを提出する。	**◎見方や考え方具体的な事象を，比例の見方や考え方を通して考え，問題の解決に活用することができる。〔ノート〕**

授業終了時に回収したノートの記述を基に，全生徒の評価を個別に行い，本単元における総括の資料として記録に残していきます。

評価については，以下のようになります。

「おおむね満足できる」状況（B）：式や表などを活用して数量の関係を調べ，比例の特徴（x，y それぞれの変化のようすや対応など）を用いて，（イ）の面積が 225 cm^2 になることを説明している。

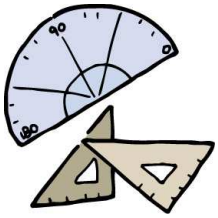
「十分満足できる」状況（A）：式や表などを活用して，比例の関係にあることを言葉や式で説明し，そのことを使って（イ）の面積が 225 cm^2 になることを的確に説明している。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒には，再度問題３を用いて個別に指導する。

本時の評価規準は，「数学的な見方や考え方」の観点における「具体的な事象を，比例の見方や考え方を通して考え，問題の解決に活用することができる。」と，「数学的な技能」の観点における「身のまわりの事象を比例の考え方を用いて表現したり，処理したりすることができる。」です。

「数学的な見方や考え方」の観点については，学習活動２で形成的な評価「○」を行い，評価規準に照らして,「おおむね満足できる」状況（B）にあるかどうかを机間指導などで判断します。「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対しては，指導で示したような適切な指導を行い，記録に残す評価の資料となる学習活動４の問題３の解決につながるようにすることが大切です。また,「十分満足できる」状況（A）にあると判断できる生徒を把握し，必要に応じて単元における総括の資料の参考とします。

「数学的な技能」の観点については，学習活動３で形成的な評価を行い「○」を行い，評価規準に照らして,「おおむね満足できる」状況（B）にあるかどうかを机間指導などで判断します。「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対しては，指導で示したような適切な指導を行い，第 15 時の単元テストによる評価で，少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）以上となるようにします。



中学校数学科における学習評価事例　３

■　「数学的な見方や考え方」の評価の進め方が分かる事例

本事例は，単元「式の展開と因数分解」の指導計画 17 時間の中の 15 時目の学習評価について示したものです。

本時においては,「数学への関心・意欲・態度」,「数学的な見方や考え方」,「数量や図形などについての知識・理解」について評価しますが，ここでは「数学的な見方や考え方」の評価に焦点を当ててまとめます。

１　単元名　　式の展開と因数分解　　第３学年「Ａ　数と式」

２　単元の目標

(1)　単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算ができる。

(2)　簡単な一次式の乗法の計算及び公式を用いる簡単な式の展開や因数分解ができる。

(3)　文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することができる。

３　単元の評価規準

数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などに ついての知識・理解
様々な事象を簡単な多項式で捉えたり，それらの性質や関係を見いだしたりするなど，数学的に考え表現することに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	簡単な多項式についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら，事象に潜む関係や法則を見いだしたり，数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり，その過程を振り返って考えを深めたりするなど，数学的な見方や考え方を身に付けている。	目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったり，文字を用いた簡単な多項式について，式の展開や因数分解をしたりするなど，技能を身に付けている。	式の展開や因数分解の意味や式の展開の公式などを理解し，知識を身に付けている。

4　指導と評価の計画

本単元「式の展開と因数分解」を，内容のまとまりである５つの小単元と単元のまとめで構成し，それぞれの授業時間数を下のように定めました。

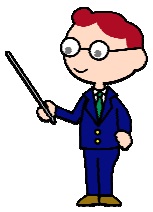
小単元等	授業時間数	
１．式の乗法，除法	４時間	17 時間
２．乗法の公式	３時間	
３．素因数分解	１時間	
４．因数分解	５時間	
５．式の計算の利用	３時間	
単元のまとめ	１時間	

小単元５の指導のねらい，生徒の学習活動及び評価規準と評価方法は，次の表の通りです。

時間	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法			
			数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
14	小単元５ 式の展開や因数分解を利用して，式の計算を簡単にしたり，身のまわりの問題を解決したりすることができる。	式の展開や因数分解を利用して，式の計算を簡単にすることを理解する。	◎式の展開や因数分解を利用して，問題を解決しようとする。〔観察・ノート〕	○式の計算に，式の展開や因数分解を利用することができる。〔観察・ノート〕	◎式の展開や因数分解を利用して，式の計算を簡単にすることができる。〔小テスト〕	
15 ※本時		式の展開や因数分解を利用して，整数の問題を解決する。		◎式の展開や因数分解を問題の解決に利用し，説明することができる。〔小テスト〕		○問題解決に式の展開や因数分解を利用できることやその手順を理解している。〔観察・ノート〕
16		式の展開や因数分解を利用して，図形の問題を解決する。		◎式の展開や因数分解を問題の解決に利用し，説明することができる。〔小テスト〕		◎問題解決に式の展開や因数分解を利用できることやその手順を理解している。〔小テスト〕

5　観点別評価の進め方

(1)　第 15 時の展開



ア　本時の目標

・　式の展開や因数分解を利用して，整数の問題を解決することができる。

イ　本時に位置付けた評価規準

・　式の展開や因数分解を利用して，問題を解決しようとする。（小単元５の３時間で◎）

【数学への関心・意欲・態度】

・　式の展開や因数分解を問題の解決に利用し，説明することができる。（◎）

【数学的な見方や考え方】

・　問題解決に式の展開や因数分解を利用できることやその手順を理解している。（○）

【数量や図形などについての知識・理解】

ウ　本時の展開

学習活動	評価と配慮事項
１．問題１を考える。 〔問題１〕 連続した２つの整数について，大きい方の数の２乗から小さい方の数の２乗をひいてみましょう。どんなことがわかるでしょうか。	・本時の学習問題を提示する。
	・具体的に２つの数を決めて計算させ，その特徴に気付かせる。 ・連続した２つの整数を具体的にいろいろ出し，全体で予想したことが正しいか確認する。 ・正しいかどうか確認した事柄の中から，問題２について証明していくことを伝える。
２．問題２を考える。 〔問題２〕 連続した２つの整数について，大きい方の数の２乗から小さい方の数の２乗をひいた差は，その２数の和に等しいことを証明しなさい。	
・個人で証明の方法を考える。	・個人で，証明の見通しをもたせたり，証明の方法を考えさせたりする。 ・証明では，数を一般化して用いることを思い出させ，連続する２つの整数をどのように表せばよいかを考えさせる。
・全体で証明を考える。	・生徒の発表を基に証明を板書する。
３．問題３を考える。 〔問題３〕 連続する２つの偶数の積に１をたした数は，奇数の２乗になることを証明しなさい。	・問題３を提示し，証明の内容を確認させる。
・個人で証明を考える。 生徒がノートに記述した証明を机間指導で把握し，次のポイントで評価します。 ①連続する２つの偶数を，文字を使って適切に表している。 ②証明のための式をつくり，計算している。 ③結論を述べている 「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対しては，右に示したような適切な指導を行い，学習活動４の評価問題の解決につながるようにします。また，机間指導での観察や生徒の発表から，「十分満足できる」状況（A）と判断できた生徒に関しては，記録に残し，単元における総括の資料の参考とします。	**○見方や考え方式の展開や因数分解を問題の解決に利用し，説明することができる。〔観察，ノート〕** 「おおむね満足できる」状況（B） ２つの偶数を文字を使って適切に表し，証明のための式をつくって計算している。また，最後に結論を述べている。 **「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導** **証明の見通しが立たない生徒には，具体的な数を用いて証明の内容を確認させたり，偶数の表し方を思い出させたりします。**

・全体で証明を考える。	・奇数の２乗になることを伝えるためには，計算した式を（$2n+1$）^{2}に変形することを押さえる。 ・生徒の発表を基に証明を板書し，証明を完成させる。 ・証明の結果から，（$2n+1$）^{2}であることは，連続する２つの偶数の積に１をたした数は，それら２つの偶数の間にある奇数の２乗になることも分かるということを補足する。
４．評価問題を解く。	・評価問題を配布する。 **◎見方や考え方式の展開や因数分解を問題の解決に利用し，説明することができる。〔小テスト〕**

小テストに用いる評価問題は以下のようになります。

〔評価問題〕

連続する２つの奇数の積に１をたした数は，偶数の２乗になることを証明しなさい。

この評価問題は，式の展開や因数分解など，これまでに学んだ式の計算を問題の解決に利用し，証明できるかどうかを評価するものです。単なる授業の記憶の再現ではなく，これまでに学んだことが問題の解決に生かされているかを焦点化するために，授業で扱った問題３の条件を変えて用いました。本時の展開における学習活動の２，３の指導を前提とした評価の場面です。評価問題での個々の評価は次のようになります。

・「おおむね満足できる」状況（B）

①２つの奇数を，文字を使って適切に表している。

②証明のための式をつくり，計算している。

③結論を述べている。

〈生徒の解答例〉

連続する奇数は，整数ｎを使って，

$2n-1$，$2n+1$

と表される。

それらの積に１をたした数は，

$(2n-1)(2n+1)+1=4n^2-1+1$

$=4n^2$

となり，偶数の２乗になる。

・「十分満足できる」状況（A）

①～③を述べることができ，結論を述べるために式の変形を適切に行っている。

〈生徒の解答例〉

連続する奇数は，整数ｎを使って，

$2n-1$，$2n+1$

と表される。

それらの積に１をたした数は，

$(2n-1)(2n+1)+1=4n^2-1+1$

$=4n^2$

$=(2n)^2$

となり，偶数$2n$の２乗になる。

※式の変形は，「$4n^2=(2n)^2$だから，偶数の２乗になる。」のように，最後の結論を述べるところでもよい。

・「努力を要する」状況（C）と判断される生徒には，小テスト返却時に，評価問題における方法で，説明していく過程を穴埋めで示した補助プリントを配布して，提出を求めます。

中学校数学科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　これからは１単位時間に１回または２回程度，評価を行えばよいのですか？

Ａ　１単位時間の評価は，１回または２回程度が適当であると思います。

これまでは，指導に生かすための形成的な評価と通知表や指導要録などのために記録に残す評価を混同して，１単位時間に数多くの評価規準を設定している場合が多く見られました。その結果，１単位時間の中で，個々の生徒の学習状況を確実に評価できなかったことも多かったと思います。

指導に生かす評価では，それまでの学習過程における生徒の学習状況を形成的に評価し，それに基づく適切な指導を行うことで，全ての生徒が少なくとも「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断できるようにすることが大切です。また，通知表や指導要録などのために記録に残す評価については，単元を構成する小単元ごとに観点の評価規準を設定し，学習評価を効率よく行うことが有効です。その際には，単元を通して設定した１単位時間ごとの評価規準を基に，ノートやワークシートの内容，小テストなどで確実に個々の生徒の学習状況を評価し，記録に残すことが必要です。

Ｑ　評価した記録の総括はどのようにすればよいですか？

Ａ　評価は，生徒の学習の状況を把握することを目的とするものであることを念頭に置き，小単元での観点別評価を基に，観点別評価の単元における総括を進めていきます。そのためには，それぞれの観点の特性に配慮し，総括の方法を考えることが必要です。また，総括を踏まえて，生徒が自己の学習状況の向上を目指して意欲的に学習に取り組めるよう導くことが大切です。

表１　観点別評価の単元における総括の例

		小単元１				小単元２				小単元３				小単元４				単元における総括			
番	氏名	関	考	技	知	関	考	技	知	関	考	技	知	関	考	技	知	関	考	技	知
1	生徒ア	B		B	A	B	A	A	A	A	C	B	B	B	B		A	B	B	B	A
2	生徒イ	A		A	A	A	A	B	B	B	A	B	A	A	B		A	A	A	B	A
3	生徒ウ	B		B	B	B	B	B	B	A	B	A	B	A	A		B	A	A	A	B
4																					

※　関は「数学への関心・意欲・態度」，考は「数学的な見方や考え方」，技は「数学的な技能」，知は「数量や図形などについての知識・理解」を表している。

※　▨ は，その小単元で評価を行わない観点であることを表している。

表１に記入した資料を基に，各観点の評価の単元における総括を進めていくには，例えば，次のような方法が考えられます。

ア　数値で表して合計や平均値などを用いる方法　→表１の生徒アの「見方や考え方」　参照

評価の結果を数値によって表し，数値から単元における総括を行います。例えば，Ａ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１として換算し，観点ごとに単元全体の合計や平均値などを求め，その数値を基に，単元における総括としてのＡ，Ｂ，Ｃを定めます。

表１の生徒アを例にして考えると，

（Ａ＋Ｃ＋Ｂ）÷３＝（３＋１＋２）÷３＝２

平均値が２なので，評価はＢとします。

イ　一番多い評価を用いる方法　→表１の生徒イの「知識・理解」　参照

最も数の多い記号がその単元における学習状況を最もよく表していると考えて，単元における総括を行います。

表１の生徒イを例にして考えると，単元全体でＡが３回，Ｂが１回，Ｃが０回となるので，単元における総括をＡとします。

ウ　単元の後半の評価を重視する方法　→表１の生徒ウの「技能」　参照

生徒の学習は，指導の経過とともに深まったり，高まったりすると考えて，単元における総括を行います。

表１の生徒ウを例にして考えると，単元の指導経過とともに，Ｂ→Ｂ→Ａと評価が変化した観点については，単元における総括をＡとします。

ここに示した方法やそれ以外の方法で観点別評価の単元における総括を進める場合，４つの観点を同じ方法で総括することは必ずしも必要ではなく，むしろそれぞれの観点の特性に配慮して総括の方法を定めることが適当です。

生徒の学習の状況は指導とともに変化するものです。特に「数学的な技能」や「数量や図形などについての知識・理解」については，最初に評価した段階では課題があっても，その後の学習を通じて単元の終盤までに改善が見られる場合もあります。こうした生徒の変化を把握するため，単元末テストや定期テストの結果などを参考にして，これまでの評価結果を適宜補正し，観点別評価の単元における総括の資料とすることも考えられます。

評価を総括する場合は，教科や学校内で事前に十分話し合いを行い，評価にばらつきが出ないように配慮する必要があります。総括の仕方は一通りではありませんので，教科や学校内で十分に情報交換を行い，検討を重ねることによって，より妥当性，信頼性の高いものになるでしょう。

Ｑ　通知表や指導要録などのために記録に残す評価の方法として，小テストを行うなどが考えられますが，テストの時間はどのくらいと考えればよいですか？

Ａ　学習の進度等を考えると，５～10 分程度が適当であると思います。短時間でのテストで，適切に評価を行うためには，出題の内容や方法を十分検討して行う必要があります。例えば，全ての問題を記述式にするのではなく，選択式や短答式といった問題形式と組み合わせることも考えられます。

（**国立教育政策研修所「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」**の事例１を参照）

Ｑ　「数学への関心・意欲・態度」の観点については，１時間に必ず全員を評価しなければいけないのですか？

Ａ　「関心・意欲・態度」の観点について，１時間に全員を評価する必要はありません。数時間で構成されている小単元に１つの評価規準を設定するなどして，評価を進めることが適当であると思います。その際，どの生徒も小単元の中で，少なくとも１回は評価対象となるようにします。適切な評価を行うために，チェックシートや座席表などを用意し，生徒の発言や反応を書き込めるようにしておくとよいでしょう。

表２　「数学への関心・意欲・態度」の評価記入例

単元名「比例と反比例」（全 15 時間のうちの１時目から８時目までの例）

		小単元１		小単元２			小単元３			特　記　事　項
番	氏名	１時	２時	３時	４時	５時	６時	７時	８時	
1	生徒エ	・		C	・			・	・	③時　時間と長さの関係を具体的な数を用いて考えるよう助言。
2	生徒オ		A	A		・		A		
3	生徒カ	・	A		A		・		A	⑧時　$y=2x$ や $y=-2x$ のグラフだけでなく，それ以外のグラフの特徴についても考えていた。
4										

※　「おおむね満足できる」状況（B）については「・」，「十分満足できる」状況（A）については「A」，「努力を要する」状況（C）については「C」で示している。

※　空欄については，記録に残す評価をその時間に行わなかったことを意味する。

※　「十分満足できる」状況（A）や「努力を要する」状況（C）と判断した生徒については，具体的な学習状況や個別に指導した内容などを特記事項に記述しておく。表２では，□の評価結果について，特記事項を記している。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（中学校　理科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校理科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校理科における学習評価の進め方
4　中学校理科における学習評価事例
5　中学校理科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・<u>表現</u>」**
「技能・<u>表現</u>」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校理科における教科目標，評価の観点及びその趣旨について

1　教科目標

自然の事物・現象に進んでかかわり，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な見方や考え方を養う。

⇒　「自然の事物・現象に進んでかかわり」とあるように，生徒が主体的に疑問を見付け，自らの課題意識をもって観察，実験を行うなど，これまでの「関心を高め」に比べて，自ら学ぶ意欲を重視した表現となりました。また，「探究する能力の基礎」とあるように，これまでの「調べる能力」に比べて，科学的に探究する活動をより一層重視し，高等学校理科との接続を明確とした表現となりました。

2　評価の観点及びその趣旨

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
自然の事物・現象に進んでかかわり，それらを科学的に探究するとともに，事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，事象や結果を分析して解釈し，表現している。	観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

①　自然事象への関心・意欲・態度

基本的な考え方に変更はありませんが，中学校理科の教科目標に「進んでかかわり」という文言が加わったことを受けて，観点の趣旨にも「進んでかかわり」という文言が加えられています。そのことにより，従前の趣旨にあった「意欲的に」と重複するため，これを削除し，「科学的に」という文言を挿入して，文章がつながるようにしてあります。

②　科学的な思考・表現

「科学的な思考・表現」の観点のうち，「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，理科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考した過程や結果を，言語活動等を通じて，生徒がどのように表出しているかを評価する内容とすることを意味しています。

③　観察・実験の技能

「観察・実験の技能」の観点は，従前の「観察・実験の技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになっています。したがって，「観察・実験の技能」の観点については，これまでの「観察・実験の技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されています。

④　**自然事象についての知識・理解**

この観点に変更はありません。中学校・高等学校ともに，「理解し，知識を身に付けている」と示されています。このことは，中学校から高等学校へと段階が上がるにしたがって，体系化された知識を学ぶことになります。そこで，単純に「理解」するだけではなくて，そのような体系化された知識についても「知識を身に付ける」という意味を含めて，このような表記となっています。

3　分野別の評価の観点の趣旨

	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第1分野	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり，それらを科学的に探究するとともに，事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，事象や結果を分析して解釈し，表現している。	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理など，事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して，物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。
第2分野	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり，それらを科学的に探究するとともに，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与しようとする。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，事象や結果を分析して解釈し，表現している。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理など，事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して，生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

中学校理科における学習評価の進め方

評価規準の設定における基本的な考え方

各学校において,評価規準を設定するにあたっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（以下，参考資料と表記）に示されている評価規準の設定例を活用するなどして，単元の指導のねらい，教材，学習活動等に応じて，適切な単元の評価規準を設定することが大切です。

各観点における評価内容と評価方法，評価を行うに当たっての留意点

①　**自然事象への関心・意欲・態度**

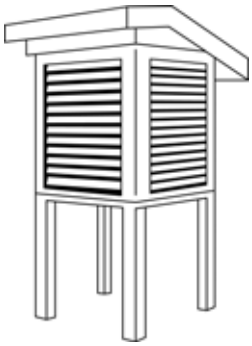
○　**評価する内容**

この観点は，生徒が自然の事物・現象に進んで関わり，それらを科学的に探究しようとするとともに，事象を日常生活との関わりでみようとしているかを評価するものです。

○　**評価の方法**

授業における発言や行動の観察を行い参考とするとともに，ワークシートやノートなどの記述内容の分析から評価を行います。

○　**評価を行うに当たっての留意点**



記述内容の分析では，次のような点に着目して評価を行います。

・自然事象への関心や疑問，分かりたいことなどを明確にしている。

・日常生活で見られる事象と関連させるなど，意欲的な記載がある。

授業における行動を分析する際の視点としては，次のような点が挙げられます。

・疑問をもって自発的に行動している。

・観察，実験に集中して取り組むなど，意欲的に追究している。

・観察や実験を，安全や環境に対する配慮をしながら行っている。

・自らの考えを意欲的にまとめたり，発表したりしようとしている。

行動観察において，例えば「挙手の回数」や「忘れ物の有無」といった資料のみで評価することは，評価の観点の趣旨に合っていません。また，学習の導入時は関心等が低くても，学習が進むにつれて次第に高くなっていく場合などがあるため，例えば，単元の後の方における評価の結果を重視するなどの配慮をすることなどが考えられます。

②　科学的な思考・表現

○　**評価する内容**

この観点は，生徒が自然の事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈するなど，科学的に探究する過程において思考したことなどを評価するものです。

○　**評価の方法**

観察・実験の目的の把握の仕方，実験結果を分析して解釈する活動や表現の仕方について，レポートやワークシート，ペーパーテストなどの記述内容の分析から評価を行います。

○　**評価を行うに当たっての留意点**

レポートやワークシート，ペーパーテストなどの記述分析や観察・実験において，行動を分析する際の視点として，次のようなことが考えられます。

・既習事項など根拠を基に，観察，実験の結果を予想しているか。

・観察，実験の目的に対応して，結果を分析して解釈しようとしているか。

・結果に基づいて，論理的に考察を進め，自分の考えを導いているか。

・文章，その他の方法で，自分の考えを表現しているか。

また，観察，実験のねらいの理解が不十分なため，結果と無関係な結論を導いたり論理が飛躍したりすることがある際は，そのことを指摘した上で修正するように指導することが大切です。

③　観察・実験の技能

○　**評価する内容**

この観点は，生徒が自然の事物・現象についての観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理，資料の活用の仕方などを身に付けているかを評価するものです。

○　**評価の方法**

観察，実験時の行動の観察や結果の記録の仕方，パフォーマンステスト，ペーパーテストなどの記述内容の分析から評価を行います。

○　**評価を行うに当たっての留意点**

一単位時間の授業において，学級の生徒全員を，行動観察で詳細に評価することは困難です。そのため，まずは「おおむね満足できる」状況（B)にあるかどうかを中心に評価した上で，「努力を要する」状況（C）にある生徒に対して適切な個別指導を行うなど，視点を明確にして評価する必要があります。

また，行動の観察には次のような方法があります。

・机間を回り，指導しながら観察し，チェックシートに記録していく。

・ワークシートやノートに，チェックの印を付ける。

④　**自然事象についての知識・理解**

○　**評価する内容**

この観点は，生徒が自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けているかを評価するものです。

○　**評価の方法**

生徒の発言やレポート，ワークシート，ペーパーテストなどの記述内容の分析から評価を行います。

○　**評価を行うに当たっての留意点**

知識・理解を評価した際，生徒が間違った理解をしている場合は，それを正す指導が必要です。いわゆる誤概念を防ぐことが重要です。そのためには，日頃より生徒一人一人の授業における発言やレポートの記述等に注意し指導することが大切です。

学期，学年における観点別評価の総括と評定

①　**「主に指導に生かす評価」と「指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価」**

観点別評価は，「主に指導に生かす評価」と「指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価」の２つに分けることができます。「主に指導に生かす評価」は，単元の学習を進めながら，学習時の生徒の発言や行動，ノート，レポート等，様々な資料を基にして行います。その評価を基に，適切な働きかけや指導の手立てを図り，日常の学習指導に役立てるなど，指導と評価の一体化を図ることが重要です。「指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価」は，評価時期を単元の中に適切に位置付け，計画的・継続的に，生徒一人一人の評価を記録しておくことが大切です。

②　**観点別評価の総括**

総括の方法の一つとして，観点ごとに評価資料の評価結果を数値化し，その合計点の満点に対する割合から各観点の総括を行うことが考えられます。例えば，Aを３，Bを２，Cを１とし，合計点の満点に対する割合から，観点ごとに総括をします。合計点の満点に対する割合と評価結果の関係では，例えば，次の表のような例が考えられます。その際，評価資料ごとに重み付けを行う方法も考えられます。

観点別評価		合計点の満点に対する割合
A	「十分満足できる」状況と判断されるもの	80 %以上
B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	50 %以上80 %未満
C	「努力を要する」状況と判断されるもの	50 %未満

③　観点別学習状況の評価から評定への総括

観点別学習状況の評価の評定への総括の方法には，各観点の評価結果の「A，B，Cの組み合わせ」，もしくは「A，B，Cの数値化」に基づいて総括し，５段階の評定で表す方法があります。

○　「A，B，Cの組み合わせ」に基づく評定

「A，B，Cの組み合わせ」に基づいて評定に総括する場合，各観点とも同じ評価がそろっている場合は，次のような組み合わせが考えられます。

評定	組み合わせ
5	AAAA
4	
3	BBBB
2	CCCC
1	

これ以外の場合は，各観点のA，B，Cの数の組み合わせから適切に評定する必要があります。

○　「A，B，Cの数値化」に基づく評定

「A，B，Cの数値化」に基づいて評定に総括する場合は，各評価資料の総合点の満点に対する割合から，５段階の評定を行います。合計点の満点に対する割合と評定の関係では，次の表のような例が考えられます。なお，数値化に当たっては，観点ごとの重み付けを行うことも考えられます。

評定		合計点の満点に対する割合
5	「十分満足できるもののうち，特に程度が高い」状況と判断されるもの	90 %以上
4	「十分満足できる」状況と判断されるもの	80 %～ 90 %未満
3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	50 %～ 80 %未満
2	「努力を要する」状況と判断されるもの	20 %～ 50 %未満
1	「一層努力を要する」状況と判断されるもの	20 %未満

④　留意点

観点別学習状況の評価を評定へ総括する場合は，次の点に留意することが大切です。

- 数値化する際には，評価資料が評価規準に対して明確に対応していることが必要である。
- 評価に当たっては，生徒のよい面を見付け伸ばしていくためにも，複数の評価方法，評価資料を用いることが重要である。
- 表計算ソフトなどで観点別評価をまとめたとき，例えば，ACCC，ACAC，CAAAといった評価になったとき，その評価が妥当であるかどうかを検討する。また，評定についても，生徒の学習状況を反映したものになっているか，評価方法や集約の方法についても検討することが大切である。
- 総括の際，点数の合計が同じ場合でも，学習が進むにつれて評価が向上しているときと，逆に低下しているときがあり，このような側面からも総括した評価が適切であるかを検討する。

評価や評定に対する妥当性や信頼性を高めるために，学校内での情報交換を行うことや，必要に応じて，教師間の共通理解を図り，生徒及び保護者に十分に説明を行うことも大切です。

中学校理科における学習評価事例１

■単元全体を見通した指導と評価の計画の作成

本事例では，第２分野「(3)動物の生活と生物の変遷」の「ウ 動物の仲間」から，脊椎動物と無脊椎動物に関する学習を取り上げ，単元全体を見通した指導と評価の計画を作成し，観点別評価をどのように進めていくかの事例を紹介します。

各観点の評価を行うに当たり，次の点に留意して評価計画を立てています。

各観点の評価時期や場面を検討し，指導と評価が適切に行えること

４観点全ての評価を毎時間の授業で行うのではなく，評価する観点や評価する場面を絞って学習状況を計画的・継続的に把握するようにしています。

主に指導に生かす評価と，指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価との２つに区別していること

観点別評価は，単元の学習を進めながら，学習時の生徒の発言や行動，ノート，レポート等，さまざまな資料を基にして行います。その評価は日常の指導に役立てることが重要であり，生徒の状況を記録して総括に用いる評価については，評価時期を単元の中に適切に位置付けることが大切です。

そこで，各観点の評価において，特に生徒の状況を記録して総括に用いる評価を計画に◎で示しています。評価規準に照らして，「十分満足できる」状況（A）か，「おおむね満足できる」状況（B)か，「努力を要する」状況（C）かを評価し，単元の総括的な評価の資料とします。生徒全員に対して，同一時期に同一方法で行うことが望ましいです。評価を指導に役立てる上では，評価規準に照らして，「おおむね満足できる」状況（B)にあるかどうかを評価し，「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対して，適切な働きかけや指導を行います。

単元の目標については，生徒の学習の立場から記す場合と教師の指導の立場から記す場合が考えられますが，ここでは生徒の学習の立場から記しています。

1　単元名

動物の仲間

2　単元の目標

○　脊椎動物の観察記録に基づいて，体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較，整理し，脊椎動物がいくつかの仲間に分類できることを見いだすことができる。

○　無脊椎動物の観察等を行い，その観察記録に基づいて，それらの動物の特徴を見いだすことができる。

3　単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
動物の仲間に関する事物・現象に進んで関わり，それらを科学的に探究するとともに，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与しようとする。	動物の仲間に関する事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，事象や結果を分析して解釈し，自らの考えを表現している。	動物の仲間に関する事物・現象についての観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理など，事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを行い，動物の仲間に関する事物・現象について基本的な概念，多様性や規則性を理解し，知識を身に付けている。

参考資料の該当する指導要領の内容に対応する「評価規準に盛り込むべき事項」を参考に作成しています。

4　指導と評価の計画（８時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準				評価方法
		関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解	
1	身近な動物の観察を行い，動物に対する関心をもち，動物を観察する。	◎動物の体のつくりや生活の様子に関心をもち，いろいろな動物について意欲的に調べようとする。	○動物を観察する観点を決めて比較したり，検討したりすることができる。	◎※動物の種類や性質，生活場所に応じた観察手段を適切に選択・工夫し，観察器具の操作に習熟している。		◎行動観察 (関)(技) ◎○ワークシートの記述分析 (関)(思) ◎ペーパーテスト ※(技)
2	身近な動物の観察を行い，観察の視点や方法を身に付ける。		◎観察結果を記録し，資料として保管したり，活用したりすることができる。		◎セキツイ動物と無セキツイ動物の特徴を理解し，知識を身に付けている。	◎ワークシートの記述分析 (思) ◎ペーパーテスト ※(知)
3	セキツイ動物の５つの仲間の体のつくりの特徴を，それぞれの生活の場所や生活の仕方と関連付けてとらえる。	○いろいろなセキツイ動物に関心をもち，それらの特徴を意欲的に調べようとする。			○※いろいろなセキツイ動物の特徴を認識し，知識を身に付けている。	○行動観察 (関) ○ワークシートの記述分析 (関) ○ペーパーテスト ※(知)
4	セキツイ動物の５つの仲間のふえ方の特徴を生活の場所や生活の仕方と関連付けてとらえる。	○いろいろな動物に関心をもち，生活の仕方や体のつくりに基づいて分類しようとするとともに，日常生活においても身近な動物との関わりを深めようとする。	○セキツイ動物の５つのグループの体の表面の特徴を生活の場所や生活の仕方と関連付け，自らの考えを導いたりまとめたりして表現している。		◎※セキツイ動物の５つのグループの体の表面の特徴が生活の場所や仕方と密接に関わっていることを理解している。	○行動観察 (関) ○ワークシートの記述分析 (思) ◎ペーパーテスト ※(知)
5	セキツイ動物の５つの仲間の特徴を表にまとめて整理する。		◎調べた動物の記録や分類表等を基に，セキツイ動物を５つの仲間に分類することができる。	◎動物の特徴を整理し，表に整理してまとめることができる。	◎※身近な動物の名前やグループの特徴を理解し，セキツイ動物の５つのグループの知識を身に付けている。	◎ワークシートの記述分析 (思)(技) ◎ペーパーテスト ※(知)
6	ザリガニやイカ等の無セキツイ動物の体のつくりや行動を観察する。	◎ザリガニやイカの体の特徴や行動のようすに関心をもち，積極的に調べようとする。		◎イカの解剖を通して，動物の体のつくりや行動の様子を調べることができる。	○節足動物や軟体動物の体のつくりの特徴を理解し，知識を身に付けている。	◎行動観察 (関)(技) ◎○ワークシートの記述分析 (関)(技)(知)

7	観察を通して無セキツイ動物の特徴を理解する。			◎結果を分かりやすく記録することができる。	◎※セキツイ動物と無セキツイ動物の区別ができる。	◎ワークシートの記述分析(技) ◎ペーパーテスト※(知)
8	無セキツイ動物がいくつかの仲間に分類できることを理解する。		◎動物の体のつくりを生活場所や生活の**仕方**と関連付け，自らの考えを導いたりまとめたりして表現している。		◎※節足動物，軟体動物，その他の無セキツイ動物の区別ができる。	◎ワークシートの記述分析(思) ◎ペーパーテスト※(知)

◎印は，指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価を示しています。

○印は，主に指導に生かす評価を示しています。

※印は，ペーパーテストによる総括的な評価を示しており，後日に定期テストなどで評価することなどが考えられます。

中学校理科における学習評価事例２

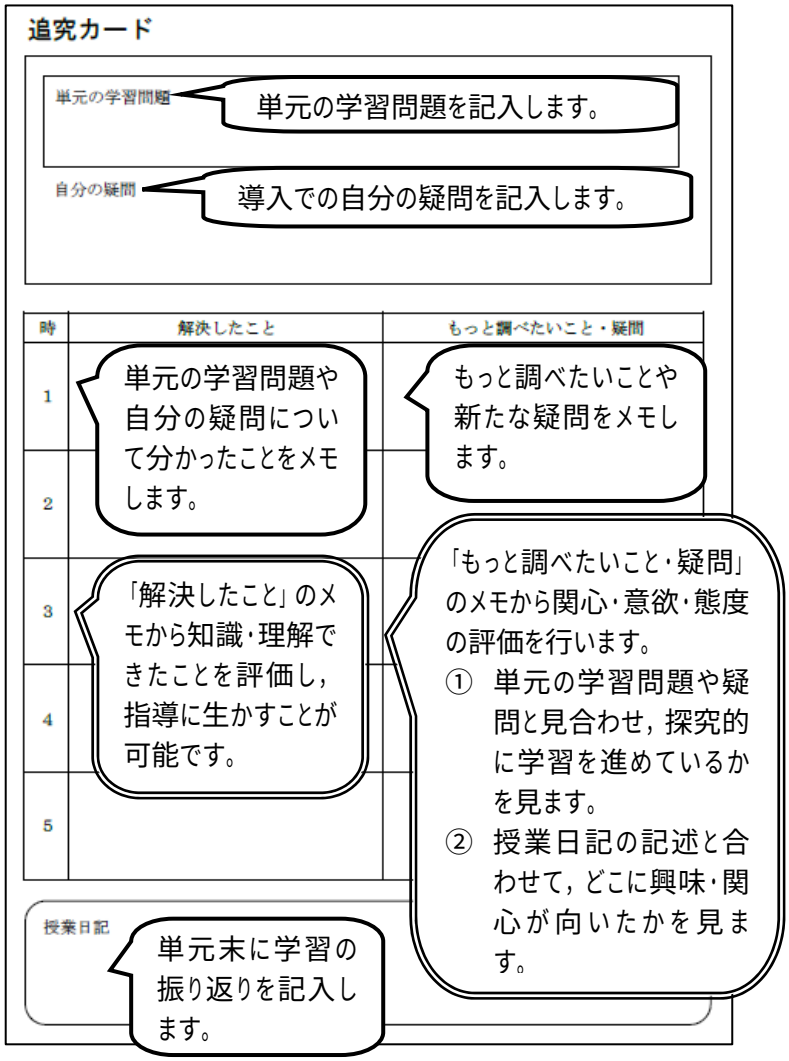
■追究カードを利用した関心・意欲・態度の評価

探究的な学習を進めるためには，自らの課題を主体的に追究し，理解を深められるような授業を組み立てることが大切です。その際，生徒の探究的な学習を促しながら，効率的に評価を行うことが大切です。

そこで，「追究カード」を利用した評価の工夫の例を紹介します。

毎時間の学習後に「追究カード」（右図）に「解決したこと」「もっと調べたいこと・疑問」をメモさせ，探究の方向を明確にさせます。その記録を活用して，生徒の学習状況の把握と指導計画の修正を行います。さらに，単元のポイントとなる場面で，「授業日記」を書かせ，自分の驚きや疑問，日常生活との関わりなどについて，学習の振り返りをさせます。

この「追究カード」（「授業日記」を含む）の記述内容を，単元終了後の「自然事象への関心・意欲・態度」についての，総括に用いる評価資料とすることが考えられます。



1　単元名

状態変化と熱

単元の目標については，生徒の学習の立場から記す場合と教師の指導の立場から記す場合が考えられますが，ここでは教師の指導の立場から記しています。

2　単元の目標

物質を加熱したり冷却したりすると状態が変化することを観察し，状態が変化する前後の体積や質量を比べる実験を行い，状態変化は物質そのものが変化するのではなくその物質の状態が変化するものであることや，状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだし，粒子のモデルと関連付けて理解させる。

3　単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
状態変化と熱に関する事物・現象に進んでかかわり，それらを科学的に探究するとともに，事象を日常生活との関わりで見ようとする。	状態変化と熱に関する事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，粒子のモデルと関連付けた状態変化による体積の変化などについて自らの考えを導き，表現している。	状態変化と熱に関する事物・現象についての観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。	状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないこと，加熱や冷却によって粒子の運動が変化していることについて基本的な概念を理解し，知識を身に付けている。

4　指導と評価の計画（全３時間）

時	学習内容	ねらい	評価観点 関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	**固体・液体・気体** ・演示実験「水の三態変化」	水が状態変化する現象に興味をもち，状態変化と温度の関係を理解することができる。また，状態変化により物質そのものの性質は変化しないことも理解することができる。	◎				◎状態に関心をもち，意欲的に状態変化する様子を観察する。	行動観察 ワークシートの記述分析
						○	○固体・液体・気体の状態変化と温度の関係及び物質が温度によって状態変化することを理解し，知識を身に付けている。	ワークシートの記述分析
2	**状態変化前後の質量保存と体積変化** ・生徒実験「ロウの状態変化前後の体積」	ロウの状態変化の観察・実験を行い，体積が変化しても質量は変化しないことを，実験の結果と結び付けて説明できる。		○			○質量は保存されるが体積は変化するという事象から，粒子の結び付きと温度との関係に気付く。	ワークシートの記述分析
			○		◎		○実験結果を踏まえて追究カードに「もっと調べたいことや疑問」を記述している。	ワークシートの記述分析

2							◎状態変化に関する実験を行い，実験の結果を表に記入することができる。	
3	**粒子モデルによる状態変化のしくみ** ・演示実験「エタノールの気化」	液体のエタノールを入れた袋に熱湯をかけると袋が膨らむことを，エタノールの粒子の運動で説明することができる。	○	◎			○日常生活に関わる現象と関連付けて，追究カードに「もっと調べたいことや疑問」を記述している。 ◎液体から気体への状態変化を粒子のモデルで説明することができる。	行動観察 ワークシートの記述分析

表中の◎印は，指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価を示しています。

表中の○印は，主に指導に生かす評価を示しています。

5　評価をする際の留意点

・　「物質の状態変化」の単元の中で，４観点について少なくとも１回ずつは評価できるようにします。

・　学習のまとまりごとに行う，いわゆる定期考査などに代表されるペーパーテストによる評価については別途行い，その評価結果を加味して総括的な評価とします。

6　評価の例

「追究カード」の「解決したこと」の欄には，生徒が毎時の授業で学んだことをまとめて記入させます。授業後，この「解決したこと」の欄の記述内容を見ることで，生徒がどの程度「自然事象についての知識・理解」を身に付けることができたかを確認することが可能です。記述内容が教師の意図した内容とずれていたり，必要な事項が記述できていなかったりしている場合は，その後の授業で，適切な補足や修正が必要です。

また，「追究カード」の「もっと調べたいこと・疑問」の欄からは，毎時間の授業の中での生徒の考えや疑問を読み取ることができます。この記述内容の分析から，その後の授業の展開を見直したりすることも考えられます。また，「科学的な思考・表現」の評価の一つの有効なデータとすることも可能です。

「自然事象への関心・意欲・態度」の観点で，生徒の記述を分析する主な視点には，次のようなことが考えられます。

○進んで自然に関わり，そこで生まれた疑問を探究できているか。

・「追究カード」の「もっと調べたいこと・疑問」の欄の記述が，「単元の学習問題や導入での疑問」を踏まえつつ，探究の過程に沿った連続性が見られるものとなっているか。

・単元の学習問題や「追究カード」の「もっと調べたいこと・疑問」の欄に書かれていた疑問等が，具体的に解決できた内容として「授業感想」に記述されているか。

○日常生活と結び付いて具体的に示されているか。

・「追究カード」の「授業日記」に，身の回りで起きている状態変化や熱などに目を向けた日常生活に関わる具体的な記述があるか。

・「追究カード」の「もっと調べたいこと・疑問」に，身の回りで起きている状態変化や熱などに目を向けた日常生活に関わる具体的な記述があるか。

《「おおむね満足できる」状況（B）と判断される生徒の事例》

生徒Dは，「追究カード」の「自分の疑問」の欄に「物質が状態変化するとき，体積や質量はどうなるか。」という疑問を記述しています。「もっと調べたいこと・疑問」の欄には，第１時に「水以外のものでもそのようになるのか」，第３時に「エタノールを使って…質量と体積を調べてみたい」と記述しています。単元での学習を踏まえて，水以外の物質についても調べようとする意欲が記述されており，探究の過程に沿った学習意欲の連続性が見られます。しかし，授業日記では「物質をつくっている…粒の正体を知りたい」など，原子・分子などの粒子概念に関する記述がみられるが，小学校での学習内容や日常生活との結び付きに関する記述が見られません。

以上のことから，科学的な見方や考え方の広がりには課題が残るが，自分の疑問に対する学習意欲の連続性がみられるという点で，右の生徒の「関心・意欲・態度」の評価は「おおむね満足できる」状況（B）と判断されます。

[生徒Dの追究カード]

追究カード

単元の学習問題
物質の状態変化について調べる

自分の疑問
物質が状態変化するとき，体積や質量はどうなるか。

時	解決したこと	もっと調べたいこと・疑問
1	水が液体⇄固体になると体積は変化するけど，質量は変わらない。	水以外のものでもそのようになるのか調べたい。
2	ロウが液体⇄固体になると体積は変化するが質量は変わらない。	なぜロウは体積が小さくなるのに水は大きくなるのだろう。
3	エタノールが液体⇄気体になると体積は変化するが，質量は変わらない。	エタノールを使って固体⇄液体⇄気体のときの質量と体積を調べてみたい。
4		
5		

授業日記
物質をつくっている粒の集まり方のちがいで状態変化が起きているとは驚いた。粒の正体は何か知りたいと思った。

《「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒の事例》

生徒Eは，「追究カード」の「自分の疑問」の欄に「水以外の物質も状態変化するとき，質量は変化しないで，体積だけが変化するのか。」という記述をしています。また，第２時の「解決したこと」の欄には「ロウは水とちがって…」，「もっと調べたいこと・疑問」の欄には「水とロウの体積の変化がちがうのはなぜか。」という記述をしており，小学校で学習した水の状態変化と関連のある記述が見られます。

一方，第３時の「解決したこと」の欄には「ドライアイスを使って…調べてみたい」，授業日記には「南極や北極の海が全部こおってしまわないのは…」という記述が見られるなど，日常生活と結び付いた記述をしています。

以上のことから，小学校の学習内容と関連のある記述と日常生活との結び付きに関する記述が見られるという点で，右の生徒の「関心・意欲・態度」の評価は「十分満足できる」状況（A）と判断されます。

[生徒Eの追究カード]

追究カード

単元の学習問題
物質の状態変化について調べる。

自分の疑問
水以外の物質も状態変化するとき
質量は変化しないで体積だけ変化するのだろうか。

時	解決したこと	もっと調べたいこと・疑問
1	水は温度によって状態が変化する。体積は変化するけど質量は変化しない。	水が固まると，なぜ体積が大きくなるのか。
2	ろうは，水とちがって体積は小さくなる。質量は水と同じで変わらない。	水とろうで，体積の変化がちがうのはなぜか。
3	液体⇄気体のとき体積は変化するが質量は変化しない。粒の運動のちがいで状態変化が起こる。	ドライアイスを使って，固体⇄気体のときの質量と体積の変化はどうなるか調べたい。
4		
5		

授業日記 南極や北極の海が全部こおってしまわないのは，水が氷になると密度が小さくなって浮かんでしまうためだと知っておどろいた。

中学校理科における学習評価事例３

■ワークシートを活用した科学的な思考・表現の評価

本事例では，第１分野「(３)電流とその利用」の「ア(エ) 静電気と電流」から，電流と電子の流れに関する学習を取り上げ，ワークシートを活用した「科学的な思考・表現」の評価をどのように進めていくかということについての事例を紹介します。

1　本時の単元

電子の流れと電流

2　本時のねらい

○　陰極線の観察を行い，電流が電子の流れであることを見いだすことができる。

3　本時の評価

指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価（◎）【科学的な思考・表現】

・電流が電子の流れであることを，粒子のモデルを使って説明することができる。

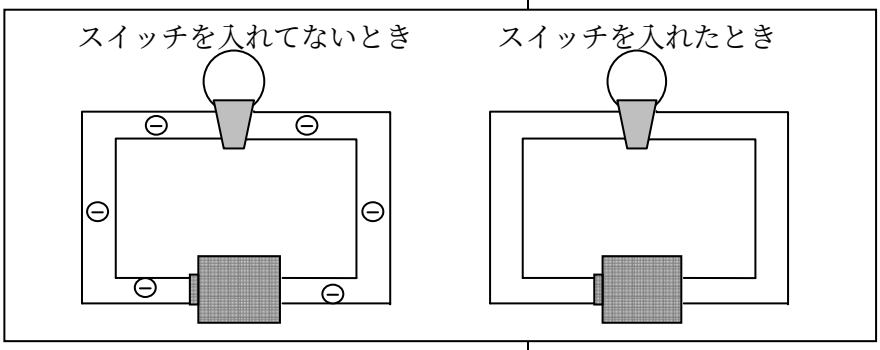
4　本時のポイント

・　回路に，電流が流れているときと流れていないときの様子を観察させる。

・　電流が流れているときと流れていないときの状態を，電子の動きで考えさせる。

・　生徒から電子を粒子の動きとして捉える見方や考え方が出てこない場合には，教師の側からモデルとなる図を示す。

5　指導と評価の流れ

	学習活動	評価の観点 学習活動における具体の評価規準	評価方法
導入	【実験】電流が流れている回路の観察 ・回路のスイッチを入れたり切ったりしたときの様子を観察する。 ・乾電池の極を入れ替えた時のモーターの回転する向きの変化を観察する。	・実験結果を確認できる。 ・電圧がかかると電流が流れることを確認させる。 ・電流は一定の向きに流れることを確認させる。	ワークシートの記述分析
展開	回路を電子が流れている様子をイメージしよう。 ・自分の考えを明らかにさせる。  	・スイッチを切入したときの電子の動きを粒子のモデルで表現することができる。	ワークシートの記述分析
	いろいろな考えを知って，自分の考えを見直そう。 ・図を使って，自分の考えを発表する。	・電子が－の電気をもっていることと，電池の電位差を関連付けて説明することができる。	発表
まとめ	教師の説明を聞く。 ・電圧をかけると，－の電気をもつ電子は電池の－極から＋極の向きへ動く ・電流の向きと電子の流れる向きは逆になっている。		

6　評価をする際の留意点

○　前時の陰極線による電子の観察を例に，電子が一定の方向に流れていることを明らかにします。

○　ワークシートの記入を終えた生徒から順に提出させて，記入した内容が不十分である場合は具体的な指摘や問いかけをして，再提出を促します。

「電子はマイナスの電気をもっています。電子はどちらに動きますか。」

「電池には＋極とマイナス極があります。電子はどちらに動きますか。」

○　生徒に自分の見方や考え方を発表させ，生徒の考えがいくつかの種類に分類できることを示します。

○　示されたモデルのうち，説明として適切なものはどれかを考えさせます。

○　生徒個人の見方や考え方が，板書された内容のどれに近いのかを確認させるなどして，自分なりの見方や考え方をもつことができるようにさせます。

7　評価の例

生徒が記述したワークシートの図とそのように考えた理由の両方の記述を総合的に判断して評価します。「科学的な思考・表現」の観点で，生徒の記述を分析する主な視点には，次のようなものが考えられます。

○　**図の中に，粒子のモデルに基づいた記述をしているか。**

電子は全て同じ種類の電気をもっていることから，一定の方向に動くことを表現できているかに着目し，記述分析を行います。

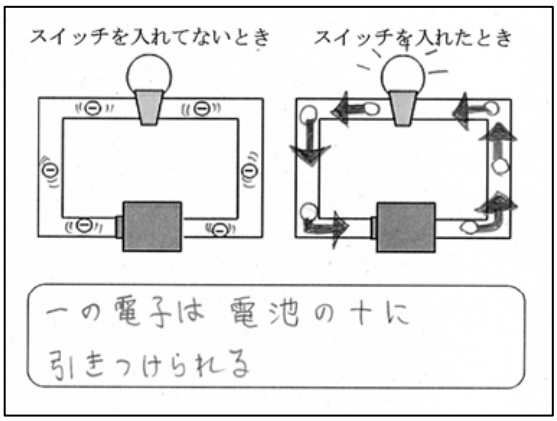
○　**「そう考えた理由」を記入する欄に，粒子のモデルに関連付けた考えを記述しているか。**

粒子がもっている電気の種類と電源の極との関係を基に，粒子の動きを表現しているかに着目し，記述分析を行います。

《「おおむね満足できる」状況（B）と判断される生徒の事例》

右の生徒は,「スイッチを入れたとき」の電子の動きについて，電子がマイナスの電気をもっていることと電池のプラス極との関係を基に，電子の動きを説明することができています。

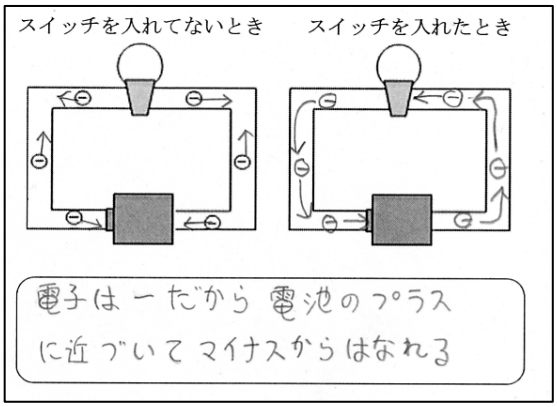
また,「スイッチを入れてないとき」の電子の動きについては記述していません。授業後に行った生徒への聞き取りからもスイッチを入れてないときの電子の動きについての説明はありません。以上のことから,「おおむね満足できる」状況（B）と判断しています。



《「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒の事例》

右の生徒は,「スイッチを入れたとき」の電子の動きについて，電子がもっているマイナスと電池のプラス極との関係，電池のマイナス極との関係という２つの関係を基に，電子の動きを説明することができています。

また,「スイッチを入れていないとき」の電子の不規則な動きについても表現することができています。授業後に行った生徒への聞き取りでは,スイッチを入れてないときの電子の動きを，プラスの電気をもった原子核との関係で説明しています。以上のことから,「十分満足できる」状況（B）と判断しています。



中学校理科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ１　なぜ「科学的な思考・表現」に「判断」が入っていないのですか。

Ａ　「判断」を評価の観点に明記しているのは，社会科と保健体育科だけです。「判断」にはいくつかの可能性の中から決定するという意味合いも含まれています。しかし，理科では，論理的にで考えていくと，多くの場合，必然的に結論が導かれるために，「判断」は入っていません。判断している部分はあるのですが，明確に記述はしていません。

ただし，（７）ウ(ア)「自然環境の保全と科学技術の利用」だけは，社会的な要素も含んだ項目であり，どう判断したらよいかということを科学的な視点で判断することの重要性を認識してほしいというねらいがあり，学習指導要領解説では「意思決定させるような場面を設けることが大切である」と記述してあります。この項目に関わっては，「判断」いう文言を用いることも考えられます。参考までに，高等学校では「判断」という文言が入っています。

Ｑ２　理科における言語活動の評価はどのようにすればよいのですか。

Ａ　「科学的な思考」が「科学的な思考・表現」と変更になったことは，科学的な思考は言語活動を通して，表出したもので評価をするという考えに沿ったものです。大切なことは，「観察，実験の結果を分析して解釈し表現する」「科学的な概念を使用して考えたり説明したりする」等の言語活動の結果は，「科学的な思考・表現」において，思考とその内容を表現する活動とを一体的に評価するということになります。

また，理科における話し合いや発表，観察・実験のレポートなどの評価も，科学的な概念や根拠に基づいて自分の考えを表現する場合は，「科学的な思考・表現」において評価することとなります。

なお，「言語活動の充実を図る」ことは，教科目標をよりよく実現するための手立てでありますので，言語活動そのものの評価に終始することがないようにする必要があります。

Ｑ３　理科における「ものづくり」の評価はどのようにすればよいのですか。

Ａ　理科においては，科学的な原理や法則の理解を深めることが重要です。「ものづくり」はその一つの有効な方法であり，各内容の特質に応じて適宜行うようにすることが大切です。「ものづくり」は，科学的な原理や法則について実感を伴った理解を促すものとして効果的であり，学習内容と日常生活や社会との関連を図る上でも有効です。理科における「ものづくり」の評価は，「自然事象への関心・意欲・態度」や「自然事象についての知識・理解」において評価することとなります。

Ｑ４　（７）ウ(ア)「自然環境の保全と科学技術の利用」は評価しなければならないのですか。

Ａ　「自然環境の保全と科学技術の利用」は，これからの社会を考える上で必要な科学的な見方・考え方を養うことをねらいとした内容です。環境保全のために，科学技術をどのように役立てたらよいかということについて，専門家だけに任せるのではなく，国民一人一人が議論して決定していくことが重要とされています。国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」などを参考にして，適切な評価を行ってください。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（中学校　音楽科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校音楽科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校音楽科における学習評価の進め方
4　中学校音楽科における学習評価事例
5　中学校音楽科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校音楽科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽活動の基礎的な能力を伸ばし,音楽文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

⇒「音楽文化についての理解を深め」ることが新たに規定されています。音楽科の学習は本来，音楽文化そのものを対象にした学習であるという音楽科の性格を明らかにしたものです。

2　評価の観点及びその趣旨

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ，音や音楽に対する関心をもち，主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，解釈したり価値を考えたりして，よさや美しさを味わって聴いている。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

○　思考･判断したことを（言語）表現することとの違いを明確にするために，従前の「表現」という文言は「音楽表現」と改められました。ここでいう「音楽表現」とは，実際に「歌ったり，演奏したり，曲をつくったりして表す」ということになります。

○　これまでの「音楽的な感受や表現の工夫」の観点は，「音楽表現の創意工夫」として，表現領域における評価の観点となりました。

○　「鑑賞の能力」の観点は，文言の変更はありませんが，これまで「音楽的な感受や表現の工夫」で評価していた鑑賞における音楽的な感受の部分も合わせて，この観点で評価することとなりました。

3　学年別の評価の観点の趣旨

	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第1学年	音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽に対する関心をもち，主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，解釈したり価値を考えたりして，多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
第2・3学年	音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽に対する関心を高め，主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，ふさわしい音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を伸ばし，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，解釈したり価値を考えたりして，多様な音楽に対する理解を深め，味わって聴いている。

中学校音楽科における学習評価の進め方

1　評価規準の設定例と各観点の評価方法について

中学校音楽科の内容のまとまりごとの評価の観点は？

「A表現」歌唱・器楽・創作 ⇒ **【音楽への関心・意欲・態度】**
【音楽表現の創意工夫】
【音楽表現の技能】
の３観点について，学習状況を評価します。

「B鑑賞」 ⇒ **【音楽への関心・意欲・態度】**
【鑑賞の能力】
の２観点について，学習状況を評価します。

評価規準は，どうやって設定するの？

各学校において,評価規準を設定するに当たっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（以下，参考資料と表記）に示されている評価規準の設定例を活用するなどして，題材の指導のねらい，教材，学習活動等に応じて，学習状況を適切に評価することのできる評価規準を設定することが重要となります。題材によっては，複数の評価規準の設定例を参考にしながら，実際の指導に対応した評価規準を設定するなどの工夫も望まれます。

例えば,参考資料の評価規準の設定例を活用して,次のような手順で評価規準を設定することができます。

「赤とんぼ」の拍子，速度，旋律の音のつながり方やフレーズ，強弱に着目して，歌詞の内容や曲想を感じ取って歌う学習（学習指導要領の内容は，**第１学年の「A表現」(1)歌唱の事項ア**，**〔共通事項〕**のうち，**リズム（拍子），速度，旋律（音のつながり方，フレーズ），強弱**などを扱う。）について，その学習状況を**《音楽表現の創意工夫》**の観点で評価する場合は，

↓ 題材で取り扱う指導事項，〔共通事項〕を明確にしましょう。

参考資料の第２編に示されている「評価規準の設定例」（第２「Ⅰ　第１学年」３(1)【「A　表現・歌唱」の評価規準の設定例】）の中から，
《音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成など）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている》を参考にして，

↓ 題材の指導のねらい，教材，学習活動等に応じて加筆修正します。

《「赤とんぼ」の拍子，速度，旋律の音のつながり方やフレーズ，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている》のように設定することができます。

各観点における評価内容と評価を行うに当たっての留意点

【音楽への関心・意欲・態度】の評価

この観点は，生徒が学習内容や学習活動に興味・関心をもち，歌唱，器楽，創作，鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況を評価するものです。

挙手や発言の回数，授業態度の善し悪しや忘れ物の有無などだけで見るのではなく，その授業の指導のねらいや学習活動を踏まえて，学習の対象に対する関心や意欲がどうであるかということを評価するよう心掛けましょう。また，生徒の自己評価なども参考にすることは可能ですが，自己評価の結果がそのまま教師の評価にはなり得ないということには留意する必要があります。

この観点は，ある程度長い区切りの中において，適切な頻度で多面的に評価することが大切です。

【音楽表現の創意工夫】の評価

この観点は，生徒が音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成等）や要素同士の関連を知覚し，それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感受しながら音楽表現を工夫し，どのように音楽を表現するのか（歌うのか，演奏するのか，曲をつくるのか）ということについての思いや意図をもつことができているかといった学習状況を評価するものです。

この観点では必ずしも音楽表現を伴っていなくても，どのように音楽を表現したいのかといった思いや意図をもつことができていれば評価できるので，活動中の行動の観察やワークシートの記述などもその手掛かりとなります。また，題材構想において，個人やグループで音楽表現を工夫するような学習活動を確実に位置付けることが大切となります。学級の人数にもよりますが，学習活動中に全ての生徒の状況を把握することは難しいことが考えられますので，ワークシートの記述など授業後に評価できるような方法も位置付けて，行動の観察とワークシートの記述などを相互補完的に評価するなどの工夫が望まれるところです。

【音楽表現の技能】の評価

この観点は，生徒が実際に歌ったり，楽器を演奏したり，音楽をつくったりしている様子から，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて，実際に音楽を表現することができているかどうかといった学習状況を評価するものです。

この観点は実際に歌ったり演奏したりしている状況を評価する必要があります。したがって，評価するポイントを明確にした教師用チェックリストを準備するなどして，全ての生徒の状況を確実に把握するような工夫が大切となります。また，「タンギングができている」「運指をまちがえない」といったようなことも大切ですが，それだけで技能を評価するのではなく，その学習において創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能としてどのような技能があるかといった教師の見極めをしっかりと行うよう心掛けましょう。さらに，技能の習得が図られるには，相応の時間が必要であることを考えると，題材の後半に評価場面を位置付けるなどの工夫も必要となるでしょう。

【鑑賞の能力】の評価

この観点は，生徒が音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成等）や要素同士の関連を知覚し，それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想の関わり，音楽の多様性を感じ取ったり，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けたりしながら，解釈したり価値を考えたりして鑑賞しているかどうかといった学習状況を評価するものです。

この観点では，①生徒が音楽を形づくっている要素や構造（要素同士の関連と同義です）を知覚し，それらのはたらきによって生み出される特質や雰囲気を感受することができているかということと，②それらを支えとして，解釈したり価値を考えたりして鑑賞しているかということを評価することとなりますので，題材を構想する段階でこれら①と②について評価する場面を適切に位置付けることが大切です。また，鑑賞活動の評価では，生徒の発言やワークシートへの記述などによるところが大きくなります。したがって，適切に言語活動を位置付けることやワークシートに記述させる内容を十分に吟味することなどの工夫が必要です。「言葉で説明する」（第１学年），「根拠をもって批評する」（第２学年及び第３学年）などの活動が位置付けられていますが，その活動だけではなく，その活動に至るまでの授業で知覚・感受を支えとした学習を充実させることにも十分に留意してください。

具体的な評価方法例と留意点

■　観察

もっともよく使われる方法であり，いずれの観点の評価方法としても用いることが可能です。しかしながら，漠然と観察を行うのでは，主観的であったり，偏りがあったりすることも考えられます。例えば，「音楽への関心・意欲・態度」を評価するのか，「音楽表現の創意工夫」を評価するのかといった評価する観点を明確にしたり，どのような点についてチェックするのかといったことを事前に決めて，教師用チェックリストを作成しておいたりするなどの工夫が必要です。

■　ワークシートの記述（批評文の記述）

ワークシートの記述は，授業後に全ての生徒の学習状況について把握することが可能であり，学習活動の観察などと併用することで補完的に評価を進めることができます。また，「音楽表現の創意工夫」，「鑑賞の能力」の評価を進めるに当たっても，個人の状況を把握するための有効な手立てです。そのためには，学習のねらいに沿って，生徒が思考・判断したことを記述することができるようにワークシートを工夫することが大切です。また，鑑賞の学習においては，ワークシートに批評文を記述させることなども考えられますが，その際に，それまでの学習において自分が知覚・感受したことなどの学習履歴を記録に残すことができるようにしておくことが大切です。さらには，学習のねらいと照らし合わせて，批評文を評価する際の視点をあらかじめ明確にしておき，書いている量などのみで評価することがないように心掛ける必要があります。

■　演奏

個人またはグループで学習の成果を生かして演奏をする場面があります。特に「音楽表現の創意工夫」，「音楽表現の技能」の評価に当たっては，学習の成果を評価するのに適した場面です。しかしながら，その最終的な演奏の結果だけが全てということではなく，個々の生徒の実態に応じて，その結果に至るまでの学習活動の様子を十分に考慮するなどの配慮も必要です。また，この演奏において，学習のねらいに沿った演奏が

できるようにそれまでの形成的な評価とそれに基づく適切な指導が必要ということはいうまでもありません。

■　作品

創作学習においては，学習の成果としての生徒の作品を評価することとなります。創作分野の評価においては「音楽表現の創意工夫」と「音楽表現の技能」を分けて評価するところに難しさもありますが，学習活動において指導したことを踏まえて，その題材における創作学習の「音楽表現の技能」とは何かということなどをあらかじめ明確にしておくことが大切です。作品は五線譜に記したものだけでなく，演奏の録音などの場合も考えられますので，歌唱や器楽による音楽表現の技能ではなく，創作の音楽表現の技能を適切に評価するように心掛けておくことが必要です。

■　レポート　※

鑑賞学習などにおいては，作成したレポートなどを評価の対象とする場合も考えられます。ここでは，レポートを通して何を評価するのかということを明確にしておく必要があります。レポートの項立てを指示する際などに，音楽を自分が聴き取り，感じ取ったことと調査したこととを関連付けて，自分なりに解釈したり，価値を考えたりしたことを記述することができるような項を設定するなどの工夫をして，音楽科の学習における評価ができるように配慮することが必要です。単に調査した内容の詳しさやレポートの見栄えなどだけで評価するようなことがないようにすることが大切です。

■　ペーパーテスト　※

中学校では学期末などにテストを行うことが多いと思います。ペーパーテストは評価方法の一つとして有効ですが，ペーパーテストにおいて得られる結果が，目標に準拠した評価における学習状況の全てを表すものではないことについては，十分に認識しておく必要があります。テストの問題を作成する際は，観点別に作成し，その観点を評価する問題として適切であるかどうかを学習活動との関連を踏まえて，十分に吟味しておく必要があります。また，「知識・理解」に関する内容は出題しやすいのですが，音楽科における観点の中で，「知識・理解」に特化した観点はないことからも，「知識・理解」に関する内容を出題する際は，それらをどの観点に関わる評価として位置付けるのかなどについて明確にしておくことが大切です。さらに，可能であれば，放送などを利用して，実際に音や音楽を聴取して解答する問題を設定するなどの工夫ができればよいと思います。

■　実技テスト　※

題材の最後や学期末に実技テストを行うこともあると思います。「音楽表現の技能」や「音楽表現の創意工夫」の評価は，実際に音楽表現をさせる中で見取ることが望ましいと考えられます。しかしながら，安易に実技テストを行うのではなく，題材の学習の中での発表などを適切に位置付けるなどの工夫が必要です。実技テストを設定する場合は，その時間も授業であることを考えたときに，個々の生徒の音楽表現の技能や創意工夫のよさを学級全員で共有できるような配慮も必要であると考えます。「音楽表現の技能」の習得状況は，実技テストなどの演奏を通して評価することができますが，「音楽表現の創意工夫」はその限りではないということに配慮することが必要です。

学習評価において大切なことは，授業において教師が指導したことについて適切な場面を設定し，適切な方法で評価をするということです。そのためにも，※印を付けた評価方法だけに偏ることなく，毎時間の授業の中で計画的･継続的に評価を進めることが大切です。

中学校音楽科における学習評価事例　1

■　題材全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

本事例は，「大地讃頌」（大木惇夫作詞／佐藤真作曲）を教材として混声四部合唱に取り組む歌唱の題材です。学習指導要領の内容は，「A表現」(1)歌唱の指導事項ア，ウ，〔共通事項〕のうち，旋律，強弱，テクスチュアなどを扱います。

導入時において，教材曲を聴取し，感じ取ったことを基にしながら，歌詞の内容及び曲想に対する関心を高めるとともに音楽表現を創意工夫する視点をもたせます。その上で各パートの正しい音程とリズムで歌うことができるようにし，歌詞の内容や曲想を味わって，曲にふさわしい音楽表現を工夫し，声部と全体との関わりを理解して，それらを生かした音楽表現を工夫します。

ここでは，全６時間で題材を構成し，１単位時間に１つ～２つの評価規準を設定しています。

1　題材名　　混声四部合唱の響きを味わおう　　第３学年「A表現・歌唱」
教材名　「大地讃頌」（大木 惇夫 作詞/佐藤 真 作曲）

2　題材の目標

(1)　「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想，混声四部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち，音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。

(2)　「大地讃頌」の旋律，強弱，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を味わう，声部の役割と全体の響きとの関わりを理解するなどして，曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。

(3)　創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な発声，発音，呼吸法などの技能を身に付けて歌う。

3　題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想に関心をもっている。 ②「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想を生かし，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ③「大地讃頌」の混声四部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち，音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①「大地讃頌」の旋律，強弱，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ②知覚・感受しながら，「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ③知覚・感受しながら，「大地讃頌」の混声四部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し，どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	①「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声，発音，呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。 ②「大地讃頌」の混声四部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な発声，読譜の仕方などの技能を身に付けて歌っている。

※　各観点の評価規準は，「A表現」(1)歌唱の指導事項ア，ウ，〔共通事項〕のうち，旋律，強弱，テクスチュアに対応して設定しています。

※　音楽への関心・意欲・態度は，指導事項アに関わる評価規準を学習過程に合わせて，①と②に分けて示しています。

※　音楽表現の創意工夫は，指導事項ア，ウに関わる評価規準を知覚・感受と知覚・感受したことを基にした創意工夫の部分に分けて，①と②，③のように分けて示しています。

４　題材の指導と評価の計画（全６時間）

◆ねらい　○**学習内容**　・学習活動	評価規準	評価方法（◇）とその進め方
第１時　◆旋律，強弱，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，「大地讃頌」を聴取し，歌詞の内容に関心をもって主旋律の歌唱に取り組む。		
○**「大地讃頌」を聴いたり，主旋律を歌ったりして，旋律，強弱，テクスチュアを知覚・感受する。** ・「大地讃頌」のＣＤを聴き，印象や気付いたことなどを自由に話し合う。 ・主旋律を受け持っているパートを確認しながら，全員で主旋律を歌う。 ・旋律，強弱，テクスチュアに着目して，「大地讃頌」を聴き，気付いたことを学級で共有する。 ○**「大地讃頌」の歌詞の内容に関心をもって主旋律を歌う。** ・歌詞の内容を知る。 ・歌詞の内容を考えて，主旋律を歌う。 ・再び，「大地讃頌」のＣＤを聴き，歌詞の内容と，それを表現するために工夫されていると思うことを旋律，強弱，テクスチュアに着目してワークシート（以下，ＷＳと表記）に記述する。	《創－①》 《関－①》	《創－①》 ◇ワークシート 本時の学習を通して，旋律，強弱，テクスチュアを知覚・感受することができているかということを評価するので，授業の終末で記述するＷＳの記述内容を基に評価を行う。 《関－①》 ◇観察，ワークシート 歌詞の内容や曲想に関心をもつことができているかということを評価するので，学習過程における活動の観察や発言内容を基に評価を行うが，全ての生徒の評価が難しいことから，ワークシートに記述した歌詞の内容と工夫点も補完的に評価する。
第２時　◆「大地讃頌」の歌詞や曲想に関心をもって，自分が担当するパートの旋律を歌う。		
○**「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をすることに関心をもって，自分が担当するパートの旋律を歌う。** ・各声部の読譜の仕方を知る。 ・前時の学習を踏まえて，自分が担当するパートを歌う際に工夫できそうなことを考え，ＷＳに記述する。 ・パートに分かれて自分が担当するパートを正しい音程とリズムで歌う。 ○**「大地讃頌」の前半（18 小節目まで）を混声四部合唱で合わせて歌う。** ・最初にＷＳに記述したことを意識して，前半部分の歌唱活動に取り組む。 ・歌唱活動の後に，実際に歌ってみてさらに工夫できそうと思ったことを最初のＷＳに書き加える。	《関－②》	《関－②》 ◇ワークシート，観察 授業の前半でＷＳに記述する内容と授業の終末で書き加えた内容を合わせて評価する。「音楽への関心・意欲・態度」を評価するので，内容の適切さだけではなく，音楽表現を工夫する活動に対する意欲の表れや記述の量なども含めて判断する。また，授業中の観察において，歌詞の内容と曲想を生かして主体的に音楽表現の工夫に取り組んでいる姿が見られた生徒についてはそのことも考慮する。
第３時　◆発声や読譜の仕方を身に付け，「大地讃頌」の自分が担当する声部の役割を考えながら，自分が担当するパートを歌う。		
○**「大地讃頌」の声部の役割を考えながら，自分が担当するパートの旋律を歌う。** ・各パートの発声の仕方について知る。 ・パートに分かれて，発声に気を付けながら，自分が担当するパートを正しい音程とリズムで歌う。 ○**「大地讃頌」の後半部分（27 小節から最後まで）を混声四部合唱で合わせて歌う。** ・他のパートとの関わりを意識しながら，後半部分の歌唱活動に取り組む。	《技－②》	《技－②》 ◇観察（教師用チェックリスト） 前時に指導した読譜の仕方や本時に指導した発声の仕方などが身に付いているかを評価する。特に「十分満足できる」状況（Ａ）と「努力を要する」状況（Ｃ）の生徒の評価に努め，後者については併せて，適切な指導も行う。
第４時　◆発声，発音，呼吸法などの技能を身に付け，歌詞の内容や曲想を味わって，曲にふさわしい音楽表現を工夫しながら「大地讃頌」を混声四部合唱で合わせて歌う。		
○**「大地讃頌」の音楽を形づくっている要素を知覚・感受し，歌詞の内容や曲想を味わって，曲にふさわしい音楽表現を追求する。** ・「大地讃頌」の歌唱活動を通して，感じ取ったこと，どのように歌うかなどについてパートで意見交換をする。	《創－②》 《技－①》	《創－②》 ◇ワークシート パートでの意見交換や表現を工夫する活動を行ったことを踏まえて，個人でＷＳに記述した内容を評価する。

・ＣＤを聴いて参考にしたり，歌ったりしながら曲にふさわしい音楽表現を工夫する。（パート） ・感じ取ったことやどのように歌うかについての思いや意図，特に表現を工夫するポイントとその理由をＷＳに記述する。（個人） **○曲にふさわしい音楽表現を工夫しながら「大地讃頌」を混声四部合唱で合わせて歌う。** ・パートで意見交換したことや個人でＷＳに記述したことを基に，学級全体で意見交換しながら，音楽表現を工夫する。 ・曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声，発音，呼吸法などの技能を確認しながら合わせて歌う。		《技－①》 ◇観察（教師用チェックリスト） 発声，発音，呼吸法など，「大地讃頌」の歌唱活動に関わって指導したことが身に付いているかを評価する。特に「十分満足できる」状況（A）と「努力を要する」状況（C）の生徒の評価に努め，後者については併せて，適切な指導も行う。
第５時　◆声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち，「大地讃頌」の混声四部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して，音楽表現を工夫しながら歌う。		
○「大地讃頌」の混声四部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち，関わりを理解して音楽表現を追求する。 ・声部の役割と全体の響きとの関わりについて，楽譜を見ながら確認する。 ・確認したことを踏まえて，音楽表現の工夫ができそうなことを考え，ＷＳに記述する。（個人） ・個人でＷＳに記述したことを基に，意見交換をし，さらにアイディアを広げて，自分のＷＳに書き加える。（パート） **○音楽表現を工夫しながら「大地讃頌」を混声四部合唱で合わせて歌う。** ・パートでの意見交換を踏まえて，学級全体で音楽表現の工夫を共有し，実際に歌って試す。 ・混声四部合唱での歌唱活動を通して，声部の役割と全体の響きとの関わりを踏まえて，自分が音楽表現の工夫をできたと思うことや，次時に向けてさらに工夫しようと思うことをＷＳに記述する。（個人） 	《関－③》 《創－③》	《関－③》 ◇ワークシート，観察 声部の役割と全体の響きとの関わりについて理解を深めた上で，ＷＳに記述したことを評価する。授業の前半における個人の記述とパートでの意見交換を踏まえて書き加えた記述を評価する。「音楽への関心・意欲・態度」を評価するので，内容の適切さだけではなく，音楽表現を工夫する活動に対する意欲の表れや記述の量なども含めて判断する。また，授業中の観察において，声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもって，主体的に音楽表現の工夫に取り組んでいる姿が見られた生徒についてはそのことも考慮する。 《創－③》 ◇ワークシート 本時の学習を通して，授業の終末に記述した内容を評価する。ここでは「音楽表現の創意工夫」を評価するので，実際に音楽表現の工夫ができたかどうかではなく，本時にどのように歌ったのか，また，次時にどのように歌いたいのかということについての思いや意図をもっているかを評価する。
第６時　◆発声，発音，呼吸法，読譜の仕方などの曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて，「大地讃頌」を混声四部合唱で合わせて歌う。		
○「大地讃頌」をどのように歌うかについての思いや意図を再確認する。 ・これまでの学習を振り返って，取り組んできた音楽表現の工夫をパートで確認しながら歌う。 **○「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想を味わうとともに，混声四部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して，混声四部合唱で合わせて歌う。** ・パートで確認したことを紹介し合う。 ・混声四部合唱で合わせて歌い，録音をする。 ・録音した合唱を聴き，そのよさなどを学級で共有する。	《技－①》 《技－②》	《技－①》《技－②》 ◇観察（教師用チェックリスト） 第３・４時に，「努力を要する」状況（C）にあった生徒を中心に評価する。また，「おおむね満足できる」状況（B）の生徒についても技能の向上が見られれば評価結果を修正する。

中学校音楽科における学習評価事例　2

■　「音楽表現の技能」と「音楽表現の創意工夫」の評価の進め方が分かる事例

本事例は，「おやおやおやさい」（石津ちひろ　文／山村浩二　絵　福音館書店）という絵本を教材とした創作の題材の第２時〈全３時間〉を示しています。学習指導要領の内容は，「Ａ表現」(3)創作の指導事項ア，〔共通事項〕のうち，リズム，旋律，構成などを扱います。

「おやおやおやさい」のテキストを選択し，言葉の特徴やハ長調の音階の特徴を感じ取り，表現を工夫して簡単な旋律をつくります。

ここでは，全３時間で題材を構成し，１単位時間に１つ～２つの評価規準を設定しています。

１　題材名　　言葉の特徴を感じ取って旋律をつくろう　　第１学年「Ａ表現・創作」

教材名　「おやおやおやさい」（石津ちひろ　文　/　山村浩二　絵）

２　題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①言葉のアクセントやリズム，ハ長調の旋律，構成（反復）などの特徴に関心をもち，それらを生かして音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①リズム，旋律，構成（反復）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，言葉のアクセントやリズム，ハ長調の旋律，構成（反復）などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①言葉のアクセントやリズム，ハ長調の旋律，構成（反復）などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な音の組合わせ方，記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。
※ 第1時から第2時にかけて評価する。	※ 第2時から第3時にかけて評価する。	※ 第3時に完成した作品で評価する。

本題材の第１時は，絵本を音読し，絵本の内容をイメージし，言葉のアクセントやリズムを感じ取ります。さらに，言葉のもつリズムやアクセント，ハ長調の音階の特徴，反復などの構成について理解した上で，旋律創作に取り組みます。（階名とリズム呼称で記録に残します）第２時は，引き続き，旋律創作に取り組むとともに，記譜の仕方を確認し，できた作品を五線譜に記譜します。第３時は，できた作品を学級で紹介し合い，よさを共有します。

３　本時の目標

○　言葉のアクセントやリズム，ハ長調の旋律，構成（反復）などの特徴に関心をもって，簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組む。

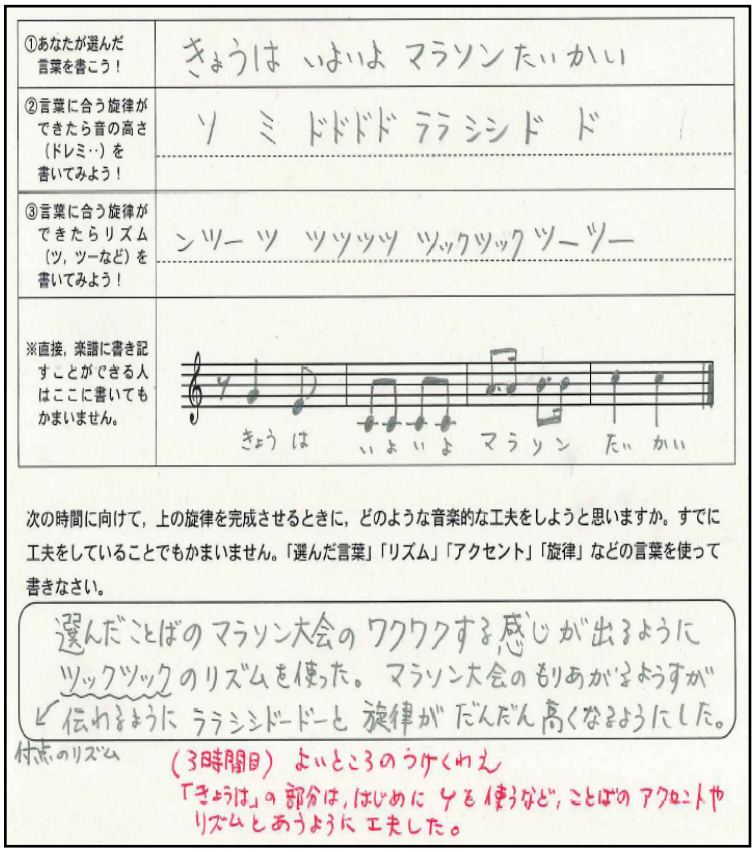
○　知覚・感受しながら，言葉のアクセントやリズム，ハ長調の旋律，構成（反復）などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。

４　本時（２／３）の指導と評価の計画

○学習内容　・学習活動	評価方法（◇）とその進め方
○前時に引き続き，音楽表現を工夫して旋律創作に取り組む。 ・旋律をつくるときのポイントとして，以下の３点を再確認する。 ①言葉がもっているアクセントやリズムをできるだけ生かす。 ②ハ長調の音階の構成音の確認と作品の終わりに終止感をもたせる。 ③反復などの構成を生かす。 ・アルトリコーダーや鍵盤楽器などで実際に音を出しながら，自分が選んだ絵本の言葉に合う旋律をつくり，ワークシート	《関－①》 ◇観察 この評価規準は，第１時から第２時（本時）にかけての創作活動の様子の観察により，評価する。 前時では，主に「十分満足できる」状況（Ａ）にある生徒と「努力を要する」状況（Ｃ）にある生徒を把握していることを前提として，本時では，特に，前時に「努力を要する」状況（Ｃ）にあると判断された生徒を中心に適

（以下，ＷＳと表記）に階名とリズム呼称で記録する。 **○記譜の仕方について理解し，つくった作品を五線に記譜する。** ・リズム呼称と音符の対応（例：ツ＝♪）について理解する。 ・記録した階名とリズム呼称を基に，自分の作品をＷＳの五線譜に記譜する。 **○つくった作品を紹介し，自分の作品をつくるときに工夫した点をＷＳに記述する。** ・グループでお互いに作品を紹介し合い，自分の作品のよさやグループのメンバーの作品のよさについて意見交換をする。 ・リズム，旋律，構成（反復）に着目して，自分が選んだ言葉にふさわしい旋律をつくるために工夫したことを，ＷＳに記述する。	切な指導を行い，少なくとも，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）にあると評価することができるように努める。 《創－①》 ◇作品とワークシートの記述 ＷＳに，リズム，旋律，構成（反復）に着目して，自分の作品のよさや工夫点を記述しており，そのことが作品から読み取ることができるかを評価する。 この評価規準については第２時から第３時にかけて評価することから，第３時の作品発表とよさや工夫点についての意見交換を経て，ＷＳに書き加えた内容も含めて評価する。

第３時が終了した後の 生徒ａのワークシート



①あなたが選んだ言葉を書こう！	きょうは いよいよ マラソンたいかい
②言葉に合う旋律ができたら音の高さ（ドレミ‥）を書いてみよう！	ソ ミ ドドドド ララシシド ド
③言葉に合う旋律ができたらリズム（ツ，ツーなど）を書いてみよう！	ンツーツ ツツツツ ツックツックツーツー
※直接，楽譜に書き記すことができる人はここに書いてもかまいません。	きょうは いよいよ マラソン たいかい

次の時間に向けて，上の旋律を完成させるときに，どのような音楽的な工夫をしようと思いますか。すでに工夫をしていることでもかまいません。「選んだ言葉」「リズム」「アクセント」「旋律」などの言葉を使って書きなさい。

選んだことばのマラソン大会のワクワクする感じが出るように
ツックツックのリズムを使った。マラソン大会のもりあがるようすが
伝わるように ララシシドードーと旋律がだんだん高くなるようにした。

付点のリズム

（3時間目）よいところのうけくめえ
「きょうは」の部分は，はじめに ♩ を使うなど，ことばのアクセントやリズムとあうように工夫した。

《音楽表現の創意工夫》の評価

リズム，旋律，構成（反復）に着目して，自分の作品のよさや工夫点を２点以上記述しており，そのことが作品から読み取ることができるものを**「おおむね満足できる」状況（Ｂ）**と判断する。

生徒ａのワークシートは，わくわくした感じを出すために付点のリズムを用いたことと盛り上がる様子を出すためにラシドという上行する旋律を用いたことが記されており，そのことは楽譜からも読み取れる。さらに，第３時の作品発表と意見交換を経て，「きょうは」の部分の音高やリズムが言葉のアクセントやリズムに合うように工夫していることを付け加えており，そのことは楽譜からも読み取ることができる。したがって，**「十分満足できる」状況（Ａ）**と判断した。

《音楽表現の技能》の評価

旋律をつくるときのポイントとして指導した３点のうち，２点以上が楽譜から読み取ることができ，楽譜の決まりに則っておおむね正確に五線譜に記譜できているものを**「おおむね満足できる」状況（Ｂ）**と判断する。

生徒ａのワークシート（作品）は，ポイントの中で，①言葉のもっているアクセントとリズムを生かしている。②ハ長調にふさわしい終止感をもたせている。③同じリズムの繰り返しによる反復などの構成を工夫している。さらに，楽譜の決まりに則って正確に五線譜に記譜できている。したがって，**「十分満足できる」状況（Ａ）**と判断した。

中学校音楽科における学習評価事例　3

■　「音楽への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」の評価の進め方が分かる事例

本事例は，「魔王」（シューベルト作曲／ゲーテ作詞／大木惇夫，伊藤武雄共訳）を教材とした鑑賞の題材の第２時〈全３時間〉を示しています。学習指導要領の内容は，「Ｂ鑑賞」の指導事項ア，〔共通事項〕のうち，音色，リズム，旋律，強弱などを扱います。

音色，リズム，旋律，強弱の知覚・感受を深め，それらを意識しながら，登場人物に着目して，物語の様子を表現するためにシューベルトが工夫していることや歌手が表現を工夫していることを考えながら聴きます。さらに，物語と音楽との関わりについて解釈したり価値を考えたりし，それを言葉で表して，音楽のよさや美しさを味わう学習を展開します。ここでは，全３時間で題材を構成し，１単位時間に１つ～２つの評価規準を設定しています。

１　題材名　　物語と音楽との関わりを探ろう　　第１学年「Ｂ鑑賞」　　教材名「魔王」

２　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①「魔王」の音楽を形づくっている音色（声色），リズム，旋律，強弱や構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組んでいる。	①「魔王」の音楽を形づくっている音色（声色），リズム，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ②知覚・感受しながら，「魔王」の音楽を形づくっている要素や構造との関わりを感じ取って，解釈したり価値を考えたりし，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

※ 第1時，第2時を通して評価する。　　※ 鑑①を第1時，鑑②を第2時と第3時に評価する。

本題材の第１時は，「魔王」の全体を通して聴き，音色（声色），リズム，旋律，強弱を知覚・感受しながら，物語の内容や登場人物の心情などについての理解を深めます。第２時は，物語の内容や登場人物の心情を音楽で表現するためにシューベルトが工夫していることを第１時に知覚・感受したことと関連付けて考えます。第３時は，音色（声色），強弱に着目して，歌手の表現の工夫について考えた上で，物語と音楽との関わりという視点から，シューベルトの「魔王」の魅力についての紹介文を書き，よさや美しさを味わって聴きます。

３　本時の目標

○　「魔王」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組む。

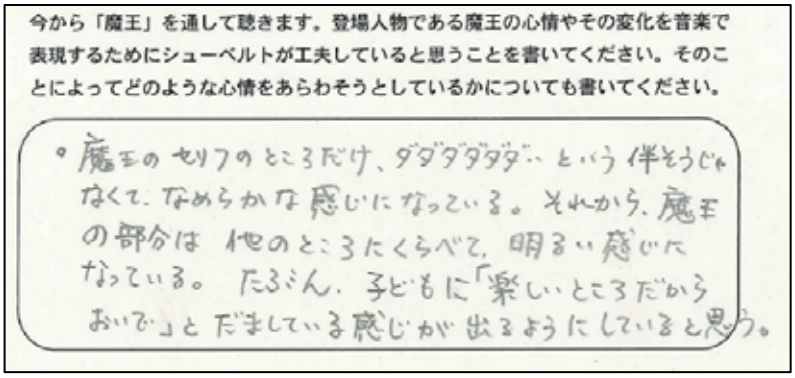
○　知覚・感受しながら，「魔王」の音楽を形づくっている要素や構造との関わりを感じ取って，物語と音楽との関わりについて解釈しながら聴き，よさや美しさを味わう。

４　本時（２／３）の指導と評価の計画

○学習内容　・学習活動	評価方法（◇）とその進め方
○「魔王」の音楽を形づくっている要素に着目しながら，物語の内容や登場人物の心情を音楽で表現するためにシューベルトが工夫していることを考える。 ・前時に「魔王」の前奏や楽曲全体を通して聴き，知覚・感受したことをワークシート（以下，ＷＳと表記）の記述を読み返して確認する。 ・前時に語り手と登場人物（父，子，魔王）の心情（とその変化）について，学級全員で考えたことを，ＷＳの記述を読み返して確認する。 ・前時に語り手と登場人物（父，子，魔王）の心情（とその変化）について，学級全員で考えたことを，ＷＳの記述を読み返して確認する。	《関－①》 ◇ワークシート，観察 「魔王」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞学習に主体的に取り組んでいるかということを評価するので，（第１時も含めた）ＷＳへの記述の状況を評価する。「音楽への関心・意欲・態度」を評価するので，内容の適切さだけではなく，グループや学級全体で共有したことを赤ペンで書き加えている状況，記述の量なども含めて評価する。また，授業中の観察により，積極的に意見交換をしている姿などがみられた生徒についてはその点も考慮して，観察による評価も補完的に扱う。

○**学習内容**　・学習活動	評価方法（◇）とその進め方
・物語の内容や，語り手と登場人物の心情やその変化を音楽で表現するために，シューベルトが曲をつくるときに工夫していると思うことを考えながら「魔王」を聴き，**語り手**と**父**，**子**についての気付いたことをＷＳにメモする。（個人） 予想される気付き ・全体的に父の声が低く，子の声が高くなっている。 ・子の焦る気持ちが伝わるように，声がだんだん高くなっている。 ・最後の語り手の部分の伴奏がゆっくりとなって，宿に着いた感じになっている。	この観点については，第１時と第２時を通して評価するので，例えば，次のような方法が考えられる。 ①第１時では，全体を把握しながら，特に「十分満足できる」状況（A）にある生徒と「努力を要する」状況（C）にある生徒の把握に努める。「努力を要する」状況（C）にある生徒については適切な指導を行う。 ②第２時では，前時に「努力を要する」状況（C）にあった生徒を中心に再度，評価をするとともに，第１時では，「おおむね満足できる」状況（B）にあった生徒についても，意欲の高まりが見られれば，評価結果を「十分満足できる」状況（A）に修正する。
・気付いたことについて，友達と自由に意見交換をして，新たな気付きについてはＷＳに赤ペンで書き加える。（ペアまたはグループ） ・気付いたことを学級で出し合い，シューベルトが工夫していることについて共有化を図る。（全体） ・再度，「魔王」を通して聴き，本時の学習において出た気付きを確認する。	《鑑－②》 グループまたはペアによる意見交換や学級内での共有化を図る場面において，教師は形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行い，終末のＷＳ記述において，全ての生徒が少なくとも，「おおむね満足できる」状況（B）以上となるようにすることが大切である。 例えば，シューベルトが工夫していることについての気付きについては，必要に応じて，同じ登場人物の部分だけを編集した音源で確認させることや，楽譜上で実際に音高やリズムなどに印を付けさせるなどして視覚的に確認させることなどの工夫を行うことが考えられる。
・本時では取り扱わなかった登場人物である**魔王**に着目して，「魔王」を聴取し，魔王の心情とその変化を音楽で表現するためにシューベルトが工夫していると思うことをＷＳに記述する。（個人）**→本時の記録に残す評価の資料** ※第３時の最初にこの記述内容についても，学級内で共有化を図り，第３時における学習に生かすようにする。	◇ワークシート （授業の終末で魔王の心情やその変化を音楽で表現するためにシューベルトが工夫していると思うことの記述） 「おおむね満足できる」状況（B） シューベルトが工夫していること（リズム，旋律，強弱や構造）とそのことによってどのような心情が表されているか（曲想）を１つ記述している。

生徒ｂのワークシートの記述


今から「魔王」を通して聴きます。登場人物である魔王の心情やその変化を音楽で表現するためにシューベルトが工夫していると思うことを書いてください。そのことによってどのような心情をあらわそうとしているかについても書いてください。

・魔王のセリフのところだけ、ダダダダダダ…という伴そうじゃなくて、なめらかな感じになっている。それから、魔王の部分は他のところとくらべて、明るい感じになっている。たぶん、子どもに「楽しいところだからおいで」とだましている感じが出るようにしていると思う。

生徒ｂのＷＳでは，「ダダダダダダ･･･という伴奏じゃなくてなめらかな感じになっている」という記述から魔王のセリフの部分の伴奏形の変化に気付いていることが読み取れる。（リズム）また，「明るい感じになっている」という記述から，調性の変化（短調→長調）に気付いていることが読み取れる。（旋律）これら２つのことに気付いており，さらに，そのことは「魔王が子どもをだましている感じが出るように」という魔王の心情についても記述している。

以上のことから，生徒ｂの鑑－②の評価については，「十分満足できる」状況（A）であると判断した。

中学校音楽科における学習評価の進め方　Ｑ＆Ａ

Ｑ　これまで，題材の評価規準とは別に，それを更に具体化した評価規準を設定していましたが，それではいけないのですか？

Ａ　「題材の評価規準」を設定した上で，必要に応じて，題材の評価規準を更に具体化した「学習活動に即した評価規準」を設定することも考えられます。しかしながら，その際に，「題材の評価規準」と「学習活動に即した評価規準」との間にずれが生じて，適切な評価が行われていなかったことや，設定する作業が大変であったことなどの課題もありました。そこで，そのような課題を解決するために，題材の評価規準を実際の評価規準として用いる方法を示しています。学習評価の妥当性を高めるためには，評価しようとした目標と評価結果に適切な関連があることが大切です。具体化した評価規準を設定する際には，その点に十分に配慮することが必要です。

Ｑ　これからは１単位時間に１回または２回程度，評価を行えばよいということですか？

Ａ　これまでは，指導に生かすための形成的な評価と通知表や指導要録などのために記録に残す評価を混同して，１単位時間に数多くの評価規準を設定している場合が多く見られました。その結果，１単位時間の中で，個々の生徒の学習状況を確実に評価できていなかったことも多かったと思います。これからは，通知表や指導要録などのために記録に残す評価については，１単位時間に１回または２回程度でよいかわりに，設定した評価規準については，確実に個々の生徒の学習状況を評価し，記録に残すことが必要となります。その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価にもなりますので，すべての生徒が，最低でも「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断できるようにしたいものです。そのためには，従来までのように，それまでの学習過程における生徒の学習状況を形成的に評価し，それに基づく適切な指導を行うことが必要ということはいうまでもありません。

Ｑ　１単位時間の中で，全ての生徒の学習状況を評価するのは難しいと思いますが，何かよい工夫はないでしょうか？

Ａ　１単位時間の中で，全ての生徒について評価を行うのは確かに難しいと思います。「音楽表現の創意工夫」や「鑑賞の能力」などの観点については，授業の終末などでワークシートに記述させるなどして，その記録をもって評価することなどの方法をとることも考えられます。ワークシートやノートの記述，作品，レポートなど，授業後に教師が確認しながら評価を行うことができる方法と，授業中の見取りを適切に組み合わせるなどして，学級全員の学習状況を無理なく適切に見取ることが大切です。また，「音楽表現の技能」や「音楽への関心・意欲・態度」などの観点については，実際の学習場面や音楽表現をしている場面を観察したり，聴取したりして評価することが中心となりますので，例えば，２時間を通して評価を行うような計画を設定したり，できるだけ簡便な教師用チェックリスト（右の資料）などを準備して，計画的に評価を進めるなどの工夫が大切となります。

アルトリコーダーの学習における「音楽表現の技能」教師用チェックリスト　例

チェック項目	構え方	タンギング	ブレス	サミング	気付き
生徒氏名１	←				指を見ながら吹いている。
生徒氏名２	レ	レ	レ	レ	
生徒氏名３	レ			←	すき間が広すぎてシがうまく出ない。
生徒氏名４	レ		レ		

※　チェックの仕方
よくできている・・・・・・・・・・・・・レとチェックする。
おおむねよくできている・・・・・・空欄とする。
改善の必要あり・・・・・・・・・・・・気付きの欄に、つまずいている点などをメモする。

Q　収集した評価の記録を総括するにはどのようにしたらよいですか？

A　収集した評価の記録を総括する場合には次のような２つの場合が考えられます。

①　一つの題材の中で，複数設定した評価規準の評価結果を総括する場合

②　学期末や年度末において，複数の題材における評価結果を総括する場合

①の場合に関わっては，例えば，右の表のように評価規準を設定して授業を行ったとすると，「音楽への関心・意欲・態度」及び「音楽表現の創意工夫」について，それぞれ《評価規準①》と《評価規準②》の評価結果が得られることとなります。このときに，２つの評価結果が異なる場合は，それぞれの観点について，次のア，イ，ウのような総括の仕方が考えられます。

《本題材のおおまかな流れ》
「夏の思い出」と「浜辺の歌」を歌い比べて、それぞれの歌詞や曲想に関心をもち、音楽を形づくっている要素を知覚・感受することに重点を置いて、「夏の思い出」の歌唱に取り組む。さらに、「夏の思い出」の学習を生かしながら、「浜辺の歌」の音楽表現を創意工夫し、曲にふさわしい表現で主体的に歌唱する。

題材における評価		評価の観点			評価の回数
時	主な学習活動	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	
1	「夏の思い出」「浜辺の歌」の歌詞、曲想などに関心をもつ。	評価規準① 学習内容への関心等			1
2	音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、「夏の思い出」を歌唱する。		評価規準① 主に要素の知覚・感受		1
3	前時の学習を生かして、「浜辺の歌」の音楽表現を創意工夫する。		評価規準② 主に知覚・感受に基づく表現の工夫等		1
4	曲にふさわしい表現で主体的に「浜辺の歌」を歌唱する。 題材全体の学習を振り返る。	評価規準② 主体的な取り組み 学習全体への関心等		評価規準① 創意工夫したことを生かして歌唱する技能	2

ア　《評価規準①》,《評価規準②》が順に「A，B」「B，A」「B，C」「C，B」の場合は，学習の深まりや向上などを考慮した上で,《評価規準②》の評価結果を総括の評価結果とする。

イ　《評価規準①》が「A」,《評価規準②》が「C」の場合は,「B」と総括する。

ウ　《評価規準①》が「C」,《評価規準②》が「A」の場合は，学習が進むにつれて《評価規準①》に関わる学習状況に改善等が見られれば「A」と総括する。

②の場合に関わっては，例えば，右の表のような総括の仕方などが考えられます。この例では,「A」の数と「B」の数が同数であった場合は，学期や年間を見通した総括を「A」とするという考え方をとっていますが，この他にも，題材の目標，指導内容，取り扱う時数などを勘案した上で，特に重視することが妥当と考えられる題材の評価結果に重み付けを行うなど，総括には様々な方法がありますので，各学校において工夫することが必要です。

第3学年　2学期の題材における総括例

〈領域・分野〉 題材名（取扱い時数）	題材の概要 （主に取り扱う教材）	学習要領の内容	評価の観点			
			関	創	技	鑑
〈表現・歌唱〉 歌詞の内容を思い浮かべ，曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう（3時間）	歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う。 （「荒城の月」）	歌唱ア 〔共通事項〕リズム，速度，旋律，強弱	B	B	A	
〈鑑賞〉 歌舞伎の魅力を探ろう（3時間）	要素や構造と曲想との関わり，他の芸術との関連を理解して鑑賞する。 （歌舞伎「勧進帳」より）	鑑賞ア，イ 〔共通事項〕音色，旋律，強弱	B			A
〈表現・器楽〉 速度や音の重なりを工夫してアルトリコーダーアンサンブルをしよう（4時間）	曲想を味わい，声部の役割を理解して，速度などの表現の工夫をしながら合わせて演奏する。 （「さとうきび畑」） リコーダーアンサンブルに編曲	器楽ア，ウ 〔共通事項〕音色，速度，旋律，テクスチュア	A	B	C	
〈表現・創作，鑑賞〉 箏曲に親しみ，箏のための旋律をつくろう（5時間）	箏の音色，奏法などの特徴を捉え，構成を生かして箏のための旋律をつくるとともに，箏曲を味わって聴く。 （箏曲「六段の調」）	創作ア，鑑賞ア，イ 〔共通事項〕音色，速度，旋律，構成	A	A	B	B
上記の４題材の結果を総括した例			A	B	B	A

〔関:「音楽への関心・意欲・態度」，創:「音楽表現の創意工夫」
技:「音楽表現の技能」，鑑:「鑑賞の能力」〕

この他にも，評価結果を蓄積する際に，例えば，A＝３，B＝２，C＝１などのように点数化しておいて，それらを算出して総括する方法や，個々の評価結果を点数化するなどして蓄積しておき，学期単位でまとめて総括するなどの方法が考えられます。これらのことについては，各学校において十分に検討する必要があると思います。また，評価に対する妥当性や信頼性を高めるために，学校内での情報交換を行うことや，必要に応じて，教師間の共通理解を図り，生徒及び保護者に十分に説明を行うことも大切です。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の設定，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（中学校　美術科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校美術科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校美術科における学習評価の進め方
4　中学校美術科における学習評価事例
5　中学校美術科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・表現」
「技能・表現」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校美術科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

１　教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，美術の基礎的な能力を伸ばし，美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

「美術文化についての理解を深め」という内容が追加され，我が国の美術文化に関する鑑賞を通して美術文化についての理解を深めることが求められています。

２　評価の観点及びその趣旨

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し，よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて，表現の技能を身に付け，意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて，美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり，美術文化を理解したりしている。

※下線部は改訂のポイントとなる部分であり，教育センターによる。

○「発想や構想の能力」の観点の趣旨では，従前の「構想をする」が「構想を練っている」に改訂され，構想を練っている過程が重視されています。
○「創造的な技能」の観点の趣旨では，意図に応じて表現方法などを創意工夫し表すことが重視されています。
○「鑑賞の能力」の観点の趣旨では，「美術文化を理解したりしている」が追加され，知識的に鑑賞するだけで終わらず，過去の作品の特質に気付き，伝統や文化に対する理解を深めることが重視されています。

３　学年別の評価の観点の趣旨

	美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第１学年	美術の創造活動の喜びを味わい，表現や鑑賞の能力を身に付けるために，主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて，感じ取ったことや考えたこと，目的や機能などを基に豊かに発想し，形や色彩の構成などを工夫し，心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて，形や色彩などの表し方を身に付け，意図に応じて材料や用具を生かしたり，制作の順序などを考えたりし，創意工夫して表している。	感性や想像力を働かせて，造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫，生活の中の美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり，美術文化の特性やよさに気付いたりしている。
第２・３学年	美術の創造活動の喜びを味わい，表現や鑑賞の能力を高めるために，主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて，対象を深く見つめ，感じ取ったことや考えたこと，目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし，形や色彩などの効果を生かし，心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて，材料や用具の特性を生かし，表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり，制作の順序などを総合的に考えたりするなどし，創意工夫して創造的に表している。	感性や想像力を働かせて，造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり，生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。

中学校美術科における学習評価の進め方

中学校美術科の内容のまとまりごとの評価の観点

「Ａ表現・内容（１）（３）感じ取ったことや考えたことの表現」　・・・・・・＜絵画・彫刻＞
「Ａ表現・内容（２）（３）目的や機能の表現」　・・・・・・＜デザイン・工芸＞

【美術への関心・意欲・態度】【発想や構想の能力】【創造的な技能】の３観点について，学習状況を評価します。

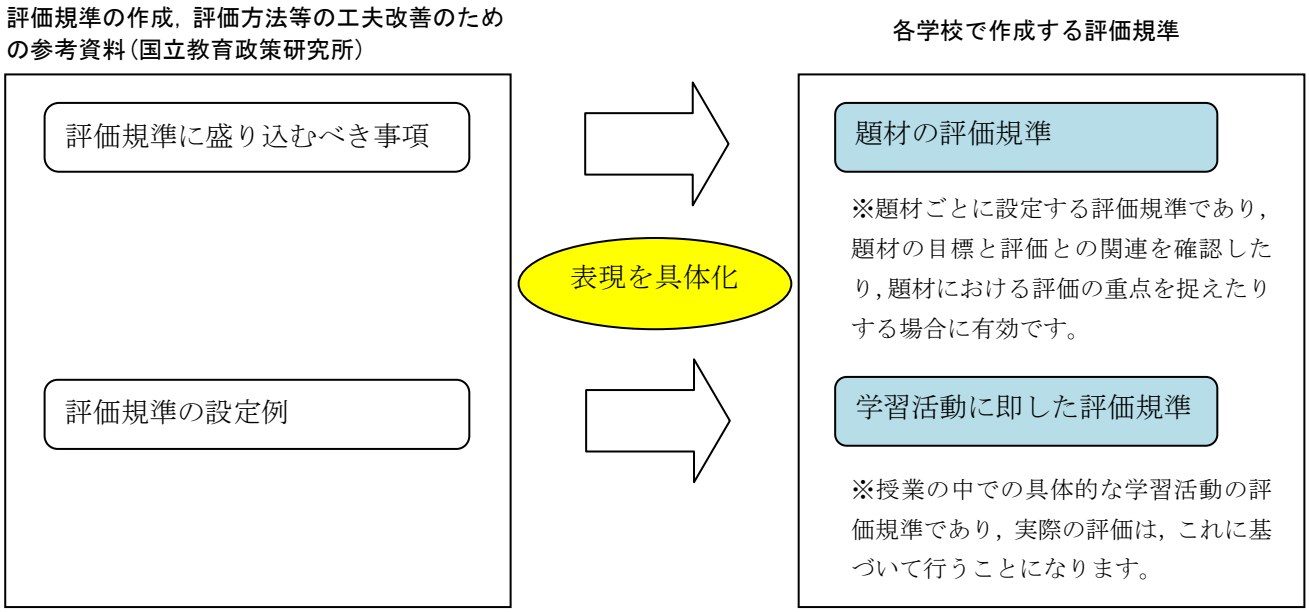
「Ｂ鑑賞」

【美術への関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】の２観点について，学習状況を評価します。

※「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の両方を含んだ題材を設定する場合は，４つの観点の全てを評価することになります。また，「美術への関心・意欲・態度」は，表現と鑑賞の両方に位置付けることになります。

評価規準設定の進め方

各学校において評価規準を設定するに当たっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（以下，参考資料と表記）を基に，題材の内容に応じて「評価規準に盛り込むべき事項」と「評価規準の設定例」の記述を具体化することが考えられます。



※各学校で設定する「題材の評価規準」は，指導する学年や指導事項と照らし合わせて，参考資料の該当する「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして設定します。同様に，各学校で設定する「学習活動に即した評価規準」は，参考資料の「評価規準の設定例」を参考にして設定します。

具体的には，次に示すような手順で評価規準を設定していきます。ここでは「発想や構想の能力」の評価規準を設定してみましょう。

＜第２学年及び第３学年の観点：「Ａ表現・内容（１）（３）感じ取ったことや考えたことの表現」の例＞

①「題材の評価規準」を設定します。

【発想や構想の能力】

「評価規準に盛り込むべき事項」

感性や想像力を働かせて，対象を深く見つめ感じ取ったこと，考えたこと，夢，想像や感情などの心の世界などを基に，主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かな表現の構想を練っている。

題材の内容に合わせて下線部を変更しています。

設定する「題材の評価規準」（題材「１５歳の私」想像画）

感性や想像力を働かせて，１５歳になる今の自分の思いや夢などを基に，主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かな表現の構想を練っている。

②「学習活動に即した評価規準」を設定します。

【発想や構想の能力】

「評価規準の設定例」

・対象を深く見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，考えたことなどを基に，主題を生み出している。

※題材が想像画なので，上記の設定例は使用していません。

・イメージを膨らませて夢，想像や感情などの心の世界などを基に，主題を生み出している。

・主題などを基に想像力を働かせ，形や色彩の効果を生かして単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かな表現の構想を練っている。

①は題材の内容に合わせて下線部を変更しています。

②は「評価規準の設定例」をそのまま使っています。

設定する「学習活動に即した評価規準」（題材「１５歳の私」想像画）

①イメージを膨らませて１５歳になる今の自分の思いや夢などを基に，主題を生み出している。

②主題などを基に想像力を働かせ，形や色彩の効果を生かして単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かな表現の構想を練っている。

各観点における評価内容と評価を行うに当たっての留意点

【美術への関心・意欲・態度】の評価

この観点は，生徒が学習内容や学習活動に興味・関心をもち，表現や鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況を評価するものです。

表現活動では，発想や構想を練るためにアイデアスケッチを繰り返し描いたり，創造的な技能を働かせるために絵の具の混色や塗り方を工夫したりするような能動的な姿が授業の中で表れることがあります。鑑賞活動では，作品を鑑賞しワークシートに感じ取ったことや考えたことを繰り返し書いたり，自分の考えを発言し進んで意見を交流したりするような能動的な姿が授業の中で表れることがあります。机間指導等の際にこのような姿を捉え，評価を行うことが大切です。挙手や発言の回数，忘れ物の有無といった表面的な状況のみに着目することにならないように留意します。また，この観点は，ある程度長い区切りの中において，適切な頻度で多面的に評価することが大切です。

【発想や構想の能力】の評価

この観点は，生徒が感じ取ったことや考えたこと，目的や機能を基に，形や色彩などの効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え，表現の構想を練っているかどうかといった学習状況を評価するものです。

この観点の評価では，活動中の行動の観察やワークシートの記述，アイデアスケッチなどから主題や表現意図を丁寧に読み取ることが大切です。また，発想や構想は，制作が進む中で徐々に具体的な形になり，更にそこから深まることが多いため，制作途中の作品を中心に，完成作品からも再度評価し，生徒の「発想や構想の能力」の高まりを読み取ることが大切です。

【創造的な技能】の評価

この観点は，生徒が材料や用具の特性を生かし，自分の意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現しているかどうかといった学習状況を評価するものです。

この観点の評価では，活動中の行動の観察や作品などから，材料や用具を活用し表現意図に合う表現方法を工夫しているかを丁寧に読み取ることが大切です。また，この観点は制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるものであるため，制作途中の作品を中心に，完成作品からも再度評価し，生徒の「創造的な技能」の高まりを読み取ることが大切です。

【鑑賞の能力】の評価

この観点は，造形的な要素を踏まえて作品のよさや美しさ，作者の意図や表現の工夫などを感じ取り，自分の価値意識をもって味わっているかどうかといった学習状況を評価するものです。

この観点の評価は，生徒のワークシートの記述や発言内容などによるところが大きくなります。しかし，授業中に指導をしながら全ての生徒を評価することは困難であることから，授業中は，記録のための評価ではなく，より適切な指導をするための評価を中心に行い，記録に残す評価は，授業終了後にワークシートの記述などを基に評価をすることが基本となります。

具体的な評価方法例と留意点

◆観察

最もよく使われる方法であり，どの観点の評価方法としても用いることができます。しかし，漠然と観察するのではなく，観察で評価する観点を明確にし，どのような点をチェックするのかといったことを事前に決め，教師用のチェックリストを作成したり，座席表を利用し記録表を作成したりしておくなどの工夫が必要です。

◆ワークシートの記述（アイデアスケッチ・イメージマップ含む）

ワークシートの記述は，授業後に全ての生徒の学習状況について把握することができ，観察などと併用することで補完的に評価を進めることができます。また，「発想や構想の能力」や「鑑賞の能力」の評価を進める上でも，個人の状況を把握するための有効な手立てとなります。そのためには，学習のねらいに沿って，生徒が思考・判断したことを記述することができるようにワークシートを工夫することが大切です。

◆対話

「発想や構想の能力」の評価を進める上で，ワークシート等の記述を補完するために生徒と対話をし，思考・判断したことを見取ることも大切です。特にワークシート等への記述が見られない生徒には，積極的に対話をしていく必要があります。

◆作品

表現の学習においては，学習の成果としての生徒の作品を評価することになります。「発想や構想の能力」や「創造的な技能」の観点は，制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるものであるため，制作途中の作品を中心に，完成作品からも再度評価し，生徒の「発想や構想の能力」や「創造的技能」の高まりを読み取ることが大切です。また，制作途中の作品をデジタルカメラなどで撮影し記録しておき，表現の過程を見取るなどの工夫も有効です。

◆ペーパーテスト

ペーパーテストは評価方法の一つとして有効ですが，ペーパーテストにおいて得られる結果が，目標に準拠した評価における学習状況の全てを表すものではないことについては，十分に認識しておく必要があります。テストの問題を作成する際には観点別に作成し，その観点を評価する問題として適切であるかどうか十分に吟味しておく必要があります。また，「知識・理解」に関する内容は出題しやすいのですが，美術科における観点の中で，「知識・理解」に特化した観点はないことからも，「知識・理解」に関する内容を出題する際は，それらがどの観点に関わる評価として位置付けるかなどについて明確にしておくことが大切です。

中学校美術科における学習評価事例　１
題材名　　個性がきらり！オリジナルのアクセサリーづくり
第２学年及び第３学年「Ａ表現（２）（３）」「Ｂ鑑賞」

■題材全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

＜題材の概要＞

使う人の好みやアクセサリーとしての美しさなどを考え，材料やデザインを工夫し作品を制作します。木材や金属などアクセサリーのイメージに適した材料を選び，材料や表現方法によって加工の工程などを考え見通しをもって制作します。また，生徒同士の作品を鑑賞し，よさや美しさ，作者の意図と表現の工夫などを，自分の価値意識をもって味わいます。

＜対応する学習指導要領の指導事項＞

○「Ａ表現」（２）：目的や機能を考えた発想や構想
ウ　使用する者の気持ちや機能，夢や想像，造形的な美しさなどを総合的に考え，表現の構想を練ること。
【発想や構想の能力】

○「Ａ表現」（３）：発想や構想をしたことなどを基に表現する技能
イ　材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表現すること。
【創造的な技能】

○「Ｂ鑑賞」（１）：美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞
ア　造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫，目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め，作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして，美意識を高め幅広く味わうこと。
【鑑賞の能力】

１　題材の目標

アクセサリーの表現に関心をもち，使用する者の気持ちや造形的な美しさなどを考え表現の構想を練り，表したい形のイメージに応じて材料や表現方法を工夫し創造的に表現するとともに，アクセサリーとしての美しさや作者の思いを感じ取り，自分の価値意識をもって味わう。

２　題材の評価規準及び学習活動に即した評価規準

（１）題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 ・美術の創造活動の喜びを味わい，使用する者の気持ちやアクセサリーとしての美しさなどを考えて表現することに関心をもち，主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 鑑賞 ・美術の創造活動の喜びを味わい，他者の作品に関心をもち，主体的に見方や理解を深めようとしている。	・感性や想像力を働かせて，使用する者の気持ちやアクセサリーとしての美しさなどを基に形や色彩などの効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え，表現の構想を練っている。	・感性や造形感覚などを働かせて，材料や用具の特性を生かし，自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり，制作の順序などを総合的に考え見通しをもったりしながら，創造的に表現している。	・感性や想像力を働かせて，アクセサリーとしての美しさ，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫，目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り味わっている。

「評価規準に盛り込むべき事項」を基に，題材の内容に合わせて，言葉を省略したり変更したりしている。（下線部は変更箇所）

（２）学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 ①使用する者の気持ちやアクセサリーとしての美しさなどを総合的に考えて表現することに関心をもち，主体的に構想を練ろうとしている。 表現 ②材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを主体的に考え，表現しようとしている。 鑑賞 ③アクセサリーとしての洗練された美しさ，つくり手の意図や思いなどに関心をもち，主体的に感じ取ろうとしている。	①使用する者の気持ちやアクセサリーとしての美しさなどを，形の単純化や組み合わせ，色彩などの効果を生かして総合的に考え，表現の構想を練っている。	①材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表現している。	①アクセサリーとしての洗練された美しさ，作品全体のイメージ，つくり手の意図や思いなどを感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。

「評価規準の設定例」を基に，題材の内容に合わせて，言葉を省略したり変更したりしている。（下線部は変更箇所）

３　題材の指導と評価の計画（８時間）

学習のねらい，学習活動 ※「○」は，学習のねらい 「・」は，学習活動	学習活動に即した評価規準 美術への関心･意欲･態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	評価方法，留意点等
１次　課題の把握と発想・構想（３時間） ○アクセサリーの表現について理解し，題材への関心を高める。 ・参考作品などを鑑賞し，作者の意図や表現の工夫などについて意見を述べ合う。 ○使用する者の気持ちやアクセサリーとしての美しさなどを，形や色彩の効果を生かして考え表現の構想を練る。 ・イメージマップやアイデアスケッチなどにより構想をまとめる。	関①	発①			関① 【観察，イメージマップ，アイデアスケッチ】 ・ここでは，生徒がアクセサリーの表現に関心をもち，主体的に構想を練ろうとする意欲や態度を高めることが重要である。そのため，１次の前半には題材に関心をもてず，構想を練ろうとしていない生徒を把握することに重点を置き，それらの生徒に対しては関心や意欲が高まるように机間指導等をする。 １次の後半に，発想や構想を練るためにイメージマップを書いたり，アイデアスケッチなどを繰り返し描いたりしている様子を見取り，記録用紙等に評価の記録を残していく。活動の観察を基に評価するが，全ての生徒の評価が難しいことから，ワークシートに記述した内容も補完的に評価する。 発① 【イメージマップ，アイデアスケッチ】 ・ここでは，使用する者の気持ちやアクセサリーの機能，造形的な美しさなどを，形自体がもつ効果や，形の単純化や組み合わせ，色彩などにより得られる効果を生かして総合的に考え，表現の構想を練ることが重要である。１次前半の構想を練り始めた段階では評価の記録を取らず，生徒が共通につまずいている点を学級全体に指導したり，個々の生徒の課題に対して個別指導をしたりする。学習が進み多くの生徒が構想がまとまってきた時点で，まだ構想がまとまらない生徒に重点を置いて見取るとともに，構想がまとまるように指導する。 この段階の「発想や構想の能力」の評価は，実際に立体作品になった状態等が十分に見取れないので，暫定的に「おおむね満足できる」状況（B）等を評価し，制作が進み具体的な形が見られる制作の後半に，授業中での評価を確定するようにする。

本事例では，導入において参考作品を見る活動を行うが，ここでの学習のねらいは題材への関心・意欲や発想，構想を高めることなので，「鑑賞の能力」としての評価は行わない。

「学習活動に即した評価規準」に示されている実現状況を見るためには，制作を始めた初期の作品よりも，様々な能力等が働いた跡が見られる完成間近の作品や完成作品から評価をすることが妥当であると考えられる。しかし，最終的に目標を実現するためには，①主題を生み出し，②アイデアスケッチで構想を練り，③材料や用具を生かして作品を制作する，といった①～③の学習が確実に行われることが大切である。そのためには，それぞれの段階で「学習活動に即した評価規準」を位置付け，つまずいている生徒を見取って適切な指導をし，一人一人の生徒が階段を追って確実に学習を進められるようにする必要がある。

<table>
<tr>
<td>２次　制作（４時間）
○構想を基に，自分の表現意図に合う材料や表現方法を工夫するなどし，見通しをもって表現する。
・構想を基に，アクセサリーの材料を選び，表現方法の特性から制作の順序や加工法を考え制作する。

○構想を深める。
・制作途中の気付きを基に，構想に改善を加え，表現方法を工夫しながら制作をする。</td>
<td>関②</td>
<td>発①</td>
<td>創①

創①</td>
<td></td>
<td>関②
【観察，制作途中の作品】
・ここでは，生徒が構想に基づいて材料や表現方法を主体的に工夫し，見通しをもちながら表現していこうとする創造的な技能への意欲や態度を高めることが重要である。２次の前半は，制作への意欲がもてない生徒を把握し，関心や意欲が高まるように指導する。２次の後半に，構想を基に，材料や表現方法，加工法などを工夫している様子を見取り記録用紙等に記録を残していく。活動の観察を基に評価するが，全ての生徒の評価が難しいことから，制作途中の作品もデジタルカメラ等で記録するなどしておき補完的に評価する。
創①
【制作途中の作品】
・２次の前半では，多くの生徒が材料や表現方法，加工法などを工夫して表現できるようになってきた時点で，工夫等ができていない生徒に重点を置いて見取るとともに，工夫等ができるように指導をする。完成が近付いてくる２次の後半は，「十分に満足できる」状況（A）と判断される生徒も見取れるようになり，授業中での評価を確定する。また，ここでの評価も「発想や構想の能力」と同様に，完成作品から再度確認する。
発①
【制作途中の作品】
・完成が近付いてくる２次の後半は，「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒も見取れるようになり，授業中での評価を確定する。また，授業中に評価を行った後に作品が変化する場合もあるので，更に，作品の完成後，完成作品をアイデアスケッチ等と見比べながら再度評価し，授業中での評価より高まりがあった場合は修正を加える。</td>
</tr>
<tr>
<td>３次　鑑賞（１時間）
○完成作品を鑑賞し，作品全体のイメージ，作者の意図や思いを感じ取り，そのよさなどを味わう。
・お互いの作品を鑑賞し合い，作者の意図や表現の工夫などについてワークシートに記入し，意見を述べ合う。</td>
<td>関③</td>
<td></td>
<td></td>
<td>鑑①</td>
<td>関③
【観察，ワークシート】
・ここでは，生徒が主体的に作品のよさや美しさ，作者の意図や思いと創造的な表現の工夫などを感じ取ろうとしていく意欲や態度を高めることが重要である。評価は，生徒が他者の作品を鑑賞する様子などを基に，鑑賞への関心や意欲等を把握することに重点を置く。活動の観察を基に評価するが，全ての生徒の評価が難しいことから，ワークシートに記述した内容も補完的に評価する。
鑑①
【ワークシート】
・ここでの評価は，生徒のワークシートの記述や発言内容から行うことになる。しかし，授業中に鑑賞の指導をしながら全ての生徒を評価することは困難であることから，まず，授業中は，鑑賞が深まっていない視点等について，個々の生徒や学級全体に助言をするために学習状況を把握することに重点を置く。授業終了後，ワークシートの記述を基に個々の生徒の評価を行う。</td>
</tr>
<tr>
<td>＜授業外＞
【完成作品等の評価】
【ワークシート等の評価】</td>
<td></td>
<td>発①</td>
<td>創①</td>
<td>鑑①</td>
<td>※発①・創①については，完成作品から再度評価する（授業内での評価を確認し，必要に応じて修正する）。特に発想や構想については，アクセサリーのコンセプトや構想の工夫を記述したワークシート等を合わせて見取り評価する。</td>
</tr>
</table>

	第１次	第２次	完成作品
生徒ア	B	B	B
生徒イ	C	B	A

表は，本題材におけるア，イの２人の生徒の「発想や構想の能力」の高まりを例示したものである。生徒アは１次にアイデアが高まり，構想をまとめることができているが，その後あまり深まっていない。一方，生徒イは１次にはアイデアがまとまらなかったが，２次から発想や構想が深まり，完成作品の段階で「十分満足できる」状況（A）を実現している。「発想や構想の能力」は，授業が進むにつれて高まり，その成果が制作中の作品に積み重ねられていく傾向が見られるので，この場合の総括の方法としては，その能力がどこまで高まったかを見ることとし，生徒アは「B」，生徒イは「A」と総括することが考えられる。

「創造的な技能」についても同様に進めることが考えられる。

中学校美術科における学習評価事例　２
題材名　　木版摺更紗着物を鑑賞しよう
第１学年「Ｂ鑑賞」

■「鑑賞の能力」の評価の進め方が分かる事例

＜題材の概要＞

全２時間中の１時間目は,木版摺更紗着物の文様のモチーフが何かということを形や色彩を基に考えます。２時間目は,木版摺更紗着物の文様とイギリス更紗の文様を比較鑑賞し,表現方法の違いに気付くとともに,木版摺更紗着物の特徴や自然や季節の表現のよさや美しさなどを味わいます。ここでは，２時間目について示します。

＜対応する学習指導要領の指導事項＞

○「Ｂ鑑賞」（１）：美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞
イ　身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し，そのよさや美しさなどを感じ取り，美術文化に対する関心を高めること。
【鑑賞の能力】

＜主な鑑賞作品＞

・鈴田滋人「紫陽装華」
・ウィリアム・モリス「バラ」

１　題材の目標

木版摺更紗着物や諸外国の更紗の文様に関心をもち，造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図，創造的な表現の工夫などを感じ取るとともに，木版摺更紗着物とイギリス更紗の文様の表現方法の違いなどから，木版摺更紗着物の特徴や自然や季節の表現のよさや美しさなどに気付き，美術文化に対する関心を高める。

２　題材の評価規準及び学習活動に即した評価規準

（１）題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・美術の創造活動の喜びを味わい，木版摺更紗着物や諸外国の更紗の文様に関心をもち，主体的によさや美しさを感じ取ろうとしている。	・感性や想像力を働かせて，木版摺更紗着物や諸外国の更紗の文様の造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り見方を広げたり，美術文化の特性やよさなどに気付いたりしている。

「評価規準に盛り込むべき事項」を基に，題材の内容に合わせて，言葉を省略したり変更したりしている。（下線部は変更箇所）

（２）学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①木版摺更紗着物や諸外国の更紗の文様に関心をもち，主体的にその特徴や美しさを感じ取ろうとしている。	①木版摺更紗着物や諸外国の更紗の文様を鑑賞し，そのよさや美しさなどを感じ取り，木版摺更紗着物の特徴や自然や季節の表現のよさに気付いている。

「評価規準の設定例」を基に，題材の内容に合わせて，言葉を省略したり変更したりしている。（下線部は変更箇所）

３　本時の目標

木版摺更紗着物や諸外国の更紗の文様に関心をもち，それぞれの更紗の文様を比較することで，木版摺更紗着物の特徴や自然や季節の表現のよさに気付く。

４　本時（２／２）の指導と評価の計画

学習のねらい，学習活動 ※「○」は，学習のねらい 「・」は，学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法，留意点等
	美術への関心･意欲･態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
○日本や諸外国の更紗の文様を比較することで，木版摺更紗着物の特徴や自然や季節の表現のよさに気付く。 ・日本や諸外国の文様をカードを使って鑑賞し，どのような特徴があるかをグループで検討し分類することで，それぞれの特徴を知る。 ・木版摺更紗着物とイギリス更紗の文様を比較鑑賞し，気付きや考え等をグループや全体で説明し合い，表現の違いに気付く。 ・木版摺更紗着物の鑑賞を深め，気付きや考え等を全体で説明し合い，特徴や自然や季節の表現のよさに気付く。	関①			鑑②	関① 【観察，ワークシート】 ・ここでは，木版摺更紗着物と諸外国の更紗を鑑賞し，造形的なよさや美しさ，表現の工夫や違いなどに関心をもち，主体的によさや美しさを感じ取ろうとする意欲や態度を高めることが重要である。生徒が作品を見たり，発言したり，ワークシートを記述したりする様子から関心や意欲がもてない生徒を把握し，意欲が高まるように指導する。活動の後半に，特に意欲的に作品のよさなどを捉えようとして発言する姿が繰り返し見られるなど，顕著な状況がある場合には，「十分満足できる」状況（A）にあると評価する。しかし，全ての生徒の評価が難しいことから，授業後にワークシートに記述した内容も補完的に評価する。 鑑② 【ワークシート】 ・ここでは，生徒のワークシートの記述や発言内容から評価を行うことになる。しかし，授業中に鑑賞の指導をしながら全ての生徒を評価することは困難であることから，授業中は記録のための評価ではなく，より適切な指導をするための評価を中心に行う。そして，ワークシートの記述や発言内容から，鑑賞が深まっていない視点等について，個々の生徒や学級全体に助言を行うことに重点を置く。記録に残す評価は，授業終了後にワークシートの記述を基に評価することが基本になる。
＜授業外＞ 【ワークシートの評価】				鑑②	

＜鑑①の評価の具体例＞

○ワークシートの例

問２　木版摺更紗着物の特徴やよさはなんでしょう。分かったことや気付いたことを書いてください。

生徒ア　木版摺更紗着物は花の形から文様をデザインしていて，同じ形をくりかえしている。色もとてもきれいだと思いました。

生徒イ　木版摺更着物は見たものをリアルに描くのではなく，印象に残ったことを描いている。花など植物を描いているものが多くて，自然や季節を大切にしている感じがした。

【鑑賞の能力】の評価

生徒アは，木版摺更紗着物の文様が花などをモチーフにデザインしていることや，同じ文様を繰り返し描き全体を構成しているという特徴に気付いているので，「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

生徒イは，比較鑑賞したイギリス更紗の文様が花の形を写実的に表現しているのに対して，木版摺更紗着物の文様は花の印象を大切にして単純化しているという特徴及び作者の意図に気付いており，さらに，モチーフから自然や季節を表現していることに気付いています。したがって，「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

中学校美術科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　一つの題材で観点別評価の総括をするにはどうしたらよいですか？

Ａ　「学習活動に即した評価規準」に照らして，「Ａ」，「Ｂ」，「Ｃ」の３段階で行った評価結果を基に，題材として観点ごとに「Ａ」，「Ｂ」，「Ｃ」で評価の総括を行います。ここでは，「学習活動に即した評価規準」の評価結果のうち，最も数の多い記号が，題材ごとにおける観点ごとの学習状況を最もよく表しているという考え方に立って総括しています。例えば，ある観点の「学習活動に即した評価規準」を３つ設定し，それぞれの評価結果が「Ａ，Ａ，Ｂ」なら，「Ａ」と総括します。ただし，「Ａ」，「Ｃ」の両方が含まれている場合は，「Ｂ，Ｂ」と同様の評価結果と見なして総括するのが適当であると考えます。また，評価結果が「Ａ，Ｂ」のように「Ａ」と「Ｂ」の数が同数になる場合は，例えば，学習のねらいや時間数等に応じて，特定の「学習活動に即した評価規準」に重み付けをすることや，「Ａ」，「Ｂ」が同数であれば「Ａ」とするなど，あらかじめ総括する方法を決めておくことが大切です。

観点	美術への関心・意欲・態度				発想や構想の能力			創造的な技能		鑑賞の能力	
氏名	評価規準			評価	評価規準		評価	評価規準	評価	評価規準	評価
	関①	関②	関③		発①	発②		創①		鑑①	
生徒ア	B	A	A	A	B	A	A	B	B	B	B
生徒イ	B	A	B	B	B	B	B	A	A	A	A
生徒ウ	C	C	B	C	B	C	C	C	C	B	B

・「美術への関心・意欲・態度」については，「表現」において関①，関②と「鑑賞」において関③の場面で評価を行ったとします。「美術への関心・意欲・態度」は表現や鑑賞の活動を通してある程度継続的に実現していることが大切なので，「表現」の場面において評価した結果と「鑑賞」の場面において評価した結果を同等に扱うことが考えられます。ここでは，生徒イの評価のように関①が「Ｂ」，関②が「Ａ」，関③が「Ｂ」であれば「Ｂ」と総括します。

・「発想や構想の能力」については，内容のまとまり「Ａ　表現(１)(３)感じ取ったことや考えたことの表現」において，主題を生み出す場面の発①と，主題を基に構想を練る場面の発②で評価を行ったとします。仮にこの題材での「発想や構想の能力」は，主題を生み出すことよりも，主題を基にどのような構想を練ったかが重要であると判断し重み付けをした場合は，例えば生徒アの評価のように，発①が「Ｂ」で発②が「Ａ」であれば「Ａ」と総括します。

Ｑ　１単位時間に全ての観点の評価をしなくてよいのですか？

Ａ　これまでは，指導に生かすための形成的な評価と通知表や指導要領などのために記録に残す評価を混同して，１単位時間に数多くの評価規準を設定している場合が多く見られました。その結果，１単位時間の中で，個々の生徒の学習状況を確実に評価できていなかったことも多かったと思います。これからは，通知表や指導要録などのために記録に残す評価については，１単位時間に１回または２回程度でよいかわりに，設定した評価規準については，確実に個々の生徒の学習状況を評価し，記録に残すことが必要となります。美術の表現活動においては，「発想や構想の能力」や「創造的な技能」は作品から見取

ることができますが，完成作品からのみ評価するのではなく，主題を生み出し，アイデアスケッチで構想を練り，材料や用具を生かして作品を制作するといった制作のそれぞれの段階で「学習活動に即した評価規準」を位置付け，つまずいている生徒を見取って適切な指導を行い，それぞれの段階で全ての生徒が，少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）と判断できるようにしたいものです。

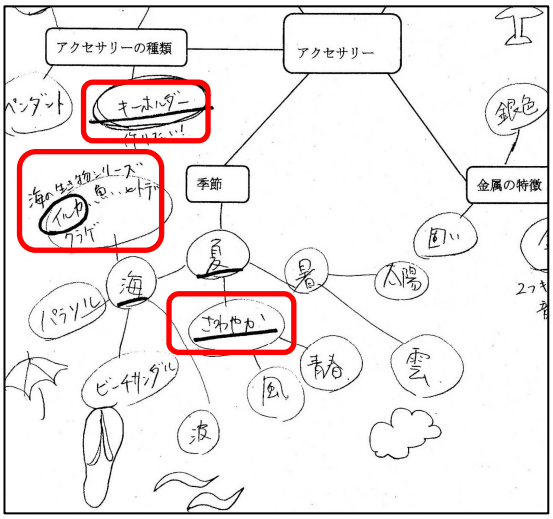
Q　「発想や構想の能力」を評価するときにはどのような工夫が必要ですか？

A　「発想や構想の能力」を評価する際は，主題を生み出し，構想を練る段階において，ワークシート（イメージマップ，アイデアスケッチ等）にそのことについての記述がなければ見取ることが難しくなります。よって，生徒の思考やその過程，表現の工夫を思いついたことなどを書き込むことができるようなワークシートを作成し，適宜，記入をさせておくことが大切です。

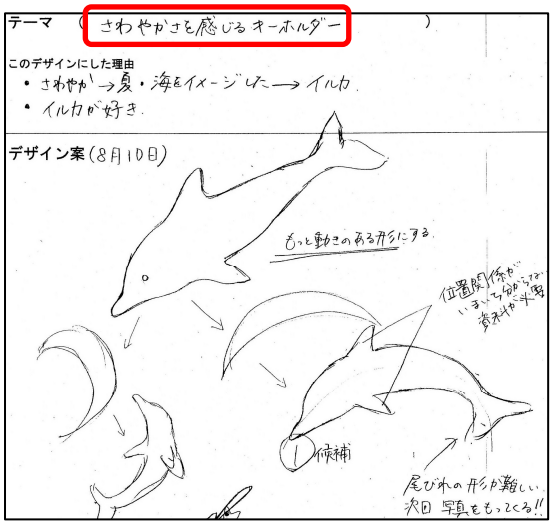
- イメージマップからは，生徒がどんな発想をしたかを読み取ることができます。
- アイデアスケッチからは，形や色の工夫点など，構想を読み取ることができます。スケッチだけではなく，考えを記述させるとより分かりやすくなります。

＜ワークシートの例　題材「オリジナルのアクセサリーづくり」＞

イメージマップ



アイデアスケッチ



なお，制作途中の作品からは，例えば「イルカの体の中央にイニシャルを浮き彫り状に入れる」などのように，制作が進む中で思いついたアイデアや，アイデアスケッチでは記されていなかった新たなアイデアが生まれるなど，構想が深まっている状況を見取ることができます。その際は，観察だけでもよいと思いますが，デジタルカメラ等で適宜撮影して全員の記録を残しておくことにより，生徒の表現のプロセスを見ることや，後日，改めて評価内容の確認をすることなどができます。

また，ワークシートの記述などで，生徒の発想や構想がうまく読み取れない場合は，生徒との対話などを通して，見取るなどの工夫も必要です。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 23 年２月１日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（中学校　保健体育科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年７月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校保健体育科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校保健体育科における学習評価の進め方
4　中学校保健体育科における学習評価事例
5　中学校保健体育科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・表現」
「技能・表現」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校保健体育科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

１　教科目標

心と体を一体としてとらえ，適切な運動の経験と健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，楽しく豊かな生活を営む態度を育てる。

従前の学習指導要領からの変更は，「積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる～」から「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる～」となった部分です。これは，小・中学校の義務教育段階における教科の目標として一層の関連をもたせるという意図（小学校体育科の目標は「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる～」）とともに，生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現するという保健体育科の考え方を示しています。

２　評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また，個人生活における健康・安全について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して，学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断し，これらを表している。	運動の合理的な実践を通して，運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

３　内容のまとまり

【体育分野】

- A　体つくり運動
- B　器械運動
- C　陸上運動
- D　水泳
- E　球技
- F　武道
- G　ダンス
- H　体育理論

【保健分野】

- （１）心身の機能の発達と心の健康
- （２）健康と環境
- （３）傷害の防止
- （４）健康な生活と疾病の予防

４　体育分野の評価の観点の趣旨

体育分野の目標や指導内容は，従前の学習指導要領では全学年を通したものになっていましたが，発達の段階のまとまりを踏まえ，第１学年及び第２学年と第３学年を分けて示しています。

［発達の段階のまとまり］
小学校から高等学校までの 12 年間を見通して，小学1年～4年までを「各種の運動の基礎を培う時期」，小学5年～中学2年までを「多くの領域の学習を経験する時期」，中学3年～高校3年までを「卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期」として，発達の段階を3つの段階で考えたものです。ですから，中学1・2年と中学3年を分けて示してあるんですね。

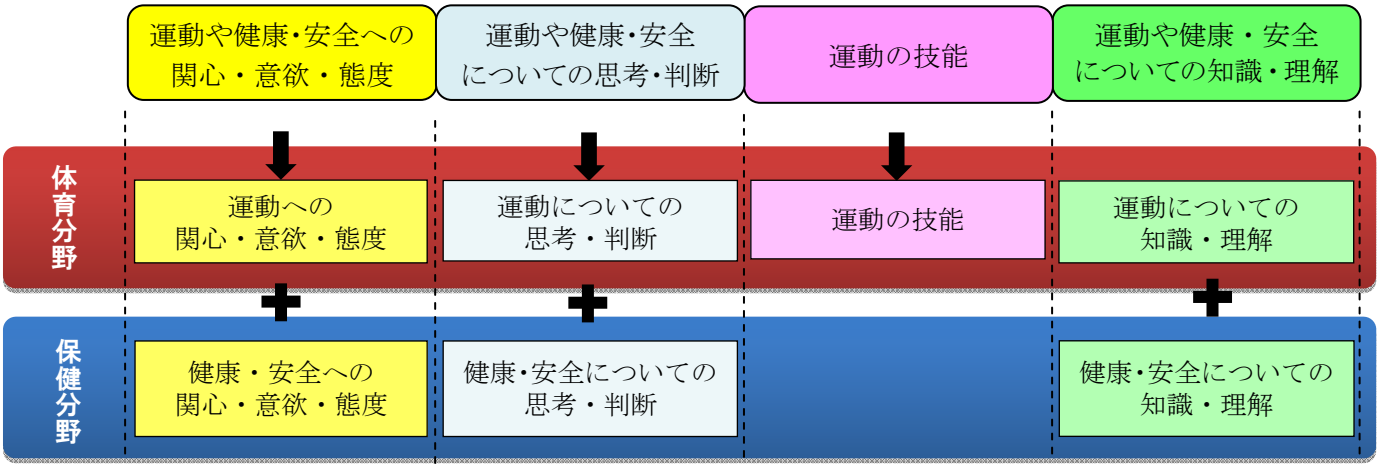
	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
第１学年及び第２学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，公正，協力，責任などに対する意欲をもち，健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとする。	運動を豊かに実践するための課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また，体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。	運動の合理的な実践を通して，勝敗を競ったり，攻防を展開したり，表現したりするための各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	各運動の特性や成り立ち，技の名称や行い方，伝統的な考え方，各領域に関連して高まる体力，健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性，運動やスポーツが心身の発達に与える効果についての考え方を理解している。
第３学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，公正，協力，責任，参画などに対する意欲をもち，健康・安全に留意して，学習に自主的に取り組もうとする。	生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また，自己の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して，運動の特性に応じて勝敗を競ったり，攻防を展開したり，表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法，スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義の考え方を理解している。

５　保健分野の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心身の機能の発達と心の健康，健康と環境，障害の防止，健康な生活と疾病の予防について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	心身の機能の発達と心の健康，健康と環境，障害の防止，健康な生活と疾病の予防について，課題の解決を目指して科学的に考え，判断し，それらを表している。	心身の機能の発達と心の健康，健康と環境，障害の防止，健康な生活と疾病の予防について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

中学校保健体育科における学習評価の進め方

＜保健体育科における学習評価の観点＞



※　体育分野の「A　体つくり運動」の体ほぐしの運動は，技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないこと，体力を高める運動は，運動の計画を立てることが主な目的となることから，運動の技能は設定しません。学習指導要領の「A　体つくり運動」で示されている（1）運動については「運動についての思考・判断」で評価するように整理されています。

⇒指導要録等の４つの観点による評価を行う場合，体育分野と保健分野を合わせて評価することになります。

評価規準は，どうやって設定するの？

体育分野の評価規準を設定するに当たっては，国立教育政策研究所から公開されている**「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」**（以下参考資料と表記）に示されている内容のまとまりごとの**「評価規準の設定例」**を必要に応じて修正し，単元の評価規準を設定します。

次に，各学校の指導計画に基づき，単元の評価規準を具体化するために，学習活動に即した評価規準を設定します。

【「B　器械運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動の知識
・器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・よい演技を認めようとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。	・学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ・課題に応じて，技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ・学習した技から，「はじめ－なか－おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見付けている。 ・仲間と学習する場面で，仲間のよい動き	・マット運動では，回転系や巧技系の技を組み合わせるための，滑らかな基本的な技，条件を変えた技，発展技のいずれかができる。 ・鉄棒運動では，支持系や懸垂系の技を組み合わせるための，滑らかな基本的な技，条件を変えた技，発展技のいずれかができる。	・器械運 り立ち 習した ている ・技の名 ついて 体例を ・器械運 高まる 学習し げてい

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」より抜粋

保健分野の評価規準の設定するに当たっては，学習指導要領を踏まえ，単元の目標を明確にするとともに，**「評価規準に盛り込むべき事項」**を活用し，単元の評価規準を設定します。

次に，具体的な授業をイメージして**「評価規準に盛り込むべき事項」**や**「評価規準の設定例」**を参考に学習活動に即した評価規準を設定します。

【「健康と環境」の評価規準の設定例】

健康・安全への関心・意欲・態度	健康・安全についての思考・判断	健康・安全の知識・
・健康と環境について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・健康と環境について，課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・健康と環境について，健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり，選んだりするなどして，それらを説明している。 ・健康と環境について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している。	・身体の環境に や至適範囲に ことを言った りしている。 ・飲料水や空気 ついて理解し り，書き出した ・生活に伴う廃 理について理 ったり，書き る。

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」より抜粋

各観点の評価方法は？

【運動への関心・意欲・態度】の評価方法

□　この観点の評価は基本的に次の５つの項目について評価していきます。

（ゴシック）内は第３学年の評価規準

・各領域の運動に積極的（**自主的**）に取り組んでいるか。

例「○○の学習に積極的(**自主的**)に取り組もうとしている」

・公正な態度で取り組んでいるか。

例「よい演技を認めよう(**讃えよう**)としている。」
「勝敗などを認め(**冷静に受け止め**)，ルールやマナーを守ろう(***大切にしよう***)としている。」
「フェアなプレイを守ろう(**大切にしよう**)としている。」
「(**互いの違いや**)よさを認め合おうとしている。」

・互いに協力して取り組んでいるか。

例「仲間に必要な援助をしようとしている。」(**互いに助け合い教え合おうとしている。**)

・自己の役割（**責任**）を果たしているか。

例「分担した役割を果たそうとしている。」(**自己の責任を果たそうとしている。**)
「話し合いに参加しようとしている。」

・健康・安全に気を配って（**を確保して**）いるか。

例「健康・安全に留意（**確保**）している。」

◇　この観点は，主に行動の観察により評価します。それぞれの項目について指導をした後，一定の期間を設け，評価機会を設定します。また，学習カード等の記述なども適宜参考にします。

⇒　行動の観察，学習カード等の記述

【運動についての思考・判断】の評価方法

□　この観点の評価は次の４つの項目について評価していきます。（斜体）内は第３学年の評価規準

・運動を行うための運動の行い方のポイントを見付けているか。

例「(**自己の課題に応じた**）○○を実践するための運動の行い方のポイントを見付けている。」

・課題を見付けたり，課題に応じた練習方法を選んだりしているか。

例「(**自己の**）課題に応じた練習方法を選んでいる。」
「自己やチームの課題を見付けている。」

・仲間と協力する場面で，役割に応じた協力の仕方を見付けているか。

例「仲間と学習する場面で，仲間のよい動きなどを指摘している。」
(**仲間に対して，技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して指摘している。**)
「仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。」

・安全に留意して練習や試合を行っているか。

例「学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。」
(**健康や安全を確保するために，体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。**)
(**○○を継続して楽しむための自分に適したかかわり方を見付けている。**)

◇　この観点は，学習カード等に書かれた練習の計画などと実際の活動を合わせて評価する必要があります。考えたことや話し合ったことなどを記録として残すような手立てを行うことが大切です。相互評価等での友達からのアドバイスなども記録させておきましょう。

⇒　学習カード等の記述，振り返りでの相互評価，チームの作戦ボード，行動の観察

【運動の技能】の評価方法

□　この観点，運動を行う上で必要な基本的な技能や動きを身に付けているかどうかを評価していきます。

（斜体）内は第３学年の評価規準

・運動を豊かに実践するための基本的な技能や動きを身に付けているか。

例「マット運動においては，回転系や巧技系の技を組み合わせるための，滑らかな基本的な技，条件を変えた技，発展技のいずれかができる。」

（マット運動においては，回転系や巧技系の技で構成し演技するための，滑らかに安定した基本的の技，条件を変えた技，発展技のいずれかができる。）

「ゴール型においては，ゴール前での攻防を展開するためのボール操作と空間に走りこむなどの動きができる。」

（ゴール型においては，ゴール前への侵入などから攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きができる。）

「柔道においては，投げたり抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の応じた基本動作から，基本となる技ができる。」

（柔道においては，相手を崩して投げたり，抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から，基本となる技，得意技，連続技のいずれかができる。）

◇　この観点は，実際に運動をしている生徒の姿そのものを見て評価します。一瞬の動きを評価する場面が多く，より具体的な評価規準を設定することが大切です。「中学校学習指導要領解説　保健体育編」には，具体的な指導事項が〈例示〉として明記されています。

⇒　行動の観察（ビデオ等の活用），学習カード等の記述，振り返りでの相互評価

［中学校学習指導要領解説　保健体育編　マット運動に関する例示の記述］

接転技群	第１学年及び第２学年	・体をマットに順々に接触させて回転するための動き方，回転力を高めるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ること。 ・開始姿勢や終末姿勢，組合せの動きや手に着き方などの条件を変えて回ること。 ・学習した基本的な技を発展させて，一連の動きで回ること。
	第３学年	・体をマットに順々に接触させて回転するための動き方，回転力を高めるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ること。 ・開始姿勢や終末姿勢，組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ること。 ・学習した基本的な技を発展させて，一連の動きで回ること。

【運動についての知識・理解】の評価方法

□　この観点は，以下に示した運動についての知識を理解しているかどうかを評価していきます。

（斜体）内は第３学年の評価規準

・運動の特性や成り立ち（第１学年及び第２学年のみ）

例「〇〇の特性や成り立ちについて，学習した具体例を挙げている。」

・技術の名称や行い方（第３学年も同様）

例「技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。」

・関連して高まる体力

例「〇〇に関連して高まる体力について，学習した具体例を挙げている。」

（〇〇に関連した体力の高め方について，学習した具体例を挙げている。）

・運動観察の方法（第３学年のみ）

例（運動観察の方法について，理解したこと言ったり書き出したりしている。）

・伝統的な考え方（第３学年も同様）※武道のみ

例「武道の伝統的な考え方について，理解したことを言ったり書き出したりしている。」

（交流や発表の仕方について，学習した具体例を挙げている。）

・表現の仕方

例「発表会や競技会の仕方について，学習した具体例を挙げている。」

「表現の仕方について，学習した具体例を挙げている。」

◇　この観点は，授業の中でワークシートに書かれたり，発言したりしたことが評価の対象になるとともに，定期テスト等の知識に関わる問題での解答状況も合わせて評価を行うことになります。

⇒　学習カード等の記述，授業での言動の観察，定期テスト等

【保健分野】の評価方法

□　保健分野では，以下に示したそれぞれの観点について評価していきます。

【健康・安全への関心・意欲・態度】の評価方法

・指導内容に対する現状把握や自己の振り返りに関すること

例「○○について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。」

・指導内容に対する課題解決に向けた取り組みに関すること

例「○○について，課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。」

⇒観察，ワークシートの記述

※観察については，全員の生徒を1つの活動で評価することは難しいので，同じ評価規準で複数回評価できる活動を設定しておく必要があります。

【健康・安全についての思考・判断】の評価方法

・課題解決に取り組む過程に関すること

例「○○について，健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり，選んだりするなどして，それらを説明している。」

・学習内容と自己の生活との比較やその説明に関すること

例「○○について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している。」

⇒ワークシートの記述，観察

※　ワークシートを利用する場合は，比較したり関係を見付けたりするなどの思考の過程が分かるような項目を設定しておくことが大切です。

【健康・安全についての知識・理解】の評価方法

・対象の具体的な内容の理解の状態に関すること

例「生活に伴う廃棄物の衛生的管理について理解したことを言ったり，書き出したりしている。」

「応急手当について理解したことを言ったり，書き出したりしている。」

⇒ワークシート，観察

中学校保健体育科における学習評価事例　１

■　単元全体を通して，学習評価の進め方が分かる事例　　第１学年及び第２学年　「Ｆ　武道」

体育分野「武道（柔道）」第１学年

ここでは，体育分野の4つの評価を12時間の単元の中でバランスよく設定しました。1単位時間に1つまたは2つの評価規準を設け，単元終了時に各時間の評価を総括して，単元の観点別評価として記録しています。武道の学習を計画する際は，その運動の経験の有無を十分に把握し，ある程度集中した期間で10時間前後の単元を設定することが大切です。今回の単元は，柔道の体験がほとんどない生徒を対象として計画していきます。

１　単元の目標

(1)　次の運動について，技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，基本動作や基本となる技ができるようにする。

・柔道では，相手の動きに応じた基本動作から，基本となる技を用いて，投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。

(2)　柔道に積極的に取り組むとともに，相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとすること，分担した役目を果たそうとすることなどや，禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。

(3)　柔道の特性や成り立ち，伝統的な考え方，技の名称や行い方，関連して高まる体力などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

２　単元の評価規準

（○：第１学年の評価規準，●：第２学年の評価規準）

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元の評価規準	○武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ●分担した役割を果たそうとしている。 ●仲間の学習を援助しようとしている。 ○禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。	○技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ●課題に応じた練習方法を選んでいる。 ●仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ○学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	○柔道では，投げたり抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から基本となる技ができる。 ●剣道では，打ったり受けたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から，基本となる技ができる。 	○柔道の特性や成り立ちについて，理解したことを言ったり書いたりしている。 ○柔道の伝統的な考え方について，理解したことを言ったり書き出したりしている。 ○技の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。 ●武道に関連して高まる体力について，学習した具体例を挙げている。 ●試合の行い方について学習した具体例を挙げている。
	①柔道の特性に関心を持ち，練習や試合に積極的に取り組もうとする。 ②礼儀正しく振舞い，伝統	①技を身に付けるために課題に応じた練習方法を選択している。 ②学習した安全上の留意	①崩し，体さばき，受け身を用いて投げ技の基本となる技を行うことができる。	①柔道の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ②武道の伝統的な考え方

学習活動に即した評価規準	的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。	点を練習や試合場面にに当てはめている。	【支え技系】 ・膝車 ・支え釣り込み足など 【刈り技系】 ・大外刈り ・小内刈り ・大内刈りなど 【まわし技系】 ・体落とし ・大腰など ②固め技の姿勢や体さばきを用いながら，固め技の基本となる技や簡単な技の入り方や返し方を行うことができる。 【固め技】 ・けさ固め ・横四方固め ・上四方固め ③自由練習やごく簡単な試合で投げたり抑えたりすなどの攻防を行うことができる。	について，理解したことを言ったり書き出したりしている。 ③技の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。

技それぞれの評価についても評価の規準が必要となります。しかし，柔道や器械運動のようにたくさんの技の中から生徒が選んで行う場合は，それぞれの技についての評価規準を記載することはありませんが，実際の授業では，指導する側が踏まえて指導を行います。
例）体落とし
（取り）後さばきから相手を右（左）すみ前に崩し体落としができる。
（受）　体を横に向け両脚が重ならないようにし，腕全体で畳をたたくことができる。
このように評価規準を具体的にしておくことで，指導が明確になるとともに，評価する際の視点につながります。

「単元の評価規準」は，国立教育政策研究所から公開されている「参考資料」に記載されている設定例です。単元計画を作る際には，下の「学習活動に即した評価」のように，学校・学級の状況に即した具体的な評価規準を設定します。

運動の技能の評価規準は，学習指導要領解説の〈例示〉を参考にしています。

３年間を見通した年間指導計画の作成

３年間で，学習指導要領及び学習指導要領解説に示された指導内容を，効果的・効率的に身に付けることができるよう，学校環境や地域環境を踏まえて決定する必要があります。特に第１学年及び第２学年においては，「Ｂ　器械運動」から「Ｇ　ダンス」までの内容を２年間で指導することが示されました。そのため，指導内容の漏れがないように計画を立てることはもちろんのこと，本事例で示したような同一の指導内容を２年間で行うような場合（武道の内容において第１学年で柔道，第２学年で剣道）やいずれかの学年で単独で扱う場合などに留意して年間計画を作成する必要があります。

本事例では，特に第１学年及び第２学年で必修化された武道の単元として第１学年で柔道を，第２学年で剣道を行うように計画しています。そのため，発達段階や競技特性を考慮して評価規準を設定しています。そのため，各観点での評価する項目を第１学年と第２学年で振り分けて計画するようにします。

単元の目標の設定

国立教育政策研究所から公開されている「参考資料」の第２編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考にして設定します。体育分野，保健分野それぞれの内容において【学習指導要領の内容】として(1)～(3)の目標が設定されています。その文章を参考にして単元の目標を設定します。

(1)は技能　(2)は態度
(3)は知識，思考・表現
の構成になってます。

（6）「Ｆ　武道」
【学習指導要領の内容】
(1) 次の運動について，技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，得意技を身に付けることができるようにする。
ア　柔道では，相手の動きの変化に応じた基本動作から，基本となる技，得意技や連絡技を用いて，相手を崩して投げたり，抑えたりするなどの攻防を展開すること。
イ　剣道では，相手の動きの変化に応じた基本動作から，基本となる技や得意技を用いて，相手の構えを崩し，しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。
ウ　相撲では，相手の動きの変化に応じた基本動作から，基本となる技や得意技を用いて，相手を崩し，投げたりひねったりするなどの攻防を展開すること。
(2) 武道に自主的に取り組むとともに，相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を大切にしようとすること，自己の責任を果たそうとすることなどや，健康・安全を確保することができるようにする。
(3) 伝統的な考え方，技の名称や見取り稽古の仕方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解し，自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

単元の評価規準の設定

国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」の第２編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考にして設定します。【「○　○○（Ｆ　武道）」の評価規準の設定例】として具体的な規準が例示されているので，学校や学級の状況を踏まえて設定します。

【「Ｆ　武道」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。， ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。	・自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見付けている。 ・提供された攻防の仕方から，自己に適した攻防の仕方を選んでいる。 ・仲間に対して，技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・健康や安全を確保するために，体調に応	・柔道では，相手を崩して投げたり，抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から，基本となる技，得意技，連絡技のいずれかができる。 ・剣道では，相手の構えを崩し，しかけたり応じたりするなどの攻防を展開するた	・武道の伝統的な考え方について，理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・技の名称や見取り稽古の仕方について，学習した具体例を挙げている。 ・武道に関連した体力の高め方について，学習した具体例を挙げている。 ・運動観察の方法につ

この本事例では，武道領域において第１学年で柔道，第２学年で剣道を行うように年間計画で設定しています。そのため，技能，態度，知識，思考・判断の指導内容をすべて単一学年で評価するのではなく，２つの学年で主に指導・評価する内容をそれぞれに振り分けて設定しています。

３　単元の指導と評価の計画（全１２時間）

時間	主なねらい・学習活動	関心意欲態度	思考判断	技能	知識理解
1	学習１：オリエンテーション 1　基本知識（柔道の歴史，特性礼法，柔道着の扱い方など） 2　柔道のイメージづくり（ビデオの視聴） 3　体ほぐしの運動（ペアストレッチ等） 4　学習カードの使い方				
2	学習２：柔道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ 1　本時のねらいの確認 2　準備運動及び体ほぐしの運動 3　基本動作（投げ技の基本動作/固め技の基本動作） 4　対人技能（基本動作と投げ技の関連/基本となる技） 5　簡易な試合 6　整理運動 7　自己評価（学習カード記入）	①			
3		↓	②		
4		↓		① ②	①
5		②			
6			①		②
7	学習３：身に付けた技能を用いて，総合的な練習，簡易な試合を工夫して楽しむ		②		①
8	1　本時のねらいの確認 2　準備運動及び体ほぐしの運動 3　対人技能（基本となる技/技の練習方法） 4　簡易な試合 5　整理運動 6　自己評価（学習カード記入）	②			
9		↓	①		③
10		↓		③	③
11		③			
12	まとめ 1　単元の成果の確認（得意な技等） 2　まとめの試合（大会方式） 3　単元のふりかえり 4　次の単元に向けた課題の明確化	③		③	

記録に残す評価は，１単位時間に１～２項目が適当と考えられています。本事例では，学習活動や指導内容に合わせて設定しています。「関心・意欲・態度」ではすべての生徒の活動状況を見取るために，評価する機会を複数時間に広げていることを矢印で示しています。

単元の指導と評価の計画の設定

ここでは，単元の大まかな指導とそれに対する評価の場面を計画しています。

○「運動についての思考・判断」，「運動についての知識・理解」の観点については，指導後にその言動を学習カードの記述と行動の観察を通して評価するように設定しています。

○「運動についての関心・意欲・態度」，「運動の技能」の観点については，指導後すぐに評価するのではなく，一定の評価機会を必要とするものとして設定しています。

○特に「運動の技能」の観点については，指導後練習などを重ねて上達するものであり，その都度支援や称賛を行う状態であることを踏まえて，複数時間の評価機会を設定しています。

●指導内容及び「学習活動に即した評価規準」

ここでは，実際の授業を行う際の指導内容と評価規準を示しています。教師が授業の中で指導する内容とそれに対する生徒の実現状況の評価規準という関係は，「指導と評価の一体化」という原則に基づいたものです。

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
学習活動に即した評価規準	・１対１の攻防や他の種目にはない動きを体験することができること。 ・自分に合った得意な技を身に付け，練習や試合を工夫することができること。 ⇓ ①柔道の特性に関心を持ち，練習や試合に積極的に取り組もうとする。 ・相手を尊重し感謝する「礼の心」が大切なこと。 ・柔道を行う上で，伝統的な礼法やマナーがあること。 ⇓ ②礼儀正しく振舞い，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ・格闘する競技であるため，ルールを守ったり相手を尊重する気持ちを持って，自分を律しながら柔道を楽しむ必要があること。 ⇓ ③禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。	・技の習得に向けての，個々の体格や運動能力，適性など応じた練習方法の提示。 ⇓ ①技を身に付けるために課題に応じた練習方法を選択している。 ・技の習得のための練習の場や試合場面で，学習した安全面の知識を活用する場面の設定。 ⇓ ②学習した安全上の留意点を練習や試合場面にに当てはめている。 	・技の行い方。 ・技を効果的に行うための動き。 ⇓ ①崩し，体さばき，受け身を用いて投げ技の基本となる技を行うことができる。 ②固め技の姿勢や体さばきを用いながら，固め技の基本となる技や簡単な技の入り方や返し方を行うことができる。 ・相手の動きに応じた姿勢や体さばき，崩し。 ・技を効果的に行うための連続技。 ⇓ ③自由練習やごく簡単な試合で投げたり抑えたりすなどの攻防を行うことができる。 	・柔道は日本古来のスポーツであること。 ・武道としての格闘的な面と礼法やマナーを重視する面があること。 ・近代スポーツとして全世界で親しまれており，オリンピックの種目になっていること。 ⇓ ①柔道の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ・伝統的な行動として，礼法やマナーがあり，相手を尊重し自分を律する態度が必要なこと。 ⇓ ②武道の伝統的な考え方について，理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・技は，投げ技と固め技に大きく分かれ，投げ技にも系統があること。 ・技を行うための基本的な動作があること。 ⇓ ③技の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。

□ の中は指導内容を，丸数字は評価規準を示しています。

特に体育分野においては，観察を中心とした評価が多くなるため，より具体的な評価規準を設定することが大切です。そうすることで，運動中の一瞬の動きや生徒同士の言動を的確に見取ることにつながります。

また，評価方法については，たくさんの生徒が同時にそれぞれの学習活動を行っている場合があり，一人一人の実現状況を正確に見取ることができないことも考えられます。そこで，「運動の技能」についてはビデオ等で記録しておき，評価の補助として活用することもよいでしょう。「運動についての思考・判断」「運動についての知識・理解」については，定期テストなどで問題づくりを工夫して，その解答状況を評価の補助とすることも考えられます。

●単元の観点別評価の総括

時間／観点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総括
運動への関心・意欲・態度		B			A			A			B	B	B
運動についての思考・判断		C				A	B		A				A
運動の技能				①B，②B						B→A		A	A
運動についての知識・技能			C		C	B		B	B				B

＜観点別評価＞

単元の観点別評価の総括は，単元を通して観点別に総括的な評価するというものです。そのため，どの観点も複数回の評価が行えるように設定し，そこから総括的な評価（記録に残す評価）としてＡ・Ｂ・Ｃを判断します。

総括的な評価の判定の方法としては，Ａが半数以上の場合は総括的な評価はＡとなり，Ｃが半数以上の場合は総括的な評価はＣとなる。それ以外はＢとする。（ＡＡＣＢ→総括「Ａ」　ＡＢＣＣ→総括「Ｃ」）

＜評価規準の設定＞

単元の評価の計画は，取り上げる単元の評価規準をすべて評価できるように設定します。観察による評価は同一場面で複数の観点を見取ることは難しいため，重ならないようにします。

＜観点別評価の総括＞

特に運動の技能については，「基本の動きや技能ができる」ことが重要であり，単元の後半にうまくできるようになることも多くなります。そのため，単元の前半よりも後半の評価に重み付けをすることも考えられます。時間の経過を加味した重み付けや定期テスト等の実現状況の加味など，各学校の保健体育の教員相互で共通理解した上で妥当性，信頼性の高い観点別の評価の総括を行っていく必要があります。

※　本事例の 10～11 時目の評価において，10 時目の活動での技の評価（運動の技能）は「おおむね満足」できる状況（Ｂ）でした。その際に該当の生徒は，技の質を高めるための助言を受け 11 時目で助言を基にした練習を行い，技の質を高めることができました。その変容を示すものとして矢印（→）で示しています。

◎単元の指導と評価計画を作成する上で留意すること

前述の**「４　単元の指導と評価の計画」**にあるように，観点ごとの評価を振り分けて設定し，計画を立てますが，以下の２点については十分留意する必要があります。

①　各観点の評価は，単元を通して複数回の判定を行うように計画すること。

評価の信頼性は，ひとつの観点について複数回の評価を行い，総括することで，より高まります。単元最後の記録会・発表会などの場面のみで，評価をすることがないようにしましょう。

時間	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	○		
2			○
3	○	○	
4		○	○
5	○		
計	３回	２回	２回

表１　評価回数のチェック

② Ａ/Ｂ/Ｃの判定を行う記録に残す評価（総括的な評価）と評価の計画に設定されない指導に生かす評価（形成的な評価）があること。

表１のように，その時間に行う評価の観点と内容は計画されています。これは，先生たちが，子どもたちの姿からＡ/Ｂ/Ｃの評価をし，指導簿等に記録していくということを明確にしたものになります。
注意したいのは，評価の計画がない場合も評価する場面があるということです。

例えば，その一つは，水泳のクロールで肘を高く挙げることがうまくできていない生徒に，「手が空中にあるときは，手のひらを外側に向けてごらん」，「腕のかきと一緒に体も傾くようにしてごらん」などとアドバイスをする場合です。
生徒の活動している姿が評価規準に届いていないと判断した場合は，評価規準を達成できるように適宜，指導や支援を行うと思います。しかし，その場その場でＡ/Ｂ/Ｃの評価を行うのではなく，その後の評価の計画で設定された時間に評価規準に沿って評価をします。

もう一つは，それぞれの観点に照らして特に優れた活動状況が確認できた場合です。その生徒を称賛するとともに，その観点に対しての評価の材料として記録しておきます。

評価をする上で大切なことは，すべての生徒が「おおむね満足」（Ｂ）以上になるように，その都度の評価（見取り）を生かした指導を行うことです。日ごろの指導で大切にしたいのは「指導に生かす評価（形成的な評価）」であり，その見取りを適切な指導につなげていくことに力を注ぐ必要があります。そのような日ごろの指導と評価の総括として一定期間での生徒の活動状況を通知表や指導要録等に記録するために行うのが「記録に残す評価（総括的な評価）」ということになります。

ただ，「指導に生かす評価（形成的な評価）」については，１時間の授業の中でも様々な観点に照らし合わせたいくつものアドバイスや指導・支援を行っているのが現状です。指導計画として学習評価を考えた場合に，その一つ一つを指導案等の計画に表すことは，非常に難しくあまり効率のよいものではありません。その時間に評価をする観点を明確にするために「記録に残す評価」（総括的な評価）のみを指導計画として設定するようにしています。

中学校保健体育科における学習評価事例　２

■　１単位時間の形成的評価と総括的評価の方法が分かる事例　　第１学年及び第２学年　「Ｃ　陸上競技」

体育分野「陸上競技（走り幅跳び）」第１学年

毎時間の評価では，生徒の活動の姿を形成的に評価する場面とその時間の総括として評価する場面があります。ここでは，形成的な評価の場面と総括的に評価する場面を，本単元の１時間の指導を例にして示していきます。

１　単元の目標

(1)　次の運動について，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。

・走り幅跳びでは，スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと。

(2)　陸上競技に積極的に取り組むとともに，ルールやマナーを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。

(3)　陸上競技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方などを理解し，課題に応じた陸上の取り組み方を工夫できるようにする。

２　単元の評価規準

（○：第１学年の評価規準，●：第２学年の評価規準）

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元の評価規準	○陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○勝敗などを認め，ルールやマナーを守ろうとしている。 ○分担した役割を果たそうとしている。 ●仲間の学習を援助しようとしている。 ●健康・安全に留意している。	○技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ●課題に応じた練習方法を選んでいる。 ●仲間と協力する場面で，仲間のよい動きなどを指摘している。 ○学習した安全上の留意点を他の練習や競技場面に当てはめている。	○走り幅跳びでは，スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶことができる。 ●走り高跳びでは，リズミカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができる。	○陸上競技の特性や成り立ちについて，学習した具体例を挙げている。 ○技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。 ●陸上競技に関連して高まる体力について，学習した具体例を挙げている。
学習活動に即した評価規準	①自己の記録をより伸ばすことができるように積極的に取り組もうとする。 ②約束事を守り，仲間と練習の場を整えたり，着地場所や周囲の安全を確かめたりしようとする。 ③練習などを行う際に，器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとする。	①走り幅跳びの技術の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ②仲間と学習する場面で，学習した安全上の留意点を当てはめている。	①自己に適した距離，または歩数の助走をすることができる。 ②踏み切り線に合わせて踏み切ることができる。 ③かがみ跳びやそり跳びなどの空中動作からの流れの中で着地することができる。 運動の技能の評価規準は，学習指導要領解説の〈例示〉を参考にしています。	①走り幅跳びの特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ②走り幅跳びの技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。

「単元の評価規準」は，国立教育政策研究所から公開されている「参考資料」に記載されている設定例です。単元計画を作る際には，下の「学習活動に即した評価」のように，学校・学級の状況に即した具体的な評価規準を設定します。

本事例では，Ｃ陸上競技イの跳躍の単元として第１学年で走り幅跳びを，第２学年で走り高跳びを行うように計画しています。そのため，発達段階や競技特性を考慮して評価規準を設定しています。さらに単元の授業時数も６時間程度と短いため，各観点での評価する項目も第１学年と第２学年で振り分けています。

●指導内容及び「学習活動に即した評価規準」

ここでは，実際の授業を行う際の指導内容と評価規準を示しています。教師が授業の中で指導する内容とそれに対する生徒の実現状況の評価規準という関係は，「指導と評価の一体化」という原則に基づいたものです。

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
誰もが学習に積極的に取り組むことで技能が向上する可能性があること。 ↓ ①自己の記録をより伸ばすことができるように積極的に取り組もうとする。 学習のルールを守ったり，周囲や練習の場（特に砂地）の状態に留意したりすることで，自分や仲間が安全に学習することができること。 ↓ ②約束事を守り，仲間と練習の場を整えたり，着地場所や周囲の安全を確かめたりしようとする。 分担した役割を果たすことは，学習を円滑に進めることにつながることや，さらには社会生活をおくる上での責任感を育てることにつながること。 ↓ ③練習などを行う際に，器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとする。	走り幅跳びの技術を，助走，踏み切り，空中動作と着地に分け，それらを行うための合理的な動き方の提示。 ↓ ①走り幅跳びの技術の合理的な動き方のポイントを見付けている。 走り幅跳びの技術の習得のための課題学習や試技の場面において，学習した安全面の知識を活用する場面の設定。 ↓ ②仲間と学習する場面で，学習した安全上の留意点を当てはめている。	助走のスピード，踏み切る前の助走のリズム ↓ ①自己に適した距離，または歩数の助走をすることができる。 踏み切り位置を考えた助走距離の設定，踏み切りの態勢 ↓ ②踏み切り線に合わせて踏み切ることができる。 かがみ跳び・そり跳びの空中姿勢，着地動作の姿勢，一連の動作のスムーズさ ↓ ③かがみ跳びなどの空中動作からの流れの中で着地することができる。	陸上競技は，「歩く」「走る」「跳ぶ」「投げる」といった基本的な運動で構成されていること。 陸上競技は競争したり，自己の記録に挑戦したりする楽しさや喜びを味わうことの運動であること。 ↓ ①走り幅跳びの特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 助走のスピードを維持した踏み切ること 踏切線に合わせて踏み切ること。 空中動作にはかがみ跳びやそり跳びなどがあること。 ↓ ②走り幅跳びの技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。

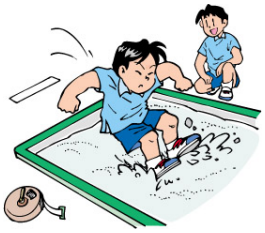
□ の中は指導内容を，丸数字は評価規準を示しています。

３　単元の指導と評価の計画（全６時間）

時間	主なねらい・学習活動	関心 意欲 態度	思考 判断	技能	知識 理解
1	オリエンテーション 1　学習のねらい 2　学習の進め方 3　場づくりの説明 4　学習ノートの使い方 5　練習の進め方 5　走り幅跳びの試技				
2	1　用具の準備 2　準備運動 3　めあての確認 スピードに乗った助走を目指そう				① 観察 学習カード
3	4　基本練習 ・短い助走からの跳躍（踏み切り直前の助走リズムの習得） ・踏み切り板を使った跳躍（跳躍の高さと浮遊感覚の体感） ・ゴム紐を使った跳躍（踏み切りの角度の確認）	② 観察 学習カード	② 観察 学習カード ↓		
4	5　助走距離を確かめる練習 （ペア活動） ※助走距離を確かめながら跳躍する。 6　走り幅跳びの試技 ※一人３回程度	① 観察 学習カード ↓		① 観察 学習カード ↓	
5	1　用具の準備 2　準備運動 3　めあての確認 空中姿勢を工夫して跳躍距離を伸ばそう				② 観察 学習カード
6	4　基本練習 ・踏み切り板を使った跳躍（自分に合った空中姿勢の習得） ・ゴム紐を使った跳躍（踏み切り角度と着地姿勢の確認）	③ 観察	① 観察 学習カード		
7	5　空中姿勢と着地の練習 6　走り幅跳びの試技 ※一人３回程度	② 観察		③ 観察	
8	1　用具準備 2　準備運動 3　記録会の進め方の確認 4　個人練習 5　競技会 ※一人３回の試技 6　単元のまとめ			② 観察	② 観察 学習カード

４　本時の展開（７／８時間）

	学習内容・活動	評価方法及び評価規準
はじめ	1　集合，あいさつ，健康観察を行う。 2　活動を行う場や用具の準備を行う。 ・砂場の整地，助走路の準備（メジャー設置） ・練習補助具（踏み切り板，ゴム紐，ハードル等） 2　準備運動を行う (1)　ランニング，ストレッチ，補強運動	**形成的な評価（関意態③）：観察** 率先して準備を行っている生徒に対し称賛を行い，準備を行っていない生徒には，自分ができる仕事を探すように促すようにする。 ※この観点については，前時に総括的評価を行っているため，特に積極的に活動している生徒，前時に「努力を要する」を評価した生徒の変容にのみ着目します。 **※関意態**は関心・意欲・態度を示します。

な か	3　めあてを確認する。 空中姿勢を工夫して跳躍距離を伸ばそう 4　基本練習を行う。 ・踏み切り板を使った跳躍（自分に合った空中姿勢の習得） ・ゴム紐を使った跳躍（踏み切り角度と着地姿勢の確認） 5　空中姿勢と着地の練習を行う。 ・２人組で教え合いながら，空中姿勢を確認する。  6　走り幅跳びの試技を行う。 ・１人３回の試技を行う。 ・２人組の片方が試技を行い，もう片方は助走路や砂場の整備を行う。	**形成的な評価（技能③）：観察** 「４　基本練習」，「５　空中姿勢と着地の練習」での生徒の様子を観察しながら，空中動作から着地までの一連の動きがうまくいってない生徒に着目し，適宜指導・助言を行う。 ★技能の習得の着眼点 ・「空中姿勢の上体のそり」 ・「着地での姿勢（足の伸膝と上体の戻し）」 次の活動「６走り幅跳びの試技」の総括的評価で，すべての生徒が【おおむね満足できる（Ｂ）】状況を達成できるように，本活動で評価に対する指導・支援を施すようにする。 【努力を要する】状況にある生徒への指導・助言 ・空中姿勢の上体のそりがうまくいかない場合 踏み切りの際に振り上げ足と反対側の腕を高く振り上げるように助言します。 ・着地姿勢がうまくいかない場合 長座体前屈の形になるよう伸ばした足先に手で触れるような意識をもつように助言します。 **総括的な評価（技能③）：観察** かがみ跳びやそり跳びなどの空中動作からの流れの中で着地することができる。 ３回の試技をおこなう際に，Ａ/Ｂ/Ｃの評価を行います。教師は，上記の★技能の習得の着眼点を基に生徒の試技を観察し，名簿等のチェックリストにねらいに対する達成状況を記録する。 【十分満足できる（Ａ）】と判断する状況 ◇スピードが乗った状態で高い踏み切りからスムーズに空中姿勢，着地という一連の動作ができる。
まとめ	7　整理運動・用具の片付けを行う。 8　本時のまとめを行う。 ⑴　試技の記録を基に，本時の学習の反省を書く。 ⑵　学習の成果や課題などのまとめを発表する。 ⑶　次時の計画を立てて授業を終える。	**総括的な評価（関意態③）：観察** 用具の片付けを行う姿を観察し，Ａ/Ｂ/Ｃの評価を行います。授業の最初での準備の姿を勘案しながら，チャックリストにその達成状況を記録する。 ※授業はじめの評価機会とこの評価機会を合わせて総括的な評価とします。両方の評価で，ともにＡまたはＣの場合はそれぞれＡ，Ｃとし，そのほかはＢとします。

● 「運動についての思考・判断」の評価例

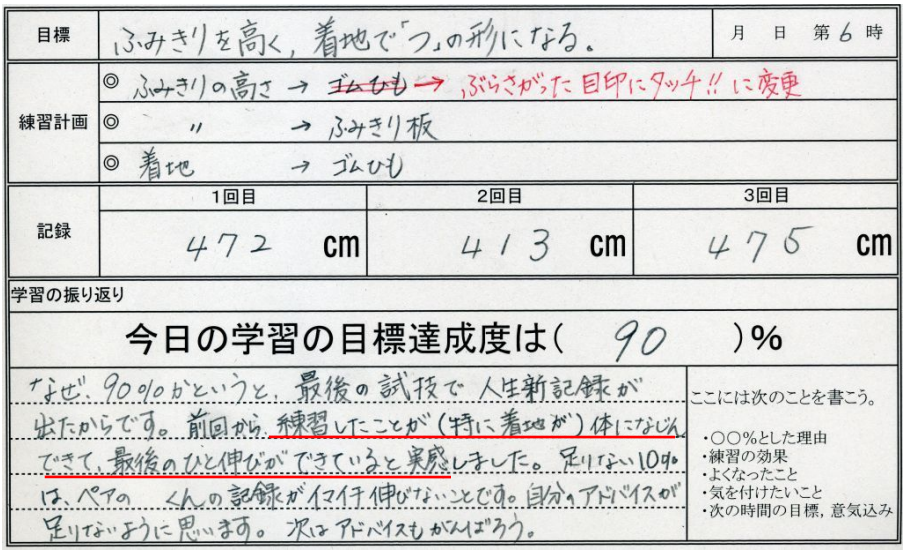
「運動についての思考・判断」の評価は，「課題に応じた運動の取り組み方を工夫している」状況を捉えて評価することになります。この観点は，ワークシートで捉える場合と一定期間の活動の様子を観察して捉える場合があります。本単元では「学習活動に即した評価規準」で設定した２点について，以下のように考えて評価方法を決定しました。

評価規準	①走り幅跳びの技術の合理的な動き方のポイントを見付けている。	②仲間と学習する場面で，学習した安全上の留意点を当てはめている。
着眼点	走り幅跳びの技能を習得する過程や，自分の目標（課題）を達成する過程で，**どのような動きや意識を，どのような練習方法を選んで行ったか。**	事前に指導した練習や試技を行う際の安全上のルールや，補助具を使った練習の際の用具の取り扱い，練習や試技を行う場（助走路・砂場）の安全確認などを，**学習の形態などに応じて実行しているか**
特徴	その活動の意図や思考した過程を見取る必要があり，観察だけでは明らかにならないことがほとんどである。また，目標（課題）に対して工夫した活動の意図をすべての生徒について確認する必要がある。	活動や場の状況に合わせて安全に留意した行動を取っているかどうかを見取る必要がある。また，実際の行動を見取る必要があるため，１単位時間の評価で終わらずに，ある一定期間の評価機会がないと生徒全員分の評価ができないことになる。
評価方法	**ワークシート等の記述**	**教師の観察** ※本単元では第３時に評価機会を設定していますが，他の時間で特に優れた行動や指導・助言が必要な行動があった場合は，第３時の評価に加味するようにしました。

運動について思考・判断することが容易になるように作成したワークシートと実際の評価

～目標～
必ずその時間の活動目標を設定させました。書く内容は，数値よりも具体的な姿で書くように指導しました。

～練習計画～
「何の練習をするのか。」「どんな練習方法か。」を記述させました。
計画を立てさせることで，見通しをもって学習に取り組んだり，自分の課題に即してどのような練習が必要なのかを考えたりすることが可能になって行きます。赤字は授業の中で練習方法を変更したためです。



目標	ふみきりを高く，着地で「つ」の形になる。		月　日　第６時
練習計画	◎ ふみきりの高さ → ~~ゴムひも~~ → ぶらさがった目印にタッチ!! に変更		
	◎ 〃 → ふみきり板		
	◎ 着地 → ゴムひも		
記録	1回目	2回目	3回目
	472 cm	413 cm	475 cm

学習の振り返り

今日の学習の目標達成度は（ 90 ）%

なぜ，90%かというと，最後の試技で人生新記録が出たからです。前回から，練習したことが（特に着地が）体になじんできて，最後のひと伸びができていると実感しました。足りない10%は，ペアの　くんの記録がイマイチ伸びないことです。自分のアドバイスが足りないように思います。次はアドバイスもがんばろう。

ここには次のことを書こう。
・○○%とした理由
・練習の効果
・よくなったこと
・気を付けたいこと
・次の時間の目標，意気込み

～記録～
数値を記録するのは，自分の学習活動を客観的に見つめるきっかけにもなります。

～学習の振り返り～
学習の目標達成度では，自分なりの自己評価をさせました。目標と照らし合わせて書く必要があるので，常に自分の課題を意識する必然性が出てきます。
次に，その点数（%）を分析する欄を設け，その点数（%）になった理由や練習の効果などを書き込ませています。理由や根拠をきちんと説明させるようにすることで，自分の運動への取り組み方を考えていくことにつながります。

本事例では，このワークシートの記述状況を【おおむね満足（B）】と判断しました。
理由付けもきちんとできており，友達との関わりについても意欲を見せていることが分かります。本単元のねらいである，「合理的な動き方のポイント」を見付けることについて（赤線部分）は書かれているものの，ぼんやりしています。目標にある着地の「つ」の形を達成するために，どんな動きや意識に留意していたのかが書かれていれば，【十分満足（A）】の状況あると判断します。

中学校保健体育における学習評価事例３

■　保健分野における指導と評価の方法が分かる事例

保健分野　「健康な生活と疾病の予防」第３学年

１ 単元の目標

（1）健康な生活と疾病の予防について関心をもち，学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

（2）健康な生活と疾病の予防について，課題の解決を目指して，知識を活用した学習活動などにより，科学的に考え，判断し，それらを表すことができるようにする。

（3）健康の成り立ちと疾病の発生要因，生活行動・生活習慣と健康，喫煙，飲酒，薬物乱用と健康，感染症の予防，保健・医療機関や医薬品の有効利用，個人の健康を守る社会の取り組みについて，課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活のかかわりを理解することができるようにする。

２　単元の評価規準

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
単元の評価規準	健康な生活と疾病の予防について関心をもち，学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康な生活と疾病の予防について，課題の解決を目指して，知識を活用した学習活動などにより，科学的に考え，判断し，それらを表している。	健康の成り立ちと疾病の発生要因，生活行動・生活習慣と健康，喫煙，飲酒，薬物乱用と健康，感染症の予防，保健・医療機関や医薬品の有効利用，個人の健康を守る社会の取り組みについて，課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活のかかわりを理解している。
学習活動に即した評価規準	①健康な生活と疾病の予防について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②健康な生活と疾病の予防について，課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習に意欲的に取り組もうとしている。	①健康な生活と疾病の予防について，健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決方法を見付けたり，選んだりするなどして，それらを説明している。 ②健康な生活と疾病の予防について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している。	①健康の成り立ちと疾病の発生要因について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 ②生活行動・生活習慣と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 ③喫煙，飲酒，薬物乱用と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 ④感染症の予防について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 ⑤保健・医療機関や個人の健康を守る社会の取り組み，医薬品の有効利用について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 ⑥個人の健康を守る社会の取組について理解したことを言ったり書き出したりしている。

「単元の評価規準」については，第２編「評価規準に盛り込むべき事項」を引用しています。また，「学習活動に即した評価規準」についても，同資料の「評価基準の設定例」を参考にして作成します。

３　指導と評価の計画（９時間）

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法 **関意態**…関心・意欲・態度 **思・判**…思考・判断 **知・理**…知識・理解
		関心意欲態度	思考判断	知識理解	
１ 健康を左右するもの／運動と健康	【ねらい】健康を維持について，課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組み，健康の成り立ちや運動することの効果，健康づくりのための運動の仕方について理解することができるようにする。 【学習活動】 １　健康の維持についての課題に気付く。 ２　健康を損なう要因や健康を維持するための方法についてグループで話し合う。 ３　健康の成り立ちについてワークシートにまとめる。 ４　健康を維持するための運動の効果や運動の仕方について，自分の経験を振り返りながらワークシートにまとめ，グループで話し合う。	○		○	〈関意態－①〉（学習活動２） 健康な生活と疾病の予防について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈知・理－①〉（学習活動３） 健康の成り立ちと疾病の発生要因について理解したこと書き出したりしている状況を【ワークシート】で捉える。
２ 食生活や休養と健康	【ねらい】健康を維持するための食生活や休養について，自分たちの生活を振り返ったり，資料を見たりする学習活動に意欲的に取り組み，適度な食事や休養をとることが健康の維持につながることについて理解することができるようにする。 【学習活動】 １　食生活や休養について教科書の資料を基に自分の経験を発表する。 ２　自分の食生活や休養について事前に記録しておいたワークシートを基に自分の生活を振り返り，グループで意見交換する。 ３　自分の健康を維持するためには，日常の運動や食生活，休養が大切であることをワークシートにまとめ，発表する。	○	○		〈思・判－②〉（学習活動３） 健康な生活について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈関意態－②〉（学習活動２） 健康な生活について，課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。
３ 生活習慣病とその予防	【ねらい】生活習慣病の種類やその要因について理解し，自分たちの生活を振り返りながら生活習慣病を予防する方法について考えることができるようにする。 【学習活動】 １　生活習慣病である疾病やその要因について資料を基にワークシートにまとめる。 ２　がんを防ぐための１２か条と自分の生活習慣を比較して，自分の生活を振り返る。 ３　生活習慣病を予防するには，生活習慣を改善する必要があることをワークシートにまとめ，発表する。		○	○	〈思・判－②〉（学習活動３） 健康な生活と疾病の予防について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈知・理－①〉（学習活動３） 生活行動・生活習慣と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。

4 喫煙と健康	【ねらい】喫煙について，資料を見たり，家族や社会の喫煙に関する環境を振り返ったりする学習活動に意欲的に取り組み，喫煙が喫煙者やその周りの人の健康を損なうことについて理解できるようにする。 【学習活動】 1　喫煙を進められたときに自分がどのような行動や考えをもっているか，グループで話し合う。 2　喫煙の影響について資料を参考にしてワークシートにまとめる。 3　喫煙に対する社会の環境について，自分の身の回りを振り返り，発表する。	○		○	〈関意態－①〉（学習活動３） 喫煙について，それに伴う体への影響についての資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈知・理－③〉（学習活動２） 喫煙と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている状況を【ワークシート】で捉える。
5 飲酒と健康	【ねらい】飲酒について，資料から自分の体への影響やその害について理解し，飲酒と健康について自分の考えをもつことができるようにする。 【学習活動】 1　飲酒によるアルコールの人体への影響や害について，資料を参考にワークシートにまとめる。 2　飲酒に対して自分の考えをもち，グループで発表する。 3　将来の自分の飲酒に対する心構えをワークシートにまとめ，発表する。			○	〈知・理－③〉（学習活動２） 飲酒と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている状況を【ワークシート】で捉える。
6 薬物乱用と健康	【ねらい】薬物についての正しい知識をもち，さらに自分の健康や社会への影響について理解することができるようにする。 【学習活動】 1　児童生徒の薬物乱用についての実態を知る。 2　薬物乱用の害について資料を基にまとめる。 3　薬物乱用は，自分の健康を害し，社会に悪影響を及ぼすことについて，ワークシートにまとめ，発表する。			○	〈知・理－③〉（学習活動２） 薬物乱用と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。
7 喫煙・飲酒・薬物乱用の要因	【ねらい】喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為について，資料を見たり，自分たちの考えを話合う活動に意欲的に取り組み，心身への影響や喫煙・飲酒・薬物摂取などの行為に誘われた時への対処方法を理解することができるようにする。 【学習活動】 1　なぜ未成年が喫煙や飲酒・薬物乱用などの行為を行ってしまったかについて，資料を参考にして自分がどのような対処をするか話し合う。 2　身の回りにある喫煙・飲酒・薬物乱用に関する社会環境について振り返り，発表する。 3　自分が喫煙・飲酒・薬物乱用などから身を守るための方法を考え，その方法をグループで話し合う。	○	○		〈関意態－①〉（学習活動３） 喫煙・飲酒・薬物乱用について，関連する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。 〈思・判－①〉（学習活動３） 喫煙・飲酒・薬物乱用から身を守るために，健康に関する資料等で調べたことを基に解決方法を見付けたり，選んだりするなどして，それらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。

8 感染症とその予防／エイズ	【ねらい】感染症について，資料を見たり，自分を振り返ったりする活動に積極的に取り組み，感染症の原因やその予防について理解することができるようにする。 【学習活動】 1　感染症が起こる原因についてグループで話し合う。 2　感染症の原因や予防のための対策について資料を基にまとめる 3　性感染症やエイズについて分かったことをワークシートにまとめる。			○	〈知・理－④〉（学習活動３） 感染症の予防について理解したことを言ったり，書き出したりしている状況を【ワークシート】で捉える。
9 保健・医療機関と医薬品の有効利用／共に生きる社会	【ねらい】健康に支える施設や社会の取り組み，医薬品について，その役割や利用方法を理解し，健康を維持するための身の回りの取り組みについて考えることができるようにする。 【学習活動】 1　健康を損ねたときに利用したことのある施設や医薬品などを発表する。 2　健康を支える施設の役割や医薬品の有効利用についてワークシートにまとめる。 3　健康を支える社会の取り組みについて理解する。 4　自分が健康に生きていくために今からできることや心掛けていくことについて単元を振り返りワークシートにまとめる。		○	○	〈知・理－⑤〉（学習活動２，３） 保健・医療機関や個人の健康を守る社会の取り組み，医薬品の有効利用について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 〈思・判－②〉（学習活動４） 健康な生活と疾病の予防について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，自分のこれからの生活に生かすための解決方法を筋道を立てて書き出している状況を【ワークシート】で捉える。
	評価機会	4	4	7	

本単元は，健康な生活と病気の予防についての理解を深める学習です。ここでは，健康な生活を送るための適切な知識を理解し，自分の生活に生かしていこうとする態度や思考・判断を身に付けることがねらいです。

特に保健分野の学習では，自分たちの生活を振り返りながら，正しい知識を確実に習得させていくような授業づくりをするように心掛ける必要があります。そのため，本単元でも，「健康・安全についての知識・理解」の評価機会を多く設定しているのは，指導の重点を知識の習得に置いているからです。

また，「健康・安全への関心・意欲・態度」の評価については，自己の生活を振り返ったり，グループでそれぞれの経験や気付き，解決方法などを話し合ったり場面を想定して設定しました。学んだ知識を自分たちの生活に生かしていこうとする意欲や態度を育てるためには，まず，自分の姿を振り返って自分自身の課題をもたせる必要があるからです。さらに，友達との意見交換を通して，多角的な見方や考え方も身に付けていく必要があります。評価機会はさほど多くありませんが，それぞれの時間での課題意識を十分にもたせるための導入や資料提示の工夫をするように心掛けましょう。

「健康・安全についての思考・判断」については，学んだ知識を自分の生活にどう生かしていくかを考えられるように設定しています。その考えの根拠や原因を明確にしながら説明していくことが大切になってきます。そのためにも，考えの過程が明確になるようなワークシートを準備する必要があります。

※観察による評価については，すべての生徒の活動状況を確認することができないため，観察の視点や評価規準をより具体的に持っておくことが大切です。

観点別評価の例

「健康・安全への関心・意欲・態度」の評価例

１／９時　単元の評価規準「健康・安全への関心・意欲・態度」－①

学習活動に即した評価規準

①健康な生活と疾病の予防について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりする等の学習活動に意欲的に取り組もうとしている。

学習活動２

自分の健康な状態と健康を損ねた状態を振り返らせ，ワークシートにまとめさせた上で，グループで健康を維持する上で必要なことや健康を損ねる要因を話し合わせる活動を仕組みました。

評価

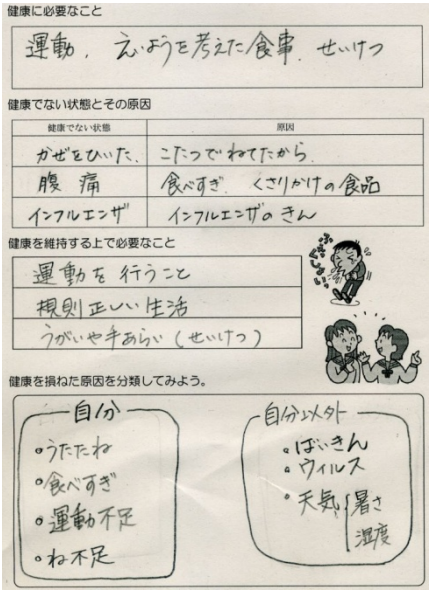
自分の健康を振り返り，健康な状態と健康を損ねた状態を書き出し，グループでの話合いを通して，健康を維持する上で必要なことと健康を損ねる要因を記述している状況をワークシートの記述において評価しました。

評価をＡとする状況

話合いの場面での自他の考えを結び付けてその結果を書き出している。

評価がＢに達しないと考える生徒への手立て

自分の振り返りが十分にできない生徒には，口頭で病気になったときの状況を聞き出すようにしました。話合い後の記述が不十分な生徒には，自分の問題で病気になった場合と外的環境が原因で病気になった場合を区別して考えさせるようにしました。



※ ワークシートの「健康に必要なこと」「健康でない状態とその原因」で記述した内容が「健康を維持する上で必要なこと」「原因の分類」を記述する際に，話合いで得た情報や考えも加わっていることが分かる。自分の考えだけでなく，積極的に話し合ったことを生かそうとしているとして「A」と判断しました。

「健康・安全についての知識・理解」の評価例

４／９時　単元の評価規準「健康・安全についての知識・理解」－③

学習活動に即した評価規準

①喫煙と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている。

学習活動２

教科書にある資料を提示ながら人体への影響についてワークシートにまとめさせました。また，ワークシートには，「タバコを吸っている人に一言！」という欄を設け，自分が喫煙に対して考えたことを記入させるようにしました。

評価

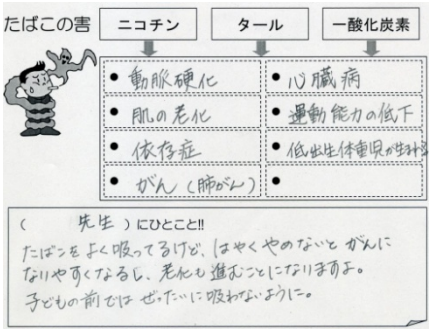
喫煙による人体への影響についてワークシートにまとめた状況と「タバコを吸っている人に一言！」に禁煙や分煙を促す考えを書いているかを評価しました。

評価をＡとする状況

「たばこを吸っている人に一言！」の欄に，いくつかの喫煙の影響を挙げながら自分の考えを書いている。

評価がＢに達しないと考える生徒への手立て

喫煙の人体への影響を書き出せていない生徒には，提示した資料を再度確認させるようにしました。「喫煙はだめ！」など，原因や根拠を明らかにし



※ たばこの害について，学習したことを漏らさず書き出すことができており，「○○にひとこ

ていない考えに対しては，どの資料からそう思ったのかを聞き出すようにした。	と！」で，喫煙者である○○先生について体への影響や受動喫煙を挙げて書き出しているので「A」と判断しました。

「健康・安全についての思考・判断」の評価例

７／９時　単元の評価規準「健康・安全についての思考・判断」－①

学習活動に即した評価規準

①喫煙・飲酒・薬物乱用から身を守るために，健康に関する資料等で調べたことを基に解決方法を見付けたり，選んだりするなどして，それらを説明している。

学習活動２

「喫煙・飲酒の誘いに対処する」として，その対処についての自分の考えや予想を記述させ，グループで発表後，よりよい対処の方法を考えさせました。さらに，日本と外国のたばこのポスターを提示し，両者を比較させながら広告から読み取れることを基に自分の考えを説明させるようにしました。

評価

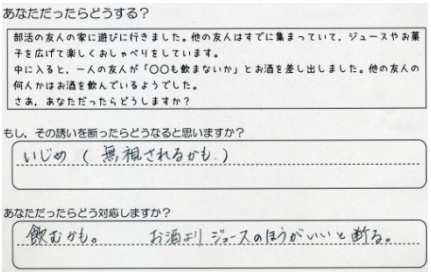
喫煙・飲酒の誘いに対する断り方や広告に潜む問題点を自分なりに考え，理由や根拠を挙げて記述や発表をしているかを評価しました。

評価をＡとする状況

自分なりの対処の方法と広告に潜む問題点について，なぜそのように考えたのかが分かるように理由や根拠と結び付けて記述したり発表したりしている。

評価がＢに達しないと考える生徒への手立て

対処法が思い浮かばない生徒には，断ることを前提としてその理由付けを考えさせる。また，広告を見て広告に潜む問題が思い浮かばない生徒には，外国のポスターから読み取れることを確認し，ポスターの意図を確認した上で日本のポスターについて考えさせる。


あなただったらどうする？

部活の友人の家に遊びに行きました。他の友人はすでに集まっていて，ジュースやお菓子を広げて楽しくおしゃべりをしています。
中に入ると，一人の友人が「○○も飲まないか」とお酒を差し出しました。他の友人の何人かはお酒を飲んでいるようでした。
さあ，あなただったらどうしますか？

もし，その誘いを断ったらどうなると思いますか？

いじめ（無視されるかも）

あなただったらどう対応しますか？

飲むかも。　お酒よりジュースのほうがいいと断る。

※対処法は「お酒よりジュースがいいと断る」と具体的な方法は書けています。おおむね満足（B）の自分なりの対処法は考えているものの，その根拠や理由付けがないこと，場の雰囲気等が記述内容に反映されていないことなどから十分満足（A）には達しないと判断しました。この後，グループでの話し合いを再度もたせ，それぞれの断り方のよいところや改善した方がよいところなどを確認しました。

中学校保健体育科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　形成的な評価と総括的な評価という言葉がありますが，どのような違いがあるのですか？

Ａ　**総括的な評価…学習活動が一区切りした際に，指導と学習の成果を確認するために行う評価です。**

その活動の中での活動状況を，「十分満足できる」と判断されるものをA，「おおむね満足できる」と判断できるものをB，「努力を要する」と判断されるものをCで評価します。1単位時間の最終的な評価や単元終了時の各観点の評価，通知表，指導要録の評価も総括的な評価にあたります。この総括的な評価は，「1学期の評価を2学期の評価に生かす」，「第1学年での評価を第2学年での評価に生かす」といったように，長いスパンで考えたときには，形成的な評価と捉えることもできます。

形成的な評価…学習指導の途中で，学習活動の促進と指導方法の確認・修正のために行う評価です。

この形成的な評価を行いながら生徒の活動状況を適宜把握していきます。その上で，一定期間（1単位時間や単元）の指導目標に到達するように，指導や助言を行うことになります。このことから，形成的な評価は「指導に生かす評価」であるといえます。授業の中では，形成的な評価を行った際に，このまま活動を進めていくと総括的な評価で「努力を要する」状況（C）と判断されるそうな生徒に対しては，より「おおむね満足できる」状況（B）に近付くように指導や助言を行います。また，すでに「十分満足できる」状況（A）にある生徒に対して称賛の言葉をかけたり，「おおむね満足できる」状況（B）の生徒に対し，「十分満足できる」状況（A）に向かわせるための助言を行ったりします。形成的な評価を適宜行うからこそ，生徒の個々の状況に合わせて手立てを施すことが可能になるのです。

Ｑ　体育科における評価で特に留意すべき点は何ですか？

Ａ　より具体的な生徒の姿を評価規準として設定しておくことです。

体育分野の場合，実際の学習活動における評価は，動きの中で行う場合が多くなります。そのため，同じ活動の様子を何度も観察することが難しく，一連の動きの中から評価する必要がでてきます。そのような活動を評価していくためには，評価規準をより具体的な姿として設定しておくことが重要になってきます。そうすることで，評価すべき点を絞って生徒の活動の様子を観察することができます。また，具体的な姿を評価規準とすることで，そのつまずきに対する支援もより具体的になってくると考えられます。

Ａ　量的な評価規準にならないようにします。

体育分野の評価においては，タイムや距離などの記録に引きずられた評価にならないようにしなければいけません。例えばハードル走において，ハードルを滑らかにハードルを越せていないにもかかわらず，相対的にタイムがよいから運動の技能の評価が「十分満足できる」状況（A）とするケースです。「遠くから踏み切り，勢いよくハードルを飛び越せているか」というハードルの越え方や走り方の質に関わる評価であれば，タイムや距離などの記録に関わりなく，その生徒の身に付けた技能を評価することができます。指導したことが正しく身に付いているかどうかを適切に評価することが大切です。

Ｑ　保健分野の評価規準はどのように設定したらよいですか？

Ａ　国立教育政策研究所からの資料を参考することで比較的簡単に設定することができます。

保健分野の評価については，学習指導要領の内容のまとまりと実際の単元がほぼ一致しています。単元の評価規準は国立教育政策研究所の「評価規準の作成のための参考資料」の中の「評価規準に盛り込む事項」を，学習活動に即した評価規準（各１単位時間の評価規準）は同参考資料の「評価規準の設定例」をそれぞれ参考にすることで評価規準を設定することができます。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のURLをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（中学校　技術・家庭）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校技術・家庭における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校技術・家庭における学習評価の進め方
4　中学校技術・家庭における学習評価事例
5　中学校技術・家庭における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・<u>表現</u>」**
「技能・<u>表現</u>」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校技術・家庭における教科目標（分野の目標），評価の観点及びその趣旨

1　教科目標，評価の観点及びその趣旨

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して，生活と技術とのかかわりについて理解を深め，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

⇒基本的な考え方は変わっていませんが，これからの生活を見通し，よりよい生活を創造するとともに，社会の変化に主体的に対応する能力をはぐくむ観点から，分野の目標についても改善が図られています。

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
生活や技術について関心をもち，生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	生活について見直し，課題を見付け，その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，生活と技術とのかかわりについて理解している。

※　下線は従前からの変更点であり，佐賀県教育センターによる。

2　分野の目標，評価の観点及びその趣旨

(1) 技術分野の目標，評価の観点及びその趣旨

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

⇒ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに，よりよい社会を築くために，技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視しています。

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術について関心をもち，技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために，主体的に技術を評価し活用しようとする。	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに，その解決のために工夫し創造して，技術を評価し活用している。	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	材料や加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術についての知識を身に付け，技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。

※　下線は従前からの変更点であり，佐賀県教育センターによる。

(2) 家庭分野の目標，評価の観点及びその趣旨

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

⇒自己と家庭，家庭と社会とのつながりを重視し，これからの生活を展望して，よりよい生活を送るための能力と実践的な態度の育成を重視しています。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
衣食住や家族の生活などについて関心をもち，これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し，課題を見付け，その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し，生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

※　下線は従前からの変更点であり，佐賀県教育センターによる。

これまでと変わったところは？

○　評価の観点はこれまでと変更はないのですが，その趣旨については新学習指導要領の趣旨を踏まえて改善が図られている点に留意する必要があります。

○　特に「生活を工夫し創造する能力」の観点では，生活における課題の解決を目指して考える（思考力），考えたことを基に課題の解決を図る（判断力），考えたことを的確に表す（表現力）を含んでおり，これらを一体的に評価することが求められています。

技術・家庭科における学習評価の進め方

(1)　題材の目標を設定する

・教科目標と分野の目標，学習指導要領の内容を分析し，各題材で確実に身に付けさせたい資質や能力を明確にした上で，題材ごとの指導目標を設定します。

(2)　題材の評価規準を設定する

・題材で取り上げる内容と同じ内容の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして，題材の目標を踏まえて，評価規準を設定します。

・評価規準は，評価の観点別に，生徒が目標を実現した（「おおむね満足できる」）状況を具体的に示したものとなります。

(3)　「指導と評価の計画」を作成する

・指導の計画を立てて評価規準を位置付け，それらをどのような評価方法により評価するのかなどを具体的に示した「指導と評価の計画」を作成することが必要です。

①　学習活動に即した評価規準を設定する

・題材における生徒の具体的な学習活動を想定して，「評価規準の設定例」を参考にして設定します。

・その時間のねらいや学習活動に照らして，いずれかの観点に重点を置くなど，適切に設定することが大切であり，単位時間ごとに指導目標を明確にして，ねらいが実現された状況を考え設定します

② 評価場面・評価方法を設定する

・評価場面の設定において，特に，「生活を工夫し創造する能力」の観点については，学習結果としての工夫だけでなく，学習過程における工夫について把握できるような評価場面の設定が大切です。

・評価方法を検討する際には，評価の観点に対応した方法を選ぶことや評価規準と組み合わせて設定することが大切です。

(4) 毎時間の授業の評価結果を記録する

・授業において，あらかじめ計画した「指導と評価の計画」に基づいて評価結果を記録していきます。

(5) 評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする

・学習内容においては，評価結果のうち「指導に生かす評価」か「評価結果として記録に残す評価」かを明確にします。

・「指導に生かす評価」は，評価結果によって一人ひとりに応じた指導に役立てていきます。

(6) 観点ごとに総括する

・集まった評価資料やそれに基づく評価結果（A，B，C）などを基礎資料として観点ごとの総括的評価（A，B，C）を記録する。

評価規準を設定する上での配慮事項

技術・家庭科においては，３学年を見通した指導計画を基に，題材で指導する内容を明確にして評価計画を立てていきます。評価規準を設定するにあたっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下，参考資料）を参考にして，各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。その際に次のような事項を配慮してください。

(1) 「題材の評価規準」は，地域や学校の実態，生徒の発達の段階や興味・関心，分野間及び他教科との関連等を考慮し，各学校が定めた履修学年や授業時数を踏まえ，題材の目標を明確にした上で，関係する項目に対応した複数の「評価規準に盛り込むべき事項」を統合して設定するなど，実際の指導に対応した評価規準となるようにする。

具体例として，技術・家庭科における学習評価事例３（家庭分野）に示している「ふるさとの味に挑戦しよう　－佐賀の味　がめ煮（筑前煮）づくり－」を取り上げ，題材の評価規準の設定の仕方の例を示していきます。

本題材の目標を「地域の食材について関心をもち，その食材を日常食に生かした調理の工夫を考えたり，課題をもって実践したりすることができる。」としたとします。その場合，対応する題材の評価規準は，参考資料より，内容「Ｂ食生活と自立」の【(3) 日常食の調理と地域の食文化の評価規準に盛り込むべき事項】となります。

【「(3)日常食の調理と地域の食文化」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み，食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け，その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに，日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

しかし，題材の目標を「地域の食材について関心をもち，その食材を日常食に生かし，環境に配慮した調理の工夫を考えたり，課題をもって実践したりすることができる。」としたとすると，併せて，内容「D身近な消費生活と環境」の【(2) 家庭生活と環境の評価規準に盛り込むべき事項】 が加わることになります。

【「(2)家庭生活と環境」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組みよりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け，その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し，基礎的・基本的な知識を身に付けている。

このように，どのような目標を設定するかということに応じて，それぞれの内容に対応した【評価規準に盛り込むべき事項】が参考資料に記載されていますので，それをそのまま活用できる場合もありますが，設定した題材の目標や学習内容に合わせて，組み合わせたり具体化したりすることも必要です。

この題材例では，例えば，次のような題材の評価規準を設定することが考えられます。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
地域の食材を生かした日常食などの調理に関心をもち，環境に配慮した調理を実践しようとしている。	地域の食材を生かす調理や環境に配慮した調理の方法について工夫している。	地域の食材を生かし，環境に配慮した調理に関する基礎的・基本的な技術が身に付いている。	地域の食材のよさが分かり，日常食に地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解することができる。

このように，題材の目標に合わせて，参考資料を基に題材の評価規準を設定してください。

(2) 「学習活動に即した評価規準」は，その時間のねらいや学習活動に照らして「評価規準の設定例」を参考にして設定する。その際，毎時間４観点について評価するのではなく，いずれかの観点に重点を置くなど，適切に設定する。

具体例として，観点「生活を工夫し，創造する能力」の「学習活動に即した評価規準」を検討したものを示します。表の左側に「参考資料」で示されている評価規準の設定例を示しています。それを基に，表の右側に，実際に行う学習活動の内容に即した評価規準を検討した例を示しています。各学校の環境に応じて，取り上げる学習活動の内容が違うことを踏まえて，「学習活動に即した評価規準」は，その学習活動の内容に即して具体的に設定していくことが必要です。

◆学習活動に即した評価規準の検討例１

内容「Ｄ情報に関する技術」

(１)情報通信ネットワークと情報モラル

「ウ　著作権や発信した情報に対する責任と，情報モラル」

指導学年	第３学年
時間	１時間
題材 評価規準の設定例 （国立教育政策研究所　参考資料）	学校紹介のホームページを作ろう （情報発信時の注意）
情報に関する技術の課題を明確にし	情報発信時の課題を明確にし
社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討するとともに	知的財産権や情報モラルの側面から比較・検討するとともに
適切な解決策を見いだしている。	使用する素材を決定している。

※　設定例の下線部を，実際の学習活動に即して波線部のように具体化した例です。

◆学習活動に即した評価規準の検討例２

内容「Ｃ生物育成に関する技術」

(２)生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育

「ア　目的とする生物の育成計画を立て，生物の栽培又は飼育ができること」

指導学年	第２学年
時間	２時間
題材 評価規準の設定例 （国立教育政策研究所　参考資料）	ペットボトルで稲作をしよう。
目的とする生物の育成に必要な条件を明確にし	米の育成に必要な条件を明確にし
社会的，環境的及び経済的側面などから	米の生育の規則性や土や気温などの環境条件の側面から
種類，資材，育成期間などを比較・検討した上で	品種や育成期間などを比較・検討した上で
目的とする生物の成長に適した管理作業などを決定している。	米の成長に適した育成計画を立てている。

※　設定例の下線部を，実際の学習活動に即して波線部のように具体化した例です。

各観点の評価方法は？

☆【生活や技術への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で主体的に学習に取り組む態度に対応した観点です。技術・家庭科が対象としている学習内容に関心をもち，自ら課題に取り組もうとする意欲とともに，将来にわたって実践しようとする態度が身に付いているかを評価するものです。

技術分野においては，現代社会を支える技術について関心をもち，その在り方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し，主体的に活用しようとする態度が身に付いているかを見ます。例えば「技術と社会や環境との関わりに関心をもっているか」「技術に関する倫理観や新しい発想を生み出し活用しようとしているか」などを評価することになります。

家庭分野においては，身近な生活の課題を主体的にとらえ，課題解決を目指して意欲的に取り組み，家庭生活をよりよくするために実践しようとする態度が身に付いているかを見ます。例えば，「衣食住や家族の生活などについて関心をもっているか」「意欲的に課題を解決しようとしているか」「家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているか」などを評価することになります。

この観点は，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。また，同じ学習活動の中で他の観点と併せて評価する場合も考えられます。その際は，それぞれの観点における具体的な実現状況と評価方法を明確にしておくことが大切です。

⇒この観点は，行動観察，発言の内容，学習カードの記述内容などで見取ることができます。

☆【生活を工夫し創造する能力】は，どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で，思考力・判断力・表現力等に対応した観点です。技術・家庭科では，知識・技術を活用して，生活を見つめて課題を発見する能力やその解決を目指して自分なりに工夫したり創造したりする能力が身に付いているかを評価するものです。

技術分野においては，技術と社会や環境とのかかわりについての理解に基づき，その在り方や活用の仕方を見直し，改善すべき課題を見付け，それらを解決するために，習得した知識と技術を基に工夫し創造して技術を評価したり活用したりすることができる能力が身に付いているかを見ます。例えば，「目的を達成するために制約条件の元で最適な解決策を考え出すことができるか」などについて評価することになります。

家庭分野においては，共通の観点「思考・判断・表現」に当たるものであり，学習した知識と技術を活用して，生活を見つめて課題を発見する能力やその解決を目指して自分なりに工夫したりする能力が身に付いているかを見ます。例えば，「衣食住や家族の生活などについて見直し，課題を見付けているか」「課題を多面的に考察しているか」「学習した知識と技術を活用して課題解決をしているか」「解決を目指して自分なりに工夫したり，自分の考えを生かしたりした取組をしているか」などについて評価することになります。

この観点では，生徒が考えたり自分なりに工夫したりしたことを，図や言葉でまとめ，発表し合うなど，言語活動を中心とした表現に係る活動を通して評価することに留意する必要があります。また，学習結果だけを評価するのではなく，学習過程の評価ができるような評価計画とすることが重要です。

⇒この観点は，行動観察，発言の内容，学習カードの記述内容，実習の計画・記録表の記述内容，できた作品（の写真）相互評価の記述内容などで見取ることができます。

☆【生活の技能】は，どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で，基礎的・基本的な技能に対応した観点です。技術・家庭科では，習得すべき技術を身に付けているかを評価するものです。

技術分野においては，材料，加工等の技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術が身に付いているかを見ます。例えば，「様々な技術を活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けているか」について評価することになります。

家庭分野においては，生活の自立を図ることや生活を工夫し創造する能力の育成を図るための基盤として，生活の自立に必要な基礎的・基本的な技術が身に付いているかを見ます。例えば，「日常食の調理や衣服の選択と手入れ，布を用いた物の製作などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか」などについて評価することになります。

この観点は基本的に教師用チェックリストを用いての行動観察で評価することになりますが，生徒の相互評価の記述や作品により，活動の過程における生徒の実現状況をより詳細に把握し，それを評価結果に生かすことも考えられます。その際，相互評価については，見本や写真と照らし合わせて評価をさせたり，グループやペアで行わせたりすることにより，技能の上達の状況を評価できるように工夫することが必要です。また，技能は繰り返し行うことによって身に付くことから，「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の把握とその手立てを考えるための評価）と，「評価結果として記録する評価」を位置付けることも大切です。

⇒この観点は，行動観察，できた作品（の写真），相互評価の記述内容などで見取ることができます。

☆【生活や技術についての知識・理解】は，どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で，基礎的・基本的な知識に対応した観点です。技術・家庭科では，習得すべき知識を身に付けているかや重要な概念等を理解しているかを評価するものです。

技術分野においては，材料，加工等の技術に関する基礎的・基本的な知識が身に付いているか，また，技術と社会や環境とは相互に影響し合う関係にあることを理解しているかを見ます。例えば，「様々な技術を活用するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けているか」「様々な技術と社会や環境との関わりを理解しているか」などについて評価することになります。

家庭分野においては，生活の自立を図ることや生活を工夫し創造する能力の育成を図るための基盤として，家庭の基本的な機能についての理解と，生活や技術についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかを見ます。例えば，「中学生の食生活と栄養や住居の機能と住まい方，家庭生活と消費などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか」などについて評価することになります。

この観点では，教師の指導において，話し合い，実際の活動などを通して，生徒が実感を伴って理解することができるように配慮する必要があります。また，この観点の評価に当たってはペーパーテストなどで評価する方法が考えられますが，その際，一単位時間の中にその都度，位置付けるのではなくて，ある程度の内容のまとまりについて実施するなどの配慮が必要です。

⇒この観点は，学習カードの記述内容，ペーパーテストなどで見取ることができます。

技術・家庭科における学習評価事例　１（技術分野）

■　題材全体を見通して，学習評価の進め方の事例

「身近な生活に役立つ木製品を作ろう」という題材を基に，学習評価の進め方について紹介します。

本事例は，「Ａ材料と加工に関する技術」（２）「材料と加工法」，（３）「材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作」に関する題材です。

本題材では，生活に役に立つ木製品を作るというテーマの基に，自分の日常生活(家庭生活)を振り返り，生活をよりよくしていくための製品を製作していく中で，使用目的や経済的条件などの製品製作における様々な条件を考慮した製品を考える能力と態度を育成することと，木材に関する基礎的・基本的な知識や加工法の技術を身に付ける構成になっています。ここでは，３０時間分の指導と評価の計画の中で，各観点の評価と観点別評価の総括方法等も含めた，学習評価の基本的な進め方を示しています。

１　題材名　「身近な生活に役立つ木製品を作ろう」

第１学年「Ａ材料と加工に関する技術」

題材の指導計画　（総授業時数　３０時間）

〔1〕家庭生活をよりよくするものを考えよう。	４時間
〔2〕製作品の機能と構造を考えよう。	２時間
〔3〕木材の性質や特徴を知ろう。	１時間
〔4〕製作品の表し方を知り，製作図を作ろう。	７時間
〔5〕製作をしよう。	１４時間
〔6〕身のまわりの「技術」について考えよう。	２時間

２　題材の目標

木材の性質や特徴を知り，木材の加工に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに，自分の日常生活を振り返らせ，材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解を深め，それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

３　題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
材料と加工に関する技術に関わる倫理観を身に付け，知的財産を創造･活用しようとするとともに，材料と加工に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。	生活をよりよくするために，材料と加工に関する技術を用いた製作品の機能と構造を工夫するとともに，材料と加工に関する技術を適切に活用している。	のこぎりやベルトサンダーなどの工具や機器を安全に使用できるとともに，製作図をかき，部品を加工し，組み立て及び仕上げができる。	木材の特徴と利用方法及び加工法や構想の表示法についての知識を身に付けるとともに，材料と加工に関する技術と社会や環境との関わりについて理解している。

＊以下より，次のように示しています。　**「生活や技術への関心・意欲・態度」→「関心・意欲・態度」**

「生活を工夫し創造する能力」→「工夫・創造」

「生活の技能」→「技能」

「生活や技術についての知識・理解」→「知識・理解」

４　指導と評価の計画（全３０時間）

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準				評価規準(評価方法)
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1 ～ 4	○家庭生活の中で，不便なところを見つけ，改善しようとしている。 ・家庭での生活を振り返らせ，あると便利なものを考える。 ・あると便利なものをいくつか考え，スケッチする。 ・いくつかのアイディアの中から一つに決める。	①				関①家庭生活に関心をもち，生活をよりよくしようとしている。 （観察，ワークシート） まずは，家庭生活の中で不便なところについて，グループで話し合いをさせ，その話し合い活動の様子の観察や発言内容で評価します。しかしながら，全ての生徒の活動の様子を観察することは難しいので，話し合い後に記入するワークシートの記述内容の見取りなども含め，総合的に判断して評価します。
5 ～ 7	○目的や条件に応じて，製作品に必要な機能と構造を考えることができる。 ・木材の性質や特徴を知る。 ・使用の目的から，大きさ，使いやすさ，場所などに見合った機能を考える。 ・丈夫にするための構造を理解し，製作品の構造を考える。	②	①		①	関②目的や条件を満足させるアイディアを出し，活用しようとしている。 （観察，ワークシート） 工①目的や条件を満足させる，適切な形状と寸法を決定している。 （ワークシート） 知①木材の性質や特徴を理解している。 （ペーパーテスト） 授業中の活動の観察とワークシートの記述内容を総合的に判断して評価します。 授業後に，ワークシートの記録から形状と寸法を適切に決定しているかどうかを見て評価します。
8 ～ 14	○構想の表示方法を知り，製作図をかくことができる。 ・キャビネット図や等角図，第三角法の書き方を知る。 ・等角図で，構想図・製作図をかく。			①	②	技①製作品の構想図・製作図を等角図でかくことができる。 （構想図プリント） 知②キャビネット図，等角図及び第三角法などの見方やかき方について指摘できる。
15 ～ 28	○製作図を基に，材料取り，部品加工，組立て，接合，仕上げができる。 ・工具や機器及び製作順序を整理し，作業計画を立てる。 ・さしがねの使用法を知る。 ・さしがねや定規を用いて，切り代や削り代を考慮した，けがきを行う。 ・両刃のこぎりの使用法を知る。 ・両刃のこぎりを用いて切断を行う。 ・ベルトサンダーの使用法を知る。 ・ベルトサンダーで材料を加工する。			②	③	技②材料取り，部品加工，組立て，接合，仕上げができる。 （観察，作品） 知③それぞれの作業で使用する工具や機器の使用法について指摘できる。 （ペーパーテスト） 実技テストを行うと，より正確に見取ることができると考えられますが，もし，実技テストの時間を確保できないときには，作業中に製作進度が速い生徒から順に，作業の様子や工具や機器の使い方などを見て評価することも考えられます。完成した作品から判断できる分については，それも考慮します。 この時間に，作業中の生徒の様子を観察し，「関心・意欲・態度」を評価することも考えられます。

	・仮組立てをしながら部品を点検し，必要ならば修正する。また，組立ての順序も確かめる。 ・組立てのためのけがきを行う。 ・切りの使用法を知る。 ・下穴あけを行う。 ・組立ての方法を知る。 ・組立てを行う。 ・紙やすりで表面を仕上げる。					
29 30	○材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解し，材料と加工に関する技術の適切な評価と活用について考えることができる。 ・世界中で木材を取り巻いている状況を調べる。 ・森林資源の開発と再利用について調べる。	③	②		④	関③木材を取り巻いている状況から，木材の使用について評価しようとしている。 （観察，レポート） 工②木材を取り巻く状況から木材の使用について適切に評価している。 （観察，レポート） 知④材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について説明できる。 （レポート）

これまでの授業を踏まえて，「木材」を中心に生活と環境について考える授業を構成し，グループでの話し合い活動の観察とその後に記述するレポートの記述内容を総合的に判断して評価します。

5　観点別評価の総括

題材ごとの観点別評価の総括にはいろいろな方法が考えられますが，その中の一例として，評価結果を数値化する方法を説明します。

［題材における観点別評価の結果を総括する場合の例］

① ワークシートの記述や行動観察，実技テスト等の結果をそれぞれ３点満点で評価します。

② ①で行った評価結果（点数）を観点別に合計し，例えば，各観点別の満点の「８割以上であればＡとする」「８割未満～５割以上であればＢとする」「５割未満であればＣとする」などとあらかじめ定めておき，その目安に沿って総括の結果を決定します。

［観点別評価の結果から評定に総括する場合の例］

さらに，観点別評価の結果を評定に結び付ける方法もいろいろな方法が考えられますが，国立教育政策研究所の参考資料では，「ＡＡＡＡ」ならば４又は５，「ＢＢＢＢ」ならば３，「ＣＣＣＣ」ならば２又は１が適当と示されています。そこで，②で算定した各観点の合計をまとめ，４観点の合計を算出し，例えば，満点の８５％以上を「５」，８０％未満７０％以上を「４」，７０％未満５０％以上を「３」，５０％未満３０％以上「２」，３０％未満を「１」とするなどの方法が考えられます。このときに，「Ｂ」になる基準と「３」になる基準が同じにするということを注意してください。これは，「ＢＢＢＢ」のときに，必ず「３」となるようにするための配慮です。

技術・家庭科における学習評価事例　２（技術分野）

■　技術分野のガイダンスにおいての「生活や技術への関心・意欲・態度」を評価する事例

この事例では，新学習指導要領において実施されることとなったガイダンスについて，全３時間中の２時間分の指導案例を示し，その中で「生活や技術への関心・意欲・態度」の評価の進め方について紹介します。

ガイダンスの評価については，「生活や技術への関心・意欲・態度」の観点のみの評価となります。したがって，評価方法は，「観察」や「ワークシートの記述内容」等が適切であると考えられます。題材の構成に当たっては，全ての生徒が少なくとも「おおむね満足できる」状況(Ｂ)となるように，生徒の興味を喚起するように内容を工夫しましょう。

１　本時の目標

○ ものづくりの技術が我が国の伝統や文化を支えてきたことについて考えることができる。

○ 技術の進展と環境との関係について考えることができる。

２　本時の評価

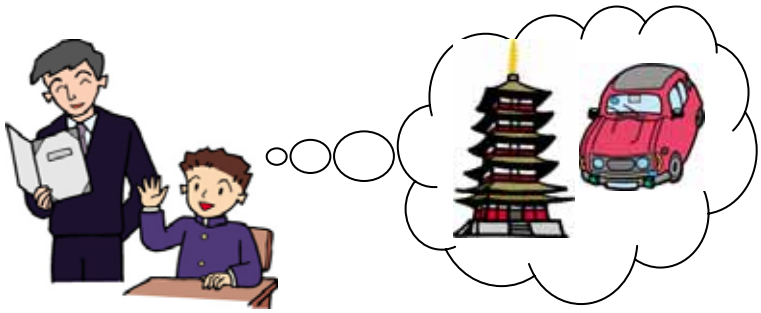
技術が，生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割と，技術の進展と環境の関係について関心をもっている。(生活や技術への関心・意欲・態度)

３　本時の展開(１・２/３時間)

	学習活動	○指導の手立て　　() 内は時間 ・指導上の留意点	評価の進め方
導入	○ 本時の学習内容を知る。	○本時の学習内容を知らせる。(15) 「技術のすばらしさ」 「技術と生活のかかわり」	
展開	○「技術のすばらしさ」を知る。 （１）日本人の発明 （２）からくり人形 （３）法隆寺五重塔	○日本人の様々な発明を紹介し，ものづくりで日本が成長してきたことを知らせる。(10) ・日本人の発明品をクイズ形式で考えさせるなど，生徒に興味を高める工夫をする。 ○からくり人形の動画や法隆寺の写真を見せながら，しくみを考えさせ，技術の繊細さを伝える。(10) ・発問をしながら，動画や写真を見せ，動画や写真の中で着目するポイントに気付かせる。 **○伝統的な技術で，感心させられたことをグループで話し合いをし，ワークシートのＱ１に記述する。(15)**	**評価①（関心・意欲・態度）** **ものづくりの技術が，我が国の伝統や文化の発展に寄与してきたことに気付き，技術が果たしている役割について関心を示している。**

中学校での初めての技術の授業となりますので，自己紹介や授業を進める上での約束事などについての説明をすることなども考え，導入の時間をやや長めに設定しています。
ここで，本時の学習の目標を明確に示し，この後の活動の見通しをもたせるとよいでしょう。

	○ 技術と生活との関わりについて考える。 ・技術の進展と生活の向上 ・技術が引き起こす生活への問題 （例：自動車）	○技術が生活の向上に影響を及ぼしていることを，洗濯機と自動車を例に挙げて考えさせる。(15) ・洗濯板から現在の洗濯機までの歴史を紹介し，技術の進歩について考えさせる。 ・歩行での移動から車での移動への変容の様子を紹介し，技術が進歩したことによって生じたメリット，デメリットについて考えさせる。 **○技術が引き起こした問題についてグループで話し合わせ，ワークシートのＱ２に記述させた上で，グループの代表に発表させる。(20)** **・上記の発問に対しての自分なりの考えをワークシートのＱ２の「あなたの考え」の欄に記述させ，それを基に，グループで意見交換をさせ，考えを共有させる。** **・メンバーの意見を集約し，グループの意見を「グループのまとめ」の欄に記述させ，発表させるようにする。** ○問題解決のために技術が果たす役割に気付かせる。(ハイブリッドカーや電気自動車など）(10) ・社会や環境に問題が生じたときに，様々な技術と人間の想像力で，解決してきたことに注意を払わせる。	**・グループでの話し合いの様子を観察するとともに，ワークシートのＱ１の記述内容の見取りと合わせて，<u>総合的に判断し評価する</u>。** 話し合いをしている様子を観察する際に，評価規準に記した内容に沿った発言をしている生徒を記録します。ただし，全ての生徒の発言を記録することは難しいので，ワークシートの記述に話し合いの様相が見られれば，それも合わせて評価対象とします。 **評価②（関心・意欲・態度）** **技術が環境問題の原因と解決に深く関わっていることに気付き，技術の進展と環境との関係について関心を示している。** **・グループでの話し合いの様子を観察するとともに，ワークシートのＱ１の記述内容の見取りと合わせて，<u>総合的に判断し評価する。</u>** 「自分の考え」の欄に評価規準に記したような気付きを記述している生徒はもちろんですが，その後のグループでの話し合いの中で，気付きが生まれた生徒や関心が高まった生徒についても適切に評価します。話し合いの様子の観察とワークシートの記述を相互補完的に扱って，適切な評価ができるように心掛けてください。
まとめ	○ 本時のまとめをする。	○ワークシートにまとめさせる。(5)	



○ワークシートと具体的な評価の例

＜技術分野ガイダンス＞

生活や社会における技術の役割について知ろう

１年　　組　　号　名前

○　日本の技術のすばらしさについて知ろう。（プレゼン・動画）

Ｑ１．紹介した伝統技術で感心させられたことを書いてください。

①

②

③

④

「からくり人形の動力は，電気じゃなく，ゼンマイだった」「乾電池が日本人の発明だったとは驚いた」というような新しい発見があり，技術的な記述があれば，少なくとも「おおむね満足できる」状況(Ｂ)であると判断できます。

◎　技術と生活のかかわりについて考えよう

Ｑ２．自動車が引き起こす生活への問題はないだろうか？

・あなたの考え

・グループのまとめ

「あなたの考え」の欄に「交通事故の問題」や「排気ガスの問題」など社会的，環境的な問題について記述できていれば，少なくとも「おおむね満足できる」状況（Ｂ）であると判断できます。グループでの話し合いを通して，気付きが生まれる生徒や関心が高まる生徒もいることを考え，話し合いの様子の行動観察とこのワークシートの記述の内容を総合して，より評価の適正を図ることが大切です。

技術・家庭科における学習評価事例　３（家庭分野）

■　題材全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

この事例は，「Ｂ食生活と自立」の（3)「日常食の調理と地域の食文化」のイ，ウと「Ｄ身近な消費生活と環境」の（2)「家庭生活と環境」との関連を図った題材です。

本題材では，佐賀県の郷土料理や地域の食材に関心をもたせ，実際にがめ煮（筑前煮）の調理実習を通して，地域の食文化に触れると共に環境に配慮した調理の工夫を加え，家族での実践につなげる構成としています。

１　題材名　「ふるさとの味に挑戦しよう　－佐賀の味　がめ煮（筑前煮）づくり－」

第３学年「Ｂ食生活と自立」(3)　「Ｄ身近な消費生活と環境」(2)

題材の指導計画　（総授業時数６時間）

〔1〕郷土料理を知ろう　１時間

〔2〕がめ煮（筑前煮）について考えよう　２時間

〔3〕がめ煮（筑前煮）に挑戦しよう　２時間

〔4〕我が家のがめ煮（筑前煮）を考えよう　１時間

2　題材の目標

地域の食材について関心をもち，その食材を日常食に生かし，環境に配慮した調理の工夫を考えたり，課題をもって実践したりすることができるようにする。

3　題材の評価規準

「題材の評価規準」については,「Ｂ食生活と自立」(3）と「Ｄ身近な消費生活と環境」(2）の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考に設定しています。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
地域の食材を生かした日常食などの調理に関心をもち，環境に配慮した調理を実践しようとしている。	地域の食材を生かす調理や環境に配慮した調理の方法について工夫している。	地域の食材を生かし，環境に配慮した調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食材のよさが分かり，日常食に地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解することができる。

4　指導と評価の計画（全６時間）

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準				評価規準（評価方法）
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1	○佐賀県の郷土料理や地域の食材に関心をもち，そのよさを理解することができる。 ・佐賀県の農水産物の産地マップを基に地域の食材について考える。 ・佐賀県の郷土料理について考える。 ・地域の食文化の意義について考える。	①			①	**関**①地域の食材を生かした日常食などの調理を通して，地域の食文化に関心をもっている。 **（行動観察，学習カード）** **知**①地域の食文化の意義について理解している。 **（学習カード，ペーパーテスト）**
2	○佐賀県の郷土料理がめ煮（筑前煮）について知る。 ・がめ煮（筑前煮）について調べてきたことをグループごとにまとめる。		①			**工**①がめ煮（筑前煮）に関する内容について，収集・整理した情報を活用して考えている。 **（行動観察，学習カード）**
3	○地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法について工夫することができる。 ・がめ煮（筑前煮）の材料として地域のどのような食材を活用するかをグループごとに考える。 ・環境に配慮した調理の方法で調理手順を考える。	②	②			**関**②地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法に関心をもっている。 **（行動観察，調理計画表）** **工**②地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法について工夫することができる。 **（調理計画表）**

地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解しているかをペーパーテストで判断します。
ペーパーテストはある程度の内容のまとまりごとに実施することが適当ですので，この時間では，学習カードの記述で判断する程度に留め，ペーパーテストを実施する必要はありません。

がめ煮（筑前煮）について調べてきたことを話し合いに生かすことができているかを評価します。

食材を無駄にしない調理方法や調理の際にエネルギーを節約するなどの工夫ができているかを計画表の記述を基に評価します。

4 5	○地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法で，がめ煮（筑前煮）の調理ができる。 ・実践計画に基づき，がめ煮（筑前煮）の調理を行う。 ・各グループのがめ煮（筑前煮）を試食し，材料の違いによる味の違いを知る。 ・グループごとに環境に配慮した調理ができたかを確認する。	③ 環境に配慮した調理の方法はグループごとに違うので，それぞれのグループが課題意識をもって調理できるようにし，その様子を観察するとともに，そのことを調理計画・実習記録表に記録できるような工夫が必要です。		①		関③地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法を調理実習で実践しようとしている。 **（行動観察，調理計画・実習記録表）** 技①地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法で，がめ煮（筑前煮）の調理ができる。 **（行動観察）**
6	○これまでの学習を生かし，家族のための郷土料理がめ煮（筑前煮）の実践計画を考える。 ・家族のためのオリジナルがめ煮（筑前煮）の実践計画を立てる。 ・実践計画に基づいて，各家庭で実践し，家庭実践レポートにまとめて提出する。	④ 各家庭の家族構成に配慮して，家族の好みや地域の食材を生かしたオリジナルがめ煮になるように助言します。	③			関④自分や家族の食生活をよりよくすることに関心をもち，課題を主体的にとらえ，日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組もうとしている。 **（行動観察，実践計画表）** 工③自分や家族の食生活について課題を見付け，その解決を目指して日常食又は地域の食材などの計画を自分なりに工夫している。 **（実践計画表）**

5　観点別評価の進め方

(1) 生活や技術への関心・意欲・態度

この題材では，地域の食材を生かした日常食などの調理に関心をもち，環境に配慮した調理を実践しようとしているかについて評価します。

１・２時間目に設定している評価規準①については，教師による行動観察（**資料１**のチェックリストを使用）や学習カードの記述内容により評価します。地域の食材や郷土料理について考える場面や授業の感想を書く場面において，意欲的に授業に参加しようとする姿勢や地域の食文化のよさを感じ，関心をもっていることが分かる記述などを捉えて評価していきます。

資料１　行動観察に用いるチェックリストの例（一部）

（A：十分満足できる　B：おおむね満足できる　C：努力を要する）

時　間	／　(1時)		／　(2時)	
評価規準	地域の食材を生かした日常食などの調理を通して，地域の食文化に関心をもっている。			
評価場面	郷土料理や地域の食材について考える		話合い活動	
氏　名	評価	気付いたこと	評価	気付いたこと
X	B		A	友達の発表を聞きながら，自分が調べてきたことの違いを示し，グループ内での理解を深めている。
Y	B		B	
：				

評価規準②については，がめ煮（筑前煮）の調理を，環境に配慮した調理の方法で行うためのグループの話し合いの場面で評価します。グループでがめ煮（筑前煮）の材料について話し合う活動や，環境に配慮した調理の方法について話し合う活動に意欲的に取り組むことができているかについて，行動観

察を行います。また，調理計画表に環境に配慮した調理手順について記述されているかを評価します。

４・５時間目の評価規準③については，実際に調理実習に取り組む場面で評価します。調理計画に沿った調理をしている状況を教師による行動観察と実習後の実習記録表の記入内容から評価します。

６時間目の評価規準④については，今回の学習を生かして家庭への実践につなげようとするもので，教師による行動観察と合わせて，実践計画表の記入状況を評価します。

(2) 生活を工夫し創造する能力

この題材では，地域の食材を生かす調理や環境に配慮した調理の方法について工夫しているかについて評価します。２時間目の評価規準①については，がめ煮（筑前煮）に関する内容について，家庭で調べてきたものをグループや全体で共有化していきますが，その際の情報をきちんと収集し整理して，がめ煮（筑前煮）の調理や郷土料理の理解につなげていくことができているかを評価していきます。（**資料２**の学習カード参照）

資料２　生徒Ｈが記述した学習カード

佐賀の味「がめ煮」についてまとめよう

3年　組　号 氏名（　　）

歴　史	食べられている場面
[インターネット　より] 九州北部地方の代表的な郷土料理。博多の方言「がめくり込む」（「寄せ集める」などの意）が名前の由来と言われている。	[祖母　より] 正月やお祝いの時
友達の調査より [a　より] 文禄の役の時に，朝鮮に出兵した兵士がスッポンとあり合わせの材料を煮込んで食べたのが始まりで，亀煮から「がめ煮」となった。	友達の調査より

材　料	地域の食材
[祖母　より] とり肉　里芋　干ししいたけ こんにゃく　ごぼう　れんこん にんじん　たけのこ	[祖母　より] 里芋　○○町 ごぼう　△△町 れんこん　△△町 にんじん　自宅
友達の調査より [b　より] さつまいも	友達の調査より [b　より] さつまいも　○○町

作り方	調理のポイント
[祖母　より] 最初に材料を全部炒める。干しいたけのもどし汁，酒，しょうゆ，みりん，砂糖を入れて，汁気がなくなるまで弱火で煮る。	[祖母　より] れんこんとごぼうは水にさらしておく。
友達の調査より [c　より] とり肉から炒める。	友達の調査より [b　より] 材料は，同じぐらいの大きさに切る。 [c　より] 色どりをきれいにするために，ゆでたさやいんげんを飾るとよい。

感　想
家庭によって，同じ「がめ煮」でも材料や作り方が少し違った。自分が作る時にやってみようと思った。これからは，祖母に「がめ煮」以外もいろいろ教えてもらおうと思った。

工夫・創造①の評価

生徒Ｈは，家でインターネットや祖母のインタビューから「がめ煮」について調べてきている。

（・・・・・・・・・・・・で囲んだ部分）

２時間目は，この情報を基に，グループで共有化を図り，グループでまとめていくこととなる。

生徒Ｈは，友達の調査から自分の調査にはなかった内容（情報）をきちんと整理し記入している。

（━━━━━━━で囲んだ部分）

また，感想の中には，家庭ごとの違いに気付き，真似して実践してみようという気持ちになっている。よって，「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した。

３時間目の評価規準②については，さらに環境に配慮した調理の方法についてどうすればよいかという課題を提示し，その中でいかに工夫して取り組むことができているかを評価します。（**資料３**参照）

６時間目の評価規準③については，家族のことを考えたオリジナルがめ煮（筑前煮）を考えさせる場面で記録した実践計画表の内容で評価します。

(3) 生活の技能

この題材では，評価規準①を４・５時間目の調理実習の場面で評価します。がめ煮（筑前煮）を環境に配慮した調理方法で実際に調理することができているかを評価することになります。（**資料３**参照）

資料３　生徒Ｉの調理計画・実習記録表（一部）

自己評価　　※ 該当する項目に

視点		観　　点	評	
調理		調理実習の準備はきちんとできましたか。	・できた	・だいたいで
		作り方を理解して調理することができましたか。	・できた	・だいたいで
		協力して，計画通りに調理実習ができましたか。	・できた	
環境		地域の食材をできるだけ使うようにしましたか。	・1種類	・2～3種類
	班の課題	できるだけ材料の皮を薄くむく。	・できた	だいたい
		水をできるだけ少なく使うようにする。	・できた	だいたい

技能①の評価

４・５時間目の調理実習後の自己評価（━━━で囲んだ部分）の結果や教師の行動観察結果より「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した。

工夫・創造②の評価

生徒Ｉのグループは，３時間目の調理計画を立てる段階で，環境に配慮した調理の方法として，２つの課題を考えることができた（••••••で囲んだ部分）ので，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した。

(4) 生活や技術についての知識・理解

この題材では，地域の食材のよさが分かり，日常食に地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解することができているかを評価します。１時間目に，地域の食材を用いることは食文化につながることと環境との関連もあるということを押さえて理解を深めていきます。この時間内においては学習カードの記入内容で理解を確認しますが，後日，ペーパーテストにより評価することとしています。

6　観点別評価の総括

(1) 題材の観点別評価の総括

題材の学習活動に即した評価規準に基づいて，毎時の授業における観点別評価をＡ，Ｂ，Ｃで評価します。その際，教師の評価補助簿を基に判断していきます。これらの評価の記録を総括する方法としては，例えば，それらを「観点ごと」にＡ→３，Ｂ→２，Ｃ→１というように数値化し，各観点の合計点について，満点の８５％以上であれば「Ａ」，８４～５０％であれば「Ｂ」，それ未満であれば「Ｃ」とするなどの方法が考えられます。同様に，「題材の総括」についても，「観点ごとの総括」のＡ，Ｂ，Ｃを３，２，１で数値化し，４観点の合計点について，満点の８５％以上であれば「Ａ」，８４～５０％であれば「Ｂ」，それ未満であれば「Ｃ」とする方法があります。

(2) 分野ごとの観点別評価の総括

題材ごとの観点別評価を合わせて分野ごとの総括とします。例えば，年間に家庭分野で３題材を取り扱った場合，題材１，題材２，題材３の観点別評価を行い，それぞれの観点ごとに総括して，家庭分野の観点別評価とします。

その際，題材１，題材２，題材３に配当する授業時数が異なる場合には，授業時数に応じて重み付けを行うことが考えられます。

技術・家庭科における学習評価事例　４（家庭分野）

■　生活を工夫し創造する能力の学習評価の進め方が分かる事例

この題材は，「Ｃ衣生活・住生活と自立」の（1）衣服の選択と手入れのア，イに関するものです。

本題材では，衣服のはたらきを知り，自分らしい個性を生かす着用と目的に応じた適切な衣服の選択を考えさせるものです。実際に家から衣服を持ち寄り，衣服の選択に必要な情報について理解を深め，適切な衣服選びができることを目指すように構成しています。

１　題材名　「自分らしく目的に合った着方ができる人になろう」

第１学年「Ｃ衣生活・住生活と自立」（１）

題材の指導計画　（総授業時数６時間）

〔1〕衣服のはたらきを考えよう　１時間

〔2〕自分らしく目的に合った着方を考えよう　３時間

〔3〕衣服の活用と選び方を知ろう　２時間

２　題材の目標

衣服と社会生活のかかわりに関心をもち，個性を生かす着用や時・場所・場合に応じた衣服の着用において適切な衣服の選択ができるようにする。

３　題材の評価規準

「題材の評価規準」については，「Ｃ衣生活・住生活と自立」（1）の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考に設定しています。

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち，個性を生かし目的に応じた衣服を着用しようとしている。	個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択について考え，工夫している。	衣服の着用，選択に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣服の着用，選択について理解し，基礎的・基本的な知識を身に付けている。

４　指導と評価の計画（全６時間）

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準				評価規準（評価方法）
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1	○衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち，衣服のはたらきについて理解することができる。 ・小学校の学習内容を振り返り，衣服のはたらきについて考える。	①			①	**関**①衣服と社会生活とのかかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 **（行動観察，学習カード）** **知**①衣服の社会生活上の機能について理解している。 **（学習カード，ペーパーテスト）**

衣服の社会生活上の機能について理解しているかを，本時では学習カードで確認するともに，後日，ペーパーテストで評価します。

2 3	○個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択について考える。 ・同一のＴ．Ｐ．Ｏ．の条件で準備した衣服を基に適切な選択について考える。		①	①		工①個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択について考え，工夫している。 **（準備した衣服，学習カード，相互評価）** 技①個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択ができる。 **（準備した衣服，相互評価）**
4	○個性を生かし，目的に応じた衣服の着用について理解することができる。 ・色による印象の違いについてグループで確かめる。 ・目的に合わせた着方について知る。	②			②	関②個性を生かし，目的に応じた衣服の着用について関心をもって学習活動に取り組んでいる。 **（行動観察，学習カード）** 知②個性を生かし，目的に応じた衣服の着用について理解している。 **（学習カード，ペーパーテスト）**
5	○既製服の表示と選択に当たっての留意事項について理解し，既製服を選択するための情報を収集・整理することができる。 ・既製服についている表示を調べ，意味をまとめる。 ・組成表示 ・取扱い絵表示 ・サイズ表示　など ・自分の体のサイズを測り，サイズ表示の見方を確認する。	③		②	③	関③既製服の表示と選択に当たっての留意事項に関心をもって学習活動に取り組んでいる。 **（行動観察，学習カード）** 技②既製服を選択するための情報を収集・整理することができる。 **（行動観察，学習カード）** 知③既製服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。 **（学習カード，ペーパーテスト）**
6	○個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択についてまとめることができる。 ・以前，考えた衣服を基に，個性を生かし，目的に応じた衣服に修正する。	④	②			関④個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択をよりよくしようとしている。 **（行動観察，学習カード）** 工②個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択について考え，工夫している。 **（学習カード）**

Ｔ．Ｐ．Ｏ．の条件に合わせて準備してきた衣服を展示し，お互いが選んできた衣服について相互評価を行います。

グループごとに数色の色画用紙を使い，色による印象の違いを確かめる活動の場面で，活動に取り組んでいる生徒の様子を観察します。

既製服についている表示を調べたり，実際に体のサイズを測ったりしますが，その内容を理解できているかは，後日，ペーパーテストで評価します。

これまでの学習を生かして，以前に考えた衣服のコーディネートをよりよいものになるように工夫する活動を設定し，その結果を記入した学習カードで評価します。

5　本時の展開（６／６時間）

（１）本時のねらい

個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択についてまとめることができる。

（２）学習活動と評価

時間（分）	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
3	1　本時の学習のめあてを確認する。 自分らしく目的に合った着方ができる人になろう。		
7	2　これまでの学習を思い出す。 ・色・柄・形が与える影響 ・既製服の選び方 ・組成表示 ・取り扱い絵表示 ・サイズ表示	・以前（２・３時間目）準備した衣服の写真を学習カードに貼り，その衣服が自分らしく目的に合った衣服選択になっていたかを考えさせる。	
15	3　自分らしく目的に合った着方になるような工夫を各自で考え，まとめる。 ・形　・着方　・色（柄） ・素材　・手入れ　・その他	・修正の様子が分かるように項目を分けて書かせる。	自分らしく目的に合った着方になるように工夫する場面 ■評価方法 【行動観察】 【学習カード】 関心・意欲・態度④
10	4　グループで各自発表し合う。 ・相互評価をする。	・グループ内で発表させ，工夫点を共有できるようにする。	
10	5　グループのまとめを全体に発表し，自分らしく目的に合った着方の最終修正をして完成する。	・他の生徒の工夫を参考にしてさらに工夫を加える場合は修正内容を赤色のペンで追加させ，完成させるようにする。	■評価方法 【学習カード】資料４ 工夫・創造②
5	6　本時のまとめをする。	・自分らしく目的に合った着方の工夫を確認する。	

資料４　学習カード　生徒Ｊ

生活を工夫し創造する能力の評価は，課題解決を目指して自分なりに工夫したり創造したりする能力を評価するもので，学習結果だけでなくそこまでに至る学習過程も評価の対象になりますので，学習過程の評価ができる学習シート等の工夫が必要になります。

工夫・創造②の評価

生徒Ｊは，２・３時間目に準備した衣服において考えた衣服の「形」「着方」に（■■■■■■■■で囲んだ部分），本時の学習を踏まえて，「色（柄）」「手入れ」の項目に対する工夫が見られ（━━━━で囲んだ部分），少しでもよくしようという工夫・創造の過程がうかがえることから「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

※「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例

雨が降る可能性を考えて，上着の素材は，水をはじくものにし，汚れても家庭で洗えるものにする。

「十分満足できる」状況（A）と判断する生徒は，すべての項目（「形」「着方」「色（柄）」「素材」「手入れ」）に対して工夫が見られ，個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択ができているものと評価する。

技術･家庭科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　これからは１時間に１回または２回程度，評価を行えばよいということですか。

Ａ　通知表や指導要録などのために記録に残す評価についてはそのようになります。しかしながら，その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価でもあるので，すべての生徒が最低でも，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価できるようにしたいものです。そのためには，それまでの過程において，今まで通りに，生徒の学習状況について，形成的評価とそれに基づく適切な指導を行うことはいうまでもありません。

Ｑ　すべての生徒の状況を評価するのは難しいと思いますが，何かよい工夫はないですか。

Ａ　１時間の中で，全ての生徒について評価を行うのは確かに難しいと思います。例えば，調理計画で材料や手順に関心をもち，意欲的に調べている場面やものづくりで材料や目的に応じて製作している場面など，適切に学習状況を把握できる場面を設定し，教師による行動観察と調理計画表や製作図，学習カードの記述内容から評価するという方法などがあります。また，行動観察等についても，できるだけ記入が簡単な教師用チェックリストなどを準備すると効率よく評価できます。チェックリストは，出席番号順の名簿よりも座席表の方がチェックしやすいと思います（資料５）。記録も，Ｂは空欄，Ａの場合は○，Ｃの場合は△というようにできるだけ簡単にしていきましょう。

資料５　座席表による評価　【例：技術・家庭科における学習評価事例４（家庭分野）の場合】

生徒 M	生徒 N	生徒 O	生徒 P	生徒 Q
△ △				○ ○

生徒 H	生徒 I	生徒 J	生徒 K	生徒 L
	△	○		△

第1学年　1組
題材
「自分らしく 目的に合った着方ができる人になろう」
6　／　6 時間

教卓

観点別評価枠	
関心･意欲･態度	工夫･創造
技能	知識･理解

評価記号	
○	:A
空欄	:B
△	:C

Ｑ　題材ごとの観点別評価をどのようにまとめていけば分野の観点別評価の総括になりますか。

Ａ　毎時間の授業の評価結果を記録するために，題材ごとの観点別評価表を作成すると，観点ごとの総括がしやすくなります。題材の学習活動に即した評価規準に基づいて毎時の授業における観点別評価をＡ，Ｂ，Ｃで評価していきます。それを数値化し，各観点別に平均の数値を算定して評価を総括します。

資料６　題材の観点別評価表　【例：技術・家庭科における学習評価事例４（家庭分野）の場合】

題材１「　自分らしく目的に合った着方ができる人になろう　」

題材の評価規準	関心･意欲･態度							工夫･創造														
	衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち，個性を生かし目的に応じた衣服を着用しようとしている。							個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択について考え，工夫している。					衣服の着用 … 解し，基礎的･基本的な技術 … ている。					礎的･基本的な知識を身に付けている。				
学習活動に即した評価規準	①	②	③	④	計	平均	観点総括	①	②	計	平均	観点総括	①	②	計	平均	観点総括					
時 / 氏名	1	4	5	6				2･3	6				2･3	5				1				
生徒 J	A	A	B	A	11	2.8	A	B	B	4	2	B	A	B	5	2.5	B	C				
生徒 K																						
：																						

観点別評価の数値化
Ａ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１

観点別評価の総括
２．６以上　→　Ａ
１．５～２．５　→　Ｂ
１．５未満　→　Ｃ

次に，題材ごとの観点別評価を合わせて分野ごとの総括を行います。例えば，年間に家庭分野で３題材を取り扱った場合，題材１，題材２，題材３の観点別評価を行って，各観点ごとに総括して分野の観点別評価とします。その際，題材１，題材２，題材３に配当する授業時数が異なる場合には，授業時数に応じた重み付けを行うことが考えられます。例えば，授業時数を題材１に６時間，題材２に１２時間，題材３に６時間を配当した場合には，題材１と題材２と題材３の各観点の点数を１：２：１に加重平均するなどの方法が考えられます（資料７）。

資料７　分野の観点別評価表

観　点	関心･意欲･態度					工夫･創造					技能					知識･理解				
題　材	題材1	題材2	題材3	平均	観点総括	題材1	題材2	題材3	平均	観点総括	題材1	題材2	題材3	平均	観点総括	題材1	題材2	題材3	平均	観点総括
時数 / 氏名	6	12	6			6	12	6			6	12	6							
生徒　J	2.8	2.6	2.4	2.6	A	2	2.5	2.1	2.3	B	2.5	3	2.8	2.8						
生徒　K																				
：																				

観点別評価の総括
２．６以上　→　A
１．５～２．５　→　B
１．５未満　→　C

※　生徒Jの分野の観点別学習状況の評価の総括の仕方

関心･意欲･態度	**(2.8×6＋2.6×12＋2.4×6)**	**÷(6＋12＋6)＝**	**2.6**	**→　A**
工夫･創造	**(2×6＋2.5×12＋2.1×6)**	**÷(6＋12＋6)＝**	**2.3**	**→　B**
技能	**(2.5×6＋3×12＋2.8×6)**	**÷(6＋12＋6)＝**	**2.8**	**→　A**
知識･理解	**(1.7×6＋2×12＋3×6)**	**÷(6＋12＋6)＝**	**2.2**	**→　B**

Q　技術分野と家庭分野の観点別評価をどのように総括すればいいですか？

A　技術・家庭科においては，教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して，各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて題材を設定して学習指導が行われています。また，各学年における技術分野と家庭分野の授業時数が異なっていても，３学年を通していずれかの分野に偏ることなく授業時数が配当されればよいとしています。

したがって，技術・家庭科の観点別評価の総括は，評価結果を題材ごと，分野ごとに総括し，技術分野及び家庭分野を合わせて年間の総括とします。その際，各分野ごとに観点別評価の総括をした後，配当する授業時数に応じて重み付けを行うなどの方法が考えられます。

このほかにも，評価の総括の仕方には様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれます。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

≪引用文献≫
・　文部科学省　『中等教育資料　2011 年６月号』　2011 年　ぎょうせい　pp.38-41
≪参考文献≫
・　岡　陽子編著　『新中学校　家庭分野　指導計画と題材集』　2011 年　明治図書

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（中学校　外国語科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校外国語科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校外国語科における学習評価の進め方
4　中学校外国語科における学習評価事例
5　中学校外国語科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校　外国語科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

⇒これまでの理念を引き継いでおり，「実践的コミュニケーション能力」が「コミュニケーション能力」と変更された以外は，特に外国語科の教科目標に変更はありません。

2　評価の観点及びその趣旨

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして，自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

○　これまでの「表現の能力」及び「理解の能力」の観点は，「思考・判断・表現」及び「知識・理解」の用語との混乱を避けるため，外国語科独自の「表現」や「理解」の能力という意味での「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」に便宜上，変更されました。観点の趣旨そのものの根本的な変更を伴うものではありません。

3　学年別の評価の観点

外国語科においては，学習指導要領で３学年間を通じて目指すべき目標が示されており，学年別の目標や評価の観点は，各学校で作成する必要があります。内容のまとまりごとに評価規準を作成し，単元の目標や内容，学習活動を明確にして３学年間を見通した計画を立ててください。

4　内容のまとまり

ここでの「内容のまとまり」とは，学習指導要領に示す領域や内容項目等をそのまとまりごとに整理したもので，中学校外国語科においては，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の４つを内容のまとまりとしています。

中学校外国語科における学習評価の進め方

1　最初に何をすればいいの？

まず，年間指導計画を作成することから始めます。そのためには，学習指導要領に示されている３学年間を通じて目指すべき目標を踏まえて，学年別の目標を明確にしておかなければなりません。また，その目標が段階的になるように，担当者同士で検討し，共通理解しておく必要もあります。

次に，各学期，各単元の順に，目標や内容，学習活動を明確にして計画を立て，評価規準を設定します。このとき，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」(以下，参考資料と表記)に示されている「評価規準の設定例」を参考にするとよいでしょう。必要に応じて評価規準の設定例の記述を具体化したり，いくつかの設定例を参考にして設定したりするなどの工夫が望まれます。

なお，異なる学年であっても同じ「評価規準の設定例」を活用することがあります。例えば，参考資料の「『書くこと』の評価規準の設定例」に示されている「外国語表現の能力(正確な表記)」にある「語句や表現，文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。」を各学年に対応させると，次のような評価規準の設定例が考えられます。

語句や表現，文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。(外国語表現の能力)

具体化

１年の１学期	文頭の大文字や文末の終止符など文のきまりに注意して，自己紹介文を正しく書くことができる。
２年の１学期	現在形と過去形の動詞の形の違いを区別して，Ｅメールを正しく書くことができる。
３年の２学期	関係代名詞を用いて，有名人の紹介文を正しく書くことができる。

「英文を書かせて評価する」という方法は同じですが，「評価規準の設定例」の中の「語句や表現，文法事項などの知識を活用して」の部分をどのように捉えるかによって，下線部のように評価規準も異なります。１年の１学期の例のように，学習の初期段階では，文の基本的なきまりについての知識を活用する力を評価することになります。学習が更に進むと，２年生の１学期の例のように，過去形の知識を活用するだけでなく，現在形との動詞の形の違いを区別して正確に伝えることができるかどうかを評価対象とすることなどが考えられます。３年生の１学期の例も同様に，学習の進度に応じて活用する知識がより高度になります。なお，波線部のように単元に位置付ける学習活動を具体的に記すとよいでしょう。

２　具体的にどうやって設定するの？

それでは，参考資料の「評価規準の設定例」を活用した評価規準の設定の仕方について，以下の**(1)(2)(3)**の手順に沿って説明します。

(1)　年間指導計画を基に単元の内容を確認する。

まず，年間の指導及び評価の流れを見通して作成された年間指導計画における単元の位置付けを確認します。ここで言う単元とは，教科書の一つの課(Unit や Lesson など)を意味します。単元の目標については，扱う題材内容や言語材料の特徴を踏まえ，表現や理解の能力に関わる事項を中心に設定されることが望ましいです。これは，学習指導要領において，外国語科の授業では，コミュニケーション活動を中心とした授業が期待されているからです。

次に，設定した目標をどの観点で評価するかについても確認しておく必要があります。例えば，比較的長い物語文を教材文として扱う単元では「理解の能力」，買い物の場面の対話文を教材文として扱う単元では「表現の能力」といったように，教材文の特徴なども踏まえて，指導して評価を行う観点を明確にしておく必要があります。なお，評価の観点の決定については，無理のない計画を立てることも必要です。例えば，「まとまりのある文章を読んで，自分の感想を書く」という表現と理解

の統合型の活動を行うのに適した単元において，「読むこと」と「書くこと」の技能の統合を図る指導は行うけれども，単元の目標は「感想を書くこと」に絞り込んで，「読むこと」については記録に残す評価の対象としないといったような計画が必要です。

(2)　単元の目標を設定する。

ある単元が，内容的にまとまりのある文章を書くことに適した単元だとしたときに，手紙文やＥメールなどどのような形式で書くのか，友達やＡＬＴなど誰に対して書くのか，内容的にまとまりのある文章になるには何文程度で書かせるのが適切なのかなどを考えて目標を設定します。その際，学習指導要領の目標と内容及び生徒の実態，前単元までの学習状況等も踏まえて設定します。

例えば，次のような目標が考えられます。

【目標】自分の住んでいる町を来日するＡＬＴの家族に紹介するための紹介文を書く。

(3)　評価規準を設定する。

目標として「書くこと」を設定した場合，評価規準に盛り込むべき事項は次の２つです。

評価規準に盛り込むべき事項(国立教育政策研究所)

外国語表現の能力	①自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。
	②目的に応じて英語で適切に書くことができる。

①は正確な筆記を評価するもので，②は適切な筆記を評価するものです。過去形や to 不定詞など新出文法事項を用いて自分の考えや気持ちを正しく書くことができるかなどについて評価する場合は①を，ＡＬＴの家族からもらった手紙やＥメールなどに対して，適切に返事を書くことができるかなどについて評価する場合は②を選びます。この例では，特に新出文法の知識を用いるのではなく，紹介文を書くという場面なので，「評価規準に盛り込むべき事項」は②を選択します。

評価規準の設定例(国立教育政策研究所)

②目的に応じて英語で適切に書くことができる。	ア　場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。
	イ　感想や内容に対しての賛否に加えてその理由を書くことができる。
	ウ　内容的にまとまりのある文章を書くことができる。

次に，対応する「評価規準の設定例」のアからウを参考にして評価規準を決定します。例えば，「日本に一度も来たことがないＡＬＴの家族にも分かるように」紹介文を書く場合はアを，「ＡＬＴの家族を一日ドライブに連れていくなら唐津くんちがよいか佐賀インターナショナルバルーンフェスタがよいか」という質問に応えるような紹介文を書く場合はイを，「自分の住んでいる町のおすすめの観光地を１つ紹介して，どんな楽しみ方があるのかも伝える」といったような紹介文を書く場合はウを選びます。ここでは，ウを選択したとして，この設定例を参考に評価規準を設定します。まず，「自分の住んでいる町について」を加えて，書くテーマや対象を具体化します。次に「内容的にまとまりのある文章」を「内容的にまとまりのある紹介文」とします。

【設定した評価規準】
自分の住んでいる町について，内容的にまとまりのある紹介文を書くことができる。

ここでいう「内容的にまとまりのある紹介文」については，実際に評価を行う際に「おおむね満足できる状況」（Ｂ）の目安を学校や生徒の実態に応じて設定しておく必要があります。例えば，「名所や祭りなど自分が住んでいる町の特徴やよさを一つ紹介して，そこでの楽しみ方を含めて５文程度の文章で紹介する。」のように，いくつかの具体的な評価ポイントを設定しておくとよいでしょう。

３　各観点の評価内容と評価するときの留意点は？

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の評価

この観点は，生徒がコミュニケーションに取り組む様子やコミュニケーションを継続させようとする努力の様子が見られるかどうかを評価します。

【留意点１】用いられている英語の正確さや適切さについては評価の対象としない。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度を評価の対象とし，そこで用いられる表現に文法的に誤りがあるなどの運用上の能力は評価の対象としません。

例えば，「ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話している」という評価規準を設定した言語活動において，生徒が“What hobby are you?”と友達に質問している場合は，機会を見て，文法的に「誤りである」ということについての指導は行いますが，記録に残す評価は行いません。躊躇せず発話しようとしている態度を評価するよう留意してください。

【留意点２】ある程度長い区切りの中において，適切な頻度で多面的に評価する。

教師の観察による評価が多くなるため，各単元に１回は評価機会をもつように設定することが望ましいです。また，言語活動への積極的な取組だけでなく，「つなぎ言葉を用いる」などのコミュニケーションの継続という視点も評価する機会を設定したり，表現中心の活動の評価場面だけでなく，「理解できない部分や前後の文を反復して読むなど工夫して読み続けている」などのように理解中心の活動における評価規準を設定したりするなどして，適切な頻度で多面的に評価するよう留意してください。

【留意点３】言語活動やコミュニケーションへの関わりについて評価する。

挙手や発言の積極的態度は「英語授業」への積極的な態度ではありますが，必ずしも「コミュニケーション」への積極的態度とはいえません。授業中の挙手や発言などの回数や宿題をきちんとしているかどうかといったような表面的な状況のみで評価することがないよう留意してください。

【外国語表現の能力】の評価

この観点は，自分の考えや気持ち，事実などを誤解なく相手に伝えることができるかどうかを「話すこと」「書くこと」の内容のまとまりごとに，「正確な発話，正確な筆記」と「適切な発話，適切な筆記」について評価します。

【留意点１】評価するポイントを事前に設定し，生徒と共通理解しておく。

簡単なスピーチや英作文を言語活動として行う前に，生徒に評価する視点を示したり，生徒と話し合って目標を設定したりするようにしてください。

例えば，「修学旅行の思い出」というテーマのスピーチを評価する場合に，事前に「適切な声量で話すことができる」「自分の考えや感想を加えて話すことができる」などのよいスピーチのポイントを生徒と話し合って設定しておくことなどが考えられます。なお，その際に，三単現のＳの脱落が目立つスピーチだった場合，このことについては，「正確な発話」の視点を，次の言語活動を設定する際の評価のポイントにするなどの配慮を行うようにしてはどうでしょうか。

【留意点２】「話すこと」の評価機会を複数回に分けて位置付ける。

「書くこと」については，ノートやワークシートの記述を基に授業後に評価することができますが，「話すこと」については授業外での評価が難しいので，評価機会を複数回に分けるなどの工夫が必要です。

例えば，生徒たちが一斉にインタビュー活動をするときに，「この列の生徒は５分間の活動で必ず一度は先生のところにインタビューに来なさい。」という機会を作る方法などが考えられます。他にも評価機会を２時間に分けて設定したり，授業のはじめの１０分に活動をする機会を４回続けて設定して全ての生徒を無理なく評価したりする方法も考えられます。その際に，回数を重ねるごとに生徒の習熟が図られることを踏まえて，評価をするなどの配慮が必要です。

【外国語理解の能力】の評価

この観点は，相手の意向や具体的な内容など，相手が伝えようとすることを理解できるかどうか「聞くこと」「読むこと」の内容のまとまりごとに，「正確な聞き取り，正確な読み取り」と「適切な聞き取り，適切な読み取り」について評価します。

【留意点】「正確さ」と「適切さ」をバランスよく評価する機会を設定する。

「既習の語句や表現，文構造などの知識を活用し，表現された内容を正しく理解することができる」といった「正確さ」に加えて，表現された内容のテーマが何か，最も主張したいことは何かなどを理解する「適切さ」もバランスよく指導して評価する必要があります。

例えば，「飛行機の機内放送を聞き取る」という言語使用場面では，到着時刻や現地の天候など大切な部分を聞き取れるかどうかが評価のポイントであり，正しく日本語訳できるかではありません。このように場面や状況に応じた聞き方や，目的に応じた読み方をして英語を理解することができるかどうかも評価する必要があります。

【言語や文化についての知識・理解】の評価

この観点は，知識や理解がコミュニケーションを目的として言語を運用する支えになっているかどうかを評価します。この観点は「言語についての知識」と「文化についての理解」の２観点で評価します。

言語についての知識は，言語活動を行う中で，そこに用いられている強勢，イントネーション，文法事項など，英語の仕組みについての知識が身に付いているかどうかを評価します。

一方，文化についての理解は，家庭，学校や社会における日常の生活や風俗習慣など，言語活動に必要な文化的背景について理解しているかどうかを評価します。

【留意点】文化についての理解は一般常識的な知識を問う内容ではない。

「文化についての理解」については，一般常識的な知識や百科事典のような内容ではなく，技能の運用で求められる，言語の背景にある文化に限って評価するなどの配慮が必要です。

例えば，「スピーチの形式(終わりに Thank you.を用いる等)の知識がある」「電子メールの書き方について理解している」のように，理解していないとコミュニケーションに支障を来すような文化的背景を評価の対象とすることに留意してください。

中学校外国語科における学習評価事例　１

■　一単元全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

事例１の単元は，日本にいる孫のベッキーのために，アメリカの中学校を紹介するナンシーのビデオづくりを通して，世界各地の時差や日本の中学校との違いを学習する単元です。休み時間の長さの違いや週末の過ごし方の違いなどについてインタビューする形式で内容が構成されているので，Who ～?，What time ～?，What language ～?，How long ～?，Which ～? など，疑問詞を用いて質問をする表現が多く用いられています。したがって，時差や学校生活のことを質問するときに必要な表現やその使い方について教科書を通して学び，実際に英語で質問ができる力を養います。具体的には，Who を用いた有名人当てクイズや，What subject や Which を用いたインタビュー活動など，身の回りの人や物事について，口頭で質問したり，紹介したりする活動を主な言語活動として位置付けます。

ここでは全６時間で単元を構成し，１単位時間に１つ～２つの評価規準を設定しています。

１　単元名　サンフランシスコの学校(New Horizon English Course)第１学年「話すこと」

２　単元の目標

・能力に関わる事項を中心に設定する。

(1)　身の回りの人や物事について，口頭で質問する。

(2)　ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話す。

(3)　who，what time，what+名詞,which を用いた文の構造を理解する。

３　単元の評価規準

ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　外国語表現の能力	ウ　外国語理解の能力	エ　言語や文化についての知識・理解
①ペア活動やクラス全体の活動において，間違うことを恐れずに話している。	①身の回りの人や物事について，口頭で質問したり，紹介したりすることができる。		①疑問詞 who を用いた文の構造を理解している。 ②what+名詞で始まる文の構造を理解している。 ③Which…,A or B?の文の構造を理解している。

各観点の名称については，便宜上，次のようにア～エの記号で表記しています。(事例２においても同様)

- **コミュニケーションへの関心・意欲・態度→ア**
- **外国語表現の能力　→イ**
- **外国語理解の能力　→ウ**
- **言語や文化についての知識・理解→エ**

４　単元の指導と評価の計画（全６時間）

実際の指導と評価においては，指導に生かすための評価(形成的評価)も当然含まれますが，ここでは観点別評価や評定につながる評価(総括的評価)に関わる部分を示しています。

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準	評価方法(◇)とその進め方
1	**○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。** ・warm-up として，ＡＬＴが自分の出身中学校を紹介しているビデオレターを見て，分かったことを出し合う。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。		

	○疑問詞 who を用いた文の構造を理解する。 ・教科書本文(Part 1)を通して， who を用いた疑問文の使い方や応答の仕方について理解する。 ・教科書本文から，身の回りの人や物事について，口頭で質問したり，紹介したりすることができる表現を探す。	エの①	◇後日ペーパーテスト 教科書本文の what と who の形･意味･用法を区別して理解しているかどうかを観察して，指導を行います。記録に残す評価は単元終了後のペーパーテストで行います。
	○身の回りの人や物事について，口頭で質問したり，紹介したりする。 ・グループで有名人当てクイズを行い，生徒同士で自分が知らない人の名前をたずねたり，知っている人を紹介したりする。 **「十分満足できる状況」(A)と判断する例** ・不自然な沈黙がなく，友達からの質問にも躊躇せず答えている。 ・“I don’t know. Hint, please.”など積極的に関わっている。 「努力を要する状況」(C)と判断する例 ・不自然な沈黙があったり，友達の質問に答えなかったりしている。 ・友達の出題するクイズに参加していない。	アの①	◇活動の観察 クラス全体のうちおおよそ半分のグループについて評価します。躊躇せず発話しようという姿が見られれば，「おおむね満足できる」状況(B)と判断します。ここでは，特に「十分満足できる」状況(A)と「努力を要する」状況(C)の生徒の把握に努め，努力を要する状況の生徒には適切な指導を行います。
2	**○身の回りの人や物事について，口頭で質問したり，紹介したりする。** ・前時と別のグループ分けをして，２回目の有名人当てクイズを行う。	アの①	◇活動の観察 前時に評価していない半分のグループを評価します。併せて，前時に「努力を要する」状況(C)だった生徒の変容も評価します。前時に「おおむね満足できる」状況（B）であった生徒についても，向上が見られれば，評価結果を修正します。
	○What time ～?を用いた文の構造を理解する。 ・教科書本文(Part 2)を通して，What time ～?の使い方や応答の仕方について理解する。 ・What time ～?を用いてペアで応答練習する。その際，ＡＬＴに質問する場面を想定する。		
3 ・ 4	**○What + 名詞 ～?や Which ～，A or B?を用いた文の構造を理解する。** ・教科書本文(Part 3-4)を通して，身の回りの人や物事について，口頭で質問したり，紹介したりすることができる表現をワークシートにまとめる。 ・自分の家族の写真を１枚用意し，What + 名詞 ～?や Which ～，A or B?を用いてペアで応答練習する。 ・ＡＬＴの紹介ビデオをもう一度見て，質問したいことをペアで出し合い，口頭練習する。	エの② エの③	◇後日ペーパーテスト 教科書本文の What + 名詞 ～?や Which ～，A or B?の形・意味・用法を区別して理解しているかどうかを観察して，指導を行います。記録に残す評価は単元終了後のペーパーテストで行います。

5	**○ＡＬＴの中学校時の学校生活や放課後の過ごし方について，質問することができる。** ・ＡＬＴの中学校時の学校生活や放課後の過ごし方について，ＡＬＴに口頭で制限時間の１分以内にできるだけたくさん質問する。 ・ＡＬＴの紹介ビデオをもう一度見て，質問したいことをペアで出し合い，口頭練習する。	アの① エの① エの② エの③	◇活動の観察 躊躇せず発話している様子を評価します。特に１・２時間目に「努力を要する」状況(Ｃ)であった生徒を中心に評価します。 ◇後日ペーパーテスト 教科書本文の Who, What + 名詞 ～?, Which ～, A or B?の形・意味・用法を区別して理解しているかどうかをワークシートで見取り, 次時の指導に生かします。
6	**○身の回りの人や物事について，口頭で質問したり，紹介したりすることができる。** ・用意されている写真(１・２時間目に生徒が作成した有名人当てクイズで使用済み)から１枚を選び，教師に次のような４つの質問を１分以内にする。質問を考える時間は前の生徒が質問を教師に行っている待ち時間に行う。 ・活動終了後に，質問した内容をまとめ，ワークシートにその人の紹介文に書き直す。 ①その人物は誰なのかを尋ねる。　②職業は何かを尋ねる。 ③好きなスポーツや教科は何かを尋ねる。　④（　）と（　）ではどちらが好みかを尋ねる。	イの①	◇活動の観察 口頭で質問する力を見取ります。疑問詞を正しく用いて２つ以上の質問ができていれば「おおむね達成できる」状況(Ｂ)と判断します。４つの質問ができていれば正確な発話について，「十分満足できる」状況(Ａ)と判断します。「努力を要する」状況(Ｃ)については適切な指導を行います。
後日	**〈ペーパーテスト〉** ◇場面を与えて適当な表現を書く問題 **エの③のペーパーテストの例１** 次の対話文を完成させるために,〔　〕内の語を正しく並べ替えなさい。 A: 〔 your / favorite / is / which 〕, cola or orange juice? B: I like cola.	エの① エの② エの③	◇ペーパーテスト Which が文頭にあること, be 動詞が疑問文の語順になっていることを見取ります。並べ替えたときに, which の w が大文字になっているかは, 指導はしますが, 評価の対象としないようにします。

ここでは，評価機会が複数回行われる「ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「「エ　言語や文化についての知識・理解」についての評価の進め方について紹介します。

「ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度」

グループ活動やＡＬＴとの対話で，ＡＬＴや自分が知らない友達のことを質問する表現を使う練習や実際に質問する活動において，すすんで英語を用いて話しているかどうかを観察して評価します。

評価機会を増やすために，有名人当てクイズは１・２時間目を通して行うようにしています。５時間目の「活動の観察」と併せて，間違うことを恐れずに質問している積極的な生徒の態度を観察し，記録に残す評価を行います。限られた時間の中で全ての生徒を評価することは難しいので，あらかじめ評価する生徒を決めておくなどの工夫をすることなどして無理なく確実に評価できるようにすることが大切です。

「エ　言語や文化についての知識・理解」

この観点については，十分身に付いた段階で評価を行います。例えば，１時間目の疑問詞 who の理解については，この時間内に行う評価で十分理解できていたとしても，定着が図れているかどうかを判断することは難しいでしょう。１時間目は「後日ペーパーテスト」としておいて，疑問詞 who がどの程度理解されているかどうかということについては，ワークシートやワークブック等の記述で把握する程度にしておきます。後日，定期テストなどで「ペーパーテスト」を実施し，記録に残す評価を行います。この単元では，複数の疑問詞を指導し，評価することになりますので，前述のエの③のペーパーテスト例１のような問題を他のエの①や②でも同じような形式で行い，５問中３問が正答であれば「おおむね満足できる」状況（Ｂ）とするなどの目安を設定しておくことなどが考えられます。

エの③のペーパーテストの例２

次のような場合に，相手に何とたずねますか。英語で書きなさい。

○友達にコーラ(cola)とオレンジジュース(orange juice)のどちらが好きか聞きたいとき

上記の例２は，生徒が記述する単語の数が多いこととカンマ以降の or の使用も書かせることで，例１よりも難しくなりますが，あくまでも「構造を理解しているかどうか」を評価します。コーラやオレンジジュースなどの語彙を問うものではないので，これらについては始めから示しておくとよいでしょう。

「おおむね満足できる」状況(Ｂ)としては，例えば，次のような解答が考えられます。

(解答例)　Which is favorite cola or orange juice?

「Which ＋ 疑問詞の語順」で書くことができていますので，文構造を理解しているとして，「おおむね満足できる」状況(Ｂ)と判断します。your やカンマ(,)が脱落している誤りについての指導は行いますが，ここでの評価の対象にはしないこととします。

なお，ペーパーテストは，評価方法の一つとして有効ですが，ペーパーテストにおいて得られる結果が，目標に準拠した評価における学習状況の全てを表すものではないことについては，改めて認識しておく必要があります。

中学校外国語科における学習評価事例　２

■一単位時間の中で，指導に生かす評価(形成的評価)と通知表や指導要録の観点別評価の判断のために記録に残す評価(総括的評価)の違いが分かる事例

事例２の単元は，「ガリバー旅行記」についての対話で，ものの存在を表す表現や時や条件を示す節の用法を正しく身に付け，運用する力を育てる単元です。この単元は６時間で構成しており，単元末には「外国人に佐賀を紹介する英文を書いてみよう。」という言語活動を設定しています。“If you come to Saga, you can go to Yoshinogari Historical Park.”などの紹介文を書くことをねらいとしています。

第１時は，新出文法のthere is(are)を用いた自己表現活動を通して文構造を理解することと教科書本文をペアで適切に音読することをねらいとし，第２時(本時)は，新出文法のwhenを用いた自己表現活動を通して，辞書を活用して積極的に書くことと，教科書の本文をペアで適切に音読することをねらいとしています。音読の評価場面を２回設定することで，指導の充実を図り，全員を評価することが可能となるように工夫しています。第１時はペアで「おおむね達成できる」状況(Ｂ)かどうかを判断し，「努力を要する」状況(Ｃ)については適切な指導を行います。第２時は「努力を要する」状況(Ｃ)にあった生徒を中心に評価を行い，全員が「おおむね達成できる」状況(Ｂ)以上の評価になるように適切な指導を行います。

1　単元名　Gulliver's Travels　(Sunshine English course)　第２学年「書くこと」

2　単元の目標

(1)　自分のふるさとを紹介する英文を書く。

(2)　辞書を活用するなどして書く。

(3)　there is(are)及び接続詞 when，if を用いた文の構造を理解する。

3　単元の評価規準

ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　外国語表現の能力	ウ　外国語理解の能力	エ　言語や文化についての知識・理解
①辞書を活用するなどして書いている。	①自分のふるさとを紹介する英文を書くことができる。 ②意味内容にふさわしくペアで音読することができる。		①there is(are)を用いた文の構造を理解している。 ②接続詞whenを用いた文の構造を理解している。 ③接続詞ifを用いた文の構造を理解している。

4　本時の目標　(第２時)

英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読する。

5　本時に位置付けた評価規準

ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　外国語表現の能力	ウ　外国語理解の能力	エ　言語や文化についての知識・理解
①辞書などを活用するなどして積極的に書いている。	①意味内容にふさわしくペアで音読することができる。		①接続詞whenを用いた文の構造を理解している。

6　本時の指導と評価の計画

○ねらい　・学習活動	評価規準	評価方法(◇)とその進め方
○辞書を用いて，積極的に書く。 ・接続詞 when を用いた文の構造を知る。 ・接続詞 when を用いて，自分の歴史についてワークシートに書く。 ・グループ内で書いた英文を発表する。 【生徒が書いた英作文例】 ・When I was six, I wanted to be a fire fighter. ・When I was ten, I went to Italy with my family.	アの① エの①	◇観察，ワークシート ◇後日ペーパーテスト アの①に関しては，when を用いて，辞書などを用いて積極的に英文を書いたり，たくさんの英文を書こうとしたりする態度を評価します。単純に辞書を活用しているかどうかをみるのではなく，積極的な姿が見られる生徒を評価します。また，ワークシートに書いた英文について，積極的な態度を英文の量でも評価することができます。上記２点について全員が１文以上書けるように机間指導を行い，グループ内で発表をさせますが，エの①の関しては，文法的な指導は初出であるため，誤りは次時の授業で指導を行い，記録に残す評価については単元終了後にペーパーテストで評価します。

○英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読する。 ・本文を読む前に，挿絵から内容を推測する。 ・本文を黙読し，大まかな内容を読み取る。 ・単語等の意味や発音を確認した後で，リピート，バズ・リーディング，ペア・リーディグをする。 ・「各文で最も強く読むところ」「最も間を空けて読むところ」「25 秒以内」を意識し，教師の前で発表する。	イの①	◇活動の観察 準備ができたペアから教師の前で音読を行わせます。第１時でクラスのおおよそ半分のペアを評価していますので，本時は残り半分及び前時に「努力を要する」状況(Ｃ)の生徒を中心に評価します。 音読の機会を重ねていることから，前時に評価した生徒より習熟が進んでいることは考慮しておく必要があると思います。したがって，前時に「努力を要する」状況(Ｃ)と評価した生徒には，再度，音読の機会を与えることや，前時に「おおむね達成できる」状況(Ｂ)と評価した生徒についても，可能な限り，再度音読する機会を与え，向上が見られる場合は，評価結果を修正するなどの配慮か必要です。 １分間に 150 語を読む速度を目安にすると，教科書本文が 58 語あるので，ペアで 25 秒以内を目安に発表を終えることを伝えますが，今回は英語で書かれた内容を感情豊かに表現することが目標ですから，25 秒を超えてもマイナスの評価は行いません。 「各文で最も強く読むところ」の評価については，例えば，13 文の強勢のうち，半分以上を正しく読んでいれば「おおむね達成できる」状況(Ｂ)と判断するなどが考えられます。また，「最も間を空けて読むところ」については，はっきりと分かるように読むことができていれば（Ｂ）と評価します。この２つの評価結果を総合して，イの①の評価とします。

中学校外国語科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Q　１単位時間に１回または２回程度評価を行えばよいのでしょうか。

A　これまでのように，１単位時間の中で４つの観点全てについて評価規準を設定し，その全てを評価し学習指導の改善に生かしていくことは，評価を行うこと自体が大きな負担となります。教師が無理なく生徒の学習状況を的確に評価できるように，これからの評価では，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために記録に残す評価(総括的評価)は１単位時間に１回または２回程度行うような指導と評価の計画が国立教育政策研究所からも示されています。したがって，１単位時間に１回または２回程度を適切に位置付け，個々の生徒について，確実に評価を行うことが求められていると考えてください。その際に，全ての生徒が少なくとも，「おおむね達成できる」状況(Ｂ)以上であると判断できるように，それまでの形成的評価とそれに基づく適切な指導を行っていくことは従来までと変更ありません。

Q　観点ごとの総括は，いつ行えばよいのでしょうか。

A　観点ごとの総括の時期については，単元ごとに総括する方法と，学期ごとなどのある程度長い期間で一つに統括する方法が考えられます。例えば，事例１の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価の場合，この単元内の２回の評価場面で評価した結果を総括して，単元としての結果を残すことと，同じ学期内の同じ観点で評価した結果を全て総括して，学期の結果として残す場合などが考えられます。

総括の仕方については様々な考え方や方法がありますので，各学校の工夫が望まれます。

Q　年間を見通した評価の重点化や系統化はどのように行えばよいのでしょうか。

A　年間の指導計画を基に，年間の評価計画を年度当初に作成しておくと効果的です。例えば，次の計画表のように，各単元で全ての観点について評価するような計画ではなく，いくつかの観点に絞って評価するなどの重点化が必要です。同時に年間を通じてバランスよく評価されるように系統的な計画が望ましいです。

第１学年の評価計画　　(本事例)

単元			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
関心・意欲・態度	聞くこと	言語活動への取組	○				○						
		コミュニケーションへの継続		○									
	話すこと	言語活動への取組	○						○				
		コミュニケーションへの継続						○				○	
	読むこと	言語活動への取組			○								○
		コミュニケーションへの継続					○						
	書くこと	言語活動への取組				○					○		
		コミュニケーションへの継続								○			
表現の能力	話すこと	正確な発話		◎		◎			◎				
		適切な発話	◎								◎		
	読むこと	正確な音読			◎								
		適切な音読								◎			
	書くこと	正確な筆記						◎					◎
		適切な筆記				◎						◎	
理解の能力	聞くこと	正確な聞き取り		◎				◎					
		適切な聞き取り	◎							◎			
	読むこと	正確な読み取り			◎							◎	
		適切な読み取り					◎						◎
知識理解	言語についての知識			L	W		S		W	L	S	W	
	文化についての理解					R							W

※　各単元において評価の対象とするものに○や◎を付しています。◎は重点的に指導するものです。

またＬは「聞くこと」，Ｓは「話すこと」，Ｒは「読むこと」，Ｗは「書くこと」をそれぞれ示しています。

Q　ペーパーテストで英作文を書かせるときに，「表現の能力」なのか「言語や文化についての知識・理解」なのか迷うときがあります。どのように考えて評価規準を設定すればよいでしょうか。

A　「言語や文化についての知識・理解」については，質問に対する答えが一つしかない場合，「表現の能力」については答えが生徒の数だけ存在する場合と考えて評価規準を設定してください。具体的に３つの事例を紹介します。

(1) 次のような場合，英語でどのように答えますか。“What time is it now?”
⇒教室にいる生徒は全て同じ答えをするので「知識・理解」を評価する問題

(2) 次のような場合，英語で何と相手にたずねますか。
・どこで泳ぐ(swim)つもりか聞きたいとき
⇒教室にいる生徒は全て同じ答えなので「知識・理解」を評価する問題
ここでは，where(場所を表す疑問詞)が文頭に置かれ(文構造)，その後は未来を表す表現と疑問文の語順についての知識があるかを評価しています。

(3) “What season do you like the best? And why?”
⇒生徒によって多様な答えが出るので「表現」を評価する問題

このように，問題形式も設定の仕方で評価する観点が大きく異なります。評価方法が適切であるかを常に心掛けて定期テストの問題を作成する必要があります。

Q　ペーパーテストで教科書の本文を出題することに問題はありますか。

A　留意しなければならないのは，授業で一度読み取ったことがある英文は，ペーパーテストでは「暗記」の能力を問うことになり，「理解」の能力を問うとは言い難いということです。そこで，教科書とは全く異なる英文で同程度の英文を出題する方法や，教科書本文が対話文になっていればそれを説明文に書き換えるなどの工夫が必要です。作成した問題をＡＬＴにチェックしてもらうなどの工夫をすることによって，より質の高いものになるでしょう。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（中学校　特別活動）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校特別活動における目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校特別活動における学習評価の進め方
4　中学校特別活動における学習評価事例
5　中学校特別活動における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

(1)　新学習指導要領における特別活動の評価の観点

特別活動における評価の観点は，学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って，各学校で定めることとされています。その参考として，初等中等教育局長通知（H22.5.11）に３つの観点が例示されました。その３つの観点は，学校教育法における学力の３要素を反映させたものとなっています。

学力の３要素	特別活動の評価の観点(例示)
○　基礎的・基本的な知識・技能の習得	○　集団活動や生活についての知識・理解
○　知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等	○　集団や社会の一員としての思考・判断・実践
○　学習意欲	○　集団活動や生活への関心・意欲・態度

(2)　例示された評価の観点の考え方

参考のために例示された３つの評価の観点は，特別活動の特質を踏まえ，次のような考え方に立って設定してあります。

「集団活動や生活への関心・意欲・態度」
学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち，望ましい人間関係を築きながら，積極的に集団活動や自己の生き方の充実と向上に取り組もうとしているかを見取ります。
「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」
集団や社会の一員としての役割を自覚し，望ましい人間関係を築きながら，集団活動や自己の生活の充実と向上について考え，判断し，自己を生かして実践している状況を評価するものです。これまでの経験や知識等を活用して，集団や社会の一員として適切に考え，判断し，実践しているかを見取ります。
「集団活動や生活についての知識・理解」
集団活動の意義，よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話合い活動の仕方，自己の健全な生活の在り方などについて必要なことを理解しているかを見取ります。

中学校　特別活動における目標，評価の観点及びその趣旨

１　目標

望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。

→特別活動が，よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため，目標に「人間関係」が加えられました。

２　評価の観点及びその趣旨

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち，望ましい人間関係を築きながら，積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し，望ましい人間関係を築きながら，集団活動や自己の生活の充実と向上について考え，判断し，自己を生かして実践している。	集団活動の意義，よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話合い活動の仕方，自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

※ 小・中学校の指導の一貫性に配慮して，観点及びその趣旨が例示されています。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

○　小・中学校の指導の一貫性に配慮して，観点及びその趣旨が例示されました。

○　これまでの４観点から，３観点の例が示されました。

○　例示を基に，各学校で具体的に観点を設定しなければなりません。

各学校で評価の観点を定める際にはどんなところに気を付けるの？

○　特別活動全体に係る観点と趣旨を明確に示します。

○　例示された「集団活動や生活への関心・意欲・態度」「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」「集団活動や生活についての知識・理解」を参考に，３つ程度の観点を作成します。

○　各学校で，例示された評価の観点を参考にして，より具体的な観点を設定することも考えられます。各学校の生徒の実態や身に付けさせたい力を吟味して設定します。

【例示された評価の観点を参考にして，学校としての観点を設定した例】

観点	集団や自他の生活の充実への 関心・意欲・~~態度~~	自己を生かして共同して 生活をつくる力	話合い活動や生活についての 知識・理解・技能
趣旨	学級や学校の集団，自分や他者の生活に関心をもち，積極的に集団や自他の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の他者と関わり，望ましい人間関係を築きながら，自己のよさを生かし，集団や社会と共同してよりよい生活を築こうとする。	よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話合い活動の役割・進め方，自己の健全な生活の在り方などについて理解し，身に付けている。
学校として変更した点	**〈観点の一部を具体化〉** 「生活」を「自他の生活の充実」と具体的に示した。 **〈観点の要素を削除〉** 関心・意欲に絞って評価を行うこととした。	**〈観点の変更〉** 特別活動の目標から「自己を生かすこと」に焦点化した。	**〈観点の一部を具体化〉** 「話合い活動の役割・進め方」と具体的に示した。 **〈観点の要素を追加〉** 知識・理解だけでなく，技能を身に付けることも求めた。

３ 内容のまとまりごとの評価に盛り込むべき事項

各学校において定めた評価の観点に沿って学級活動(1),(2),(3),生徒会活動の各活動と学校行事の評価規準を作成します。ここでは，国立教育政策研究所において示されている【評価規準に盛り込むべき事項】の中から「学級活動」と「生徒会活動」について示します。

【学級活動（１）「学級や学校の生活づくり」の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち，他の生徒と協力して，自主的，自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し，他の生徒の意見を尊重しながら，集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え，判断し，信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や，学級や学校の生活づくりへの参画の仕方，学級集団となして意見をまとめる話合い活動の仕方などについて理解している。

【学級活動（２）「適応と成長及び健康安全」の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち，自主的，自律的に日常の生活を送ろうとしている。	日常の生活における自己の課題を見出し，自己を生かしながら，よりよい解決方法などについて考え，判断し，実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方，自他の成長などについて理解している。

【学級活動（３）「学業と進路」の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
人間としての生き方や学ぶこと，働くことなどに関心をもち，自己のよさを伸ばしながら，自主的，自律的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	自己の将来に希望を抱き，その実現に向け，現在の生活や学習を振り返り，これからの自己の生き方などについて考え，判断し，実践している。	学ぶことと働くことの意義や，自己の能力や適性，進路選択に必要な情報収集や将来設計の仕方などについて理解している。

【生徒会活動の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学校生活の充実と向上に関わる諸問題に関心をもち，他の生徒と協力して，自主的，自律的に生徒会の活動に取り組もうとしている。	生徒会の一員としての自覚と役割意識をもち，全校的な視野に立って諸問題を解決する方法などについて考え，判断し，協同して実践している。	生徒会活動の意義や組織，諸活動への参画の仕方などについて理解している。

中学校特別活動における学習評価の進め方

どんなところに気を付けて評価をするの？

(1)　評価は，学級活動，生徒会活動，学校行事のそれぞれの内容において行います。

(2)　特別活動においては，生徒に自信をもたせたり意欲を高めたりするために，生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要です。したがって「十分満足できる状況」は教科における評価と違って幅が広く，「十分満足できる」「十分満足できていない」の２段階で評価をします。

(3)　活動の結果だけでなく，活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めます。生徒のよい点や進歩の状況を明確にするとともに，指導の改善に生かすことが大切です。

(4)　学級活動では，１単位時間に，設定した観点のすべてについて評価をする必要はありません。事前や事後の活動や指導を含めて評価するようにします。

(5)　特別活動は，学級活動のように主として学級担任が指導する内容もありますが，生徒会活動や学校行事のように学級担任ではない教師が指導に当たる場合があります。直接生徒に関わった教師が評価をすることで多面的な評価が可能となります。そこで，次のア～エのことに配慮し，多くの教師による評価の結果を反映させるなど，学校としての指導体制を確立することが大切です。

ア　個々の生徒の活動状況について，担当する教師との間で情報交換を密にすること。
イ　評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに，それらが学級担任の手元に収集され，活用されるようにすること。
ウ　必要に応じて評価した結果を全教師が共有し，指導に生かせるようにすること。
エ　年間を通してより多くの教師の目で「個人の変容」や「集団の変容」について評価すること。

(6)　指導要録や家庭への通知表には，評価の観点に照らして，十分に満足できる活動の状況にある場合にαを付けます。

各観点の評価方法は？

【集団活動や生活への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち，望ましい人間関係を築きながら，積極的に集団活動や自己の生き方の充実と向上に取り組もうとする状況を評価するものです。集団そのものに十分関心があるか，自己の生活に十分関心があるかの両面について評価をする必要があります。

活動のねらいを踏まえて，活動内容に対しての関心・意欲・態度を評価します。具体的な生徒の姿を決めて教師の観察によって見取る方法や，質問紙を利用して学級全体の傾向を評価する方法等があります。

発言の内容，学級会ノートの記述，ふり返りカードの記述，チェックカード等で見取ることができます。

【集団や社会の一員としての思考・判断・実践】は，どうやって評価するの？

集団や社会の一員として役割や責任を果たすことや，自己を生かすことを考え，判断し，実践する生徒の姿を評価するものです。特別活動では，この「考える」「判断する」「言動に表す」が一体的に行われる場合が多く見られます。

行動の観察，発言の内容，学級会ノートの記述，ふり返りカードの記述，チェックカード等で見取ることができます。

【集団活動や生活についての知識・理解】は，どうやって評価するの？

各活動・学校行事において，集団活動の意義や話合い活動の仕方，自己の健全な生活の在り方等を理解しているかということを評価するものです。学級活動では，話合いの仕方や健全な生活に関する知識について，学期末に質問紙などによって評価するなど，比較的，長期的なスパンで見取ることも考えられます。

行動の観察，チェックカード等で見取ることができます。

中学校特別活動における学習評価事例　１

■　学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の事例

１学期が終わる頃には，緊張感をもって学校生活を送っていた１年生の学級でも約束事が守られなくなることがあります。この事例では，帰りの会に実施した生活アンケートの結果から，学級のよいところとして，みんなが明るく元気，宿題忘れが減ってきたなどが挙げられた一方で，時間内に給食を食べ終えることができずに，給食係が困っていることが課題として，多くの意見がよせられました。そこで，チャイムと同時に給食を食べ終えるようにするにはどうすればよいか，学級会活動委員会を中心に話合い活動を行った実践について紹介します。

１　題材　学級の集団生活を見直そう

２　題材について(略)

３　学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち，他の生徒と協力して，自主的，自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し，他の生徒の意見を尊重しながら，集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え，判断し，信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や，学級や学校の生活づくりへの参画の仕方，学級集団として意見をまとめる話合い活動の仕方などについて理解している。

４　指導の過程

（１）事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
7月○日(○)	・学級生活の実態を把握するためのアンケート調査を行う。	・正確な調査を実施できるよう，必要に応じて補足説明を行う。	【関心・意欲・態度】 ・学級生活の実態に対して改善の必要性を感じている。〔アンケート〕
7月○日(○)	◇学級活動委員会 ・アンケートの集計結果を基に課題を分析し，議題を決定する。	・生徒と共に本時の流れなどを検討し，活動の見通しをもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・話合い活動が深まるよう自分から準備を進めようとしている。〔観察〕

	「給食チャイムと同時に給食を食べ終え，合掌ができるようにしよう！」 ・提案理由を検討するとともに，話合いの柱を設定し，本時の活動計画を作成する。		
7月○日（○）	・議題に対する自分の意見を，学級会ノートに記入する。	・自分や学級の実態，解決策について考えさせ，学級会ノートに記入させる。	【関心・意欲・態度】 ・議題に関心をもち，自分の意見をまとめようとしている。〔学級会ノート〕**→資料①の※１を参照**

（２）本時の指導と生徒の活動

① 本時の活動テーマ「給食チャイムと同時に給食を食べ終え，合掌ができるようにしよう！」

② 生徒の活動計画（略）

③ 本時のねらい

自分たちの学級の給食時間の課題解決に向け，互いの考えを生かし合いながら話合い活動を深めることを通して，学級の集団生活の向上に向けて活動意欲を高める。

④ 教師の指導計画　本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始5分	1　開会の言葉 2　学級活動委員の紹介 3　議題の確認 **「給食チャイムと同時に給食を食べ終え，合掌ができるようにしよう！」** 4　提案理由の説明	・学級活動委員会での検討の経緯を説明するよう助言する。 ・提案理由に関する補足をしながら，学級全体で解決すべき課題であることを確認する。	
活動の展開40分	5　話合い (1)　自分たちの学級の給食時間の課題は何だろう。 (2)　チャイムと同時に合掌ができるようにするために，どうすればよいのだろう。 6　話合いのまとめと決定事項の確認	・事前に給食の時間における学級の課題をまとめさせておく。 ・学級の実態を踏まえて，具体的な意見を考えるよう助言する。	【思考・判断・実践】 ・学級の実態を自分の言葉で表現しながら，よりよい給食の時間にするための具体策を考え，理由を示して意見を述べている。 〔観察〕〔学級会ノート〕 **→資料①の※２を参照**

学級活動(1)では，生徒によって設定された議題を記入します。

評価規準を基に，学級の実態に応じて「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため，具体的な生徒の姿をいくつか想定しておくようにします。

活動のまとめ5分	7　話合いの振り返り 8　感想発表 9　先生の話 10　閉会のことば	・本時の話合い活動を通して気付いたことや考えたことなどを，学級会ノートに記入するよう助言する。 ・話合いの流れを方向付けた発言や学級活動委員の活動などを称賛するとともに，実践に向けての意欲を高める。	

（３）　事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
7月○日（○） ～○日（○）	・話合い活動における決定事項に基づいて活動する。	・話合い活動での決定事項を実践しているかどうかを見届け，必要に応じて助言する。	【思考・判断・実践】 ・集団生活の向上に向け，互いに信頼し支え合って決定事項を実践している。〔観察〕
7月○日（○）	・一連の活動を通して気付いたことや学んだことを振り返りカードにまとめるとともに，今後の学校生活の在り方を考える。	・生徒のがんばりについて，具体例を示して称賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	【知識・理解】 ・集団生活の向上に向けて学級で取り組むことの意義について理解している。〔振り返りカード〕

学級活動(1)の評価方法は？

(1)　事前活動における評価方法の例

事前活動として行ったアンケート調査の回答内容や，「学級会ノート」**〈資料①〉**に記載された議題に対する生徒の考えや意見（**※１**）を，教師の評価の参考にすることが考えられます。また，学級活動委員会の生徒については，学級活動委員会での話合いの様子や活動状況等を観察し，よい点を見つけ積極的に評価するとともに，本時の教師の話の中や朝の会，帰りの会などで取り上げ，称賛することにより生徒の活動意欲をさらに高めるよう配慮することが大切です。

(2)　本時や事後の活動における評価方法の例

本時の活動の評価では，よりよい方法等について友人の意見も尊重しながら考え，判断し，理由を示して意見を発表しているかなどを観察で評価することが考えられます。また，学級会ノートに話合い活動を振り返らせたり（**※２**），実践に向けての決意などをまとめさせたり（**※３**）して評価することが考えられます。

事後の活動の評価では，本時の話合いで決定したことについて，互いに信頼し合いながら自分の役割に責任をもち，実践しているかといった点から観察により評価することが考えられます。また，活動の意義についての理解の状況（**※４**）については，「振り返りカード」**〈資料②〉**の記載内容から評価することが考えられます。

〈資料①　学級会ノート〉

第(○)回　学級会ノート　　1年　○組　氏名(　○○　○○　)

	月　日　曜日　校時
題　材	給食チャイムと同時に給食を食べ終え，合掌ができるようにしよう！
提案理由	帰りの会に実施したアンケートでは，学級のよいところとして，みんなが明るく元気，宿題忘れが減ってきたなどが挙がりました。一方課題として，なかなか給食の時間が守れないが最も多く意見としてよせられました。チャイムと同時に合掌ができるようにするにはどうすればよいかみなさんに考えてもらいたいと思い話し合う題材に決めました。
話合いのめあて	理由を示して，意見を発表しよう。
司会団	司会（　　）　進行（　　）　黒板（　　）　ノート（　　）

話合いの順序	時間
① 始めの言葉 ② 司会団の紹介 ③ 題材の確認 ④ 提案理由の説明 ⑤ 話合い	5分
柱1　1－○の給食時間の課題は何だろう。 ※1 自分やクラスの様子 自分は配膳のときにきちんと席について，協力していると思う。 配膳のときに席を離れている人がいてグループにするのが遅いのが原因ではないか。	12分
柱2　チャイムと同時に合掌ができるようにするために，どうすればよいのだろう？ ○自分もトイレに行って準備が遅れることがあったので注意したいと思います。 決まったこと ○給食係と一緒にみんなで協力して，配膳や机の配置をしよう。 ○気付いていない人には声を掛け合おう。	18分
⑦ 話合いのまとめと決定事項の確認 ⑧ 感想発表 ⑨ 先生の話 ⑩ 閉会のことば ※2	5分

話合いを振り返って
今日の話合いの自己評価（◎…よくできた　○…できた　△…あまりできなかった）
・真剣に話合いに参加することができた。　◎
・司会の進行に協力して、自分の意見を発表することができた。　○
・他の意見を理解して、そのよさを生かすような意見をだすことができた。　△

（実践に向けての決意）
自分では給食時間に協力していたつもりだったけど，できていない人に声を掛けたことはなかったので，クラスで決まったように自分から声を掛けて，チャイムと同時に合掌できるようにしたいです。

※3

柱１の自分や学級の実態，柱２の解決策について考え，理由と併せて示すことができており，【関心・意欲・態度】の評価の観点に関して「十分満足できる活動の状況」であると考えられます。

生徒の自己評価を，教師の評価の参考にすることが考えられます。また，生徒の自己評価の力を高めるために，話合い活動を継続し，学期末等にそれまでに記入した学級会ノートを振り返る場を設けるとよいでしょう。

学級で決まったことを踏まえ，自己の役割を自覚し，これからすべきことについて適切な判断をしている様子がうかがえます。【思考・判断・実践】の評価の参考にすることが考えられます。

〈資料②　振り返りカード〉

振り返りカード　1年○組　氏名（○○　○○）	
実践期間中の自分やみんなの給食時間の様子はどうでしたか。	みんなで課題を話合い，目標をきめて実践することにはどんなよさがありましたか。
最初はなかなか自分から声を掛けたりできませんでしたが，よくみんなに声を掛けてくれていた○○さんに『一緒にしよう』と言われ，自分も周囲に呼びかけるようになってきました。実践して1週間目にきちんと時間内に合掌することができました。クラスの雰囲気も落ち着いてきたような気がします。	話合いの中で何度も意見を言っていた○○さんは，実践のときにも自分から積極的に声をかけていたのですごいなとおもいました。自分たちで話し合って決めるので，目標を達成しようという意欲がでてくると思います。これからも給食の時間を守れるように協力していきたいと思います。 ※4

「これからも給食の時間を守れるように協力していきたい」といった記述から，集団活動の意義を体験を通して理解した様子がうかがえます。【知識・理解】の観点に関する評価の参考にすることが考えられます。

中学校特別活動における学習評価事例　２

■　学級活動(2)「適応と成長及び健康安全」の事例

この事例では，生徒が自分に合った適切な実践課題について考え，自己決定し，その決定に従って適切に判断し，真剣に実践することができるようにすることを重視して授業を展開し，【集団や社会の一員としての思考・判断・実践】に重点化して評価した実践を紹介します。

１　題材　みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考えよう。

２　題材について（略）

３　学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち，自主的，自律的に日常の生活を送ろうとしている。	日常の生活における自己の課題を見出し，自己を生かしながら，よりよい解決方法などについて考え，判断し，実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方，自他の成長などについて理解している。

４　本題材のねらい

みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考え，友だちのよさに目を向けようという意欲をもち，実践しようとする。

５　指導の過程

（１）事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月○日（○）	・コミュニケーションに関するアンケートを行う。	・自分や友人，教師とのやりとりの実態について振り返りながら，アンケートに回答させる。	【思考・判断・実践】 ・友人のよさを見つけ，よさ発見カードに進んで記入しようとする。〔観察〕〔よさ発見カード〕
9月○日（○） ～○日(○)	・学級の友人のよさを見つけ，発見カードに記入する。	・よさ発見カードの使い方を説明し，友人のよさに目を向けさせる。 ・帰りの会等でよい気付きを積極的に取り上げ，活動への意欲を高める。	

（２）本時の指導と生徒の活動

① 本時の活動のテーマ

「互いによさに気付き，どうすれば，みんなが気持ちよく生活できるかを考えよう」

② 本時のねらい

友人のよさを見つける活動を振り返りながら，自他の個性に気付くことの大切さを理解させるとともに，学級の一員として自他の個性を尊重して行動しようとする態度を育てる。

③ 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	資料等	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始5分	1　コミュニケーションに関するアンケートについての結果を聞く。	・アンケート結果について自分と比べながら聞くように促す。	学級活動ノート	【思考・判断・実践】 ・みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考え，友達の考えを参考にしながら具体的なめあてを決めて進んで実践しようとする。〔観察〕〔よさ発見カード〕
活動の展開35分	2　問題解決に向けて話し合う。 3　友人のよさを見つけたとき，見つけてもらったときの気持ちを発表する。 4　どうすれば，みんなが気持よく生活できるかを考え，発表する。	・グループで互いの意見を出し合わせる。 ・積極的に自分の気持ちや考えを発表させるとともに，友人の意見を共感しながら聞くよう促す。 ・楽しい学校生活を送るために互いに認め合うことの大切さを理解させる。	学級活動ノート よさ発見カード 学級活動ノート	
活動のまとめ10分	5　自分のめあてを決め，発表する。	・本時の活動を通して気付いたことや考えたことなどを「振り返りカード」に記入させる。	振り返りカード	

（３）事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月○日（○） ～○日(○)	・友人のよさを見つける活動は継続し，自分が決めためあてを実践する。	・引き続き，帰りの会等を通して，よい気付きを積極的に取り上げたり，掲示するなどして，生徒が見ることができるよう工夫したりして，活動への意欲を高める。	【思考・判断・実践】 ・友達のよさを見つける活動を継続しながら，自分が決めためあてを進んで実践している。〔観察〕〔振り返りカード〕

学級活動(2)，(3)の評価方法は？

学級活動「(2)適応と成長及び健康安全」及び「(3)学業と進路」では，主に個人の問題について，学級での活動を通して自分に合った解決方法等を考え，実践していくという活動の流れとなります。学級活動(2)及び(3)の内容項目は，学級活動(1)と比べ多岐にわたっているほか，活動の形態や方法も話合いやパネルディスカッション，ロールプレイングなど様々なものが考えられます。題材にあった指導と評価の計画を作成し，生徒一人一人のよさや可能性を積極的に評価できるようにしておくことが大切です。

(1)　評価の観点の重点化の例

学級活動(2)においては，題材によって，事前，本時，事後の活動過程を通して，中心的に見取る評価の観点を重点化することが考えられます。例えば「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導で，「学校内外における安全な生活」を取り扱う場合は危険を予測することについての【関心・意欲・態度】に重点を置いたり，「飲酒，喫煙，薬物の害」などの予防的，発展的な内容については【知識・理解】に重点を置いたりすることが考えられます。

(2)　学級活動(2)における評価方法の例

本時の評価では生徒の話合いや発表の様子から積極的に自分の気持ちや考えを発表しているか，友人の意見を共感しながら聞いているかを観察したり，「よさ発見カード」〈資料③〉の記載内容を参考にしたりして評価することが考えられます。

事後の評価に当たっては，本時の学習を通して，自分で決めためあての実践の状況について，実践活動後の振り返りカード〈資料④〉などを活用して，指導と評価の参考にすることができます。

〈資料③　よさ発見カード〉

よさ発見カード　○月○日（○）～○月○日（○）　○年○組○号　氏名（○○　○○）						
友人名	○○さん	○○さん				
いつ，どんな場面で	掃除の時間にゴミ箱がひっくり返ったとき。					
どんなよさに気づきましたか。	自分からほうきを取り出してすぐに片付けようとしてくれました。					

<友人のよさを見つけたときの気持ち>	<友人がみつけてくれたよさを読んだ気持ち>
普段あまり話さない友だちの行動もよく見ているとその人らしさがあってよさに気付くことができました。そのことを相手に伝えると『ありがとう』と言ってくれたのでなんだか以前より親しくなった気持ちになりました。	たくさんの友だちが自分のよさに気づいてくれてとてもうれしくおもいました。なんだか温かい気持ちになりました。みんなが見つけてくれたよさをもっと伸ばしていきたいとおもいます。
互いに気持ちよく生活するために <自分のめあて> 1日1回は一緒に活動する友だちのよさをみつけ相手に伝える。	担任より

学級全体の活動として，よさを見つけるたびに，どんな場面だったのかを記録させます。帰りの会等で積極的に評価し，活動意欲を高めます。

本時で学習した内容についてどう考え判断しているのかを見取ります。この生徒の場合，「暖かい気持ちになった」と記述していることから，みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考えることができていると思われます。【思考・判断・実践】の評価は「十分満足できる活動の状況」であると考えられます。

【思考・判断・実践】
自分に合った具体的なめあてになっているかを見取ります。

〈資料④〉振り返りカード

振り返りカード　○年○組○号　氏名（○○　○○）					
自分のめあて 1日1回は一緒に活動する友だちのよさをみつけ相手に伝える。					<活動を振り返って> 一人一人が自分の決めためあてに取り組めば楽しい学級になると感じました。これからも友だちのよさに目を向けたいと思います。
自分のめあてを実践できましたか。 （◎よくできた　○できた　△もう少し）					<担任より> ○くんへの取り組みに感謝している友だちがいるようです。ぜひ継続して続けてくださいね。
月日	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
自己評価	○	◎	◎	◎	◎

実践に対する生徒の自己評価や活動全体の振り返りの記述，教師の観察などから自分に合った具体的なめあてを実践できていると思われます。【思考・判断・実践】の評価は「十分満足できる活動の状況」であると考えられます。

実践に対する生徒の自己評価がよくない場合には，めあてやめあてに向けての取り組み方について，適切な指導を行います。

中学校特別活動における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　生徒会活動の評価はどのように行えばよいですか。

Ａ　生徒会活動においては，一人一人のよさや可能性を積極的に評価できるように，「目指す生徒の姿」を明確にして，全ての教師が共通理解をもって指導と評価に当たることが大切です。

生徒会活動では，教科のように１時間ごとに評価規準を作成して指導に当たることは現実的ではないので，例えば，学期ごとのまとまりで作成したり，「地域清掃活動」などの重点的な活動について評価規準を作成したりするとよいでしょう。

生徒会活動「地域清掃活動」の評価規準例

	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
地域清掃活動等の社会参加	地域清掃活動等の参加について，自主的に取り組もうとしている。	地域社会の一員であるという自覚をもち，地域清掃活動の意義について考え，判断し，実践している。	地域清掃活動を通して地域の人々との交流し，社会への参画の仕方について理解している。

Ｑ　学校行事の評価はどのように行えばよいですか。

Ａ　学校行事においては，「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「旅行・集団宿泊的行事」「勤労生産・奉仕的行事」の５つの種類ごとに評価規準を設定して評価します。学校行事では，生徒の活動が学級や学年の枠を超えて行われるために，全ての生徒の活動を把握することは困難であるため，学級担任以外の教師も評価する必要があります。特別活動の評価資料集約用シート（資料①は随時記入していく例を提示している。）を準備し，学校の実態に合わせ，生徒のよさや可能性，興味・関心，活動の様子などをその都度記録できるようにします。

また，言語活動の充実を図る観点から，学校行事を通して気付いたことなどを振り返り，まとめるなどの活動が充実できるように，学校行事カードなどを作成し，教師の評価の参考にすることが考えられます。生徒の感想文などがある場合は，それらを評価の参考とすることも考えられます。

資料①　評価資料集約シート>

平成○○年度　評価資料集約シート　○年○組○号　氏名（○○　○○）		担当	学級活動	生徒会活動	学校行事
月日	生徒の活動の様子				
○/○	・学級会では黒板書記として，発表された意見を分かりやすく，きちんと板書した。	担任　○○	○		
○/○	・清掃委員会の実践活動で掃除用具の点検を行い，学級の掃除区域の掃除用具について修理が必要なもの調べた。	担任　○○		○	
○/○	・体育大会では用具係となり，他学年の競技の用具を準備する役割をきちんと果たした。	担当　○○			○

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html